

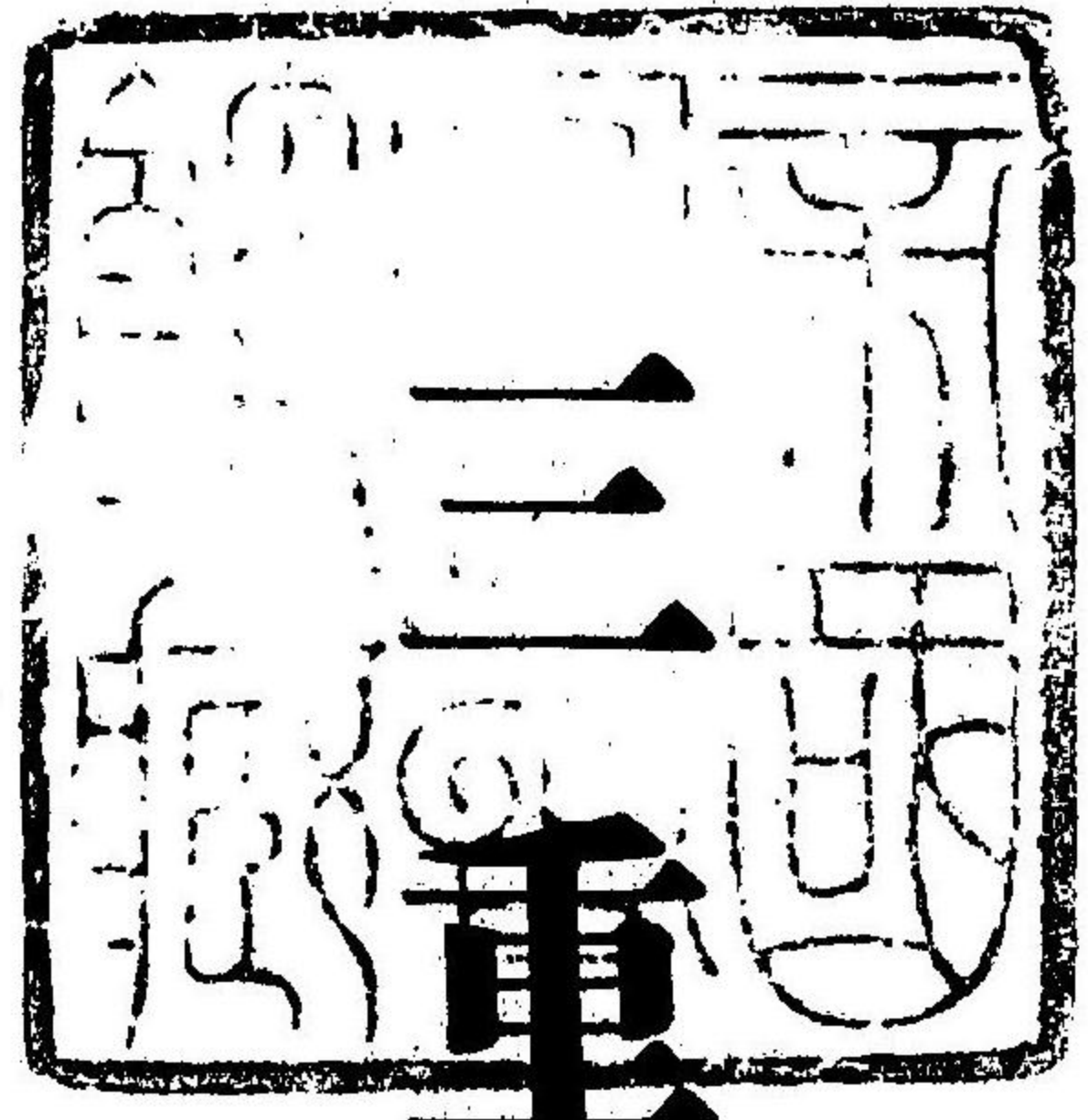
76  
319

心  
重  
包  
葉  
肉



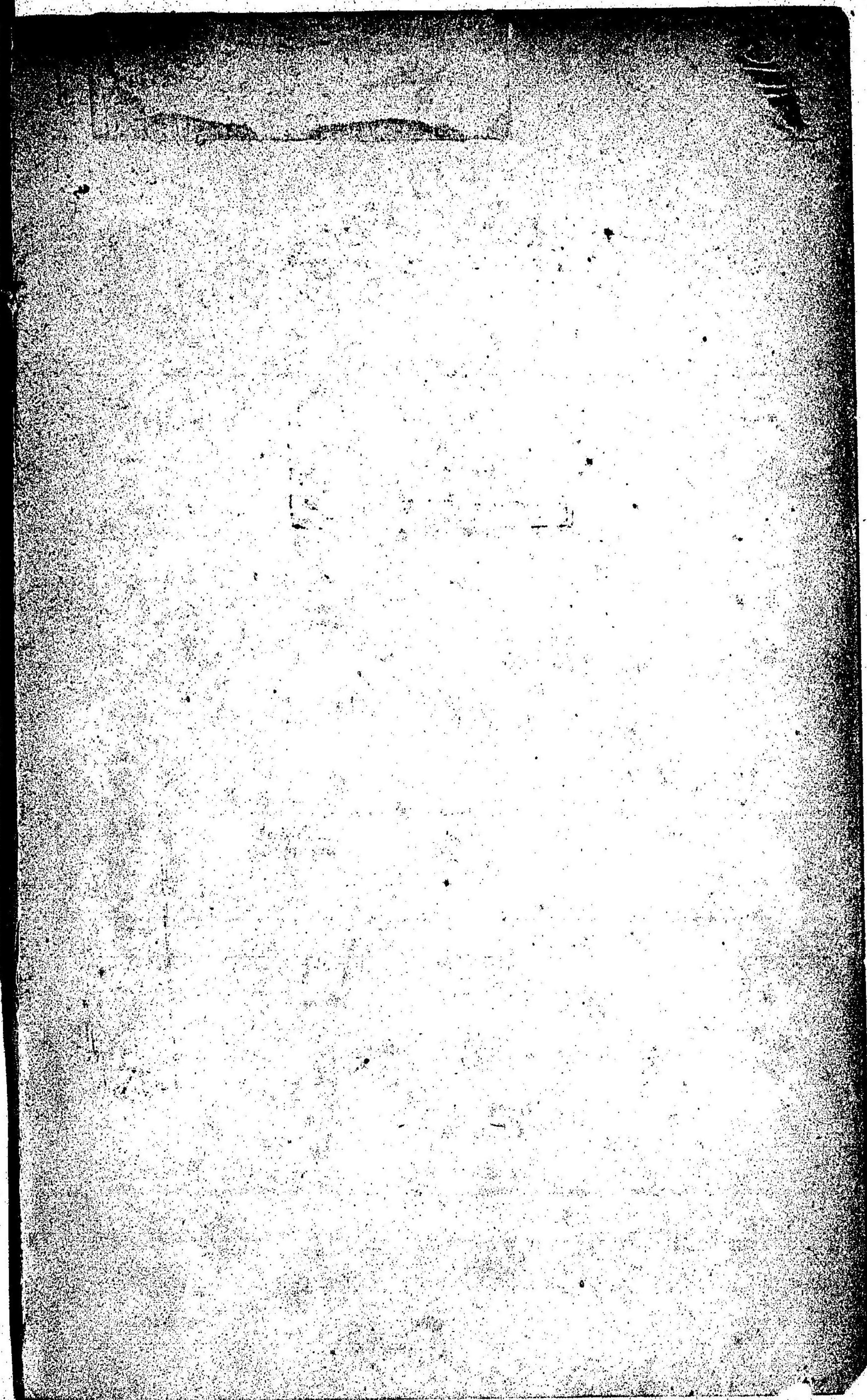
27





縣案內

三重縣協會  
增本





# 三重縣案內目次

總論	一
地勢	一
交通	三
學事	七
兵事	一
社事	二
農業	三
林業	五
水產業	七
商業	一〇
銀行○會社○同業、產業組合	一〇
工業	二八



官公署	三一
新聞、旅舎	三四
神宮	三七
内宮御正殿(寫眞)	三七
外宮御正殿(同)	三八
五十鈴川と宇治橋(同)	三九
日本海戰捷紀念碑(同)	四〇
陸軍奉獻の火砲(同)	四一
神宮	四三
内宮	五〇
宮城○御正殿○東西寶殿○外玉垣御門○別宮九箇所○御遷宮○神苑	
外宮	五二
御正殿○東西寶殿○別宮四所○御遷宮○神苑○高倉山	
五十鈴川と宇治橋	五三
神宮撤下御物陳列所、日本海戰捷紀念碑、陸軍奉納の火砲	五四

沿革

津市

津市借樂公園○岩田川口及貴崎港○塔世川○結城神社及八幡神社○津城趾及高山神社○觀音寺及國府の阿彌陀○四天王寺○阿漕浦○阿漕塚○阿漕燒及其の工場○青銅燒○愛國婦人會三重支部授産場○三重粉糧會社津分工場○關西製糸株式會社○津商業會議所○津米穀株式取引所○三重縣農會○三重縣農事試驗場○師範學校○縣立高等女學校○私立勵精館

安濃郡

安濃浦○汐留の松○縣立第一中學校○富田織布工場○海水浴場(朝日館)○長谷寺の石佛○淨明院の達磨と石佛○平維盛墓○安東村の茶園

一志郡

久居町○雲出川○香長洲神社○香長洲浦○榑原温泉○白米城趾○北畠神社○多氣御所跡○川上八幡○藏王權現○縣立農學校

飯南郡

松阪町○松阪公園、藤の棚○四五百の森○山室山神社○鈴の舎○山室の奥墓○岡寺山繼松寺○岩内瑞嚴寺○縣社八雲神社○藥師寺○愛宕山藏泉寺○勤王僧安念碑○梅松山菅相寺○一乘寺○光福山朝田寺○神麻績機殿神社及御田川○大石村不動瀧○竹齋翁功績碑○松名瀨鹽田○羽見村茶園と製茶工場○戰捷記念郡設桑苗園○松阪水力電氣發電所○藤村工場○東出絹織場



三重縣案内目次

○縣立工業學校

多氣郡

相可の鮎漁○天照山○丹生神社○丹生大師○齋宮寮舊跡○隆子女王御墓○神服織機殿神社○北島神社○舟木橋○千福寺○大陽寺○大淀の松○擬革紙製品○東黒部の鹽田○大杉谷の大杉

宇治山田市

宇治山田市○林崎文庫○豐宮崎文庫○猿田彦神社○神苑會事務所○農業館及假古館○慶光院○西行谷○足代弘訓翁碑○寂照寺と月傳の碑○大瀧○宮川○五二會館及附屬陳列場○山田停車場及參宮鐵道株式會社○伊勢電氣鐵道株式會社○日本赤十字社三重支部山田病院○神路山燒○擬革紙製品○羯鼓踊○伊勢音頭○光明寺○神宮皇學館○縣立第四中學校○市立淑徳女學校

度會郡

二見浦○元賀日館○瀧原宮○朝熊山○蓮臺寺の瀧○廣泰寺○國東寺○神社港○大湊港○大湊町立造船徒弟學校○神宮貯木場○四鄉村の耕地整理○五個所港○南海魚類養殖場○一ノ瀬村鷓鴣石○三重縣農事講習所

河藝郡

高田本山專修寺○眞宗勸學院○鼓か浦○千安觀音及不斷櫻○染形紙○伊勢地曳綱○神館明神社及式内郷社○都波岐奈加等神社○國分寺○菅原社○大木神社及大樟樹○神宮寺○林光寺及龍光禪寺○大徳山淨光寺○如來寺及太子寺○縣社伊奈宮神社○酒井神社○錢掛松○富田織布工場○白子町立工業徒弟學校

鈴鹿郡

龜山公園○龜山停車場及龜山町○日本武尊御墓○能褒野神社○加佐登神社○國府の阿彌陀○石薬師と蒲櫻○野登寺○椿大神社○關の地藏尊○鈴鹿山○羽黒山○筆捨山○鈴鹿萬古燒○三重縣茶業組合模範園と製茶工場○私立鐘鳴女學校

三重郡

伊藤製糸場○湯の山温泉○福玉山○西行庵の舊跡○竹成羅漢山○有節萬古燒○燒給の瀧觸○縣立第二中學校

四日市市

四日市港○諏訪神社及保光苑○沙千狩○龍燈の松○四日市祭○四日市海員寄宿所○三重紡織株式會社○四日市製油場○三重鐵工場○三重製網合資會社○四日市米穀株式取引所○萬古燒及合資會社河村組工場○四日市商業會議所○縣立四日市商業學校○四日市立高等女學校

桑名郡

桑名町○桑名、中臣兩神社○鎮國守國神社○天武天皇御舊跡○本統寺○本多忠勝墓○照源寺金龍樓○播磨山の松茸狩○時雨蛤○桑名盆○萬古燒○班那燒○桑名米穀取引所○諸戸の山林施業○桑名町の上水道○長島村排水機械○城南村貝津の濱と福地の濱○多度神社○捐斐川の鐵橋○寶曆治水碑

員辨郡

笠田村の大溜○鳴谷山聖寶寺○石樽瀧及照光寺○鴨神社○篠崎風穴

三重縣案内目次



阿山郡

上野町○鍵屋の辻○上野公園○敢國神社○縣立菅原神社○山溪寺及敬叟和尚○芭蕉翁故郷塚

○芭蕉翁誕生地記念碑○阿山郡圖書館○服部橋○正月堂○高倉神社○西蓮寺○新大佛寺○嚴倉峽○嚴倉發電所○伊賀燒○檜藤細工○縣立第三中學校

名賀郡

名張町○赤目四十八滝○香落淵○阿保御墓○兼好塚

志摩郡

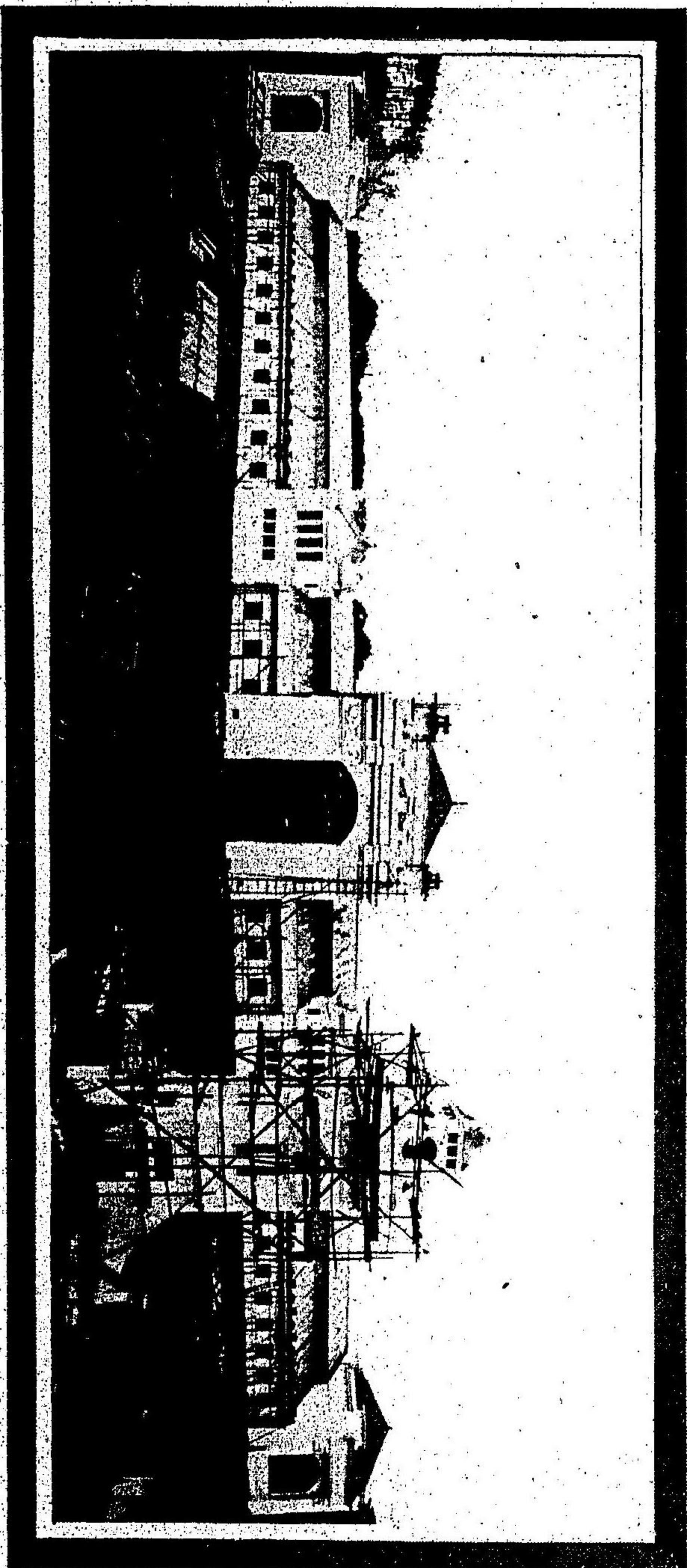
鳥羽港○日和山○海水浴場(錦浦館)○近藤眞琴翁碑○鳥羽鐵工場○伊雜宮○御田種と千田の御池○佐美長神社○天の岩戸○鷗鶴石○菅島燈臺○大王崎と老崎○國崎の鏡岬○安乘燈臺○青峰山正福寺○孝生浦○的矢港○國分寺○九鬼嘉隆墓○眞珠貝養殖場○縣立水産試験場○鳥羽町立鳥羽商船學校○緒明造船場

北牟婁郡

尾鷲町○尾鷲公園○國市濱挽材工場○熊野山林○竹林○魚跳溪の奇勝○引本町及其の八景○島勝浦及白浦○須賀利港○九木浦○九木灣内鮑取網及鮪漁業○長島港○江の浦及名倉灣○丹波戸岬の塚

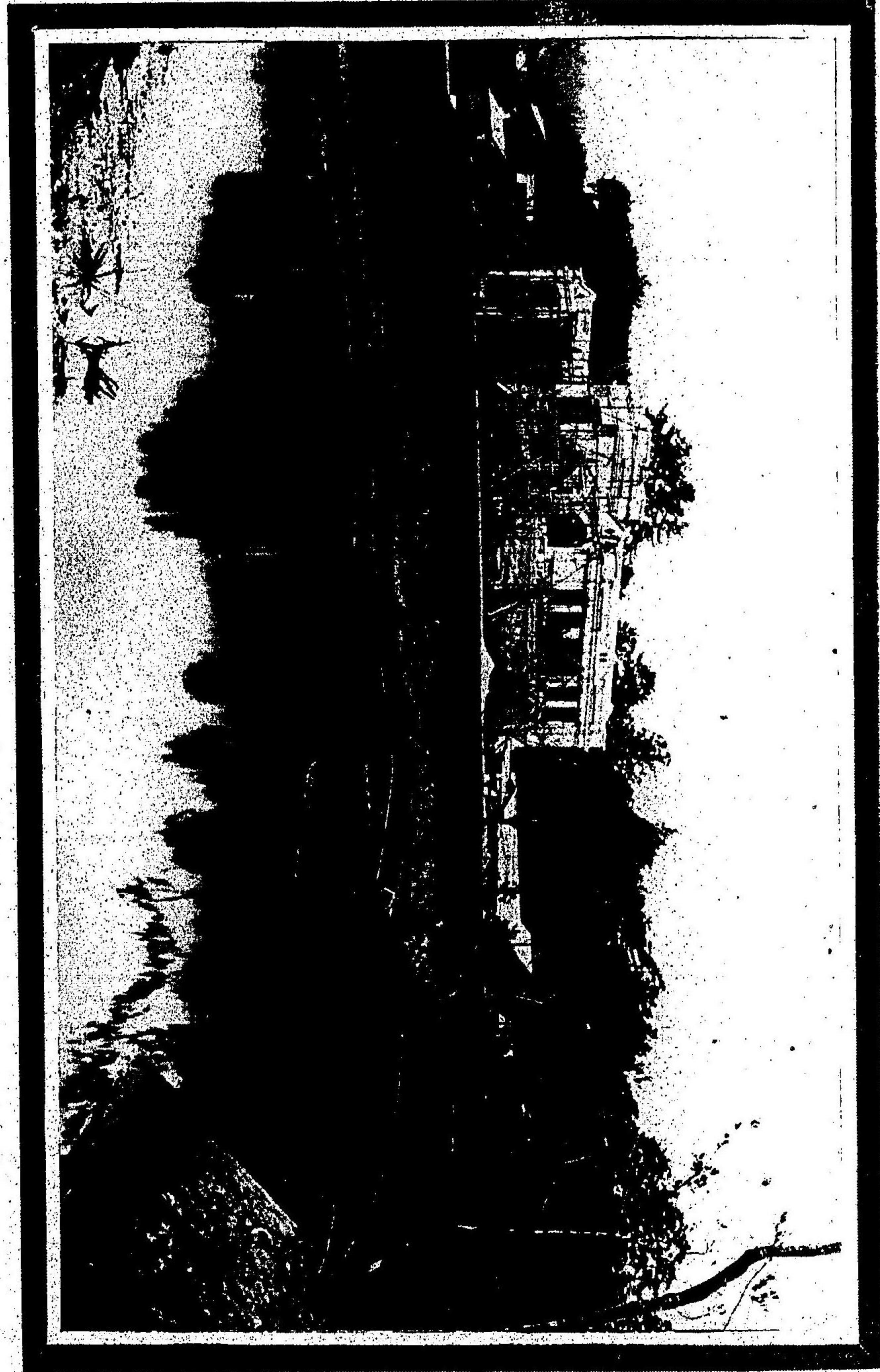
南牟婁郡

木本町○鬼ヶ城○文字岩○花の窟○王子の窟○瀨八丁○花知の奇勝○布引瀧○室子神社○阿子師神社○海福山最明寺○光福寺○辨慶産家塚○二木島港○鶴殿貯木場○鶴殿挽材工場○秦徐福の墓○阿田和の捕鯨船○郡立女子技藝學校



第九回關西縣合進會々場

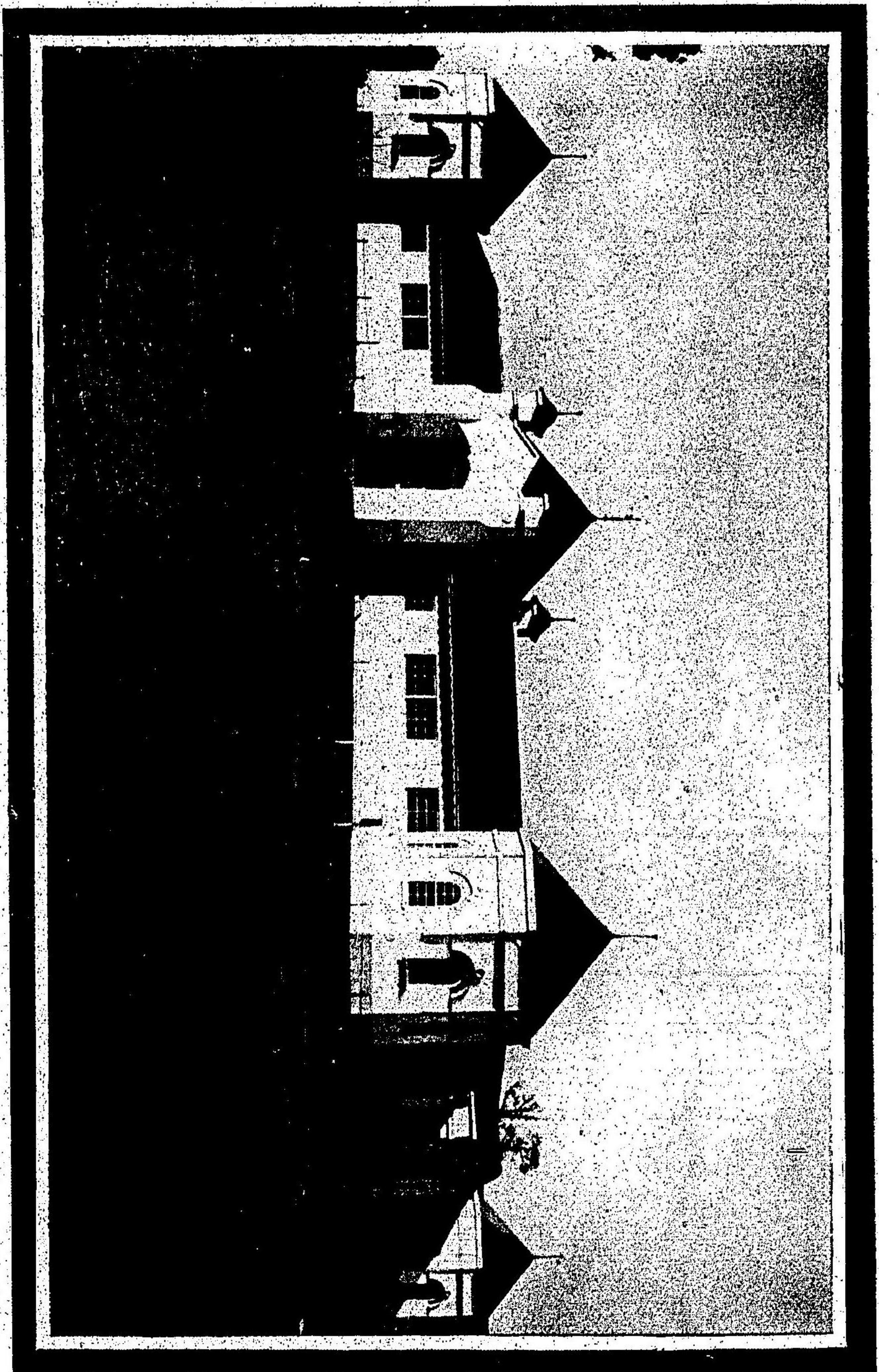




館 考 参



場 會 進 共 品 育 教

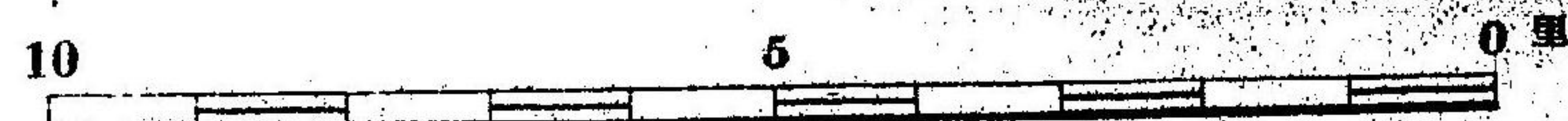
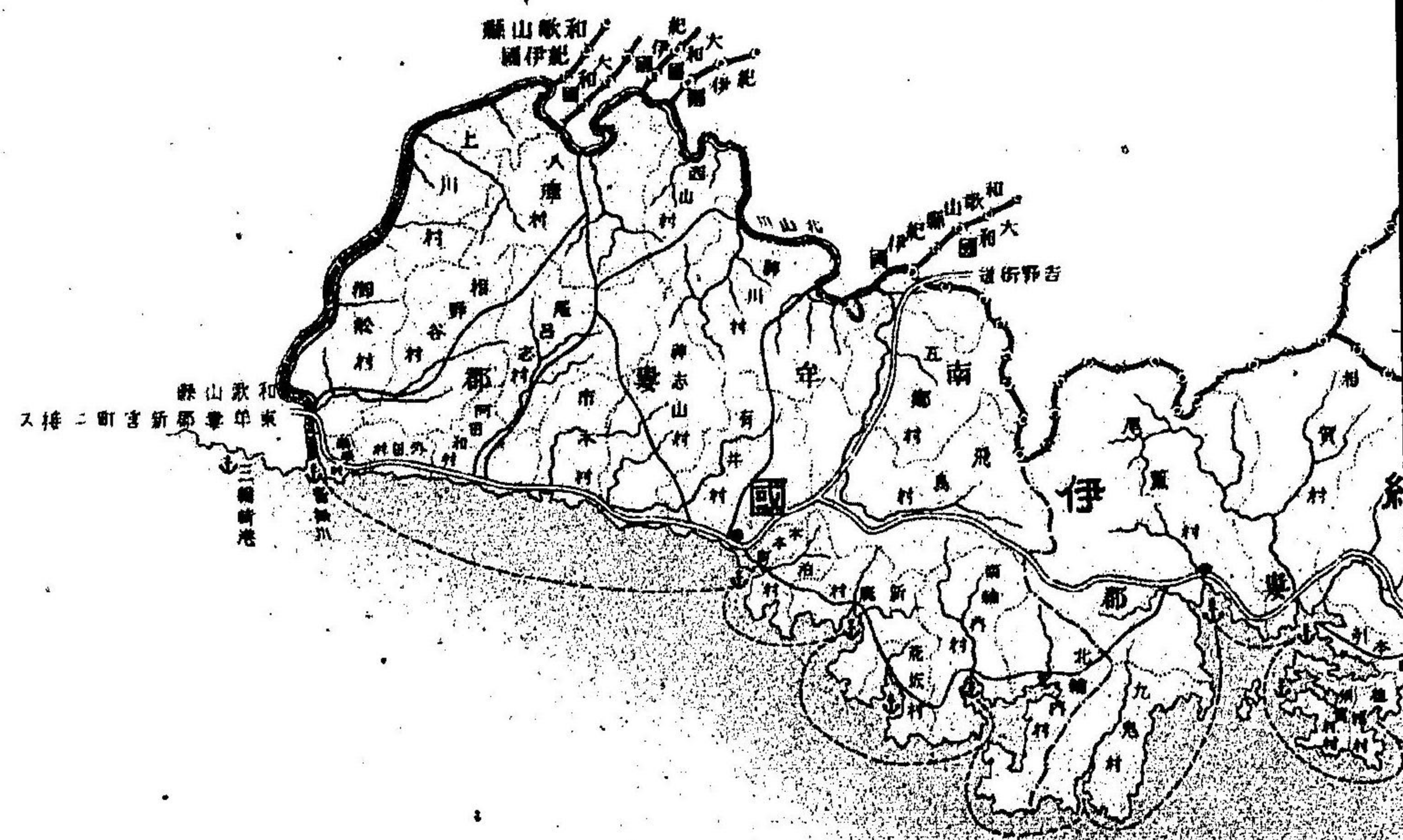






會 覽 展 品 利 恆 會 評 品 產 水





尺縮  
一之分万六十四

海城川	同	上四日市市	五〇〇
三滝川	三重縣三滝村	同	七二八
鈴鹿川	鈴鹿郡坂下村	同	八〇〇
内郡川	三重郡水次村	同	五〇〇
中ノ川	河勢郡明村	河勢郡上野村	七〇〇
安濃川	安濃郡河内村	安濃郡河内村	四〇〇
雲出川	大和郡	志保郡	二〇〇
八手保川	志保郡	志保郡	六〇五
中村川	同郡宇治郡村	同郡中川村	八〇〇
坂内川	飯沼郡坂内村	飯沼郡坂内村	五〇〇
藤田川	同郡藤田村	同郡藤田村	一七〇〇
宮川	多摩郡大谷村	同郡大谷村	三〇〇
大内川	同郡大内村	同郡大内村	八〇〇
長田川	同郡長田村	同郡長田村	一〇〇〇
川上川	同郡川上村	同郡川上村	六〇〇
新田川	阿山郡新田村	阿山郡新田村	六〇〇
服部川	同郡服部村	同郡服部村	六〇〇
名張川	大和郡	同郡	七〇〇
音無川	北牟婁郡音無村	北牟婁郡音無村	五二六
北山川	同郡	同郡	六一一
北山川	同郡	同郡	三七〇





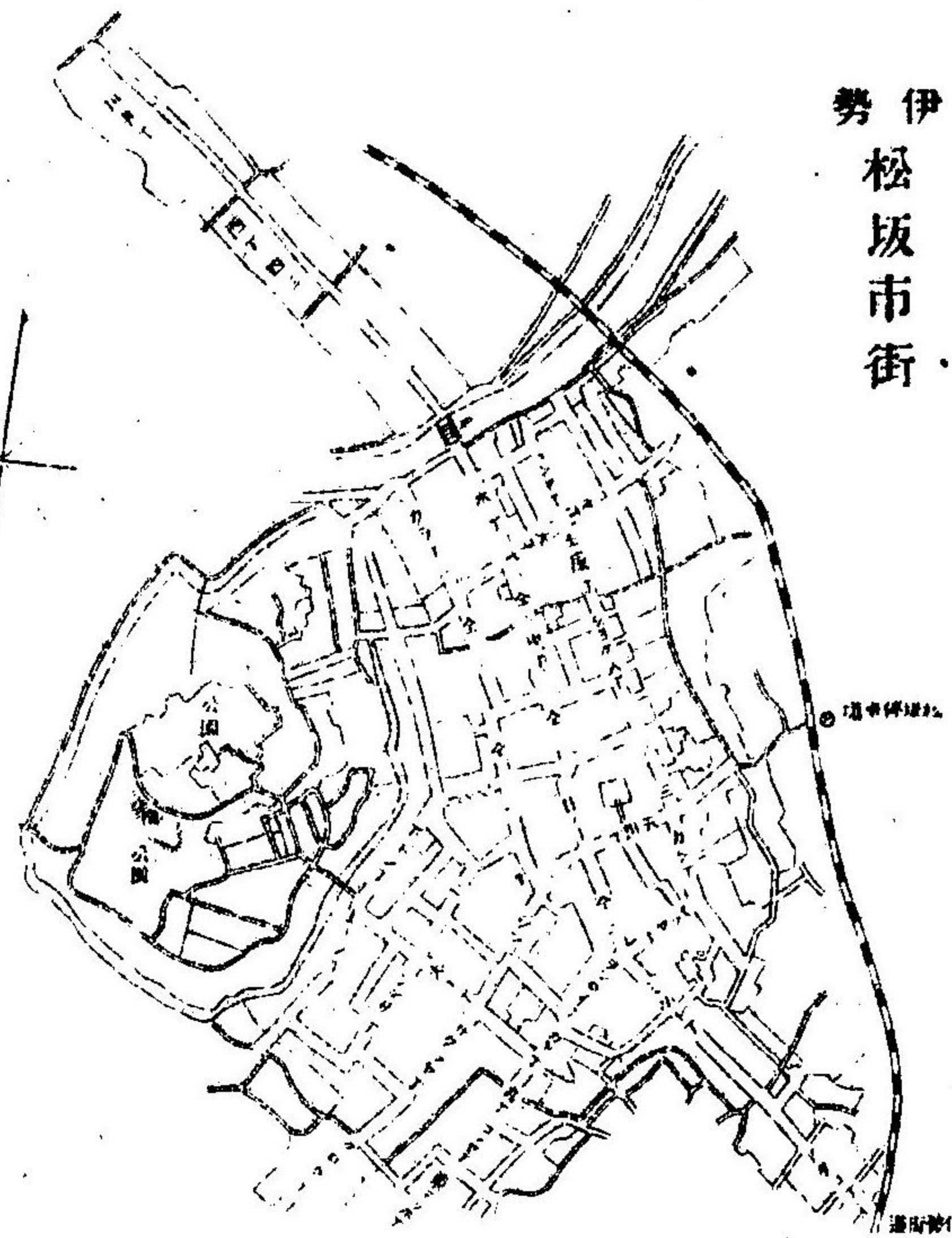




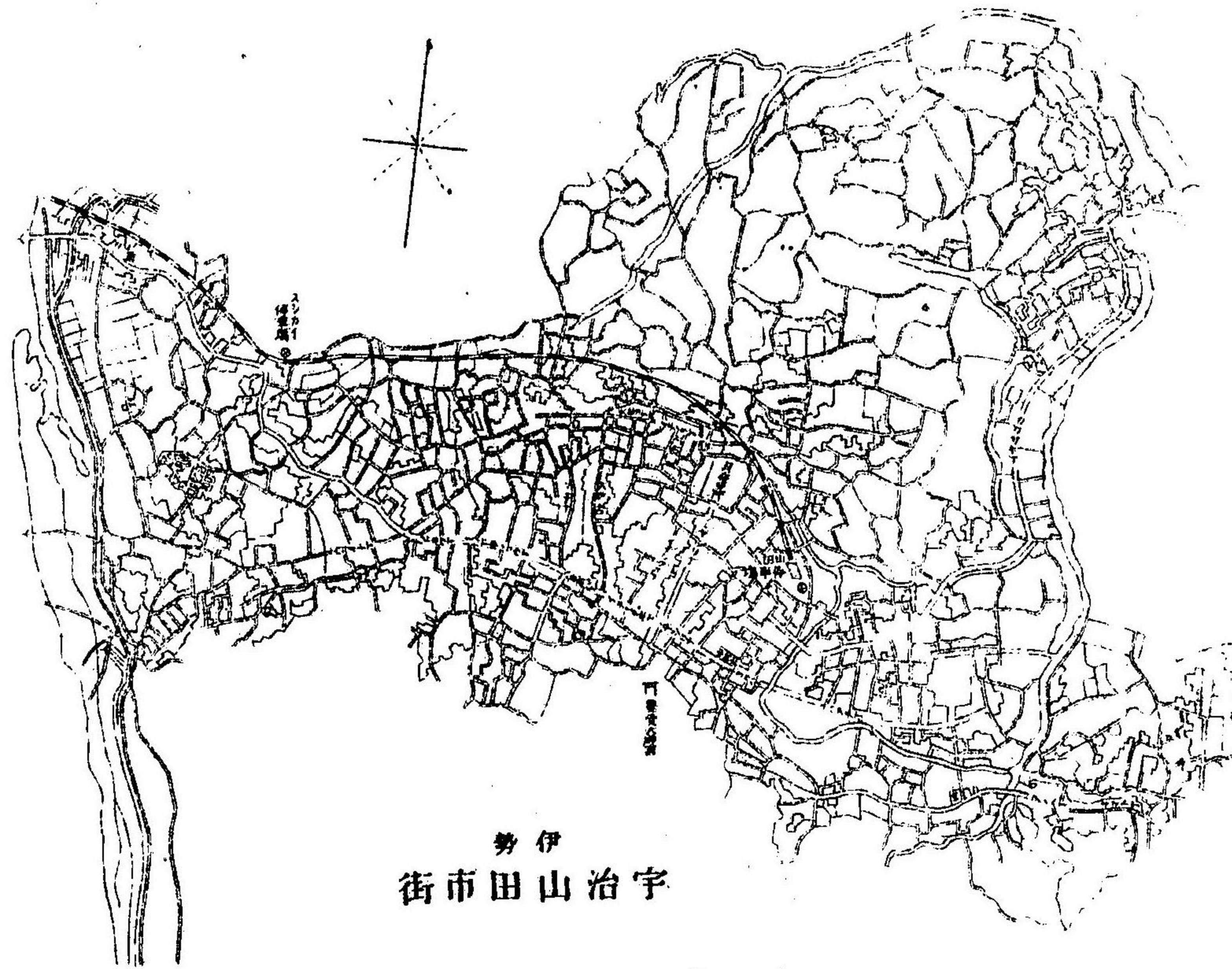


三 重 縣 市 街 區 劃 圖

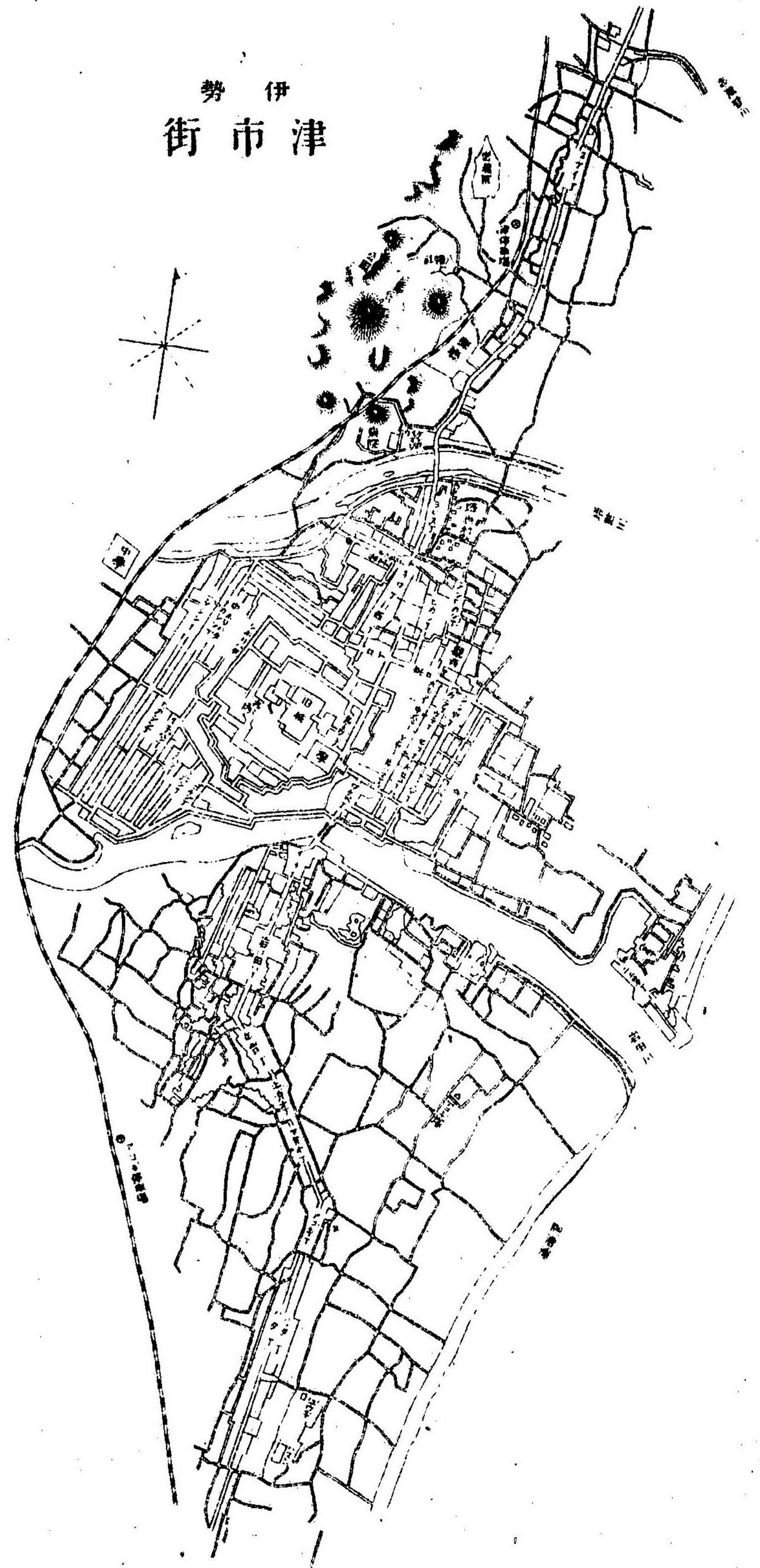
伊勢  
松坂市街



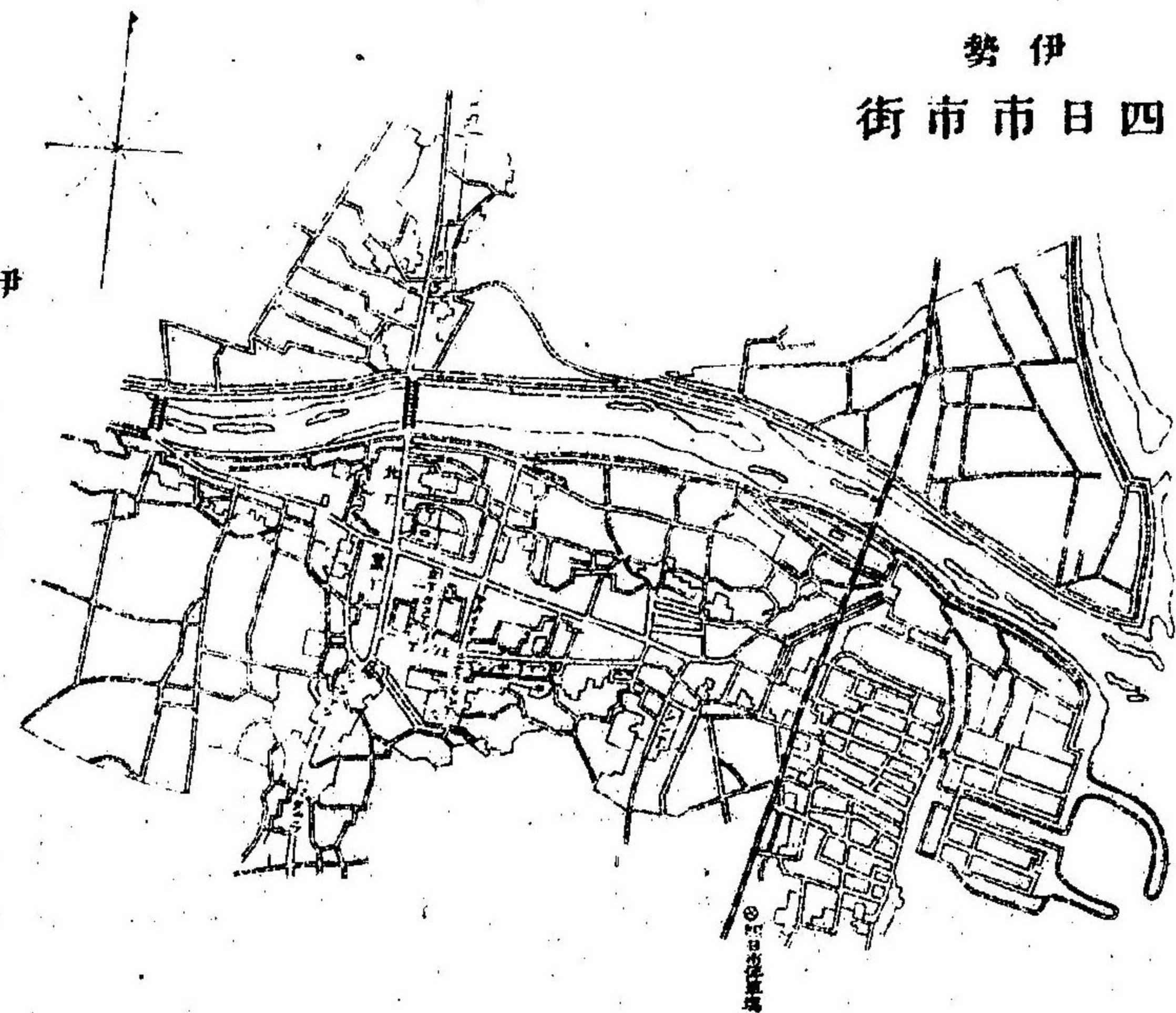
伊勢  
宇治山田市街



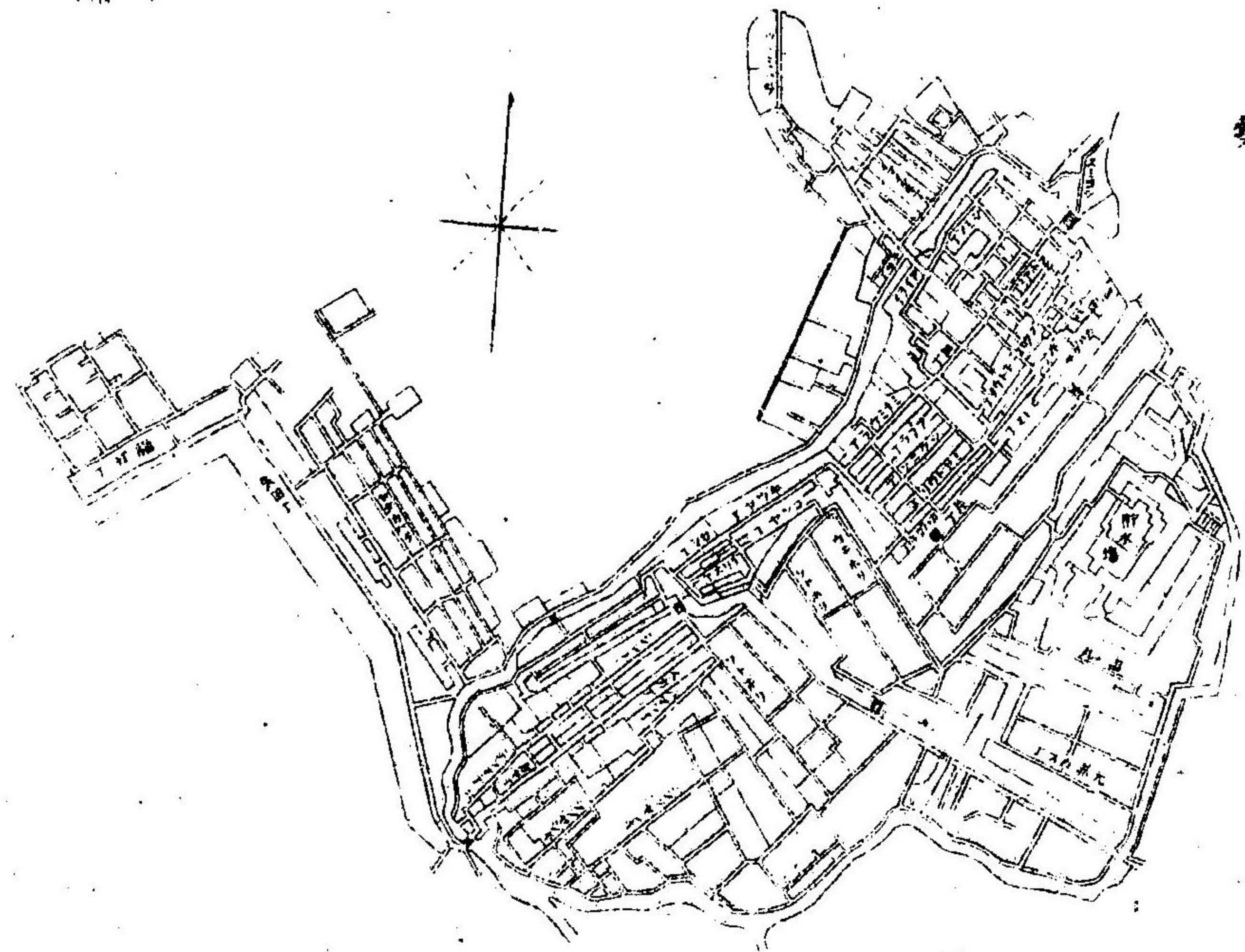
伊勢  
津市街



伊勢  
四日市市街



伊勢  
桑名市街



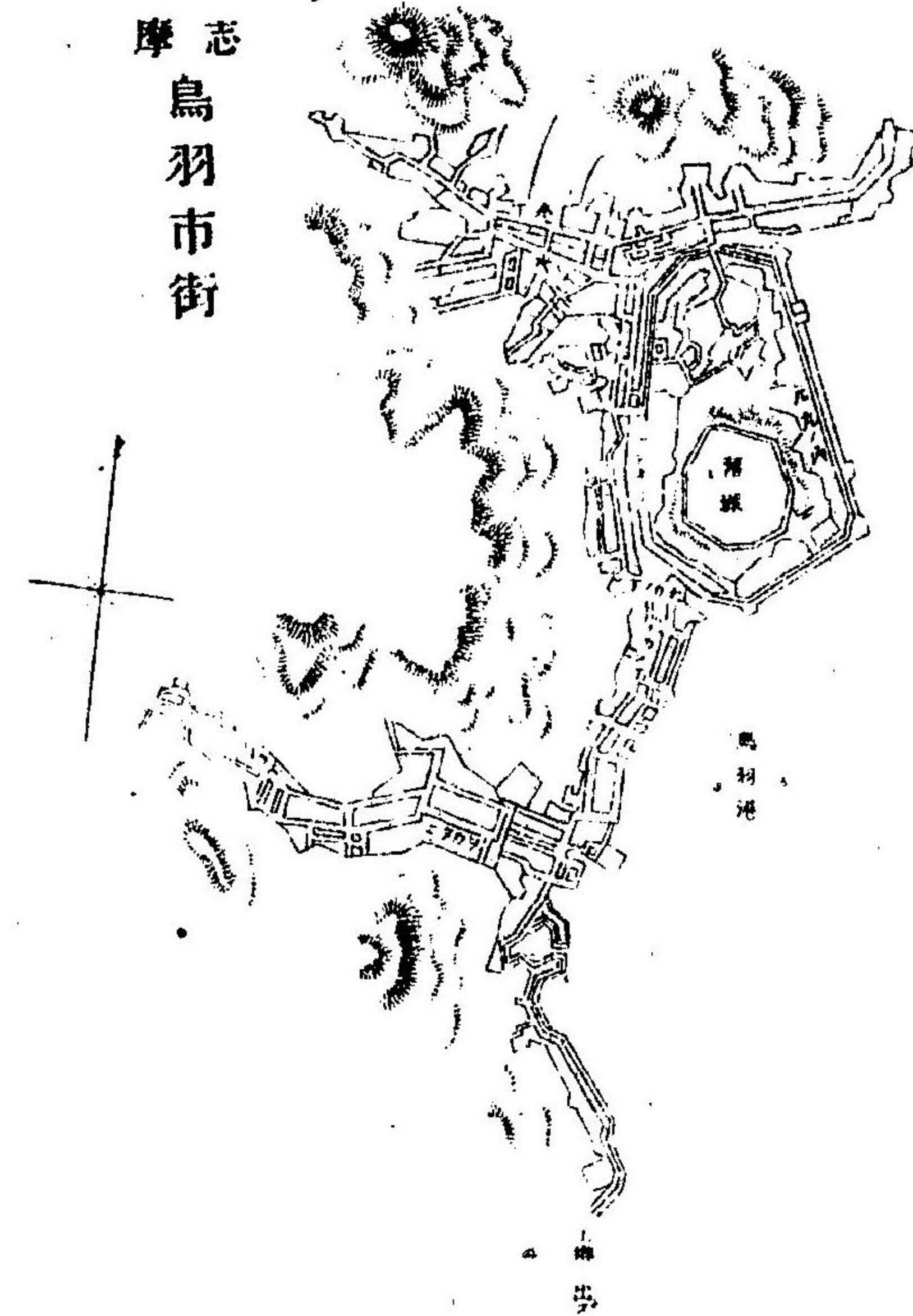
伊賀  
上野市街



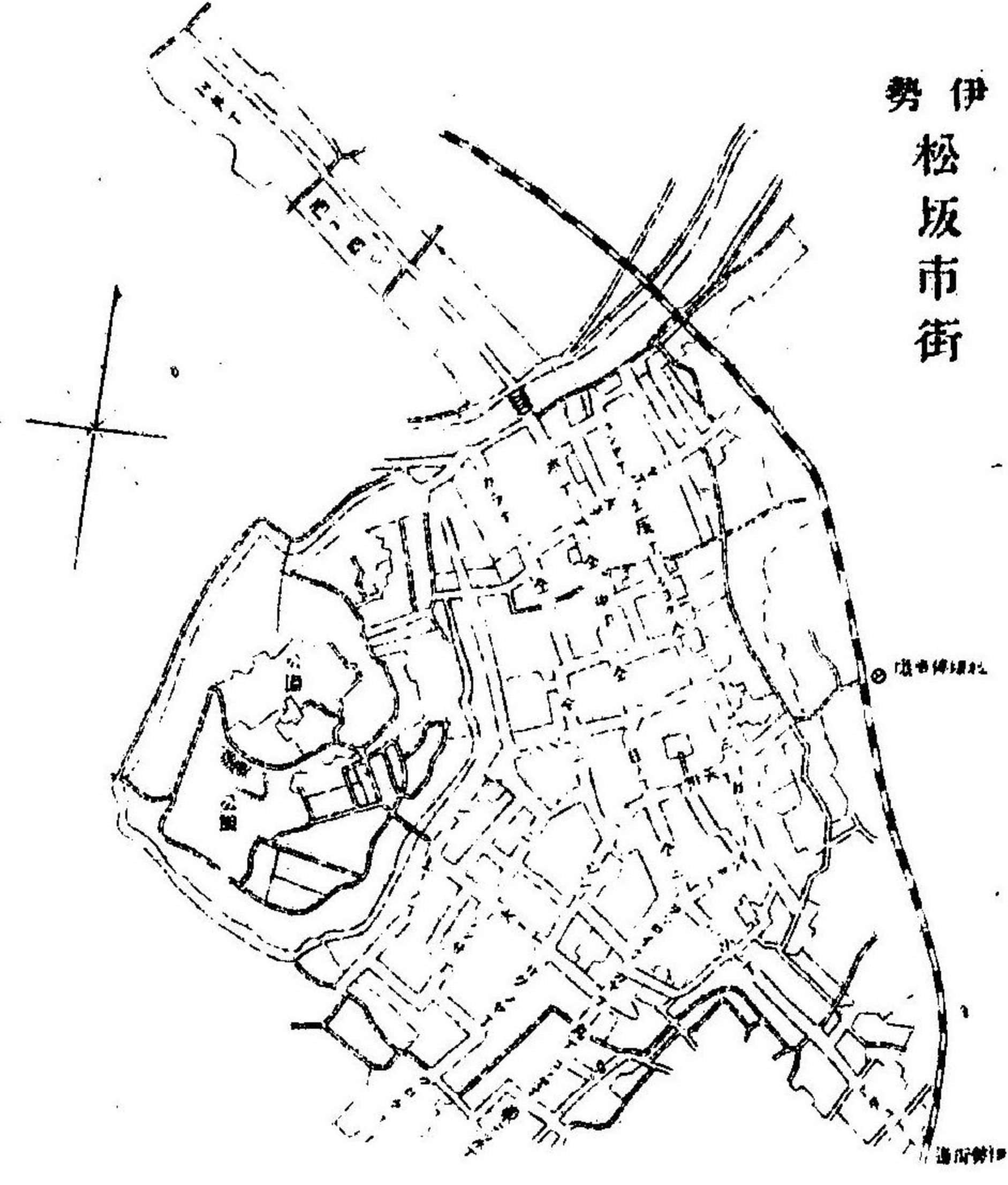


三 重 縣 市 街 區 劃 圖

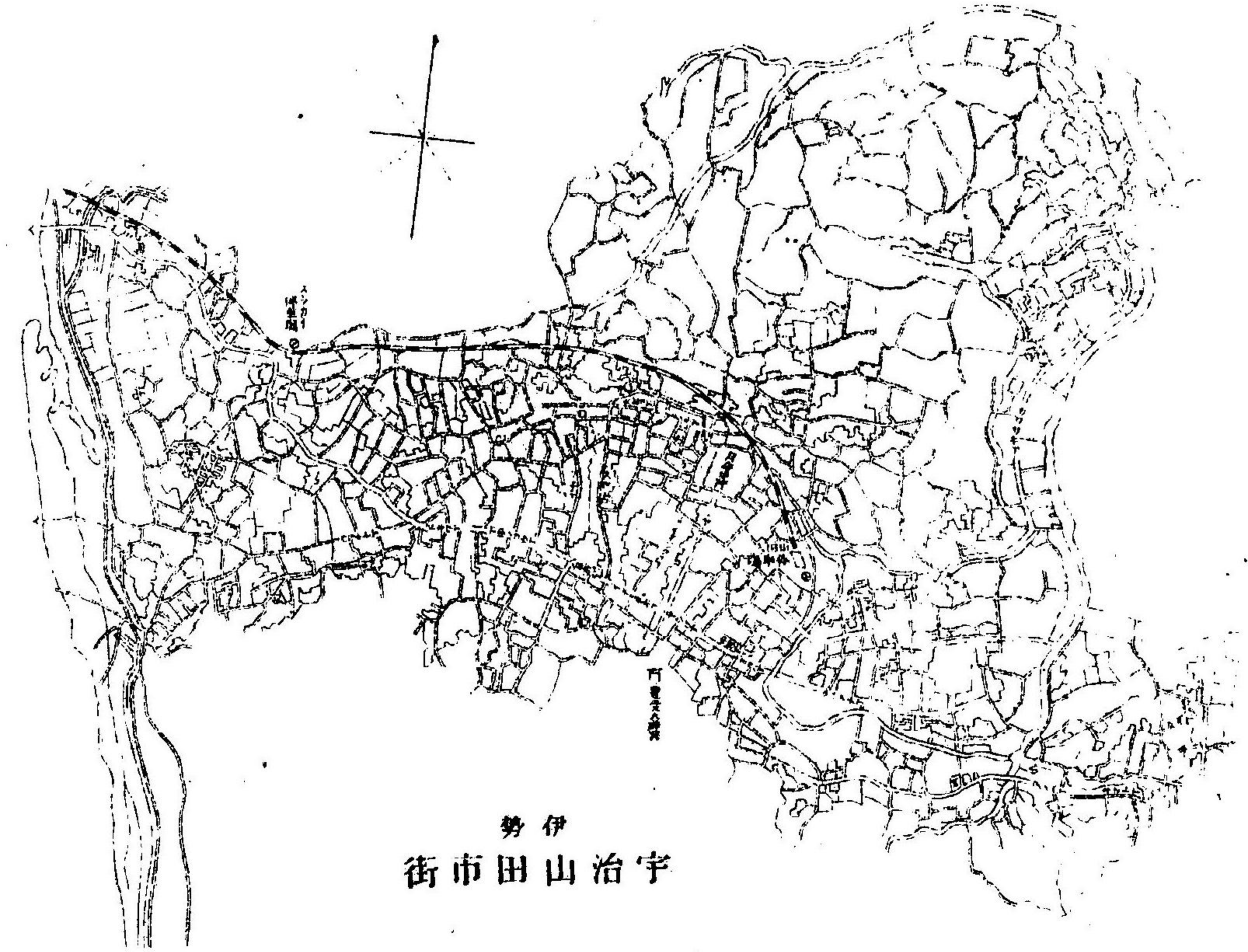
志摩  
鳥羽市街



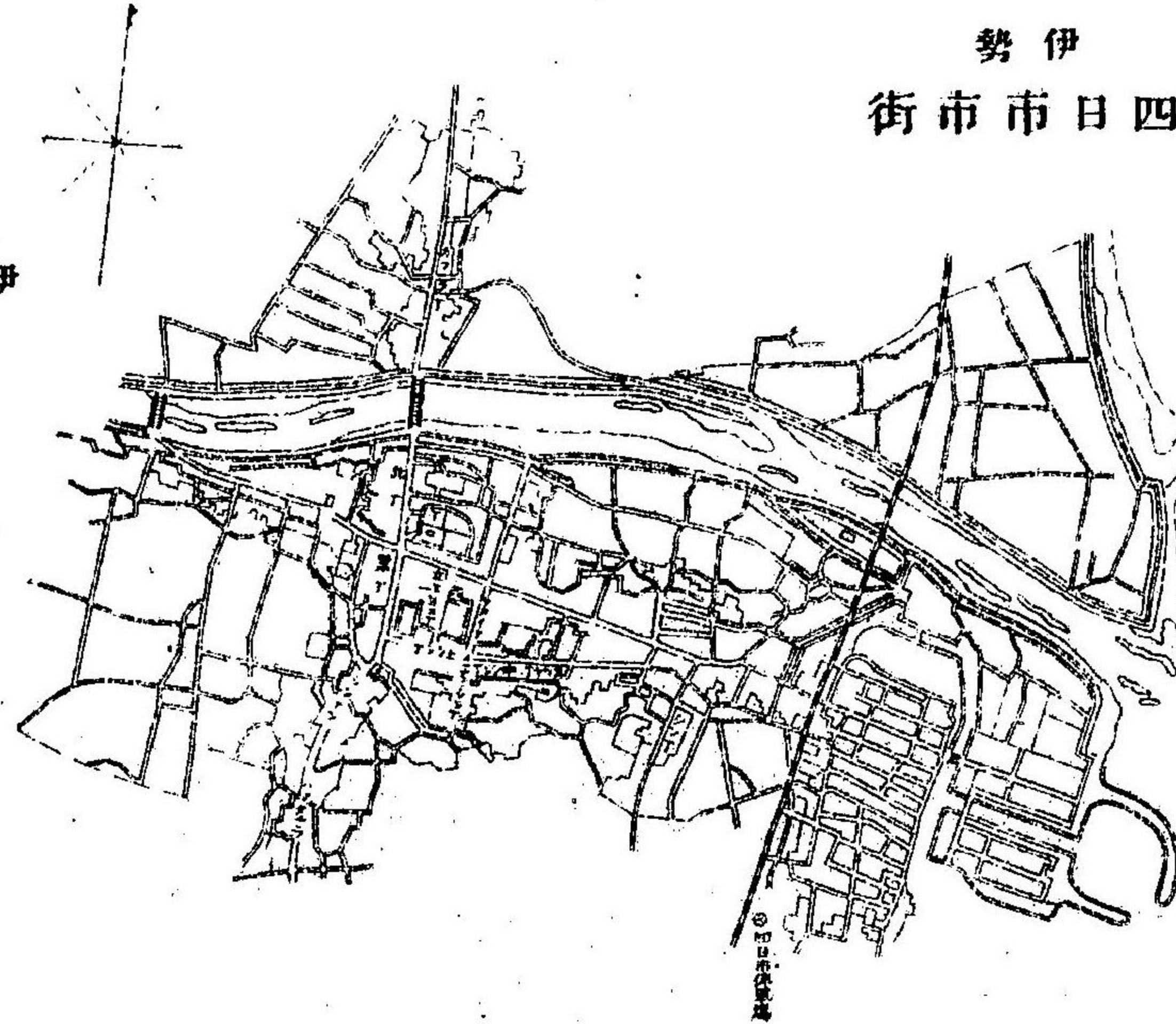
伊勢  
松坂市街



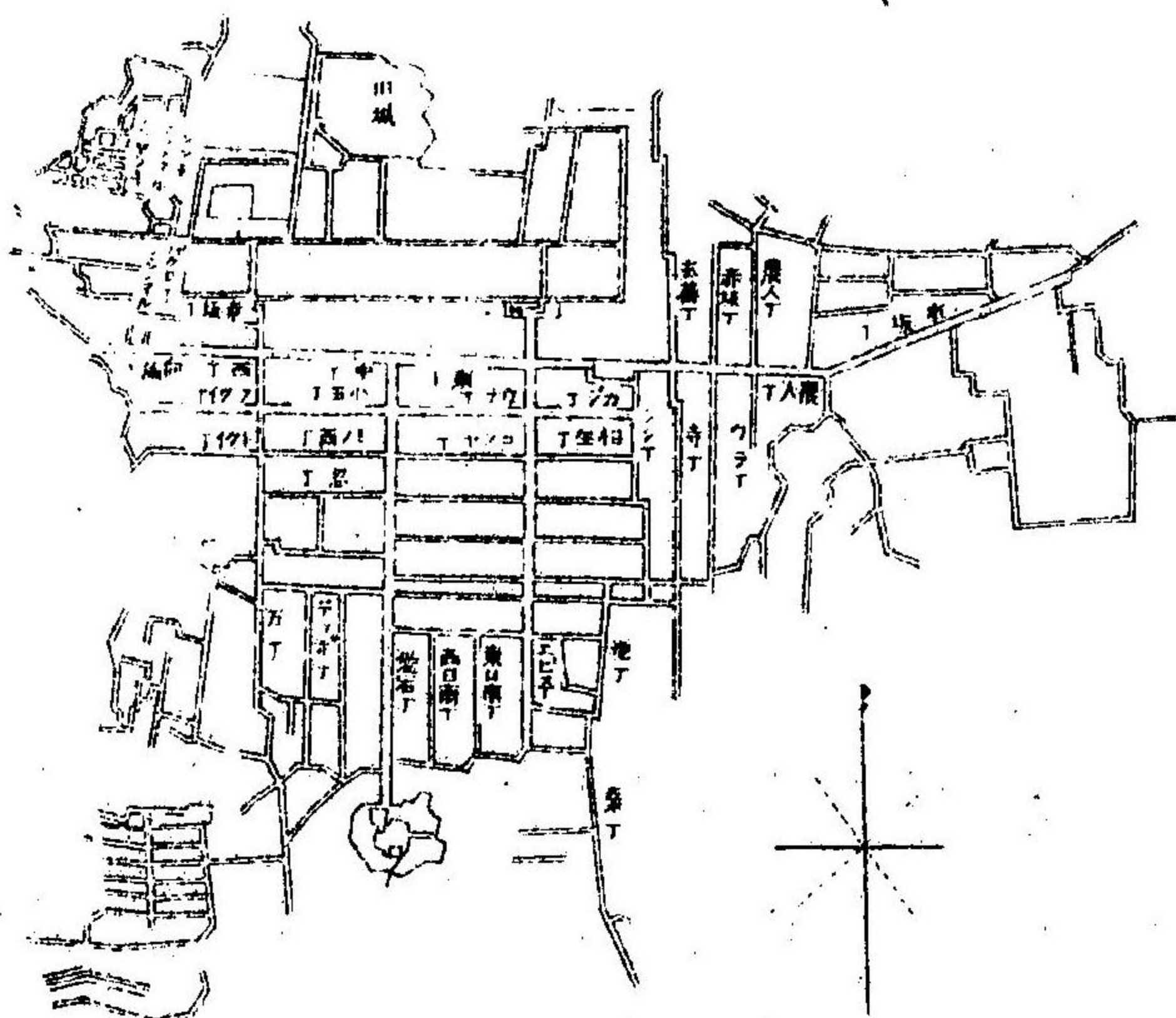
伊勢  
宇治山田市街



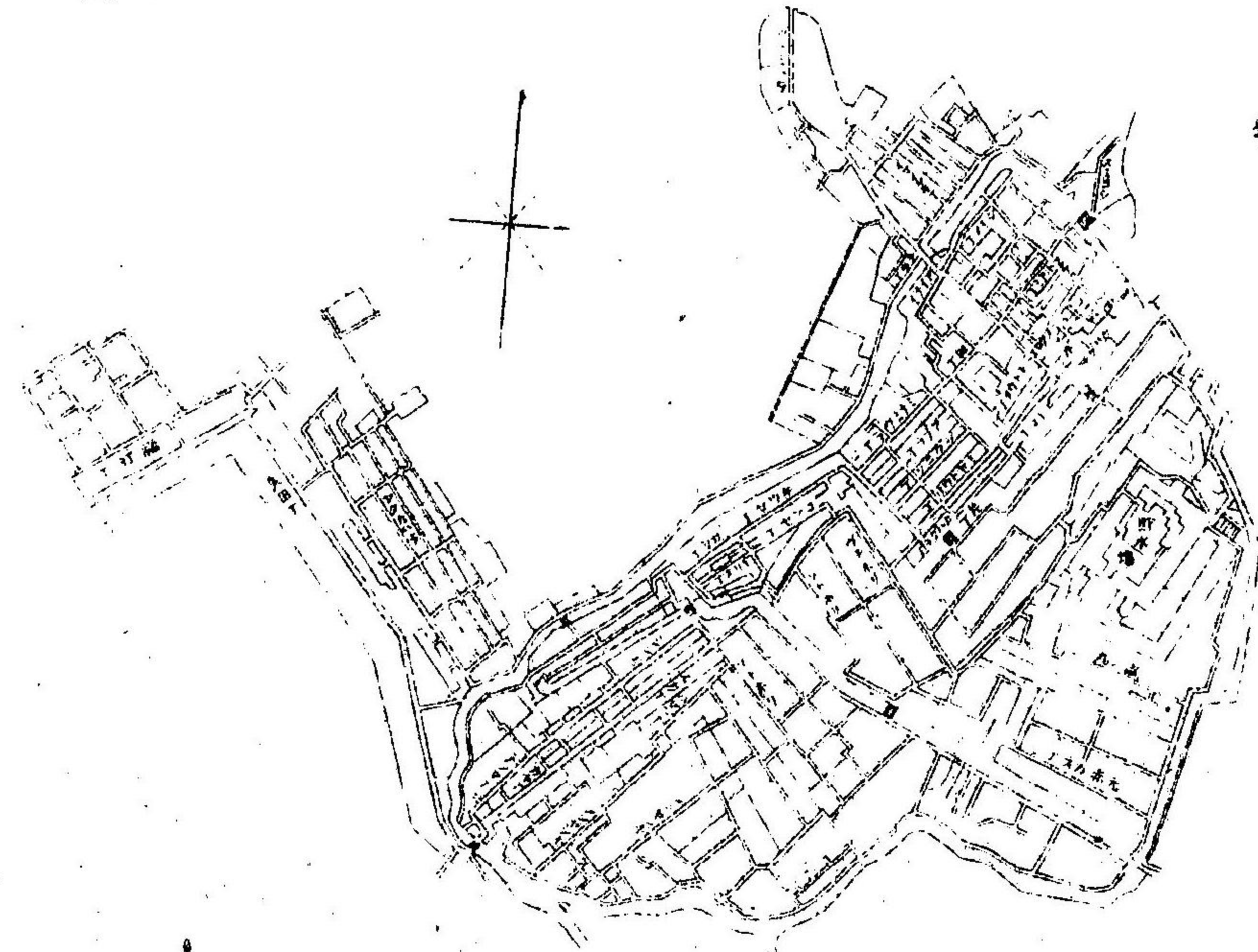
伊勢  
四日市市街



伊賀  
上野市街



伊勢  
桑名市街







### 三重縣案內



本縣は戸數十八萬五千七百十四、人口百四萬四千九百九十五を有し東海道の西尾に位置し南海道の東頭を跨り東北より斜に西南に延び東南は總て海を控へ西北は概ね山に倚り愛知、岐阜、滋賀、京都、奈良、和歌山の一府五縣に隣接せり其の所管伊勢(十郡三市二百三十六方里九九)伊賀(二郡四十五方里九四)志摩(一郡十八方里三〇)及紀伊の一部(二郡六十一方里〇三)にして廣袤三百六十二方里二六に及び極端の經緯度は東、志摩郡神島村に於て東經百三十六度五十九分西、南牟婁郡上川村に於て東經百三十五度五十分、南、同郡御船村に於て北緯三十三度四十五分、北、員辨郡十社村に於て北緯三十五度十五分を示せり嶽は大臺ヶ原、國見、高見、尼ヶ岳、三國の諸山を巨擘とし勢和に跨りて連亘し其高五千尺より一萬二千尺に至る三國山より西北に走りて青蓮寺山茶臼山高塚山の山脈となり伊勢大和

三重縣案內



の界を作り尼ヶ岳より北に赴きて伊勢伊賀國界の山脈となり更に北向伊勢近江の中間に蜿蜒して進て勢濃を區分し其支脈は伊勢近江の界を劃して高嶺山に到り山城に接す大臺ヶ原山より南するものは紀和兩國の脊梁となり和歌山縣に入り別に東方に向へる一脈は伊勢志摩の界を形成す河川は木曾揖斐長良の三大川伊勢の北境を劃し其他は宮川流路三十三里櫛田川流路十七里雲出川流路十二里を最長とし皆伊勢に在り宮川櫛田川は北流し雲出川は東流して伊勢灣に注く五十鈴川流路僅に四里なるも其名天下に高し員辨鈴鹿三瀧朝明海藏の諸川皆北勢に在り東流して伊勢灣に注き名張川長田川は伊賀に在り西流して山城に入り木津川となる北山川は南牟婁郡と大和の界を流れて下流音無川となり和歌山縣界を過ぎて熊野浦に入る沿海港灣に富み舟運に便にして且漁利甚饒かなり田野遠く連りて土壤肥沃山林能く整ふて木材其他の林産頗る豊なり伊賀伊勢志摩紀伊の四國は風土人情互に多少の異なるを認むるも概して家給き人足り人は純良にして最も家業に精勵し教育殖産より自治精神に至るまで敢て人後に落る事なし且沿革の久しき名勝舊蹟の多きこと各府縣中稀に見る所なり而して伊勢は縣地の大半を占め東西の廣き處十八里南北二十八里に達し沿海の地は平坦膏腴にして穀果克く稔り漁撈の利に富み伊賀は四圍の山嶺を以て自然の一區劃を爲し沃土廣濶農業を主とし風俗稍京都に彷彿たり東西七里南北十一里志摩は三面海に瀕し岬灣島嶼の奇勝擧げて數ふへからす東西七里南北八里にして伊勢南部の餘

脈延て幾多の丘陵を爲し短流幾條東南に流れて海に注く到處漁獵採藻の利甚豊富なりとす紀伊南、北兩牟婁郡は其の地形細長東方一帶海に面し峯巒起伏して最も植林に適し所謂熊野山林の真相を現はし又果樹の生育甚盛なり沿海殊に漁撈の利に富み東西十里南北十四里而て南牟婁郡は平地數里に亘り氣候農桑に適す

### 交 通

伊勢内灣より志摩を回くりて紀州に至り海岸線百五十二里二十九町四十間にして無數の港灣を有し海運の便甚多く一箇年の各港出船數は西洋形帆船六千六百艘汽船八千三百艘日本形船七萬二千艘に達し入船數西洋形帆船六千五百艘汽船八千二百艘日本形船七萬七千艘の多きに及へり就中四日市港は特別輸出入港として近來益盛況を呈し其他桑名、富田、若松、白子、贊崎、矢野、大口、大淀、大湊、神社、小濱、鳥羽、的矢、安乘、波切、濱島、五ヶ所、磯、贊、神前、方坐、古和、錦、長島、三浦、白、島勝、須賀利、引本、尾鷲、九鬼、賀田、二木島、新鹿、泊、木本、鵜殿の諸港灣亦常に船舶の去來すること夥く四日市港菅島及安乘岬贊崎には燈臺あり又河川の舟運を通するもの少からず木曾揖斐長良は尾濃勢三國間の交通を助け宮川櫛田川雲出川名張川音無川其他木材を流下するの水流は枚舉



に違あらず道路は左の諸線を以て重要なるものとす

東海道	自桑名郡長島村愛知縣界 至鈴鹿郡坂下村滋賀縣界	一四・二七
伊勢街道	自三重郡日永村 至宇治山田市	一九・〇〇
美濃街道	自桑名郡桑名町 至同郡多度村岐阜縣界	三・〇〇
濃州街道	自桑名郡桑名町 至員辨郡立田村岐阜縣界	八・三〇
菰野街道	自四日市市 至三重郡菰野村	三・〇八
大和街道	自鈴鹿郡關町 至阿山郡島ヶ原 京都府界	一〇・二四
伊勢別街道	自津市 至鈴鹿郡關町	四・二八
伊賀街道	自津市 至阿山郡上野町	一二・〇二
久居道	自津市 至一志郡久居町	一・二一
初瀬新街道	自一志郡久居町 至同郡伊勢地村奈良縣界	九・一七
初瀬街道	自一志郡松ヶ崎村 至名賀郡錦生村奈良縣界	一四・二〇
和歌山街道	自飯南郡松阪町 至同郡波瀨村奈良縣界	一六・〇四
熊野街道	自飯南郡松阪町 至南牟婁郡御船村和歌山縣界	四一・二二

和歌山別街道	自宇治山田市 至飯南郡粥見村	九・〇二
南島街道	自宇治山田市 至度會郡輪倉村	九・〇六
鳥羽街道	自宇治山田市 至志摩郡鳥羽町	四・〇八
波切街道	自志摩郡鳥羽町 至同郡波切村	七・一九
名張街道	自阿山郡上野町 至名賀郡名張町	四・二九
吉野街道	自南牟婁郡飛鳥村 至同郡神川村奈良縣界	四・三〇

關西鐵道株式會社(本社は四日市市)及參宮鐵道株式會社(本社は宇治山田市)は共に本縣に在り鐵道の延長關西七五哩參宮二六哩一別に草津より柘植に來る一線あり其驛名及哩數左の如し

關西鐵道	彌富—二・一—長島—二・六—桑名—四・九—富田—三・四—四日市—四・三—河原田—四・二—加佐登—五・六—龜山—三・五—關—三・四—加太—五・五—柘植—六・六—佐那具—二・五—上野—四・五—島ヶ原—四・四—大河原 <small>(以上幹線)</small> —柘植—七・六—深川 <small>(以上支線)</small> —龜山—三・五—下ノ庄—四・〇—一身田—二・二—津 <small>(以上支線)</small>
------	--

計十六驛(大河原深川、彌富を除く)……七十七哩



參宮鐵道 津—二・四—阿漕—二・五—高茶屋—三・六—六軒—三・四—松阪—一・八—徳和—三・一—相可—四・三—田丸—二・六—宮川—一・三—筋向橋—一・一—山田

計十驛……二十六哩一

伊勢電氣鐵道株式會社(本社は宇治山田市)は輕便軌道を以て山田驛前より外宮前を過ぎ前田より分岐して内宮に抵り他の一線二見浦に達し又外宮内宮線は中山にて分岐し二見浦に抵る公衆電話は桑名町四日市及津市に在り二等郵便局四、三等郵便局九十六、内電信事務取扱の局數二十九とす各郡市役所の所在地及本縣廳よりの哩程は左の如し

桑名郡役所	大山田村大字桑名	汽車陸路	三二・一〇〇
員辨郡役所	大泉原村大字楚原	同同	一〇・〇〇
三重郡役所	海藏村大字末永	同同	三二・〇〇
鈴鹿郡役所	龜山町大字西丸	同同	三三・三三〇
阿藝郡役所	白子町大字白子	同同	二二・八〇
安濃郡役所	新町大字古河	同同	九・七〇
一志郡役所	久居町大字東鷹跡町	同同	四〇・七
		同同	一九
		同同	四・九〇
		同同	一・二〇〇

飯南郡役所	松阪町大字殿町	同同	一一・九〇
多氣郡役所	相可村大字相可	同同	一六・八〇
度會郡役所	宇治山田市大字岩淵	同同	二六・二〇
阿山郡役所	上野町大字丸ノ内	同同	三一・三〇
名賀郡役所	名張町	同同	一〇・〇〇
志摩郡役所	鳥羽町大字鳥羽町	同同	三二・二〇
北牟婁郡役所	尾鷲町大字尾鷲南浦	同同	六・三〇
南牟婁郡役所	木ノ本町	同同	二六・二〇
津市役所	津市大字津西町	同同	一六・八〇
四日市市役所	四日市市大字南新町	同同	三三・八〇
宇治山田市役所	宇治山田市大字岡本町	同同	二六・一〇

學事

往時長島藩の文禮館、桑名藩の立教館、菰野藩の修文館、龜山藩の明倫館、神戸藩の教倫堂、津藩の



有造校、久居藩の義塾、鳥羽藩の尙志館、神宮の豊宮崎文庫の如き郁々乎として子弟をして文武兩道を講修せしめたりき今や則ち國民教育の制となり復た舊時の状態を留めず之を最近の統計に徴すれば學齡兒童百人中男九十七人四分女九十一人九分平均九十四人七分の就學を見るに至れり、之を十年前(明治二十八年)に對比せば男十四人三分女三十三人五分其の平均に於て二十三人餘を増せり市町村立小學校の數は尋常高等を併せて實に五百二十二校にして而して本科正教員千六百七十四人准教員五百四人代用教員二百四十二人専科正教員百七人なるを以て本科正教員を尋常高等の學級數二千三百十八補習二十九に對せば六百七十三人の不足を見る今縣下各學校の狀況を列擧せば左の如し

校種	市	縣	私立	校數	教員數	生徒數
幼稚園			私	三一	五二	一七六
市町村立小學校				五二二	二、五二七	一一五、八二〇
各種學			准小 其他	四八	二八	三二五
師範學		女		一一	七二	三九七
中學校				四	九六	一、七五一
高等女學校	市			一一	一九	三三九

專門學	佛敎	實業	學業	校種	校數	教員數	生徒數
立縣工業學校	一	一	一	立	七	一三	二二三
同農業學校	一	一	一	立	四二	六九	一五二
同商業學校	一	一	一	立	三	一三	七五
同商船學校	一	一	一	立	一	八	一五二
立町徒弟學校				立	三	一三	一七六
立村農業補習學校				立	四二	六九	一六四
立村水産補習學校				立	七	一三	一七三

尙前表以外に於ても男女師範學校附屬小學校の如き小學教育の模範を以て任するあり神宮司廳の經理に係る神宮皇學館あり津市には私立勵精館あり宇治山田市に市立淑徳女學校、龜山町に私立鐸鳴女學校、木本町に郡立女子技藝學校あり、圖書館としては豊宮崎文庫林崎文庫の藏書を輯めて新設せられたる神宮文庫及阿山郡教育會の經營に成れる阿山郡圖書館あり三十七八年戰役に際しては一般經濟の緊縮と教員の出征とに由り受けたる打撃亦尠からざりしと雖も同時に精神教育上得る所の至大なるものあるを忘るへからず即ち紀念學林及學園の設置に、青年夜學會の勃興に或は戰時講話會の開設に或は



學校職員生徒の勤儉貯蓄に或は紀念圖書館の經營等の如き職員生徒を以て一團としたる滿洲見學の壯舉と相俟て寧ろ兒童及學生の形而上多大の教訓を贏ち得たるものあり殊に紀念學林及學園の設置竝に青年夜學會の振興に付ては各地競ふて之に力を致したるの結果今や學林を有するもの百十一校二百七十四町餘歩學園を有するもの百三十一校九千五百二十一坪に上り青年夜學會に至りては度會郡の百二十六を最多とし以下各郡市其の數を異にすも雖も突如として縣下の總數五百二十九の多きを見るに至り爾來増々盛況を呈せり現下之か會員數實に一萬六千三百四十七人を有するか如き其の結果は必ずや將來縣民の品性材能の上に現はれ來るべきを疑はず又本縣に於ては明治三十五年以來在清國東亞同文書院に對し十五名の留學生を派遣せり内既に卒業したる者二名中一名は滿洲に於ける私立會社に一名は在上海三井洋行に在勤し尙ほ目下在院中の者十一名とす因に曰ふ本縣人にして帝國大學を卒業せし者明治三十八年迄に百三十一人なり今後益増加の傾あり

本縣教育會は縣下二市十五郡及中部の十八教育會を以て組織し知事を戴きて會長とし専ら縣下教育の改良進歩を計る即ち各種講習講議會等を開催し極力教育者の表彰に勉むると同時に一面月刊會報を印行して之を會員に頒ち因て以て相互知識の交換に資す而して縣は此會に對して年々若干の補助金を交付せり創立は明治二十二年にして會員九十有餘名を有す

### 兵 事

縣教育會を組織する郡市教育會は各其の郡市に會員を有し教育上の活動甚た見るべきものあり中部教育會は特殊の團體にして主として縣立學校職員を會員とし又合して縣教育會を組織するものとす

本縣は陸軍の關係上伊勢志摩紀伊の三市十三郡は第三師管區に屬し津聯隊區管轄とし伊賀二郡は第四師管區に屬し大津聯隊區管轄とす海軍の關係に於ては全縣橫須賀鎮守府の所管なり

明治三十七八年戰役に従事したる總人員は二萬八千九百八人にして内死歿したる者二千五百六十九人とす各郡市町村に振武會又は尙武會あり有志相結て軍人の後援を爲し殊に戰役中出征者の家族並死歿者の遺族を慰諭扶助したるの功は決して尠小にあらず又死歿者の遺骨到達するや禮を厚くして之を葬り以て其名譽を表彰す

各郡市在郷軍人の團體を組織せむとし或は既に成るものあり或は將に成らむとするものあり其目的は切磋琢磨軍人の精神を鍛鍊し以て他日の奉公を期するに在り而して戰功の恩賞を全ふして長く其名譽を保たむ爲私擅に恩賜公債證書を賣却せざるの規約を設けたるか如きは時宜に適中せる施設と謂ふべきなり



社 事 (神宮所屬を除く)

神 社

官幣社	國幣社	縣社	郷社	村社	無格社	總計	寺院
一	一	一七	四四	一、六七六	八、〇二七	九、七六六	二、二七八

由來本縣には神社の數夥多にして隨て維持の方法確立せず自然奉仕粗漫に流れ神威を汚す恐あるを以て明治三十八年以來合祀を勸誘せり爾來今日迄に合祀せし神社實に千百九十にして尙續々合祀の出願あり遠からずして大整理を爲すに至るへし

神職は宮司二人禰宜二人主典二人社司三十七人社掌二百九十四人計三百三十七人僧侶は千九百五十八人とす

農 業

本縣産米は由來全國中嶄然頭角を抜き伊勢米の名は優に深川、堂島等の市場を壓し他の垂涎措かざる所なりしに近時俵裝品質漸く退歩の傾向を生したるを以て大に之か改良を促し効果稍見るべきものあり

るか如し今三十八年の調査を示せば左の如し

米産額	一六〇〇六、五三三 <small>斤</small>
麥産額	二、二一三、〇五二
農産物價格二四、六三九、六六七圓	食用農産額 二〇七八、二〇三
	特用農産額 一、二四七、六八〇
	其 他 三、〇九四、一九八

而して三十六年より七箇年に遡り其の中最豐凶の二箇年を除き残り五箇年を平均したる三十八年末の調査を見れば

平年作	米作高	百十六萬四百七十五石
	麥作高	三十萬二千七百九十石

なりとす之を工業産額二千二百萬餘圓に比すれば以て本縣農業の忽諾に付すへからざるを知るべきなり因て昨年米穀検査所を置き輸出米竝産米の検査を實行し一面地主會を各郡市に組織せしめ率先小作人の獎勵方法を設けしめ且農事巡回教師農會等をして耕耘及收穫の實地を監督せしめ同時に害蟲驅除肥料改良に力めしめて短冊苗代、正條植、鹽水撰、米種一定、掛ヶ乾等に至る迄懇篤指導を懈らざり



しか爲幸に好果を收め得たるは蓋し本縣米産の將來に向ひ誠に喜ぶ可き所とす

養蠶は縣下重要な産業にして其發達の跡見るべきものなきにあらず既往十年の比較を示せば左の如し

年	次飼養戸數	蠶種掃立數	成繭額	桑園反別
二十九年	四六、三六八	三六、九五八 <small>枚</small>	二四、六三一 <small>石</small>	四、三六四 <small>町</small>
三十八年	六九、二一七	七三、六六二	六四、九〇八	六〇、九九

而して三十八年の成繭價額は二百九萬七千七百七十三圓に上り蠶種價格は八萬二千五百五十八圓を計上せり唯桑園の狀態蠶種の撰定飼育の方法蠶病の豫防成繭の取引は猶大に改良を要するものあり是に於て農事講習所に於て蠶業の傳習を爲し其他短期の講習巡回講話等を行ひ以て當事の人物を養成し猶進て桑苗の配布を紹介し桑病及害虫の驅除を督勵し郡には所々に模範桑園を設けしめ昨年各郡當業者をして蠶種の一定を協定せしめ原種を農事講習所より配布し稚蠶共同飼育を奨勵し蠶病豫防としては蠶室蠶具の消毒を勵行し昨年の如きは蠶蛆を捕殺したること約四石に達し繭の取引を取締り衡器取引を行はしめ勉て共同販賣を行はしめ而して監督指導の衝に當らしむるか爲各郡一齊に蠶業巡回教師を置かしむ叙上の方法にして數年實行を懈らすむは蓋し幾分の成績を見るべきなり

茶業は其歴史頗る古く而て三十八年の調査に係る總茶園は三千五百餘町歩、製茶戸數二萬四百有餘、

産額百萬貫餘、價格は殆ど二百萬餘圓を計上せり

茶業は貿易の狀勢に伴ひ自ら消長あるを免れさりしか米國輸入茶廢稅以來稍其の氣勢を挽回せり今や茶業取締は縣自ら之に任じ茶園の改良製方の傳習其の他奨勵上の事業は専ら茶業組合の經營に屬し其の成績稱するに足るものあり近時滿洲の市場を視察し紅茶の製造に着眼し大に成效を豫期せり若し夫れ春時馳蕩の天關西參宮の汽車に乘し漫遊を試むる者は一眸千里茶花の嬌々たるを望むべく以て本縣茶種の收穫他に超ゆるあるを見るへし其他葦園柑園の盛なる亦人の知る所なり近時官民農事の改良に力め特に耕地整理の如き進捗の程度最も著しきものあり我農事の面目を一新すへきは蓋し遠き未來にあらざるへし

### 林業

本縣の林野面積は約三十萬町歩にして土地總面積の七割を占む就中民有林二十五萬町歩は殆ど耕地面積の三倍に近し土地概ね肥沃にして甚しき峻嶺なく氣候亦溫暖なるを以て最も林業經營に適せり殊に本縣の位置植物帶上の暖帶溫帶兩部に跨るか故に植栽に適せる樹種極めて多し藩政時代に在りては各藩何れも相當の保護法を講じたりしも維新後盛に濫伐せられたる結果復往時の觀を止めざるに至れり



是に於て縣は林相恢復の目的を以て諸般の計畫を立て目下實行中に屬す今其二三を擧ぐれば左の如し  
 縣設苗圃 新に公有林野に造林する公共團體に對し所要苗木を無代にて配付する目的を以て三十六  
 年度より設置したるものにして毎年杉、扁柏、赤松、黒松、樟、樺等合計約九百萬本の苗木を養成  
 するものとす現在の苗圃所在地左の如し

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 員辨郡大長村大字長深   | 鈴鹿郡庄内村大字原村  |
| 一志郡七栗村大字庄田   | 多氣郡五ヶ谷村大字片野 |
| 度會郡瀧原村大字野後   | 阿山郡中瀬村大字西明寺 |
| 北牟婁郡相賀村大字小山浦 | 志摩郡鵜方村      |

公有林野整理 從來最も荒廢せる公有林野を整理し一定の方針に依りて之を經營せしむる爲め相當  
 の計畫を立て縣廳の認可を受けしむるものにして已に計畫を了して認可を申請せるもの一萬六千餘  
 町歩に達せり

縣設摸範林 公有林野植栽の摸範たるを共に縣有財産造成の目的を以て三十八年度以降十箇年間の  
 繼續事業として着手したるものにして毎年平均百餘町歩の造林を實行するものとす摸範林所在地及  
 其の面積左の如く何れも地上權を設定して公有林を借上げたるものなり

員辨郡十社村	一〇九、六六一八	鈴鹿郡庄内村	一一三、一三二一
鈴鹿郡野登村	六三、九〇二二	一志郡榑原村	一三四、六三二一
一志郡竹原村	一〇二、八一一一	多氣郡萩原村	一三四、一七〇三
度會郡大内山村	一二九、五二一八	阿山郡布引村	九五、四八一五
名賀郡國津村	九六、九一一二	北牟婁郡尾鷲町	九八、九五一八
計	一〇七九、二〇二九		

講習講話及實地指導 殖林を獎勵し當業者の知識を開發する爲め講習會講話會を開催し又は實地に  
 就き造林、保護、經理、利用等の方法を講述指導せり

### 水 産 業

本縣の水産業は農と林とを併せて三大産業の一に數へられ到處の漁民出ては海に漁り入れは則ち之  
 を酷として天照皇大神に獻け奉り又濱出と稱へて豐受大神の禰宜毎年九月十二日勢田川より舟を醸し  
 て二見郷高城濱に至り御禊を修むる古例すらありたり年中行事に曰く

十二日濱出(中)朝食已畢、禰宜家族權官政所、家司扈從、晝番持八脚机、荷用先行、小内人等昇



一 補宜之轅、次補宜權官皆步行、到于川崎乘船、連歌於船中、川守使漁者投網捕魚、自古行遇于漁船、則上御贊於此船、

殊に僻言の伊勢と呼はるゝ中にも伊勢雄海士、伊勢島、伊勢濱、伊勢船、伊勢鯉(鱒魚)、伊勢海老、伊勢鬚斗、伊勢鯉、伊勢鱒、伊勢鱒、伊勢海苔、伊勢青海苔、伊勢和布など水産業に關するもの亦多く船舶の便に藉りて東海市場に伊勢人の名を擅にするもの其の沿革最も尙し然れども物質界の進歩は獨り水産業の舊套墨守を許さず明治二十年漁業組合準則の發布と共に沿海各郡市に漁業組合を設置するに至り稍其の秩序を保つべき機關を具ふることを得たり越て三十二年縣水産試驗場の設置は方に斯業革新の機運を作り漸く水産業の前途に一道の曙光を認めたるものと謂ふへし爾來着々保護獎勵に力めたるの結果左の概數を現はし來れり

年	漁船數	漁業戶數	漁獲高	製造高
明治三十三年	一一,一七七	一五,七三七	二,五三七,〇〇六	一,九一四,九二二
同 三十四年	一一,二七〇	一六,五〇九	二,四〇九,三六九	一,〇九九,四七五
同 三十五年	一三,〇一一	一六,一一五	四,〇〇三,五六三	一,三三七,三五八
同 三十六年	一三,六四四	一六,四四四	一,八五七,六六一	八九三,一七五

同 三十七年	一四,二七五	一五,九六〇	二,一七七,六四〇	三,五五七,五一〇
同 三十八年	一三,八一	一六,一四三	二,七三二,二八六	一,二七八,二七九

特に鱒漁業は沿岸一般に涉り其の利用方法の多き他の魚族の遠く及はざる所にしてサーティーンより養干鰻、田作に至る迄頗る多種なると共に漁法亦多様にして地曳網、飼取網、巾着網の如き或は敷網或は流網或は刺網あり近時又揚繰網の進歩著しきものあり本縣漁業中重要の一たるを失はず鯉漁業も亦古より熊野節の名を博し紀伊地方及伊勢南部の重要漁業にして志摩郡阪手、菅島、波切、和具、布施田、度會郡宿田會、中島、吉津、島津、北牟婁郡長島、島勝、尾鷲、南牟婁郡二木島の如き最盛を極む鱒漁業は外海方面に於て専ら行はれ楯切網、一本釣、延繩を用ゐて北牟婁郡須賀利浦、矢口浦、南牟婁郡三木浦及度會志摩郡重要漁村の捕獲勢からす鱒は釣漁及網漁にして産額亦多く度會郡南部及志摩郡に行はる鱒漁業は重に敷網、楯切網、巢立網等を用ゐらる鱒漁業に至りては南北牟婁郡及度會郡志摩郡の重要漁業にして大敷網、建網及釣具を以て捕獲せられ其の盛大なる長崎、愛媛、山口諸縣に伍し東海に於ける大敷網漁業の鼻祖を以て稱せらる捕鯨は南北牟婁兩郡に行はれ度會志摩亦好望の地たり外海の珊瑚は未だ採取するに至らざるも斯業を開始するに於ては其の産額少からざるへし鯛鱈鱒海鼠章魚鮑蝦秋刀魚鱈白魚其の他の魚族介類は到處に群を爲し諸種の海草亦沿岸に多量を産す加ふ



るに河川の鯉、鮎、鰻、鼈の類に至るまで其の味のみを以て賞揚せらる然れども沖漁業發達の程度未だ遺憾を免れざるものあり是を以て水産試験場は昨年摸範漁船朝熊丸を作り有志の試乗を許し且つ練習生を乗込ませしめ大に遠海漁業の奨励に力めむとす但し朝鮮沿海漁業に至ては本縣人にして既に着眼し若くは着手せる者其の人に乏しからず而して蕃殖事業及製造業の改良は水産試験場の設置と共に普及せられ時雨蛤の如き伊勢布羅の如き田作の如き著大なる進歩の跡を認むるに至れり殊に罐詰業の如きは其の製法改良の緒に就きたるのみならず漸く統一的機關の設立を促したるは縣下水産界の爲め賀すへきの事に屬す紫菜及牡蠣養殖事業も亦三重、桑名、北牟婁郡に於て着々功を挙げ來り眞珠介は沿海各所に生息し殊に御木本幸吉は英虞灣、神明浦、多徳島に於て專賣特許養殖方法を施行し區劃漁業として四十二萬餘坪の面積を有し内外寶石市場に向て一異彩を放てり

### 商 業

縣下豪商に乏からず而して店舗を東京大阪横濱等に有して盛大なる商業を營む者少からず又籍を縣下に有せざるも其の出身本縣なるか爲縣下事業に直接間接の聲援を與ふる者三井家を始めとし其の他枚舉に遑あらず且清韓米濠等に於て有力なる商業を企て成功したる人士近來陸續として輩出せり之を要

するに縣民の縣外に於ける商業上の勢力は得て侮るへからざるものあり是に於て内外相應し消息相通し爲に縣内工業を刺激し因て其の發達に裨益する所決して少小にあらざるなり而して縣内の商業は生絲は主として横濱より茶は多く神戸より輸出し綿糸綿布は或は四日市市より或は大阪を經由して清韓諸國へ輸出し陶器磁瑯燒擬革紙木綿魚網紙類漆器柳行李竹行李の類は内地の需用に應ずるを主とするも其の米國清國韓國等へ輸出し又は在留外國人に需用せらるるもの高近來著しき増加を示しタオル經木真田細工の微と雖海外に輸出するの量少きにあらす眞珠は東京に致して而後之を海外に輸出し沃土は大阪に送りて而後精製輸出の料に供し魚類の罐詰は販路を米國又は濠洲に求むることに汲々たり菜油は之を他に販き石油は之を外に仰き酒は主として縣内に捌き生魚乾魚は主として大阪名古屋に輸らし海草類は其の販路を内外各地に有し木材は海路東京大阪名古屋又は清國に賣出し樟腦は神戸に於て專賣局に交付し食鹽煙草亦當局專賣局に買上げらるるものとす而して取引の最も盛なるは米穀と獨り本縣産出米のみならず他縣の産にして本縣を經由するもの少額に非ず外國米臺灣米の本縣より内地に輸入せらるるもの亦頗る多し桑名は古來米穀取引に依りて頭角を顯はし而して方今海陸の便に依り現實最多額を取扱ふは四日市港とす但し汽車に由りて大阪に出すものも商況の摸様に應じて亦少なと爲さず津市にも取引所あり又贊岐港あり他に搬出するの狀況頗る盛なり其他大口港六軒神社等より



縣外に出るもの少額にあらず志摩産は直接愛知縣知多郡に賣出し酒造の原料に供す又白米は四日市を主とし桑名津松阪等より他に搬出せられ棉花の米國又は印度よりし肥料の北海道滿洲よりするの輸入は殆ど總て四日市港に由るものとす名古屋其の他の成産物にして四日市港を經由して内外各地に輸たすものは實に盛況を極む雜貨日用品の本縣への供給は大部分大阪名古屋京都よりし金融の關係は大阪名古屋に對して最も密接せり蓋し本縣商業の狀態は千差萬別固より更僕に暇あらずと雖要するに商業界の大勢は駸々として隆運に向ひ大に望を將來に屬するに足るものあり殊に縣民一般に富裕にして投資に苦まざるは本縣の特長として誇ることを得べきなり補助機關たる銀行取引所商業會議所倉庫信託事業の如き略完備の域に近づき其の他商會社の如き漸次小資本を合して大資本となるの傾あり商業銀行三十四農工銀行一にして七百七十七萬六千餘圓の資本金を擁して諸預り金千二百三十三萬餘圓貯蓄預金六十萬圓を有するの外他縣銀行の投資高五百三十萬圓預金吸集高三百三十萬圓の現在高(三十九年上半期末)を示せり縣下に本店を有する商業銀行及商會社、同業組合、産業組合は左の如し

銀行

株式 桑名 銀行	株式 桑名 商業銀行	株式 桑名 貯蓄銀行
株式 三 重 縣 農 工 銀 行	株式 員 辨 銀 行	株式 百 五 銀 行
株式 松 阪 銀 行	株式 四 日 市 銀 行	株式 津 農 商 銀 行
合名 堀 内 井 上 銀 行	株式 國 府 銀 行	株式 伊 勢 銀 行
個人 小 津 銀 行	株式 河 曲 銀 行	株式 一 志 銀 行
株式 多 氣 銀 行	株式 龜 山 銀 行	個人 山 内 銀 行
株式 山 田 銀 行	株式 河 藝 銀 行	個人 橫 須 賀 屋
株式 三 重 銀 行	株式 三 重 貯 蓄 銀 行	合名 吉 田 銀 行
株式 第 八 十 三 上 野 銀 行	株式 伊 賀 商 業 銀 行	株式 伊 賀 貯 蓄 銀 行
株式 玉 瀧 銀 行	株式 伊 山 銀 行	株式 上 野 實 業 銀 行
株式 阿 保 銀 行	株式 名 張 銀 行	合名 濱 山 銀 行
株式 尾 鷲 銀 行	株式 紀 北 商 業 銀 行	合資 島 勝 銀 行
株式 北 山 銀 行	株式 荒 坂 銀 行	株式 紀 南 銀 行
株式 新 鹿 銀 行		



會社

桑名紡績株式會社、株式桑名米穀取引所、桑名倉庫株式會社、北勢青物合資會社、桑名青物合資會社  
 (以上)、北勢勸農株式會社(大山)、合資會社香取雜貨商會(七取)、赤瀨水產株式會社(伊曾)、香取蠶業合資  
 會社(七取)、四鄉製糸合資會社(四郷)、富田一色株式會社(富田)、合名會社服部商會(橋)、富田水產株式會  
 社(富田)、合名會社三重製糸所(三重)、富田運送株式會社(富田)、合資龜山繭糸商會(龜山)、下庄倉庫合資  
 會社(養生)、白子倉庫合資會社(白子)、伊勢蠶業株式會社(椋木)、株式會社神榮商會、神戸劇場株式會社、  
 神戸建物合資會社(神戶)、石灰製造合資會社(玉垣)、津肥料石灰合資會社(建部)、一志繭糸株式會社、久  
 居劇場株式會社、一志製米精油合資會社(久居町)、二本木劇場株式會社(大三)、勢陽蠶種製造合資會  
 社、大井蠶種製造合資會社(大井)、波瀾劇場株式會社(波瀾)、合資會社山内商會(八幡)、高岡製糸株式  
 會社(高岡)、一志穀物肥料合資會社(中川)、六軒米穀肥料株式會社(崎ヶ)、合資會社松崎浦魚問屋(同)、高  
 茶屋牛乳合資會社(高茶)、六軒米穀合資會社(崎ヶ)、中原酒造合資會社(中原)、山八合名會社(矢野)、伊勢  
 農事株式會社、松阪水力電氣株式會社、合資會社松阪魚問屋、松阪印刷合資會社、合資南勢運輸社、  
 合資松阪姊妹樂館、北洋漁業商會(松阪)、松阪共進合資會社(鈴止)、松阪木綿合資會社(神戶)、相津物產

合名會社(湖見)、高砂木材合資會社、四ッ家合資會社、北村合資會社(以上西)、横野物產合資會社、  
 共隆合資會社(柿野)、相可馬車合資會社(相可)、命醬油合資會社(丹生)、合名會社池田活版所、合名會  
 社小林柔軟オブラート製造所(田丸)、三好精米合資會社、明野蠶業合資會社(小俣)、西勘飴製造合  
 資會社(北濱)、三重セメント株式會社(濱郷)、株式會社大湊造船所、合名會社菊川鐵工所(以上)、巖倉  
 電燈株式會社(野)、上野貨物運送株式會社(三田)、吉田合資會社(中瀬)、伊賀合資會社(河合)、木津合名會  
 社(玉瀧)、合資會社阿波山製造場(阿波)、名張魚類株式會社(名張)、花垣酒造株式會社(花垣)、鳥羽鐵工合資  
 會社、株式會社鳥羽商會、三重遠洋漁業會社、株式會社共同魚問屋(鳥羽)、合資的矢造船所(的矢)、  
 神明製瓦合資會社(神明)、合資波切問屋(波切)、合名會社石原穀鹽商會(和具)、尾鷲水產株式會社(尾鷲)、引本  
 醬油合資會社(引本)、合資引本商會、錦水產合資會社(錦)、芬南木材株式會社(輪殿)、津米穀株式取引所、  
 關西製糸株式會社、津電燈株式會社、津劇場株式會社、關西運輸株式會社、津倉庫株式會社、津穀  
 菌牛乳合資會社、合資三重石炭商會、合資菊丹商會、東洋水產株式會社、中村兄弟商會(津市)  
 關西鐵道株式會社、三重紡績株式會社、四日市製紙株式會社、成永株式會社、米精株式會社、三重  
 繭糸商會、四日市倉庫株式會社、四日市米穀株式取引所、薪炭株式會社、四日市電燈株式會社、四  
 日市海陸物產株式會社、四日市印刷株式會社、四日市回漕合資會社、合資會社三重鐵工所、四日市



醬油釀造合資會社、合資三重雜貨商會、合資會社川村組、青物合資會社、三重製網合資會社、合資會社內山精米所、四日市石炭合資會社、株式三重洋行、便宜合資會社、三重人造肥料株式會社、伊勢精米合資會社(以上四日市)、株式會社志勢共同魚商會、伊勢物產株式會社、株式會社五二會館、山田米油株式會社、伊勢電氣鐵道株式會社、參宮鐵道株式會社、神都製紙株式會社、合資會社有文堂、合資會社九川運送店、合資會社谷彌兄弟商會、山田牛乳合資會社、合資會社永續商會、合資會社熨斗屋商會、合名會社殖產組(以上宇治山田市)

同業組合

員辨郡酒造組合、同郡茶業組合(以上員辨郡)  
 三重縣肥料同業組合、三重郡茶業組合、同郡酒造組合(以上三重郡)  
 萬古陶磁器同業組合、四日市肥料商同業組合、四日市米穀輸出同業組合、四日市白米輸出同業組合、四日市茶業組合(以上四日市)  
 河藝郡茶業組合、同郡酒造組合(以上河藝郡)  
 伊賀肥料商同業組合、阿山郡酒造組合、同郡茶業組合(以上阿山郡)

名賀郡茶業組合、同郡酒造組合(以上名賀郡)  
 伊勢織物同業組合、三重縣度量衡同業組合、南勢肥料同業組合、茶業組合聯合會議所(以上津市)  
 一志材木同業組合、一志茶業組合、同郡酒造組合(以上一志郡)  
 松阪木綿同業組合(松阪)、飯南郡茶業組合、同郡酒造組合(以上飯南郡)  
 山田漆器同業組合(宇治山田市)、度會郡茶業組合、同郡酒造組合(以上度會郡)  
 三重縣沃度同業組合、志摩郡茶業組合、同郡酒造組合(以上志摩郡)  
 尾鷲林產物同業組合、北牟婁郡酒造組合、同郡茶業組合(以上北牟婁郡)  
 南牟婁郡酒造組合、同郡茶業組合(以上南牟婁郡)

產業組合

無限責任員辨購買販賣組合(員辨郡)  
 有限責任三重製茶生產販賣組合、無限責任內部信用購買販賣組合、無限責任六呂見購買組合(以上三重郡)  
 無限責任河曲信用組合、有限責任明購買組合、同河田信用組合、有限責任長法寺信用購買販賣生產組合、有限責任河藝郡北部講農會購買組合(以上河藝郡)



無限責任粟加購買組合、同村主村販賣購買組合(安濃郡)  
 有限責任笠松購買組合、有限責任小野江購買組合、無限責任星合購買組合、保證責任豐田購買組合、  
 有限責任豐地信販賣購買組合、有限責任中原信購買組合(以上)  
 無限責任相津購買組合、同山室購買組合、有限責任松尾購買組合(飯南郡)  
 無限責任川添購買組合(多氣)  
 無限責任河内信用組合、無限責任神前生産販賣組合、同神前信用組合(度會郡)  
 有限責任山田購買組合、無限責任丸柱信用組合、同鞆田信用組合(阿山郡)  
 有限責任矢持信用組合(名賀)  
 有限責任下之郷購買販賣組合、保證責任志摩沃度販賣組合、無限責任鵜方信用組合、同立神信用組  
 合(以上)  
 無限責任赤羽村購買組合、同錦信用組合、同島勝信用組合(以上北  
 志摩郡)  
 有限責任下大久保購買組合(鈴鹿)

工業

最近數年前迄は農産物價額に對する工産物の價額は三と二との徑庭ありしと雖も軌近工業の發達は其の間隔を近づかじめ農産額二千五百萬圓に對し二千二百萬圓の工業物を出し將來益々發暢の勢を示せり今三十八年に於ける工産物の重なるものを示せば左の如し

	製造戸數	製産額
紡績綿糸	二	七、三三、〇三四
輸出廣巾白木綿	二	四、二八五、二七六
蠶糸	一、〇一〇	二、九一二、九二七
酒類	三〇〇	二、二〇七、六一三
織物	四、三九六	一、二九二、七一二
醬油味噌	一、三三四	一、〇七八、八〇九
油類	一六四	五一〇、三三二
菓子	五七八	四二六、四七五
菓子	五七八	三三五、六五五
紙製品	五六〇	二二二、七五四
陶磁器	八〇	二九
總説		



和紙	九一八	一七四、六八二
蕨製品	二〇、五八八	一五四、〇四三
挽材	八	一四九、三二四
漆器	二五	一四八、三七二
素麵	一八六	一一六、八四四

就中四日市桑名兩紡績會社の綿糸綿布は其の成産高巨額に達し又大工場百二十四小なるものを合て百九十餘の製糸場に於ける器械製糸の如きは優良の名貿易市場に高く外に坐繰生糸を加へ三十九年の成産は合計七千筒其價格四百萬圓を超へ菜種油は古來伊勢の水と呼ばれて稱賛を博し殊に戰役に於て造兵の助を爲したるの功は没すべからざるものあり染形紙は獨り本縣白子町の特産物として廣く全國に供給せられ擬革紙製品と與に特色を有するものと謂ふべし陶磁器中伊賀燒の雅致は方に信樂を靡せむとす萬古燒の清新なる年を逐ふて歐米人に歡迎せらるゝの勢あり阿漕燒神路燒亦聲價を市場に博せむとす桑名盆の蕪菁畫は樂翁侯の遺徳と共に其名四方に高く桑名の瑛瑯燒津市の銅器は今や發達の萌芽を出し宇治山田市の紙類は販路甚だ廣く而して四日市製紙は清國輸出を目的として將に大に驥足を伸へむと欲せり阿山郡其の他の麥科經木眞田、檜籐細工は夙に農家の副産として市場に雄飛するのみな

らす度會郡の花庭度會多氣河藝名賀の行李も亦有望の事業に算へられタオル機織も亦た近來大に發達し刺繡、編物、ドロソウオーグ、造花の如き専ら手工藝に屬する雜品の製作は各地に普及し鯉油漬の新企業は外國製品と競争するの意氣を示し沃土の製造は現に智利國製品を壓倒せり造船は大湊鳥羽の獨占にして鐵工場亦各地に點在す度會及兩牟婁郡は製板、製箱の事業發達し粗製樟腦の製造亦將に各地に盛ならんとす茶の再製羽二重の織出各地に滋蔓し伊勢木綿松阪木綿伊賀木綿の製造は既に改良の緒に就き販路愈擴張せり其の他四日市の魚網、宇治山田市の春慶塗、朝熊山の萬金丹、四日市、松阪の菓子、多氣のラブライト、北勢の醤油味噌及北勢伊賀の酒、上野町並其の附近及宇治山田市の傘、志摩郡、度會郡、飯南郡の眞珠其の他の貝類細工、伊賀伊勢のカマス、其の他蕨細工、津の茄子團扇、桑名及其の附近の素麵、伊勢、志摩、牟婁の鯉節等一々列擧せば日も亦足らざるなり

官 公 署

- 神宮司廳(宇治山田市)、神部署(同上)、御料局度會事務所(同上)、
- 安濃津地方裁判所(津市)、安濃津區裁判所(同上)、松阪區裁判所(飯南郡松阪町)、四日市區裁判所(四日市市)、龜山區裁判所(鈴鹿郡龜山町)、上野區裁判所(阿山郡上野町)、山田區裁判所(宇治山田市)、木本區裁判所(南牟婁郡木本町)、安濃津監獄(津市)、



宇治山田分監(宇治市)、四日市分監(四日市)、區裁判所出張所は二十八なり

四日市煙草製造所(四日市)

桑名稅務署(桑名郡)、四日市稅務署(四日市)、龜山稅務署(鈴鹿郡)、白子稅務署(河藝郡)、津稅務署(津)、松阪

稅務署(飯南郡)、相可稅務署(多氣郡)、宇治山田稅務署(宇治山)、烏羽稅務署(志摩郡)、尾鷲稅務署(北牟婁郡)、

木本稅務署(木本町)

名古屋鹽務局東黒部出張所(多氣郡)、同神社出張所(度會郡)、同津出張所(津)、同烏羽出張所(志摩郡)、

四日市稅關支署(四日市)、烏羽稅關監視署(志摩郡)

津聯隊區司令部(津)

烏羽海務署(志摩郡)

津郵便局(津)、四日市郵便局(四日市)、桑名郵便局(桑名郡)、山田郵便局(宇治山)、其他三等郵便局百三十

九、公衆電話は津市、四日市及桑名町に在り

大泉原小林區署(員辨郡)、津小林區署(津)、上野小林區署(阿山郡)、尾鷲小林區署(北牟婁郡)

三重縣廳(津)、津警察署(津)、宇治山田警察署(宇治山)、四日市警察署(四日市)、桑名警察署(桑名郡)、大泉

原警察署(員辨郡)、松阪警察署(飯南郡)、相可警察署(多氣郡)、烏羽警察署(志摩郡)、神戸警察署(河藝郡)、

員辨郡十社村	一〇九、六六一八	鈴鹿郡庄内村	一一三、一三二一
鈴鹿郡野登村	六三、九〇二二	一志郡榑原村	一三四、六三二一
一志郡竹原村	一〇二、八一一一	多氣郡萩原村	一三四、一七〇三
度會郡大内山村	一二九、五二二八	阿山郡布引村	九五、四八一五
名賀郡國津村	九六、九一一二	北牟婁郡尾鷲町	九八、九五一八
計	一〇七九、二〇二九		

講習講話及實地指導 殖林を奨励し當業者の知識を開發する爲め講習會講話會を開催し又は實地に就き造林、保護、經理、利用等の方法を講述指導せり

### 水産業

本縣の水産業は農と林とを併せて三大産業の一に數へられ到處の漁民出ては海に漁り入れは則ち之を醜として天照皇大神に獻け奉り又濱出と稱へて豊受大神の禰宜毎年九月十二日勢田川より舟を舩じて二見郷高城濱に至り御禊を修むる古例すらありたり年中行事に曰く

十二日濱出(中)朝食已畢、禰宜家族權官政所、家司扈從、晝番持八脚机、荷用先行、小内人等昇



宇治山田分監(宇治山田市)、四日市分監(四日市市)、區裁判所出張所は二十八なり

四日市煙草製造所(四日市市)

桑名稅務署(桑名郡桑名町)、四日市稅務署(四日市市)、龜山稅務署(鈴鹿郡龜山町)、白子稅務署(河藝郡白子町)、津稅務署(津市)、松阪

稅務署(飯南郡松阪町)、相可稅務署(多氣郡相可村)、宇治山田稅務署(宇治山田市)、烏羽稅務署(志摩郡烏羽町)、尾鷲稅務署(北牟婁郡尾鷲町)、

木本稅務署(南牟婁郡木本町)、

名古屋鹽務局東黒部出張所(多氣郡東黒部村)、同神社出張所(度會郡神社町)、同津出張所(津市)、同烏羽出張所(志摩郡烏羽町)、

四日市稅關支署(四日市市)、烏羽稅關監視署(志摩郡烏羽町)

津聯隊區司令部(津市)

烏羽海務署(志摩郡烏羽町)

津郵便局(津市)、四日市郵便局(四日市市)、桑名郵便局(桑名町)、山田郵便局(宇治山田市)、其他三等郵便局百三十

九、公衆電話は津市、四日市及桑名町に在り

大泉原小林區署(員辨郡大泉原村)、津小林區署(津市)、上野小林區署(阿山郡上野町)、尾鷲小林區署(北牟婁郡尾鷲町)

三重縣廳(津市)、津警察署(津市)、宇治山田警察署(宇治山田市)、四日市警察署(四日市市)、桑名警察署(桑名町)、大泉

原警察署(員辨郡大泉原村)、松阪警察署(飯南郡松阪町)、相可警察署(多氣郡相可村)、烏羽警察署(志摩郡烏羽町)、神戸警察署(河藝郡神戸村)、



上野警察署(阿山郡)、名張警察署(名賀郡)、龜山警察署(鈴鹿郡)、尾鷲警察署(北牟婁郡)、木本警察署(南牟婁郡)

其の他に十二分署あり巡査駐在所は二百九十三にして同派出所は二十九なり

桑名郡役所(桑名郡)、員辨郡役所(員辨郡)、三重郡役所(海蔵村)、鈴鹿郡役所(鈴鹿郡)、河藝郡役所(河藝郡)

阿山郡役所(阿山郡)、名賀郡役所(名賀郡)、一志郡役所(久居町)、飯南郡役所(飯南郡)、多氣郡役所(相可村)

志摩郡役所(志摩郡)、北牟婁郡役所(北牟婁郡)、南牟婁郡役所(南牟婁郡)

津市役所(津市)、四日市市役所(四日市)、宇治山田市役所(宇治山)

津測候所(津市)、三重縣農事試験場(上)、三重縣農事講習所(小俣村)、三重縣水産試験場(濱島村)

官立學校 神宮皇學館(宇治山)

縣立學校 三重縣師範學校(津市)、三重縣立女子師範學校(鈴鹿郡)、三重縣立第一中學校(安濃郡)、三重縣

立第二中學校(富田村)、三重縣立第三中學校(阿山郡)、三重縣立第四中學校(田町)、三重縣立高等女學

校(津市)、三重縣立工業學校(飯南郡)、三重縣立四日市商業學校(四日市)、三重縣立農業學校(久居町)

市町村立學校 四日市市立高等女學校、鳥羽町立鳥羽商船學校、大湊町立造船徒弟學校、白子町立

白子工業徒弟學校、市立淑徳女學校(宇治山)、郡立女子技藝學校(南牟婁郡)

私立學校 真宗勸學院(河藝郡)、勵精館(津市)、鐸鳴女學校(鈴鹿郡)



新聞

伊勢新聞、三重新聞、伊勢日報、養正、三重私立教育會報(以上津市)、南勢新報(松阪)、伊勢朝報、參宮新報、勢海新聞(以上宇治山田市)、勢州每日新聞(四日市市)、桑名新聞(桑名)、伊賀日報(上野)、三重每夕新報(四日市市)、熊潮(尾鷲)、熊野萬朝報、紀南新報(以上木本)、河曲同窓會通信(神戶)、四日市學事通報(四日市市)、本山報告(田一身)、桑名商況新報(桑名)、伊賀新報(上野)、津魚市場商況(津市)、南勢實業新報(松阪)、伊勢農園(安濃郡新町)、東海農事新聞(四日市市)、津米株日報(津市)、三重成功新聞(四日市市)、三重日出新聞(上野)、東海評論(桑名)、一身田學窓會通信(田一身)、學窓會通信(津市)、三重育兒院々報(津市)、四日市肥料商報(四日市市)、四日市商報(四日市市)、四日市商勢日報(四日市市)、員辨學窓會通信(辨員)

旅舍

○桑名郡 船津屋、京屋、鍵治(桑名町)、大黒屋(多度村)  
 ○員辨郡大泉原 員辨俱樂部  
 ○菰野 鰻善、大黒屋、四日市屋(富田)、壽亭(湯の山温泉)、三杉亭(上同)

○四日市市 松茂、魚又、東、吉高屋、十九村屋、橋本屋、山田屋  
 ○鈴鹿郡龜山町 秋月、柏屋、荒木屋、藤屋  
 ○河藝郡白子及神戸 金澤樓、道具屋(神戶)、與六(白子)、辰巳屋(田一身)  
 ○阿山郡上野町 友忠、八百新、三田清  
 ○名賀郡名張町 新茶屋 北藤  
 ○津市 聽潮館、大觀亭、國分屋、岡宗、林屋、河内屋、魚新、松阪屋、古梅軒、鍋屋、井筒屋、魚爲、魚庄、千鳥館、若六  
 ○一志郡久居町 竹亭、八町屋、井筒屋、松坂屋、日の出館(以上矢野村香ラス浦)  
 ○飯南郡松阪町 山川ホテル、和田金、回春樓、油屋  
 ○多氣郡相可村 鹿水亭  
 ○宇治山田市 五二會館、油屋、十五樓、藤屋、戸田屋、與可樓、宇仁館、神風館、松島館、吸震園、麻吉、高千穂館、大安、鮮久  
 ○二見浦 朝日館、二見館、東洋館、松阪屋  
 ○志摩郡鳥羽町 錦浦館、大阪屋、三河屋



三重縣案内

○紀州北牟婁郡尾鷲町 岩城屋、新宮屋

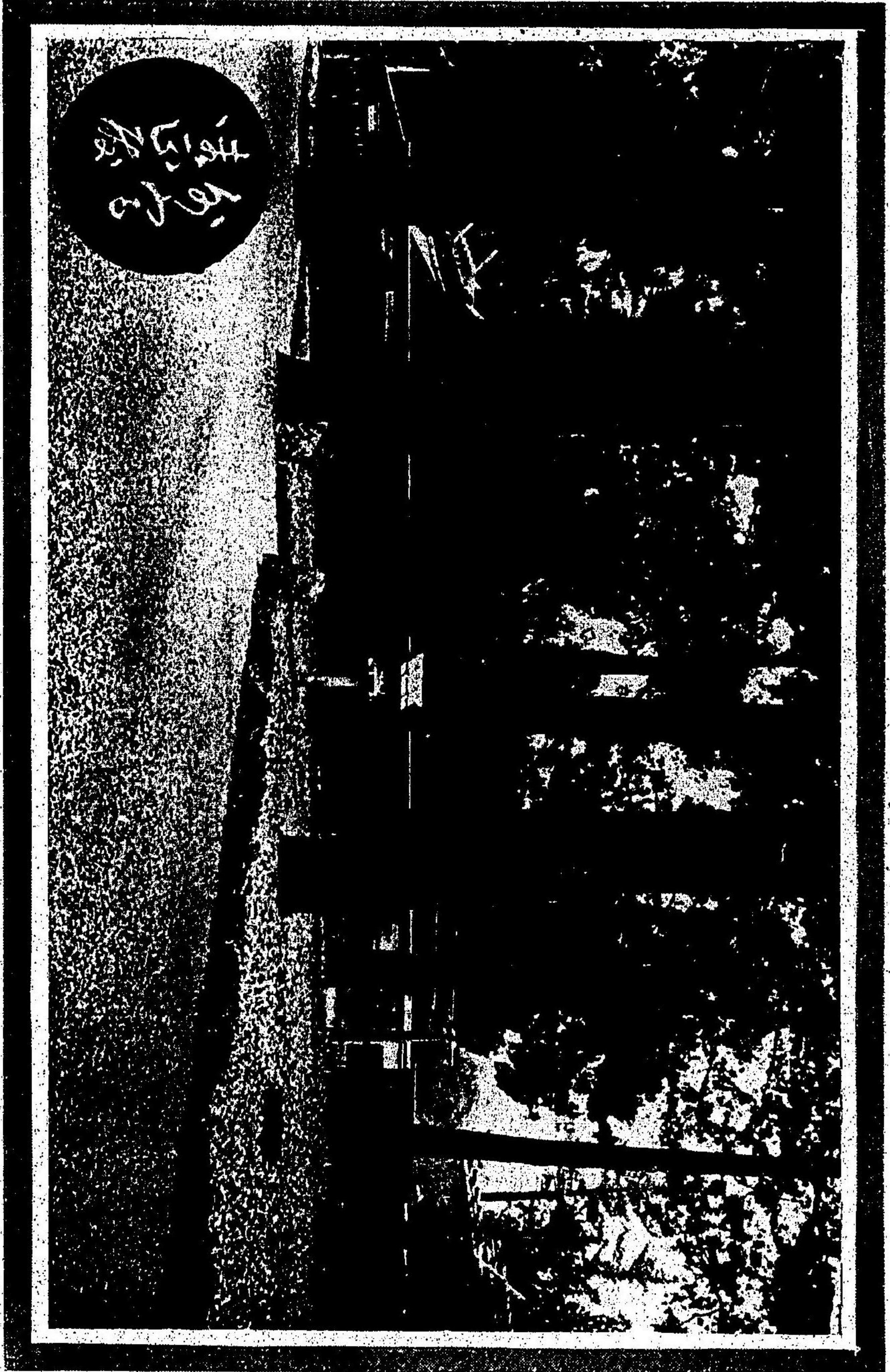
○同南牟婁郡木本町 龜齡館、喜多館



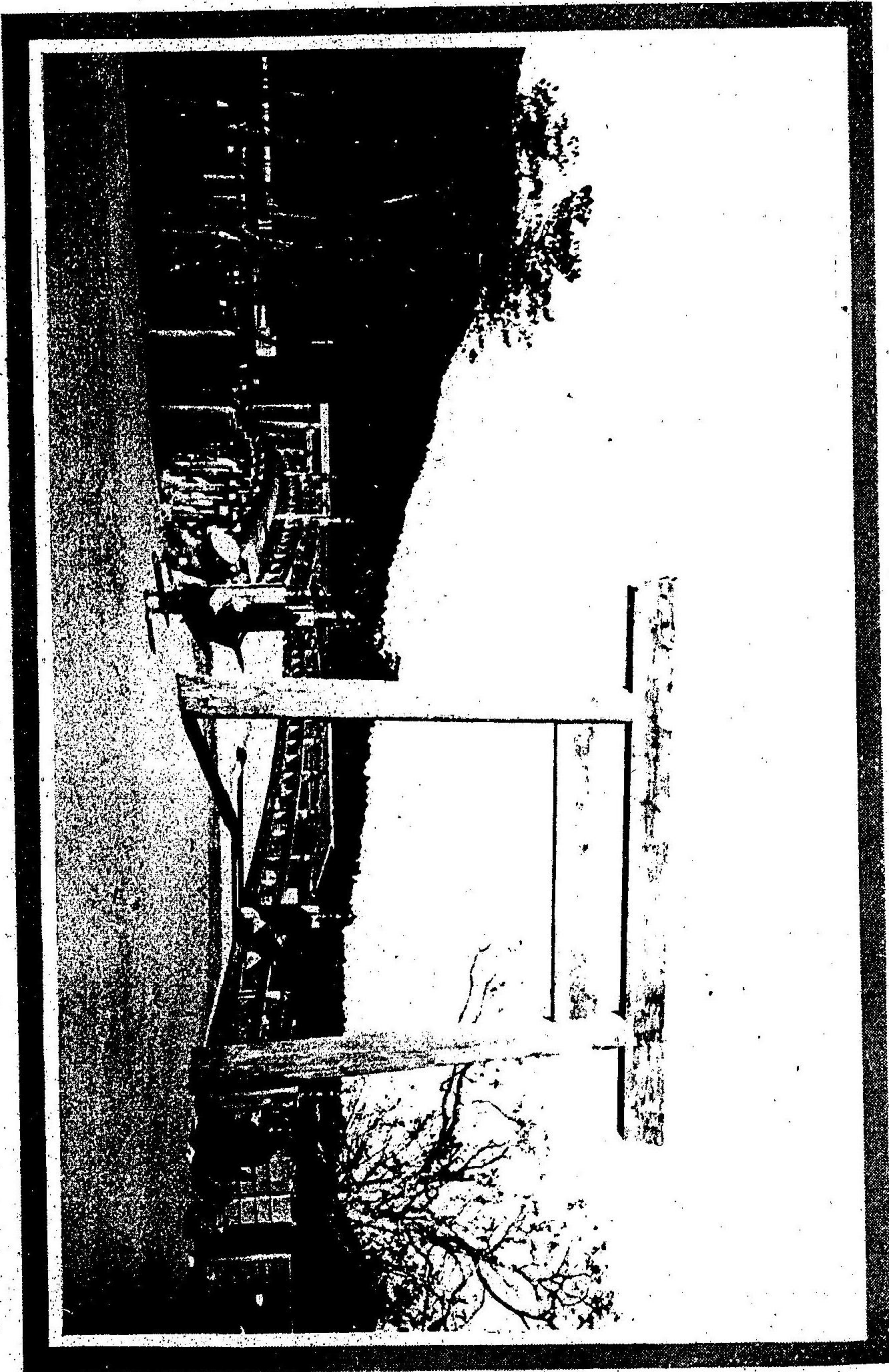
伊勢内宮御正殿

總說



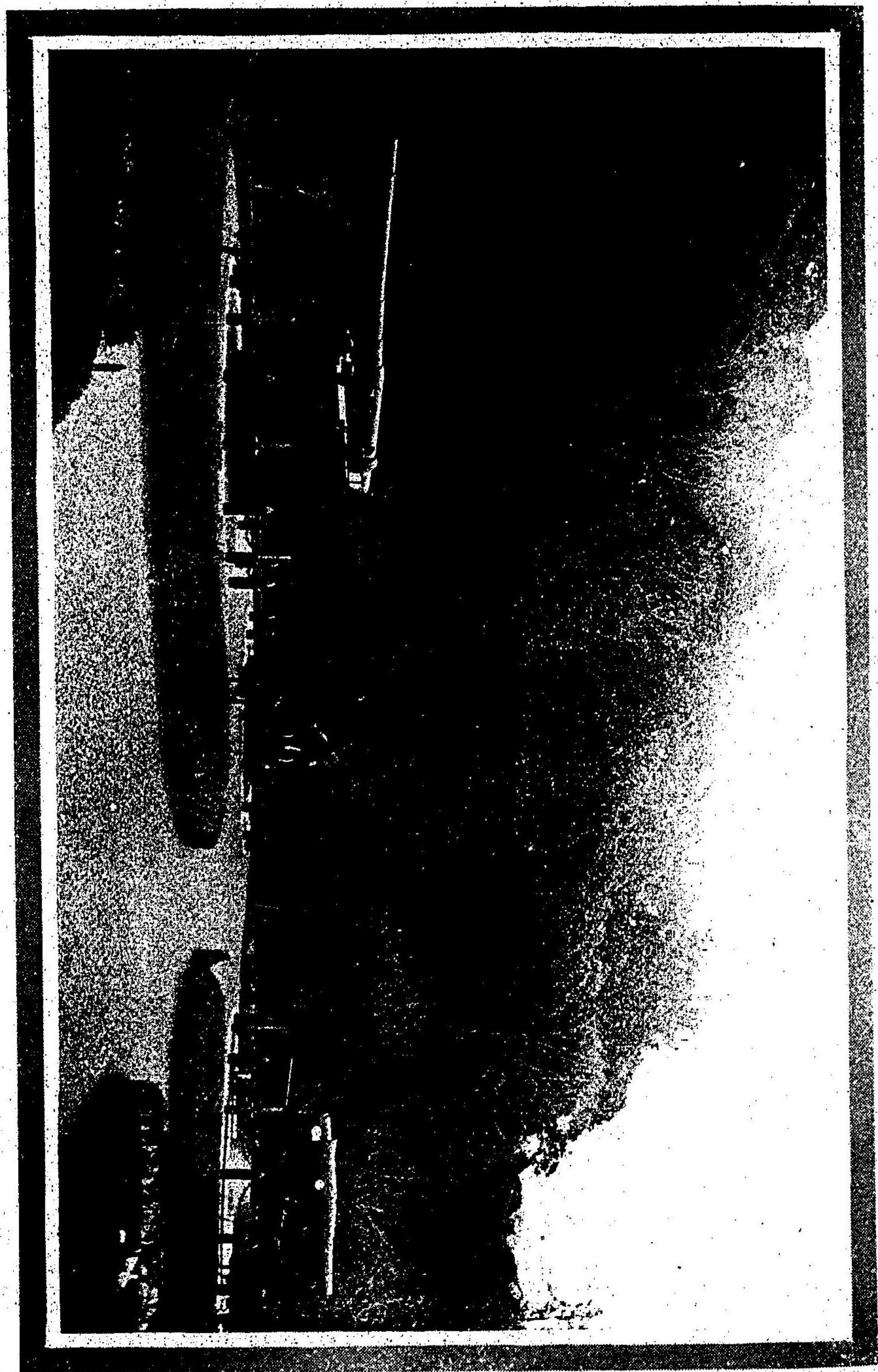


伊勢外宮御正殿

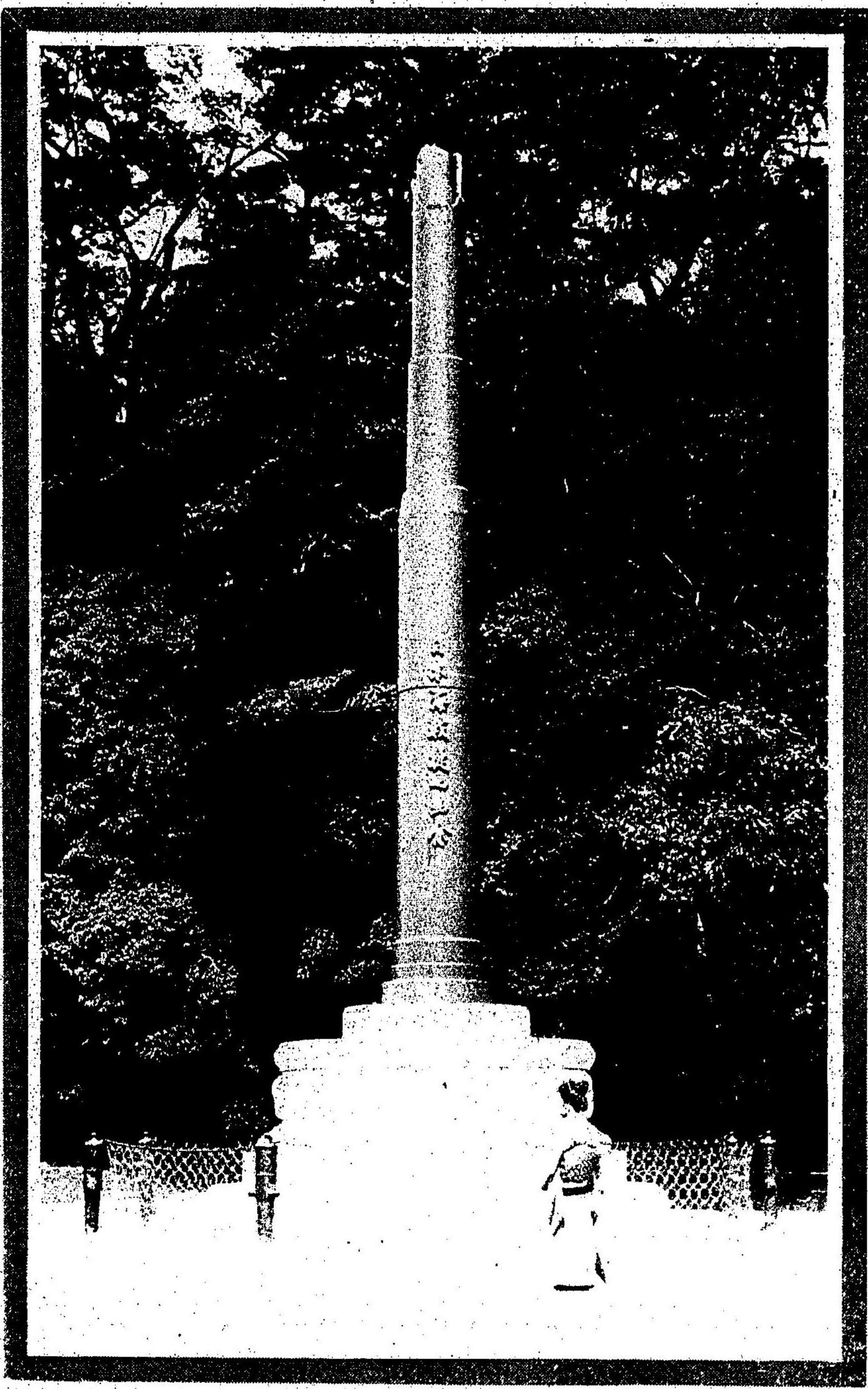


五十鈴川と宇治橋





陸軍奉獻の大砲



三重縣案内  
日本海軍戦捷紀念碑



●神宮 内宮天照皇太神宮外宮豐受太神宮にまします謹て按するに往古皇女を以て神宮に奉任せしめられ崇神天皇の皇女豐鍬入姫命に次て垂仁天皇の皇女倭姫命景行天皇の皇女五百野姫命等相繼きて齋き給ひ後醍醐天皇の皇女祥子内親王に至るまで連綿たりしか其の後幾多の變遷を歴て大中臣氏なる藤波家(今の子爵家)祭主の職を世襲し來りしも明治維新後に至り神宮司應を置かれ皇族若くは公爵を以て祭主に親任せさせ玉ひ現に大勳位邦憲王殿下其の任に當らせられ 陛下の大御手代として奉齋し祭事を管理せしめられ勅任の大宮司ありて祭祀に奉仕し諄辭を奏讀し奏任の少宮司之を佐け奏任の禰宜十人神前に祇候し神膳を供撤し臨時祈禱祓除を爲し判任の權禰宜二十人及宮掌四十人ありて之に隸屬し國家の祭祀宮域一切の事務に當れり一般臣民の奉賽及大麻、曆の製造頒布に就きては神部署を置き、神宮警衛の爲め衛士長一人衛士副長二人衛士四十人ありて専ら之に當れり司應本來の職司此の如くなれども神宮皇學館の教育事業及古事類苑三十六部門の大著述を經營しつゝあり又別に造神宮使(内務省)あり内務大臣監督の下に神宮御造營及神寶裝束調進の事を掌る爲め使、副使、主事各一人技師二人屬九人技手七人の職員を置かる而して 神宮御尊崇の大御心は申すも畏きことなれども毎年の御政治始に於ては萬機に先ちて 神宮御安否の奏上を聞食さるゝを以て御式と定められ 神宮年中行事中、祈年祭、神嘗祭及新嘗祭には勅使を參向せしめらる



内宮

外宮

歳旦大御饌	一月一日午前四時	同日午前九時
元始祭	一月三日午前七時	同日正午十二時
私御饌	一月十一日午前十時	本宮ニテ行之
孝明天皇遙拜	一月三十日午前八時	同
大祓	一月三十一日午前三時	同
祈年祭大御饌	二月四日正午十二時	同日午前七時
紀元節大御饌	二月十一日午前七時	同日正午十二時
祈年祭奉幣	<small>二月十七日午後一時 勅使参向(儀仗兵)</small> 四月三日午前八時	同日午前八時
神武天皇遙拜	四月三十日午後三時	本宮ニテ行之
大祓	五月十四日午前九時	同
風日祈祭	五月十四日午前十一時	同日午後三時
神御衣祭	五月三十一日午後六時	本宮ニテ行之
大祓		同

興玉神祭	六月十五日午後六時	同
御卜	六月十五日午後七時	同
月次祭夕大御饌	六月十六日午後十時	十五日午後十時
月次祭朝大御饌	六月十七日午前二時	十六日午前二時
月次祭奉幣	六月十七日午後五時	十六日午後五時
大祓	六月三十日午後六時	本宮ニテ行之
風日祈祭	八月四日午前七時	同日正午十二時
大祓	九月三十日午後五時	本宮ニテ行之
神御衣祭	十月十四日午前十一時	同
興玉神祭	十月十五日午後五時	同
御卜	十月十五日午後七時	同
神嘗祭夕大御饌	十月十六日午後十時	十五日午後十時
神嘗祭朝大御饌	十月十七日午前二時	十六日午前二時
神嘗祭奉幣	<small>十月十七日午後五時 勅使参向(儀仗兵)</small>	十六日午後五時



大 祓 十月三十一日午後四時 本宮ニテ行之  
 天 長 節 十一月三日午前六時 同日午前十一時  
 新嘗祭 大御饌 十一月二十三日午前十一時 同日午前四時  
 新嘗祭 奉幣 十一月二十三日午後一時  
勅使參向(儀仗兵) 同日午後七時  
 大 祓 十一月三十日午後三時 本宮ニテ行之  
 興玉神祭 十二月十五日午後三時 同  
 御 卜 十二月十五日午後五時 同  
 月次祭夕大御饌 十二月十六日午後十時 十五日午後十時  
 月次祭朝大御饌 十二月十七日午前二時 十六日午前二時  
 月次祭奉幣 十二月十七日午後五時 十六日午後五時  
 大 祓 十二月三十一日午後三時 本宮ニテ行之

特に明治二年三月十二日、同五年五月二十六日及明治十三年七月八日、神宮御參拜の爲行幸ありしのみならず明治三十八年十一月十六、七日の御參拜は實に三十七八年戰役の平和克復御奉告の爲めにして誠に明治昭代の盛事と謂つへし斯く千載一遇の秋に於て功臣優遇の盛徳は枯骨に及び贈位追陞の

恩命を拜せし者左の如し

贈正三位	故從三位	徳川 義宜
贈正三位	贈正四位	結城 宗廣
贈從三位	贈正四位	賀茂 真淵
贈從三位	贈正四位	本居 宣長
贈從三位	故	織田 信秀
贈正四位	故	慶光院清順
贈正四位	故	慶光院守悅
贈正四位	故	慶光院周養
贈正四位	故	結城 親光
贈正四位	故	土岐 賴兼
贈從五位	故	多治見國長
贈從五位	故	加藤 景正
贈從五位	故	福田 秀一



贈從五位

故 南合哲三郎  
故 黒田頑一郎

猶ほ左の如く祭料を下賜せらる

故 從一位 北島顯能	(祭料貳拾圓)	三 重 縣 八
故 足代弘訓	(同)	足代弘雄へ
故 保田元施	(同)	保田熊藏へ
故 近藤真琴	(同)	近藤基樹へ
故 蘭田守宣	(同)	蘭田守理へ
故 御巫清直	(同)	御巫清白へ
故 藤堂高泰	(同)	藤堂欽吉へ
故 吉村長兵衛	(同)	吉村賢藏へ

更に故贈從三位本居宣長遺跡保存の資として金五百圓故足代弘訓建碑費の内へ金百圓を下賜せらる  
又別に孝貞の事蹟奇特に思召され賞賜せられたること左の如し

貳圓五拾錢

名賀郡深生村

井上 たつ

同	南牟婁郡西山村	數本虎之助
同	鈴鹿郡野登村	川戸半藏
同	同 郡坂下村	石田ちる
同	飯南郡柿野村	鳥尾才吉
同	同 上	西村小さよ
同	度會郡穗原村	宮本つぎ
同	同 上	井上さい
同	同 郡一ノ瀬村	野村まさる

高齢者四千七百七十名には左の如く御菓子料を下賜せらる

金五拾錢宛	八十歳以上高齢者	四千五百四名
金壹圓宛	九十歳以上高齢者	二百六十名
金壹圓五拾錢宛	百歳以上高齢者	六名

而して米田侍従を差遣はされ視察せしめられたるは桑名郡長島村用悪水路樋管普通水利組合の排水事業、四日市の三重紡績株式會社、九鬼紋七の四日市製油場及三重郡四郷村伊藤小左衛門の工場にし



て又御駐輦中行在所に於て宮内大臣より優渥なる實業御獎勵の御沙汰を達せられたるは志摩郡御木本幸吉北牟婁郡土井八郎兵衛及桑名郡諸戸清六の三名なり

●**内宮** 皇大神宮又五十鈴宮と稱し奉る 天孫降臨以來宮室内に祀らせ給ひしか第十代崇神天皇の御宇に襄瀆の恐れありとて大和の國笠縫邑に崇めまつり給ひしを次の帝垂仁天皇の二十六年に遷座せられしなり申すも畏こけれと此の大御神は高天原をしろしめし三種の神器を 天孫瓊々杵尊に授けて豊葦原瑞穗國を統治せしめ世界無比の國基を闢かせ給ひし 大御祖にして我か 帝室の御歴代は天日嗣とて其の御末にましますなれば千代萬世の後まで君民ともに仰き尊み奉るべき無上の御宮なり

御 製 長しへに民安かれと祈るなる我世を守れ伊勢の大神

皇后陛下御詠 神風の伊勢の内外の宮はしらゆるきなき世となほいのるかな

**宮城** 神路山鬱葱として東南を擁し五十鈴川潺湲として西方を限り蔚々たる古杉老檜は太古の瑞色を呈し秀靈幽遠いと神々しく其の面積六十七町三反餘と承る

**御正殿** 萱葺堀立柱南向きの御殿なり御屋根には千木鯉木を据ゑ高欄には五色の据玉を飾り周らすに五重の御垣を以てす神代の國風を其の儘に存せらるゝ宮殿なりと齋き祀れる御靈代は 大御神の御手つから 天孫に授け給ひて『吾か魂』と詔らせ給ひし八咫の御鏡にして相殿神には天手力雄命萬

幡豊秋津姫命御同座あらせらる(皇大神宮儀式  
帳分註に據る)

**東西寶殿** 東寶殿には御奉納物類西寶殿には舊御裝束類御物類等御神寶を納め奉る

**外玉垣御門** 衆庶の參拜は板垣南鳥居を入りて此の御門際に至る

此の他城内御建物は、第一鳥居、第二鳥居、外幣殿、御稻御倉、由貴御倉、御酒殿、御贄調倉、忌火屋殿、御竈木屋、五丈殿、内御廐、外御廐、御馬洗場二箇所、御井一、鳥居口御橋、裏參道御橋、風日祈宮御橋、行在所、參集所、表衛士見張所、裏衛士見張所、參集所附屬倉、神樂殿等あり

**別宮九箇所** 荒祭宮風日祈宮は宮域内にあり就中荒祭宮は別宮の第一にして 天照皇大神の荒魂神鎮座し給ふ月讀宮、月讀荒御魂宮、伊佐奈岐宮、伊佐奈彌宮は本宮より北方十八町度會郡四郷村大字中村にあり瀧原宮、瀧原並宮は本宮の西南十里半度會郡瀧原村大字野後に在り伊雜宮は本宮の東南三里志摩國磯部村大字上の郷に在り

**御遷宮** 天武天皇の御代二十年を以て正遷宮の期と定め給ひ持統天皇の四年始めて遷御の大禮を行はせ給ひき爾後明治二十二年迄に式年正遷宮を行はせられしこと五十六回なりとを又年中御祭典は歲旦大御饌を始め三十八回いと壯嚴に奉祭せらる次の正遷宮は明治四十二年とす

**神苑** 宇治橋より宮域に接し樹木花卉を植ゑ清美の景致を添ふ 皇太子殿下御手植の松は彌榮々に



榮えて昭代の瑞祥を呈す

◎外宮 豊受大神宮又度會宮と稱し奉る百穀の發生を掌り衣食を幸ひ給ふ御神なり内宮鎮座より四百八十二年の後第二十二代雄略天皇二十二年九月 天照大御神の神託により丹波國與謝郡（今は丹後に入る）麻奈爲原よりこゝに移させ給ふ宮域は八十七町七反餘南方一帶高倉山に連り老樹蒼蔚として千歳の色を帯ひ幽邃清淨の靈區なり

掛卷もかしこき豊の宮柱直きこゝろは空に知るらん 俊 行

何事のおはしますかはしらねともかたしけなさに涙こぼるゝ 西 行

御正殿 宮殿の構造總て内宮に略同じ相殿神三座正殿内に御同座あらせらる

東西寶殿 東寶殿には御幣錦綾御調の絲を納め西寶殿には幣馬の鞍及古神寶を納む

宮城内御建物は大略内宮と同じければ省く大宮院の周圍は外宮は九百二十五丈内宮は九百三十丈東西寶殿の位地内宮は正殿の後方左右にあり又外宮の中の重鳥居は内宮には八重賢木の鳥居と申すこ  
なむ

別宮四個所 多賀宮、土宮、風宮は宮城内に在り月夜見宮は宇治山田市大字宮後町にあり

御遷宮 正遷宮の起原并奉祭は内宮と略相同じければ省く

神苑 北御門外より宮域に沿ひて苑地をなし小徑縱横或は紆回し或は曲折す

皇太子殿下御手植の松并征清紀念献納品あり舊神社の森を繞りて勾玉池を穿ち白蓮を植ゆ兩宮神苑は宮域の清淨を保たむか爲神苑會の經營したる所也

高倉山 舊記に多賀佐山又は高座山とあり蓋し座をクラと讀みしより今は高倉山と稱するならむ斧斤曾て入らず老樹鬱葱宛然として外宮の藩屏たり頂上岩窟あり世俗天の岩戸と云ふ洞口巽位に向ひ其の内巍然たる堂宇の如し巨岩怪石を以て之を築造し處々貝殻の付着せるを認め霖天動もすれば鹽氣を感す或は云く春日高坐神伊勢津彦神穴居の跡なりと又云く天日別命火氣を避けし所なりと又云く古代の墳墓なりと諸説紛々孰か可なるを知らず神苑の東端高神山の麓より登ること凡九町にして達すへし

◎五十鈴川と宇治橋 五十鈴川又御裳濯川と云ひ逢坂山より出て、宮域を貫き落合河原に到り神路山より出るものと合流し鹿海にて朝熊川を容れ又二派に別れ一は二見浦に注ぎ一は沙合に到り海に入る宮域の入口に架せるは即ち宇治橋にして長五十一間巾四間檜材を以て之を作る欄干に擬寶珠を置き橋の前後に大なる鳥居あり上流の一派神路山の翠巒を貫きて流るゝ所磊塊水に臨み牛石鰻石鏡石等の奇勝多く更に迦れは大瀧小瀧に到る

皇后宮御詠 じつかなる世の年なみは神風の五十鈴河よりたちかへるらむ



東宮御詠 たひらかに年浪かへる五十鈴川かみのめくみのふかさをそくむ

●神宮撤下御物陳列所 倉田山に在り神宮司廳の所管にして内外兩宮の撤下御物を陳列して篤志者に拜觀せしむ第九回關西府縣聯合共進會開設に際し神宮司廳は三重縣協賛會々員に拜觀を許せり

●日本海戰捷紀念碑 明治三十八年十月十三日聯合艦隊司令長官海軍大將東郷平八郎全艦隊を將ゐて伊勢灣に入る十六日 大詔煥發せられて平和始て克復す十七日 勅語を奉して全隊を上陸せしめ威儀堂々 神宮に詣り凱旋を奉告す縣民歡呼之を迎へ各市町村一齊に萬歳を高唱す是に於て帝國海軍は勅裁を経て日本海戰捷紀念碑を内宮神苑に樹つ實に日露戰役中我海軍最後の決戰たる日本海々戰に於て我聯合艦隊が捕獲したる敵の戰艦「アリョール」號の主砲たる十二吋砲にして我砲彈の爲に折損せられたる其前部砲塔の左砲身なり砲身の全長十二米突二三三重量四十四噸一九八彈丸の初速一秒時間七百三十三米突折損したる部分の長三米突一九〇重量三噸六九一なり碑面の文字は東郷海軍大將の筆に係る而して「アリョール」號は我軍艦籍に入り石見と改稱せらる

●陸軍奉納の火砲 内宮神苑内なる其の中央に在るは我軍使用二十八珊米榴彈砲其の北に在るは戰利砲二十四珊米加農其の南に在るは戰利砲二十三珊米加農なり火砲奉納の記に曰く

明治三十七八年戰役は我が國空前の壯舉にして陸に海に連戰連捷振古未曾有の偉功を奏し以て交戰

の大義を貫徹し 皇威國光を宇内に宣揚せり是れ固より

今上陛下盛徳の致す所にして將卒の忠勇と臣民の熱誠と亦與つて力ありと雖謹みて其淵源する所を按るに安んぞ

天祖基を開き 皇祖統を傳へ聖子神孫相承け萬世無窮其の擁護に浴し忠烈尙武の遺訓此に顯はれたるにあらざる無きを知らむや此の役我か陸軍に於て獲收せしもの捕虜八萬四千四百餘人、刀槍六千四百五十五本、小銃十一萬五百四十八挺、野戰砲、要塞火砲及機關砲を合せて九百門に達せり是れ皆永遠に帝國の光榮を紀念するものにして就中敵の難攻不落と稱せし旅順要塞に備へ陸海の防禦に充用せし最大の火砲二十四珊米及二十三珊米加農は我陸海の將卒をして幾多の鮮血を犠牲と爲さしめたるもの又我軍か此の要塞の攻撃に使用したる二十八珊米榴彈砲は敵塞の陥没に於ける無比の紀念品なり今茲に恭しく各一門を

皇大神宮の大前に納め奉り以て赫灼たる神靈の威烈を崇仰すると共に聊か報賽の至誠を表し且つ國運の益々隆昌ならむことを禱る尙左に各砲の略歴を具し以て其由來する所を明らかにす

明治三十九年九月七日

陸軍大臣從三位勳一等功一級 寺 内 正 毅

我が軍使用二十八珊米榴彈砲略歴



此の砲は明治二十年三月の詔勅を奉體し臣民より獻納せし海防費を以て明治二十四年大阪砲兵工廠に於て製造するものにして明治三十七年十月以來旅順要塞の陸正面本防禦線を距約二千米突なる礮盤溝砲臺に据付け二龍山、松樹山、二〇三高地等の各砲臺を砲撃破壊し又港内の敵艦を砲撃して之を沈没せしめたり攻圍間此の砲一門の發射せし彈丸一千餘發に上り其の威力猛烈敵軍をして戰慄せしめ遂に開城せるに至れるものなり

戦利砲二十四珊米加農略歴

此の砲は敵か旅順要塞嶗岨高砲臺の右翼に備付け明治三十七八年戰役我が攻圍軍を射撃したるものにして戦利砲九百門中最大の要塞火砲たり

戦利砲二十三珊米加農略歴

此の砲は旅順要塞模珠礁第二砲臺に備付け明治三十七八年戰役主として彼れか海正面防禦に使用せる八門中の其の一なり

本圖は工事中其の筋の撮影せられたるものに係り僅に其の小部分に過ぎず茲に据付砲の全部を掲載し能はざるは本冊子の編纂上之か竣工を待つ餘裕なきが爲にして編者の最も遺憾とする所なり諸子幸に諒焉謹て附記す

◎三重縣 維新以後に於ける本縣の沿革を叙述すは左の如し

津藩 津縣 安濃津縣

明治二年六月十七日 藩主藤堂高獻版籍を奉還し知事に任す

同 四年六月十九日 高獻致仕嫡子高潔之に代る

同 年七月十四日 廢藩置縣高潔職を罷めて大參事藤堂歸雲事務を攝行す

同 年十一月二十二日 津縣を廢し安濃津縣を置く

龜山藩 龜山縣

明治二年六月十九日 藩主石川成之版籍を奉還し知事に任す



三重縣廳



明治二年七月十四日 廢藩置縣知事成之職を罷め大參事近藤幸殖事務を攝行す  
同 年十一月二十二日 龜山縣を廢し安濃津縣に合す

神戸藩 神戸縣

明治三年六月二十三日 藩主本多忠貫知事に任す  
同 四年七月十四日 廢藩置縣知事忠貫職を罷め大參事神谷直與事務を攝行す  
同 年十一月二十五日 縣を廢して安濃津縣に合す

菰野藩 菰野縣

明治二年六月二十三日 藩主土方雄永知事に任す  
同 三年九月十七日 知事雄永職を罷め養子雄志之に代る  
同 四年七月十四日 廢藩置縣知事雄志職を罷め大參事日比重明事務を攝行す  
同 年十一月二十二日 縣を廢し安濃津縣に合す

桑名藩 桑名縣

明治二年九月二十日 藩主松平定教知事に任す  
同 四年七月十四日 廢藩置縣知事定教職を罷め大參事酒井朝雄事務を攝行す

同 年十一月二十二日 縣を廢して安濃津縣に合す

長島藩 長島縣

明治二年六月二十四日 藩主増山正同知事に任す  
同 四年七月十四日 廢藩置縣知事正同職を罷め大參事吉水永頼事務を攝行す  
同 年十一月二十二日 縣を廢し安濃津縣に合す

久居藩 久居縣

明治二年六月十七日 藩主藤堂高邦版籍を奉還す  
同 年八月二十五日 高邦知事に任す  
同 四年七月十四日 廢藩置縣高邦職を罷め大參事藤堂源助事務を攝行す  
同 年十一月二十二日 縣を廢し度會縣及安濃津縣に合す

度會府 度會縣

明治元年七月六日 度會府を置き橋本實梁知事に任し舊大神宮領及舊幕領地を管す  
同 二年七月二十四日 府を改て縣と爲し笠松、大津二縣の管轄を之に合す  
同 三年三月十三日 三重、員辨二郡に於ける名古屋藩所轄地を之に合す



明治三年十月十三日 多氣、三重、員辨の三郡に於ける一ノ宮藩の所轄を之に合す  
同 四年十一月二十二日 縣を廢す

鳥羽藩

鳥羽縣

明治四年六月二十日 藩主稻垣長敬知事に任す

同 年七月十四日 廢藩置縣縣長敬職を罷め權大參事事務を攝行す

同 年十一月二十二日 縣を廢し度會縣に合す

此の他忍藩(武州後に忍縣)の管轄地を安濃津縣に吹上藩(野州後に吹上縣)の管轄地を度會縣に和歌山藩(後に和歌山縣)の一部を安濃津縣に一部を度會縣に合す新宮藩(紀伊國後新宮縣)の管轄を度會縣に屬せしむ而して今の松阪は和歌山縣の所轄に屬せり此の如くして各藩の舊領地は新なる縣治の下に統へられ明治五年三月安濃津縣を改めて三重縣と稱し廳舍を四日市に移し六年再び津に復し越て九年度會縣を廢し之を三重縣に合し伊勢、伊賀、志摩の三國及紀伊二郡を擧げて本縣の管轄に歸せしめ以て今日に至る其の間本縣に令たり知事たる者を列舉せば實に左の如くなりとす

丹羽賢、岩村定高、内海忠勝、石井邦猷、山崎直胤、成川尚義、田邊輝實、李家裕三、山縣伊三郎、荒川義太郎、小倉信近、古莊嘉門、有松英義

### 津市

●津市 津市は伊勢灣に臨み洞津又安濃津と稱し藤堂氏の居城たりしなり戸數六千六百二十六、人口三萬五千四百四十九を有し三重縣廳、安濃津地方裁判所、同區裁判所、安濃津監獄、津聯隊區、津郵便局等あり市街は國道を本幹として南北に延長し殆ど二里餘に亘り參宮鐵道阿漕停車場を南に關西鐵道津停車場を北に控へ東に贊崎港を擁し海陸の運輸便にして貨物の集散に適す岩田、塔世の兩川は市街の南北を横貫し岩田川の南阿漕浦あり其北贊崎浦より安濃浦に連り白砂青松風光絶佳朝暾に馬を驅り夕暉に笱を曳き艇を泛へて釣を垂れ僮を携へて海に浴す人に可ならざるはなし軍艦の來泊するもの月に數回沙上に跪座して實彈の試放水雷の發射を眺むるも亦甚



津市街



た壯觀なり遠近より來遊を試むる者年々多きを加ふるも誠に宜ならずや津市には商業會議所あり米穀株式取引所あり三重縣農工銀行、百五銀行、伊勢銀行、農商銀行あり、伊勢新聞あり、三重新聞あり、三重縣師範學校、第一中學校、高等女學校、三重縣農事試驗場、測候所等亦皆此地に在り

伊勢綿木綿地質の堅牢と染色の不變を主とす

阿漕焼は菓子器、茶器、花瓶、玩具其の他日用品にして雅味あり

銅器は輸出向を主とし津綴子、茄子團扇、菓子、竹細工、下駄、傘等之に次ぐ

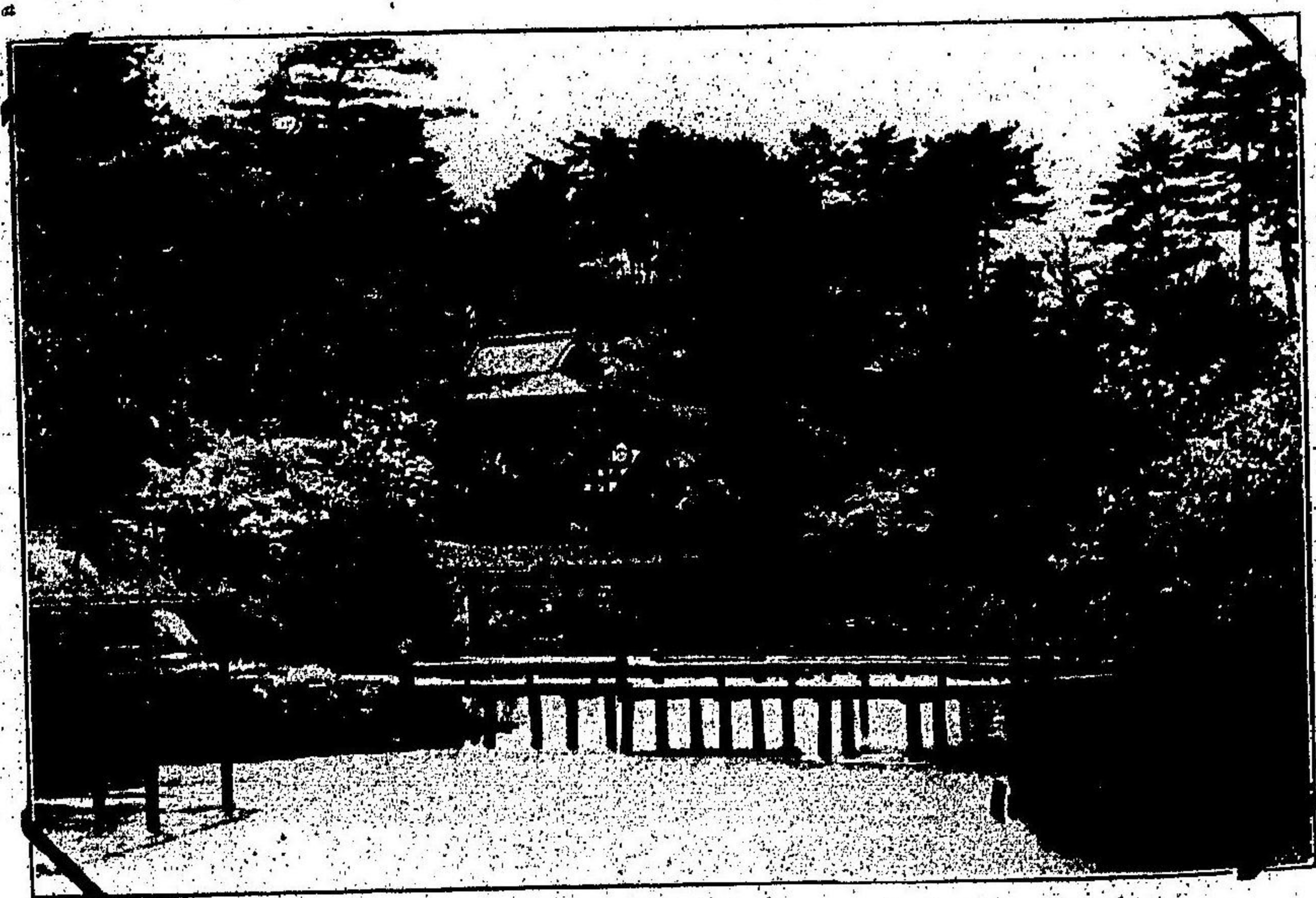
●津市借樂公園 往時藤堂氏の山莊にして今は津市の公園たり天然の丘陵に人工を加へ泉水には藤糸を架し杜若萍蓼時を異にして人を迎ふ板橋を歩して尺鯉の躍るを看る其の快言ふへからず徑を攀て躋らは寒天の紅椿陽春の櫻花霜季の丹楓參差して老松稚松の間に交はる礎磊錯居之れを裝ふに花卉を以てし春の躑躅秋の萩蘆歩一步吟情を動さるはなし竹林は雪を看るに適し梅圃は鶯を聽くに可なり頂上傘の臺と稱するところの眺望殊に佳なり第九回關西府縣聯合共進會場眼下に巍然たり而して濃尾參遠の淡烟は伊勢灣を隔てて彼に在り園内所々亭の憩ふへきあり酒の餘るへきあり燭を剔て雨を聽き凡に倚りて月を翫し風咏自適す亦樂からずや山内に俱樂部あり洋食洋酒立ろに辨し且賓客の宿泊に便す

將に園を出てむとして武徳會三重支部演武場あり共進會參考館と相接す關西鐵道津停車場より到るは紙貫一枝を盡すの距離のみ乗客一遊を試みて可なり因に武徳會三重支部は去三十八年五月十四日を以て演武場の竣工を祝して發會式を舉ぐ此日伏見總裁宮殿下の來臨を辱ふしたるは會員の光榮として忘れざる所なり其の三十九年十二月三十一日現在の會員左の如し

特別會員	六六七人
正會員	二九、七七一人
贊助會員	一、五四五人
計	三一、九八三人

●岩田川口及贊崎港 贊崎港は岩田川口に在り大阪商船會社神戸熱田間の定期航路に當り津市の要港なり海濱一帶海氣清く夏期の泗泳に適し浴客頗る多し三十

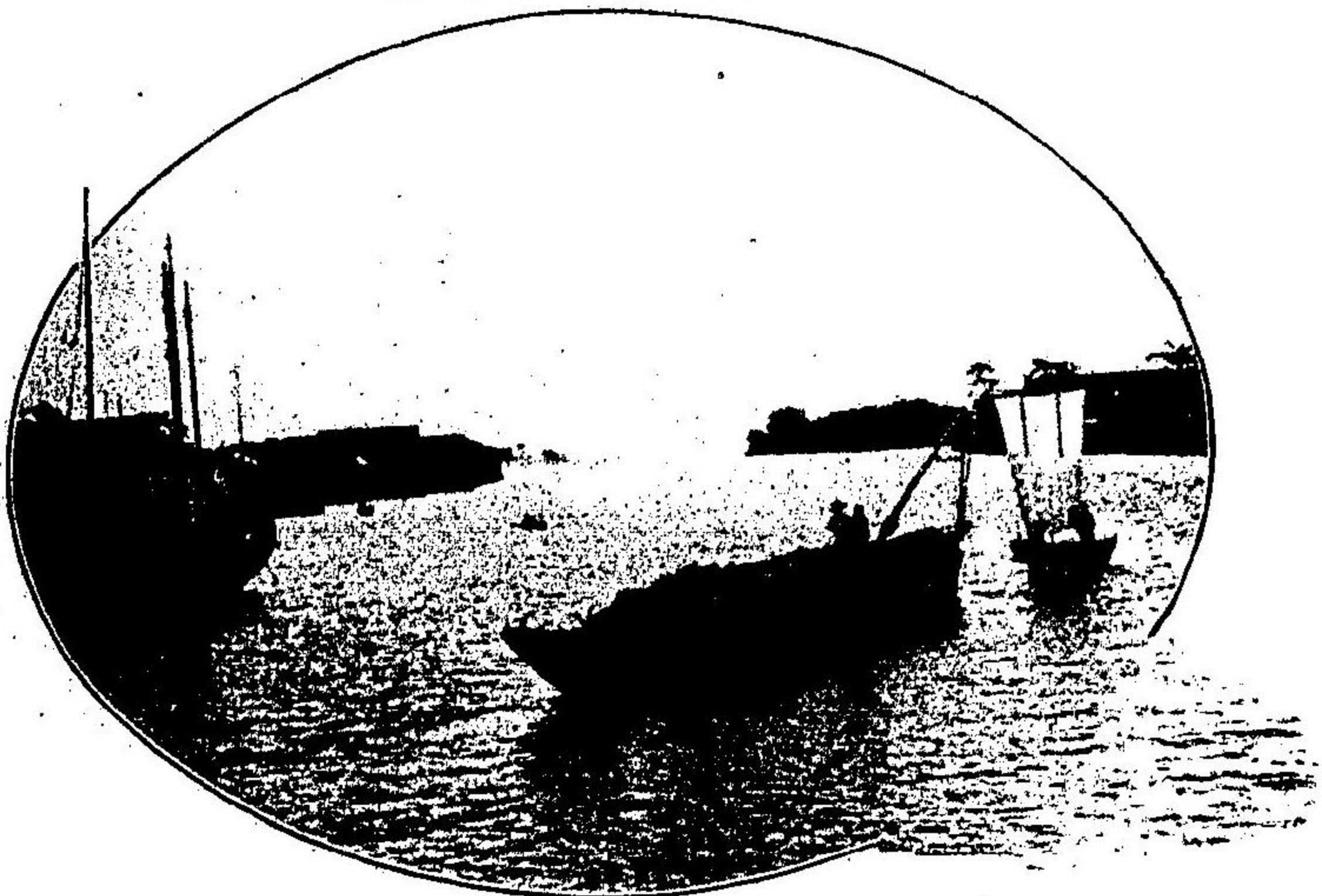
津市



津市の公園



岩田川口と時崎港



七八年戦役に方り傷病兵療養所を設けらる尋て聯合艦隊司令長官東郷海軍大將聯合艦隊を伊勢灣に集中して平和克復大詔の煥發せらるゝに會し威儀堂々此地に凱旋し勅を奉して振旅神宮に參拜せられたるは千歳不朽の紀念と爲すに足る溯ること數丁にして伊勢街道に架せるは岩田橋にして橋南橋北を別つて南濱北濱と云ひ夏時學生の端艇競漕は常に此橋より港口の間に於てす此港に依りて吞吐する貨物は一箇年輸出額凡百五拾萬圓輸入額凡參百五拾萬圓船舶は概ね二百石積乃至五百石積に過ぎざるも目下津市に於て河口浚渫の計畫あり巨船を泊せしむるは遠きにあらざるへし

無 題

津坂東陽

長橋孔道傍城隈、欄耀銅珠壯麗開、磐礫南風相競處、海門落日大潮來。

岩田川

讀人しらす

結城神社



津市

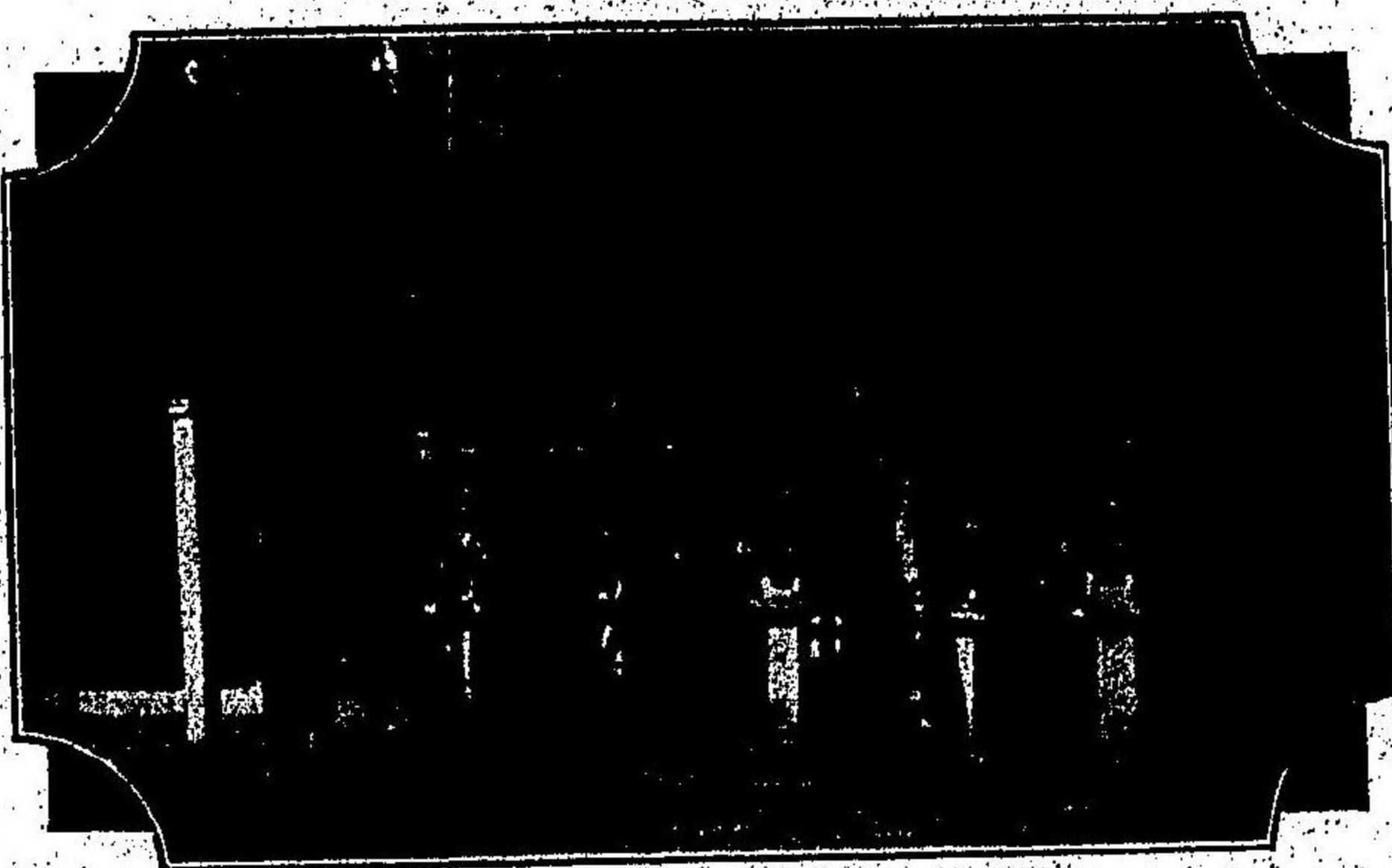
あさほらけ家出の松は霧こめておほつかなしやあの板橋  
◎塔世川 一名安濃川と稱す津市の中央を流れて安濃浦より伊勢灣に注ぐ清流にして塔世橋之に架せられ橋南岸に沿ふて株式會社三重縣農工銀行及日本赤十字社三重支部あり

北岸には三重縣會議事堂並私立病院(院長今井通)あり因に日本赤十字社三重支部に於ける昨三十九年十二月三十一日現在の社員は左の如し

- 特別社員 二四八(内有功章四)
- 終身社員 六三三七七
- 正社員 一六六、三三三
- 合計 三三一、九五八

◎結城神社及八幡神社

神風や伊勢路を行けば冬寒み安濃の川原に千鳥なくなり  
結城神社は八幡町にあり別格官幣社にして



八幡神社



南朝の忠臣結城宗廣を祀る宗廣は義良親王を奉じて水路東國に赴くの途次颶風に遭ひ海上に漂ふこと七晝夜にして此處に著せしか遽に病にかゝり劍を按じて薨す其の墓は社内に在り文政七年藤堂高兌の建つる所題して『結城神君之墓』と云ふ或は傳ふ宗廣の墓は宇治山田市光明寺畔に在りと明治三十八年十一月神宮に行幸せらるゝや宗廣に従三位を追贈せられ策命使を遣はさる毎年五月五日例祭を行ふ

八幡神社は結城神社の隣域にあり縣社とす例祭は十月十五日にして津祭と稱して雑踏を極む

兩社は古木森々全く俗界の外に在り傍に圓埦を設け時々競馬を行ふ

●津城趾及高山神社 津城趾は丸の内に在り今猶本丸を存し環らすに濠を以てす富田信濃守知信關ヶ原の役に徳川氏の爲めに籠城せし所とす慶長十五年藤堂高虎伊豫の大洲より來り移り元和年中二代高次滄を深くし壘を高ふす中世津坂東陽、齋藤拙堂、川村竹波等の鴻儒輩出し文質彬々たる雄藩たりしか廢藩と共に城の一部を壞ち現に藤堂伯の



社神山高と趾城津

所有たり墟址廢濠人をして俯仰感慨に堪へざらしむ

高山神社は城趾の中央にあり藤堂高虎を祀る縣社とす毎年四月及十月の四五兩日を例祭とす

●觀音寺及國府の阿彌陀 惠日山觀音寺は津市の中央大門町に在り本尊如意輪觀世音を安置す像は元明天皇の和銅二年如月朔日阿漕浦にて漁父の網にかゝりて出現せるものと傳ふ『伊勢の海清き渚に舟うけてあひあふ君をあふく此てら』國府の阿彌陀は仁王門内大寶院にあり本尊阿彌陀佛涅槃の靈像を安置し伊勢國三十三番の札所として最も著はる、城内に六大院其の他の祠宇あり翁媪爺孃陸續拜賽して香火常に絶えず



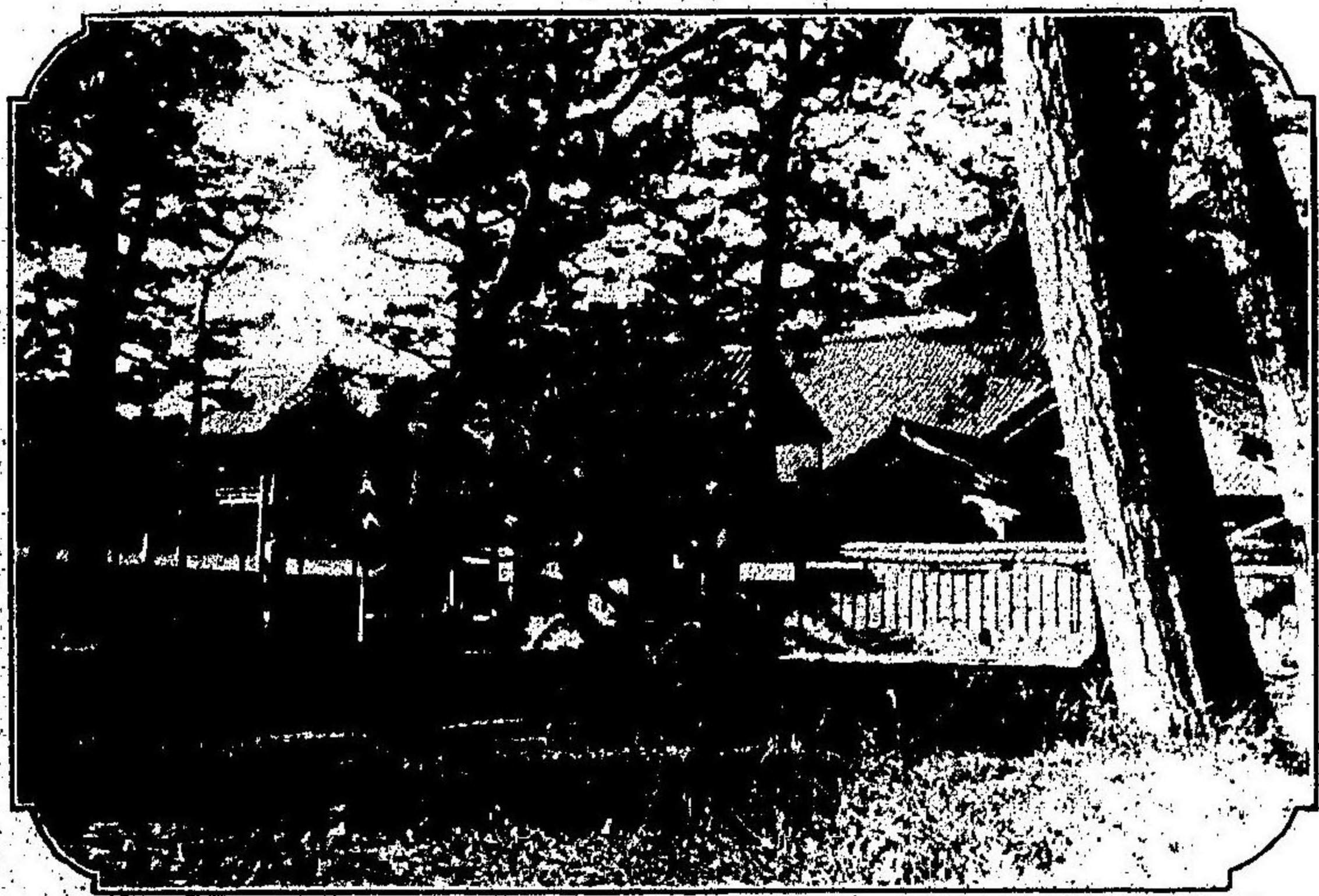
堂陀彌阿府國

●四天王寺(津市榮町) 曹洞宗にして越前永平寺に屬し境内五千六百七十二坪を有し本堂、開山堂、禪堂、衆寮、山門、

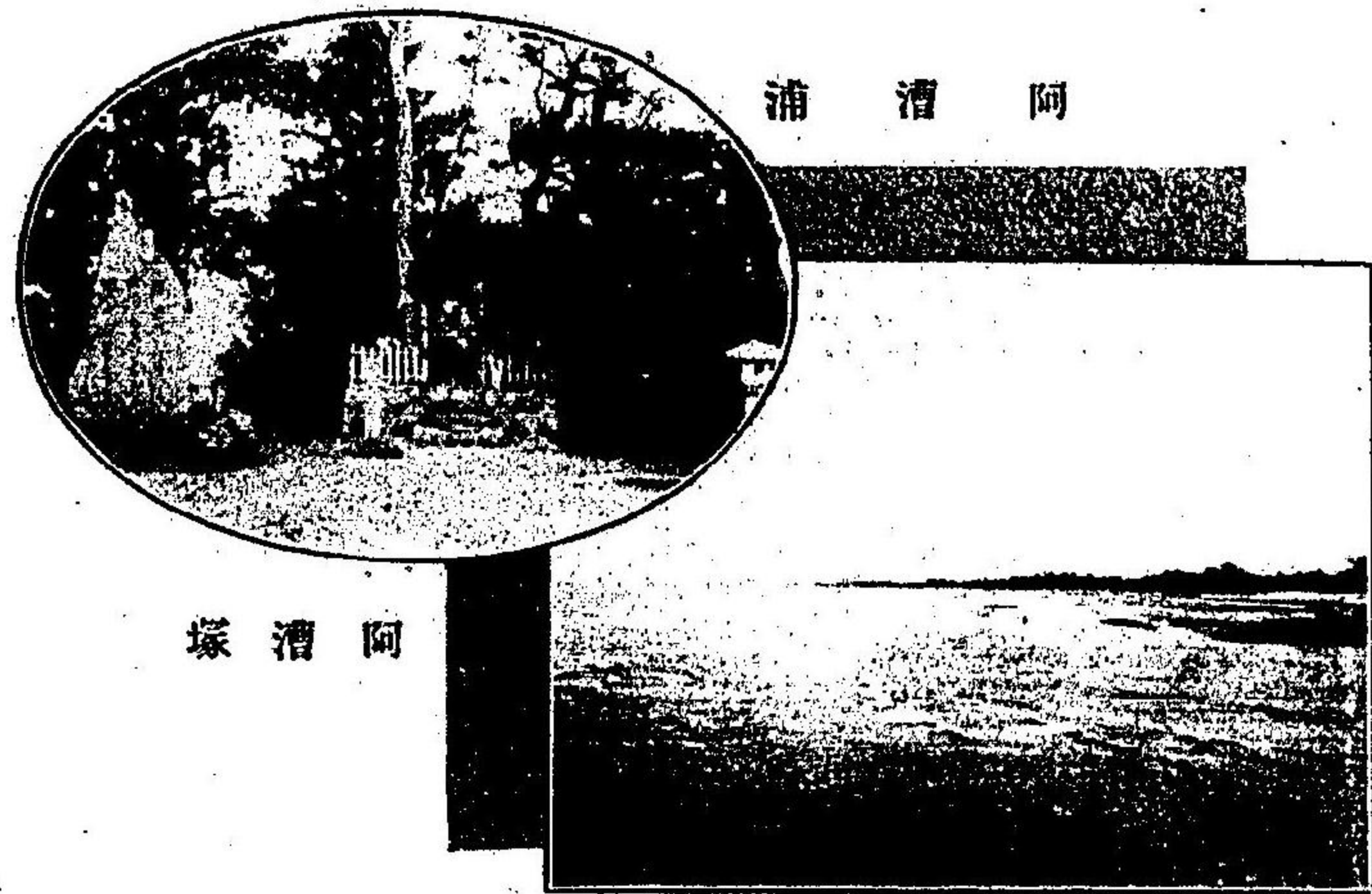
總門、鐘樓門及び藥師堂、太子堂、三尺坊堂、八王子堂、地藏堂、書院、方丈等あり推古天皇の勅願



所にして聖徳太子が王城鎮護のため東西南北に各一寺を建立せられたる其の一と稱せらる寛平二年安濃郡乙部の漁父孫太郎なる者志摩答志浦に漁し一軀の佛像を網し當寺に納めたることあり今の藥師堂は即ち之に基く後ち藤原景通及其の長子景清も當寺の修補を加へたりしか永祿八年兵燹にかかり堂宇悉く烏有に歸す天正二年安濃津城主織田信包當寺の陵替を嘆き百石を寄附し同十年亡兄信長追福のため齋米百二十石を加附す尋て富田知信寺糧五十石の寄進を爲し慶長五年石田三成の事を擧ぐるや寄手の陣所となり塔堂何れも破壊せらる後藤堂高虎堂舎を再營し一山の齋料二十人扶持の寄進あり高次亦百石を寺領に附し同宗の寺院一百有餘悉く當寺の管轄に歸す維新後は復舊觀を保つ能はされども境内の廣濶なる優に縣下の一名利たるを失はず今同寺にある著名の墳墓を擧ぐれば左の如し



四天寺本堂



阿漕浦塚

いかにせむあこぎの浦のうらみてもたひかさなればかはる契りを

津市

織田信長公母堂墓 (法名華屋壽榮大姉)

富田知信男千代丸墓 (宗實院殿桂室芳公大禪定門)

藤堂高虎公室一色氏墓 (久芳院殿桂月貞昌大禪定尼)

世焦翁文塚

二日坊杖塚

齋藤拙堂先生墓

●阿漕浦 岩田川口より南方に延び沙汀千頃三尾の翠黛に對す松瑟瑟聲に和し閑禽漁隻に伴ふ涼颼脈々暑を避くるに妙に屢風軟軟狗を養ふに足る風光の明媚なるは言を待たす千鳥館魚庄の兩旗亭は安濃浦の朝日館と拮抗して四時閑客の來遊を待つ漫歩して引網を見るも亦一興なり

西行

逢ふ事を阿漕の浦に引網のたひかさならば人もしるなむ

後照念院



●阿漕塚 阿漕浦に近く一丘の古墳あり阿漕平次の塚と云ふ其傍に碑あり世翁の俳句を刻す

月の夜の何を阿古木に啼く千鳥 はせを

梅辻 春樵

佛燈一點影殘闌 海氣吹腥飛雨寒

想得當年如此夜 孤舟提網上空灘

●阿漕燒及其の工場 舊幕の頃に中絶したる安東燒を再興したるものにして意匠製方稍々進歩の跡を見るに足る菓子器、茶器、日用器、皿、玩具等雅致ありて顧客の嗜好に適せり工場は津市枕町に在るものを最とす曩に阿漕燒陶器株式會社の組織ありしか今は改めて小島兼太郎の經營する所となれり参考の爲或る人の著はしたる陶史を左に抄録す

天保年間、津市船頭坊人、倉田久八受陶法於長崎人寶山藤樹、開窯於安東故趾、品質苦鹹、不售而廢、尋入京都陶工松風亭之門、嘉永六年業成、開窯其邸内、其



阿漕燒陶器製造工場

器大率仿瑞牙式、世稱之松風亭安東燒、後參取萬古陶式、造日用器皿、以船頭坊近阿漕海、其器欸阿漕二字、傳至今、其業漸盛矣、久八又造稱象眼燒者、傳云和合郡之半田土、暨阿漕海澗所産鐵砂以坯造、而後深錐畫龍鳳花卉等物象於坯上、已經密、而填充真鍮線於錐畫處、而後和合嵌入帶色玻璃細屑鉛屑暨木灰於物象中、再經密而砥磨等云々

●青銅器 明治十年平安の人平井安兵衛津市

に來り辨財町に銅器製造所を創設せり縣令岩村定高の獎勵に依り漸次其徒弟の數を増し同十四年安兵衛歿後其の教を受けし者市内各所に製造を開始するに至れり



青銅器



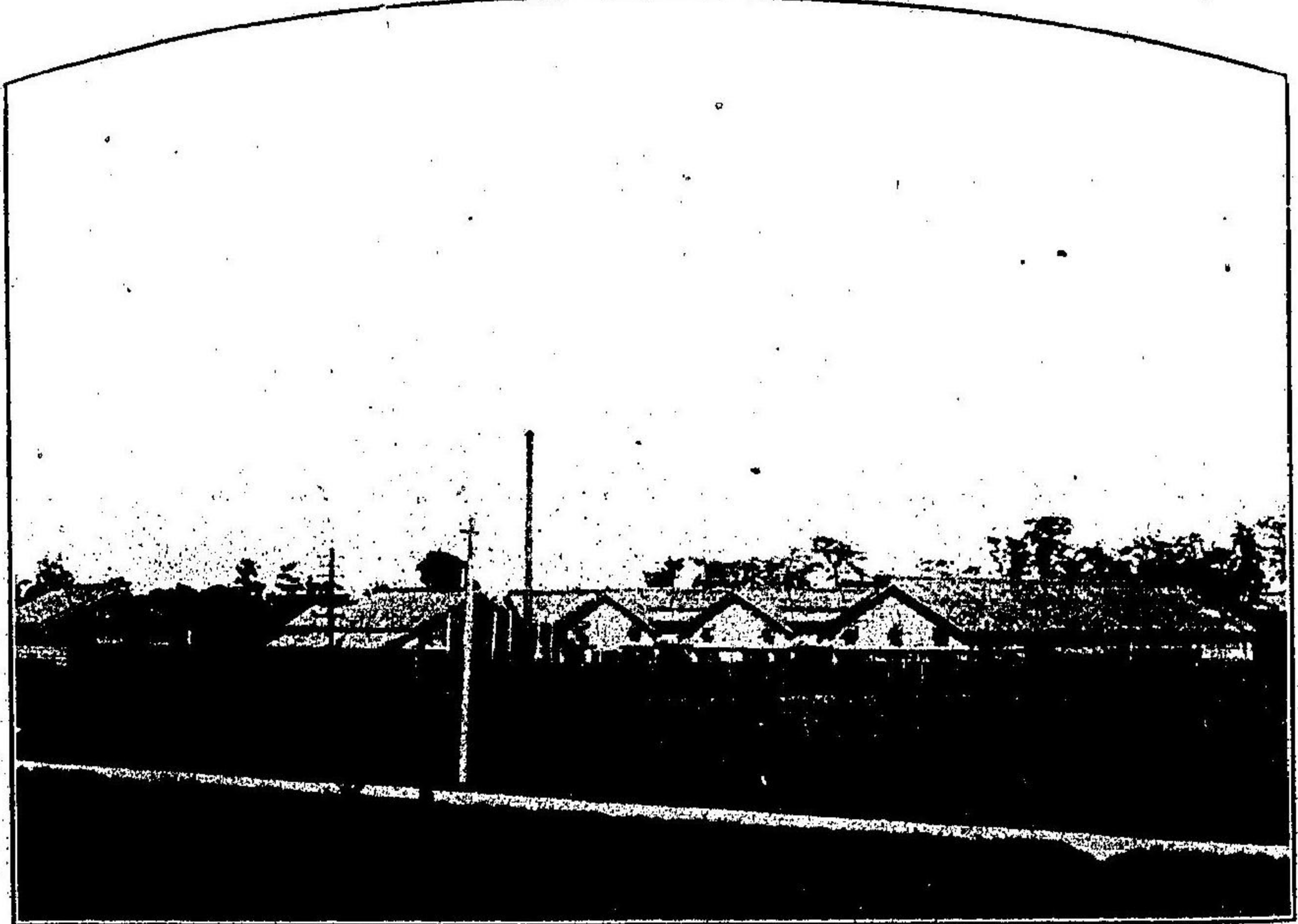


殊に明治二十七八年戰役後は其の販路海外に擴張せられ丸の内若林はや(釜吉)藏町黄地直次郎は現に其の製造販賣に従事し臘型を以て香爐花瓶置物等巨大の物を作るを得意とし神戸長崎横濱等の外商の注文に依りて製造販出するもの一箇年貳參萬圓に下らす若し規模を大にし改良に力むるに於ては將來に望ある事業なり

◎愛國婦人會三重支部授産場(津市丸の内) 本縣の設營に係る臨時手工業傳習所の閉鎖に際し三十九年四月愛國婦人會三重支部は其の事業を繼承し授産場を設け「ドローンウオーク」業を授くるを主とし卓子掛、皿敷、手巾、カラ、カフス等各種の製品あり猶時機を見て刺繡「タオール」織、經木麥稈真田に及ぼすの見込を以て孜々として軍人遺族癡病兵及其の家族に手工藝を傳習し聊か救護の實を舉げむことを期せり「ドローンウオーク」就業者には三箇月間一人月額四圓五拾錢を補給する方法にして四十年一月現在就業者遺族四十九人癡病兵十三人別に遠隔の地に在ては各郡市私設工場に委託して補給傳習を行はしむ其の數十二歳以上四十五歳以下の婦女子無慮二千人、熟練者一日の工錢は拾錢乃至參拾錢とす因に愛國婦人會三重支部會員の數は左の如し

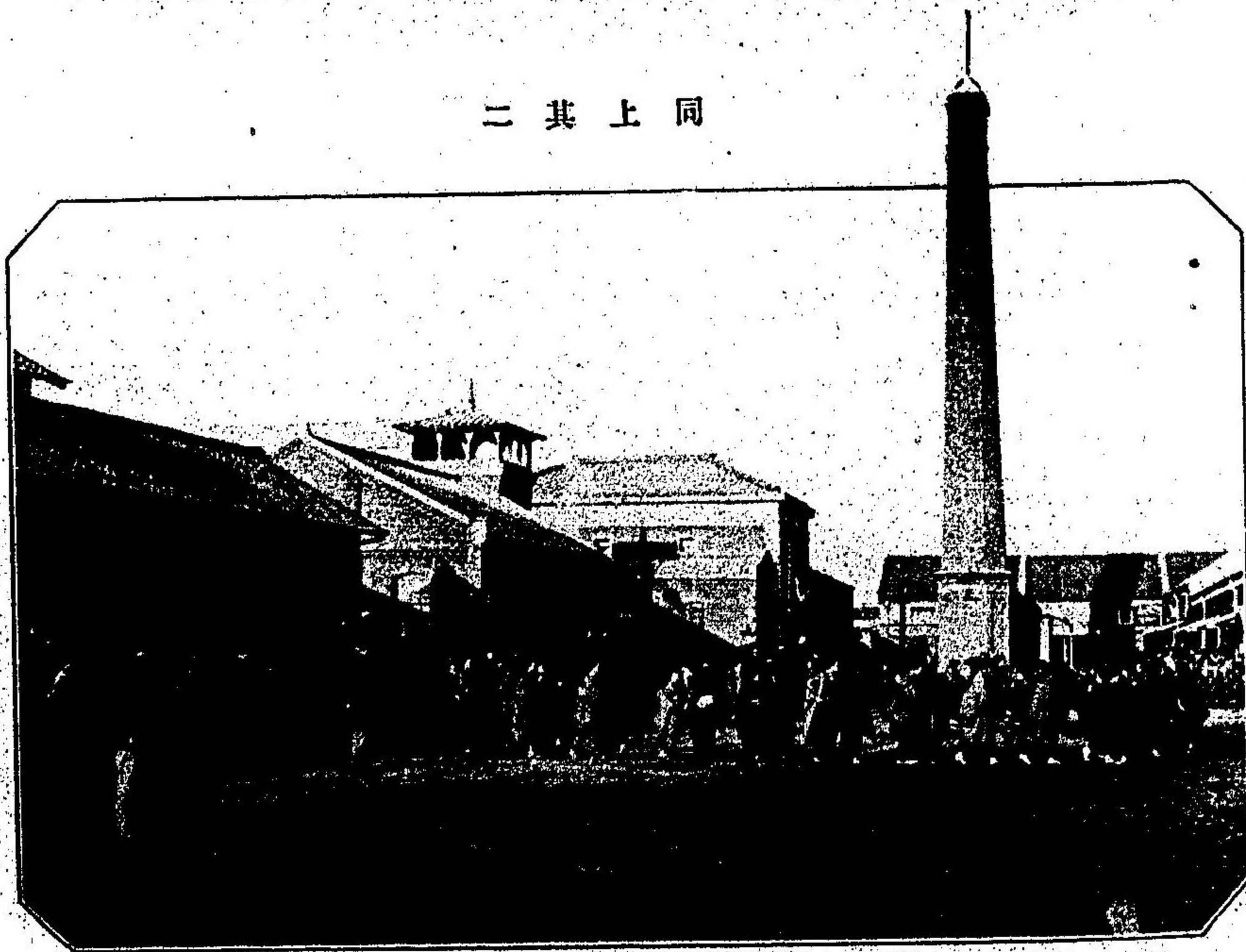
- |      |      |      |         |
|------|------|------|---------|
| 特別會員 | 四〇二人 | 通常會員 | 一一、四五六八 |
| 贊助員  | 三四六八 | 計    | 一二、二〇四八 |

一 其場工分津社會織紡重三



津市

二 其上同

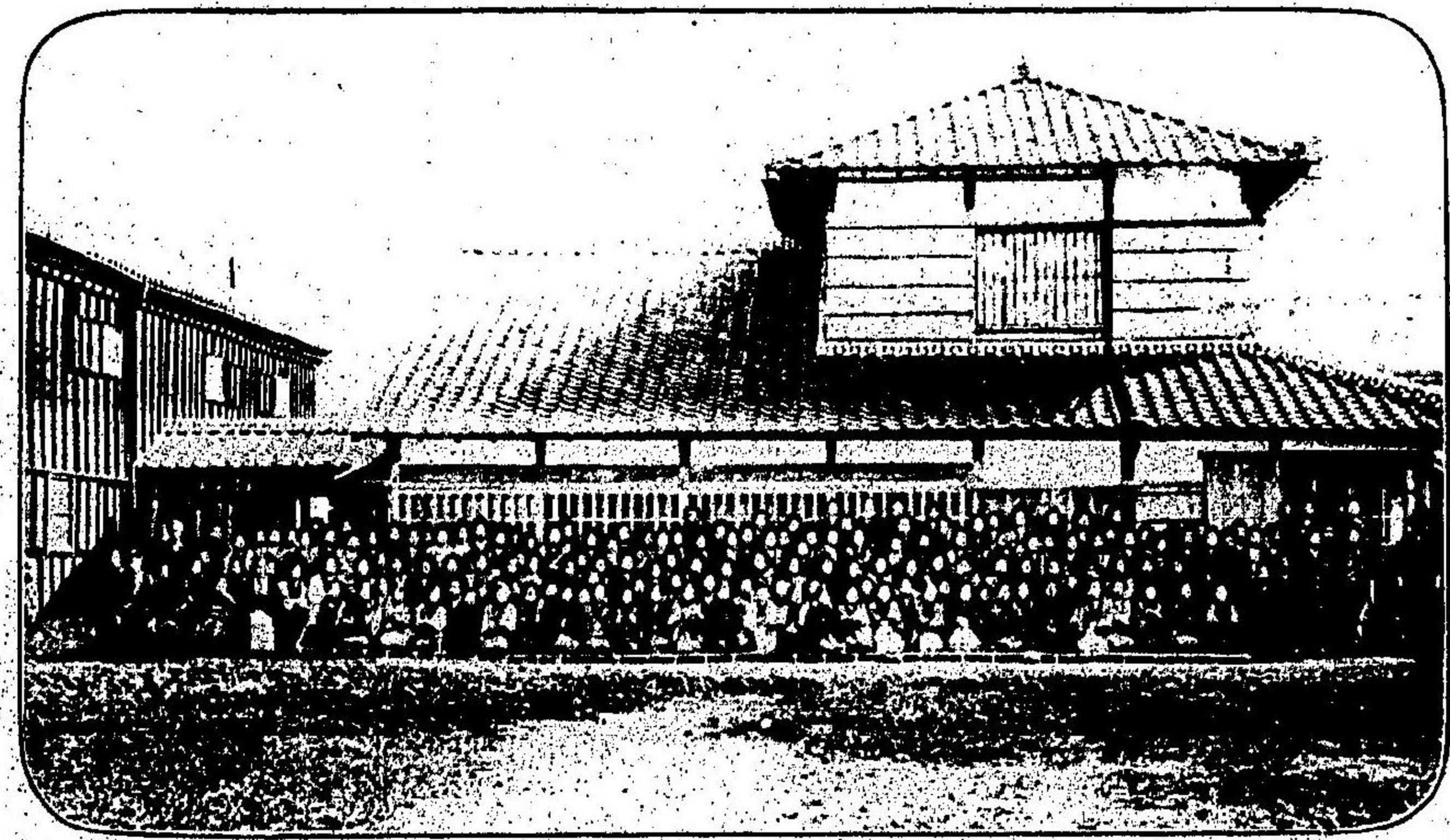


七三



●三重紡績會社津分工場(津市阿漕驛より十二町) 四日市  
 市三重紡績株式會社津分工場は紡績部を明治三十年に創め織  
 布部を三十四年に開き従業者三千名を有し機臺八百八十七、  
 鍾數二萬七千四百五十六にして主として織布原料綿糸を製造  
 し天竺、粗布ネル生地等一年の産額約三千萬碼を産す工男工  
 女の保護及取締最も其の方法を得て無教育者には作業の餘暇  
 を割て(朝夕七時より九時迄)普通學科及裁縫手藝を授け又従  
 業者療病の爲めには別に療院を設け一般の衛生及傷病者を收  
 容す

●關西製糸株式會社(津市大字津興柳山に在り) 明治二十  
 九年六月の創立にして資本金額拾萬圓社長川喜田四郎兵衛社  
 務に執掌し一箇年拾五萬圓の生糸を産出し品質の精良を以て  
 貿易市場に鳴る近時中原式乾燥器數臺を据付け益々製品の改  
 良に努む



關西製糸株式會社

●津商會議所 明治二十六年五月の創立にして津市丸の内(舊城址外濠側)に在り三十九年一月現  
 在の議員選舉權者は個人三百四十八人法人十一人法人役員十六人にして議員三十名を選出し三十九年  
 度豫算金千九百八拾圓六拾錢を以て一般經濟事情を調査す現任の役員左の如し

會頭川喜田四郎兵衛、副會頭橋本清助、常議員會計部長村田長左衛門、同庶務部長後藤倍吉、常  
 議員小島惣右衛門、同内多正雄、同澤廣保、同國分市太郎、同橋本利助、書記長毛利恰

津市商品輸出入表

年次	輸 出		輸 入	
	縣内へ	縣外へ	縣内より	縣外より
明治三十八年	一、七八〇、二七四	五、二三四、六一七	三、二九八、七七三	五、〇六三、六二八
同 三十七年	一、九九七、〇五八	四、二四五、二一〇	三、四六九、七三九	三、四六七、五三二
同 三十六年	一、四三二、九一四	一、七四四、六四八	二、五七三、八七四	一、七二二、九八八
同 三十五年	一、二九九、〇八九	二、〇〇八、三七八	二、六五九、三四〇	一、七〇二、七九〇
同 三十四年	一、六九四、八四三	二、一七五、〇四三	三、一〇三、五四七	一、九七五、〇一四
同 三十三年	一、六五二、一八三	一、八六七、三四五	二、九四六、八七一	一、九五五、六八七



津商業會議所



明治三十三年九月農會令に據り繼續の認可を受け専ら農事の改良發達を圖るを以て目的とせり四十年年度經費總額は貳萬九千九百餘圓也

●津米穀株式取引所(津驛より十町) 津市東町にあり明治二十六年十一月の創立にして資本金拾萬圓(拂込濟)積立金五千貳百圓を有せり仲買人の數甚た多からされども確實に取引を行ふ爲め近時漸く同所の信用を博し來れり三十八年中に取組たる出來高を擧ぐれば左の如し

米 四十一萬四千四十石

穀 五百五拾八萬七千八百圓

式株 七千二百九十八株

四拾四萬八千五百餘圓

●三重縣農會(津市榮町)

明治三十一年二月の創立に



津米穀取引所

●三重縣農事試驗場(津市阿漕驛より二町) 創立は明治十三年七月にして試驗地は三箇所に散在せしため監督作業の不便あるに依り三十四年四月現在の位置に移轉せり三十九年度までの建物試驗地は左の如し四十年年度は更に擴張の計畫あり

建物 二百六坪七合五夕(平家建)

田	一町歩
畑	七反歩
果樹園	三反歩

●縣立師範學校(津市丸の内) 舊城趾の傍にあり明治八年七月三重縣師範有造學校の設立に起原し十年一月山田師範學校と合併して三重縣師範學校と改め二十年三月尋常の二字を冠し三十一年四月現今の名稱に更めらる生徒三百三十八名

●縣立高等女學校(津市柳山) 本校の創立は明治三十四年にして當時は丸の内津市女學校舎を假用せしも三十七年七月現在の校舎に移轉せり其の地街衢を隔て、阿漕浦に近く潮風と天籟とは最も女子修徳の地に適す生徒本科二百六十二名補習科二十二名別に技藝專習科生百十二名

●私立勵精館(津市丸の内) 明治十五年の創立にして後幾多の變遷を経明治二十七年に至り教科を



改めて高等普通學科を授く現在生徒二百五十名館長川村寛本縣教育家中宿徳を以て聞ゆ

### 安濃郡

●安濃浦 ▲ 塔世川口より南の海岸一帯を稱し安濃郡建部村に屬す謠曲田村に見えて有名なる安濃の松原は當時北濱と稱し萬松一路横まに亘りて中空に懸るか如く南雲出か崎と相對して海水漸く漲の如く水深くして波穩かに百船千帆を吞吐して日本三箇の津に算へられしものなりと云ふ會ま明應七年の震災あり百尋の港灣を埋め數十町の田圃を奪ふて汀を遠くし海を淺ふし今乃ち天然の海水浴場となり泗水に宜しく養病に適し夏秋引網の狀亦遊客を娛ましむるに足る

みわたせばあの浦風ふくゆゑにいせの濱萩なひきぬるかな

爲業

伊勢の海あの松原まつともいにし日數に浪はこえつゝ

爲家

●汐留の松 ▲ 建部村大字乙部にありて古は潮水常に樹下に達し鹽焚く煙たなひきて古港の名残をこの松に遺せる今は柵を結びめぐらし注連など張り華表をたてゝ明應震災のそらおそろしき語り草となしぬ

●縣立第一中學校(安濃郡新町) ▲ 津停車場及阿漕停車場を距る共に十五町安濃郡新町大字古河町にあり明治十三年一月の創立にして三十二年三月三重縣第一中學校と爲し同年四月現今の校名を命ず生



徒六百名

朝日館前網引の圖



●富田織布工場(安濃郡新町大字古河) 第二工場は明治三十九年二月の建築に係り汽罐汽器は三重鐵工所の製作にして三十四馬力を有す織器は豊田三十八年式百五十臺を据付け清韓輸出向白木綿(巾一尺二寸長五丈物)の産額一ヶ年十二萬六千反を製造すへし工場建物四百五十坪敷地千二百坪にして外に寄宿舎食堂倉庫糊付場乾燥室等あり場主富田謹三は伊勢綿製造の爲め三十六年四月別に津市西新町に第一工場を設けてバツタン織器四十臺を据付け内地用木綿



朝日館

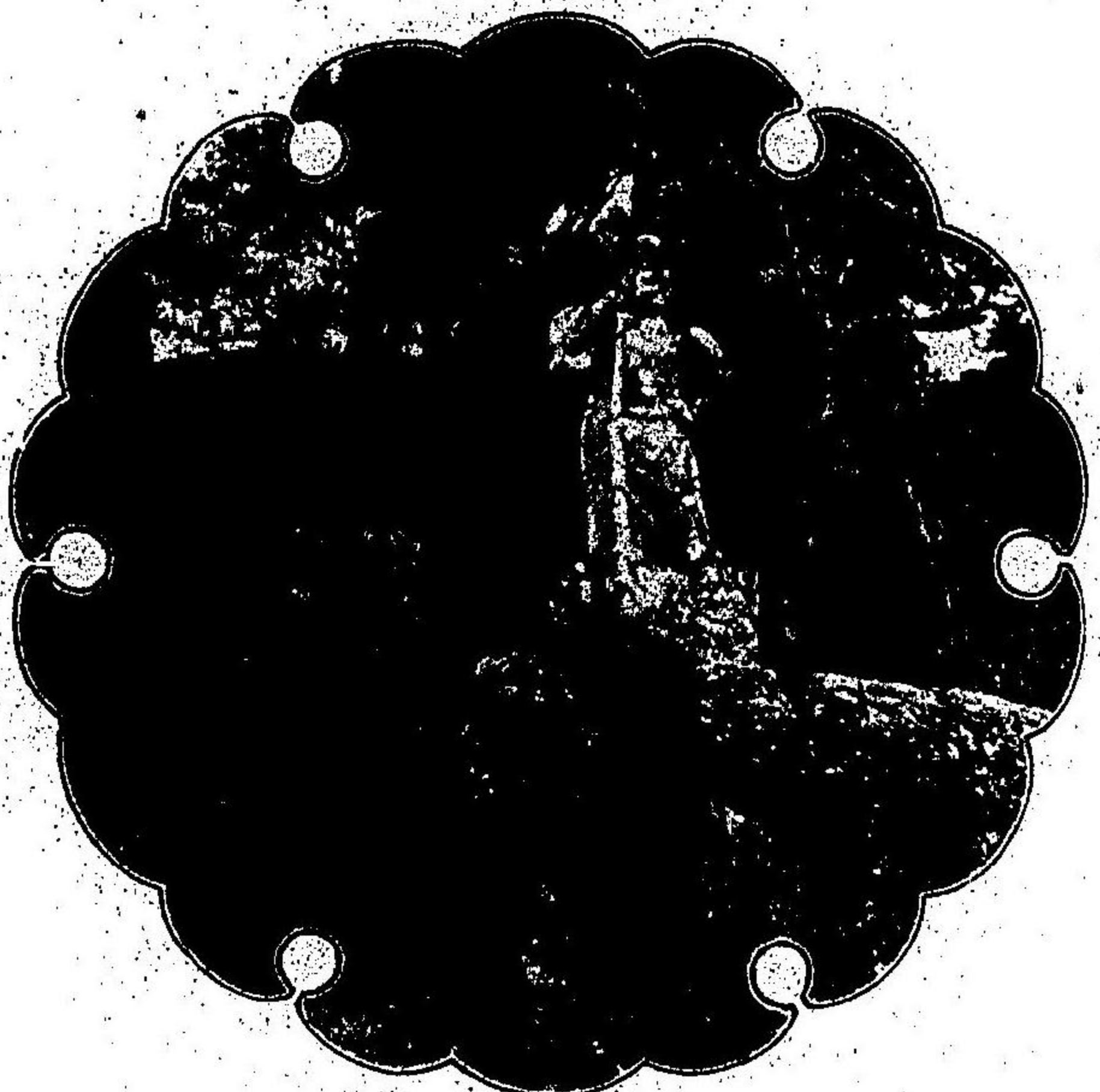
綿一ヶ年の産額二萬八千反に及ぶといふ

●海水浴場(朝日館)

安濃浦穏波清風の境にありて養痾泗水の客を迎へ常に鮮魚を蓄へて不時の需に應ず游泳倦來りて松籟颯々の間に砂上背を曝らして引網の大漁を観るか如きは其の快都人士の想ひ到らざる所なるへし津驛より十五町餘塔世川に沿ふて下るへく又大門町よりも腕車の便あり

●長谷寺の石佛(津驛より二里) 安濃郡片田村大字長谷にあり文祿朝鮮の役津藩祖藤堂高虎水軍の將として各所に轉戦し功あり兵を率ひて凱旋するの時彼の地にて獲たる石佛の巨像數基を領地へ送致し建部村大字乙部淨明院及當寺へ分置したるものにして其彫工優逸好古家の稱贊を博せるものなり境内甚た潤からすと雖

長谷寺の石佛



も土地高燥空氣清澄にして毎年盛夏の候脚氣患者の避暑遊覽頗る多し

●淨明院の達磨大師と石佛(津驛阿漕驛より二十町)

安濃郡建部村大字乙部にあり達磨大師は正保



淨明院の石佛



の昔平氏族を擧げて西海に漂ふの時維盛近臣を隨へて高野に抵り剃髮の後跡を晦まして當寺を開基し闔族の供養回向を營む其の族跡を逐ふて落合ふも



淨明院の摩達

三年加賀の住小島作左衛門の作にかゝり丈七尺五寸跏坐の大像なりと傳へ言ふ津藩主藤堂高次曾て加州侯所持印籠の根付たる達磨の彫刻を激賞せしことあり後加州侯より根付を獻すへしとて右の巨像を贈與し來りしに因り高次之に應へて銅盃を贈りしか盃大にして門に入らず遂に庭園の水盤に供せりと本院には長谷寺征韓役戦利品と同時に分置せし石像三基あり古色蒼然好事家の推重する所なり

●平維盛卿の墓

(一身田驛より

五里) 安濃

郡河内村谷中成

覺寺にあり壽永

平維盛の墓



安濃郡

の三十一人の多きに及び平家相傳の彌陀觀音勢至三尊の畫像

(傳教大師作)及貞

盛の鎧中にありし

釋迦普賢文殊三尊

の木像(同作)を藏

せり今巖垣彦明の

撰にかゝる墓碑銘

并序を抄録す

君諱維盛姓平氏

内大臣重盛長子

也安德朝仕至從

三位左近衛權中

將壽永役自八島

軍營潛行至熊野宿髮繼更名淨圓研樹白而書絕命之歌泛



安東村長岡の茶園

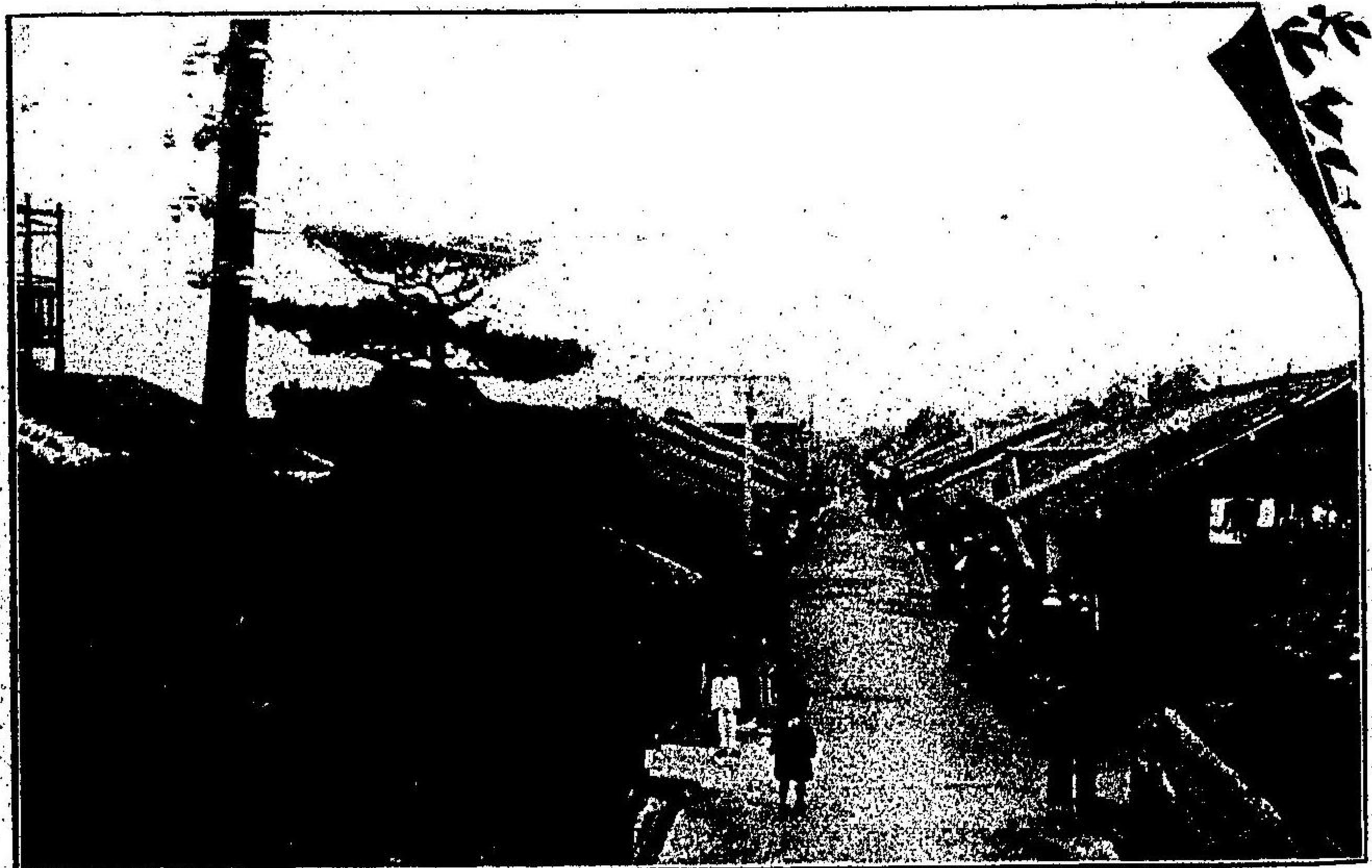


舟歿海而死事詳于盛衰記平家語然其實跡而遁隱棲此地承元四年庚午三月念八日病死年五十三葬于後岡君在日既以宅爲佛刹今成覺寺是也而其邑中子孫在者二十一家隸族之後二百五十餘戶邑性嚴院寬流尊者君之後裔其文成覺第十八世寺主時爲本國專修寺大法主所管以故尊爲大法主京院隆平君之卒距今幾六百年今按寬政丙辰九月尊者爲其預修遠忌追福依樹石于墓冷余作銘與余尊者方外之契乃銘曰

去鐵馬場 尋金仙疆 生死苦海 慈航濟殆  
杳然悲遯 欣淨遂願 法種不墮 有錫爾類

●安東村の茶園(津驛より一里) 安濃郡安東村は屈指の産茶地にして又優良の品を産す挿入の圖は斯業に熱心なる大字長岡山路丈太郎の茶園なり

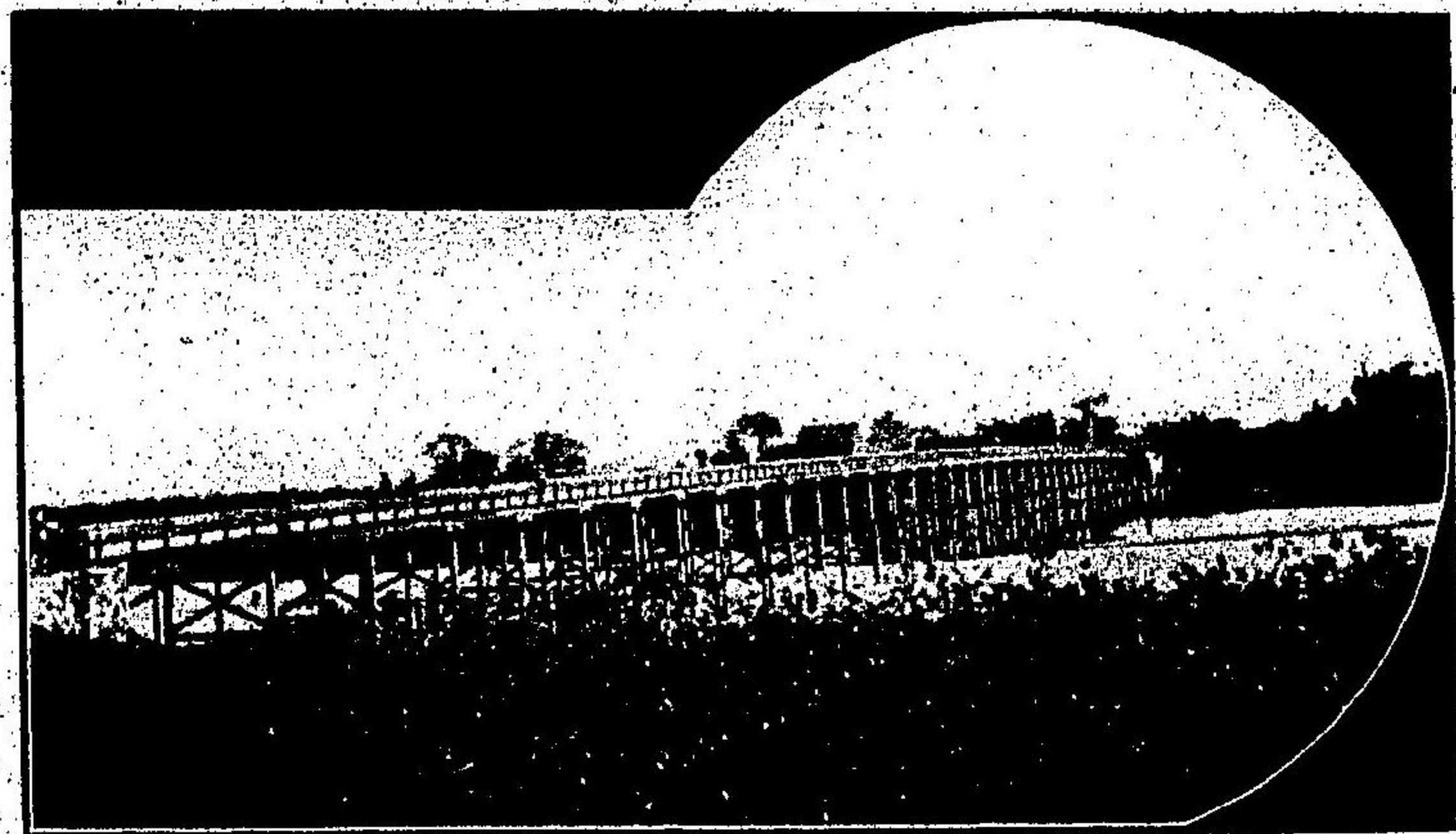
久 居 町



一志郡

一 志 郡

●久居町 一志郡の都邑にして戸數六百二十八、人口二千九百八十、郡役所、警察署、縣立農學校あり近郊桃園村の桃林は平野一帯十數町に亘り野趣俗塵に染まらず花時觀客多し阿漕停車場より一里餘人車の便あり津市より自動車軌道の敷設亦近日に竣功すへし



雲 出 橋



香良洲神社



洲海中に突出せる處を云ふ香良洲神社あるに因り香良洲浦の名あり伊勢灣風景第一の地にして砂清く

●雲出川 高茶屋驛の南約十四町にして雲出川を渡る此川伊勢の中央を貫流するにより之を分界として南勢北勢の稱あり深川市場に古來聲價を擅にせる一志米は多く此川の水利に依る一志郡は地味肥沃農産の富饒なること縣内に冠たり  
雲出川せき入てまける苗代に 俊 頼

秋の空こそかねて見えけれ

●香良洲神社 一志郡矢野村海濱に鎮座せる縣社にして境内廣く松樹鬱蒼たり天照太御神の御妹神なる稚日女大神を祀る養蠶織縫の神とて崇奉甚だ深く毎年七月十五日大祭典を行ひ猶は毎年舊曆七月十四日は夜香良洲と稱し夜中遠近よりの參詣甚盛なり

●香良洲浦 津市藤枝町より一里半高茶屋驛より三十二町雲出古川を渡り長堤櫻花の間を過ぎて到るへき矢野村海濱長

香良洲浦

(一 其)



松古く風光舞子に似て而て舞子に軟く夏時泗泳に適し海水温浴は松阪屋及日出館にあり客室清麗生魚の潑瀾たるを食膳に供す盃を啣て征帆に對せば朝熊山前に謁し伊良古岬傍に待す醜顔白沙を蹴て亂松の間を逍遙せば老幹老朶佶屈として盤桓し千株萬根廣袤十五町歩に亘る鯨面の蛋婦前に近きて啞然其の天女にあらざるに驚き浴客の曝輝風に舞ふて呆然其の白鶴にあらざるを訝る地境然らざるを得されはなり

爲 家

梓弓春といふよりのふゆの

矢野の松原時をしるらし

●榊原温泉 阿漕停車場より五里十九町高茶

屋驛より四里二十町を西に距る榊原村に在り皮膚病腸胃病肺病等に効驗あり浴客常

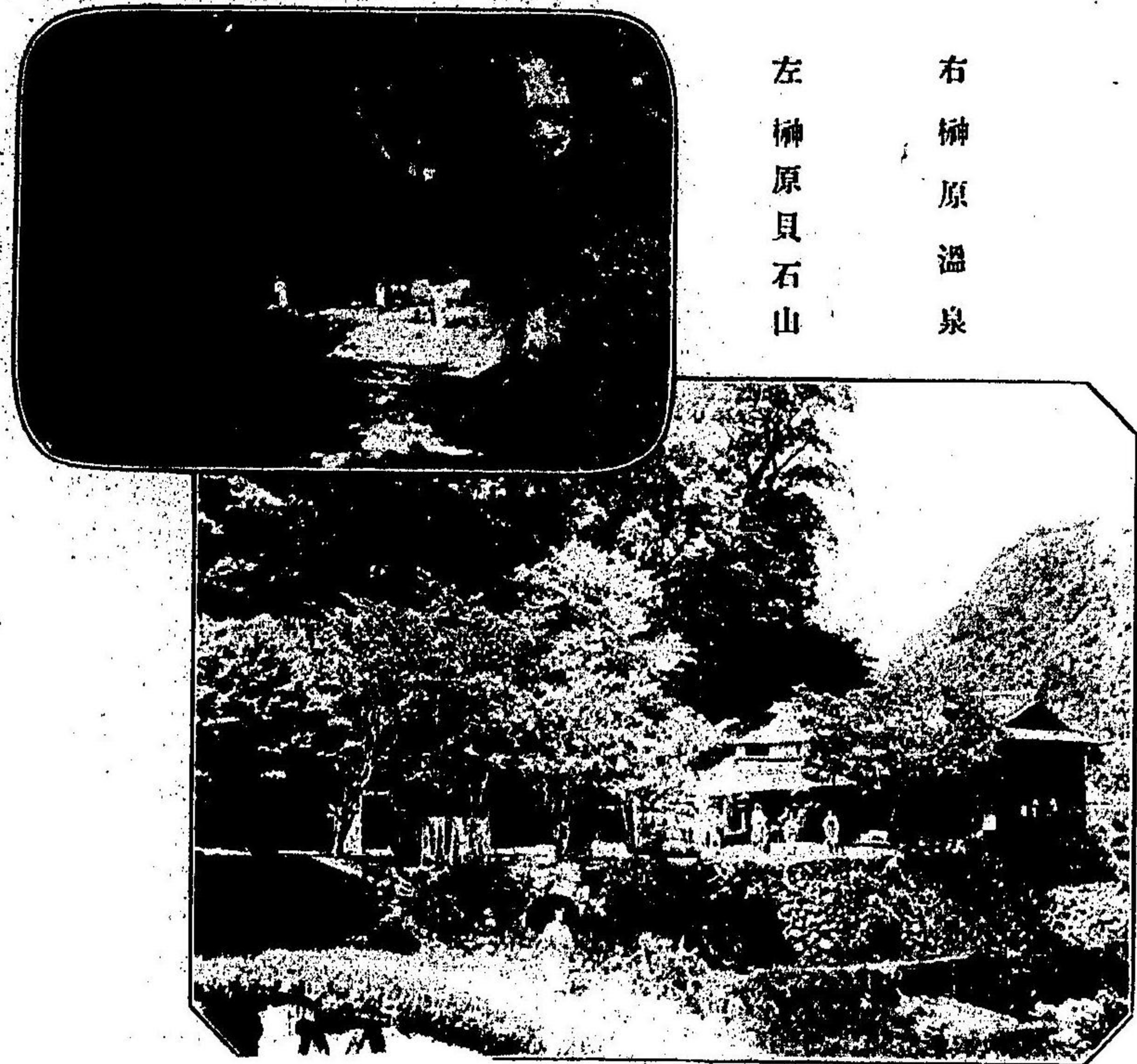


(二 其) 香良洲浦



右 榑原温泉

左 榑原貝石山



に多し附近貝石山とて岩石を砕けは貝類の化石出つる山あり其の麓に湯の瀬川の碧流滾々として風景甚妙なり

北畠國永

世の中の人はずつれと千早振

神にまかせて住む榑原

常陸

よの人の戀の病のくすりこや

七栗の湯の涌かへるらん

◎白米城趾、六軒驛の西に見ゆる阿坂山の頂上樹形をなせるは即ち城趾なり國司北畠滿雅卿足利勢に圍まれ水竭きたるに白米にて馬を洗ひ貯水猶富むの狀を擬して敵を却けたる古城趾なり

白米城趾



◎北畠神社 御所跡に鎮座し親房、顯家、顯能の三卿を祀る寛永年中北畠の末流鈴木某遺墟の壇滅せんことを慨き此祠を建立せりと云ふ近傍に禁中社あり後醍醐天皇長慶天皇を祀る國司の禮拜奉仕せし社なりと傳ふ又雪姫櫻と稱するあり由來詳ならざるも國司別邸の前栽にして愛翫厚かりしものなりと云ふ

◎多氣御所跡 一志郡多氣村に在り北畠國司累代の城地にして多氣御所と稱へしなり往昔南

朝の柱石北畠准后親房の子顯家、顯信の二卿は王事に殉じ三男顯能卿伊勢國司に任せられ芳野の藩屏として南勢三郡を領し支族の城壘飯南多氣の二郡に點在し九世の久しきに傳ふ後織田氏に奪はる人をして轉た麥秀の歎に堪へさらしむ假山水は昔時内庭の篋を留め青苔石に被ふり老櫻空しく開き米字形の廢池蝦蟇を棲ましむ



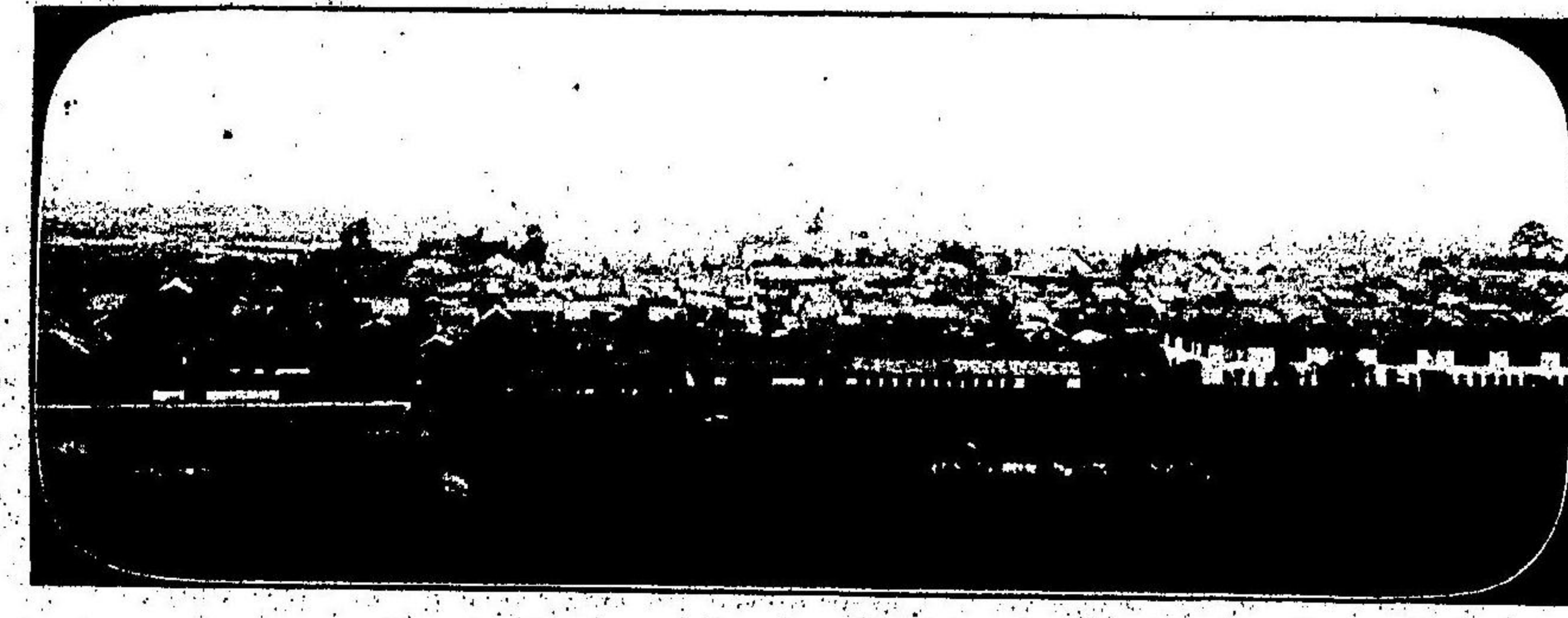
北畠城趾







松 阪 市 街



三 縣 案 内

飯 南 郡

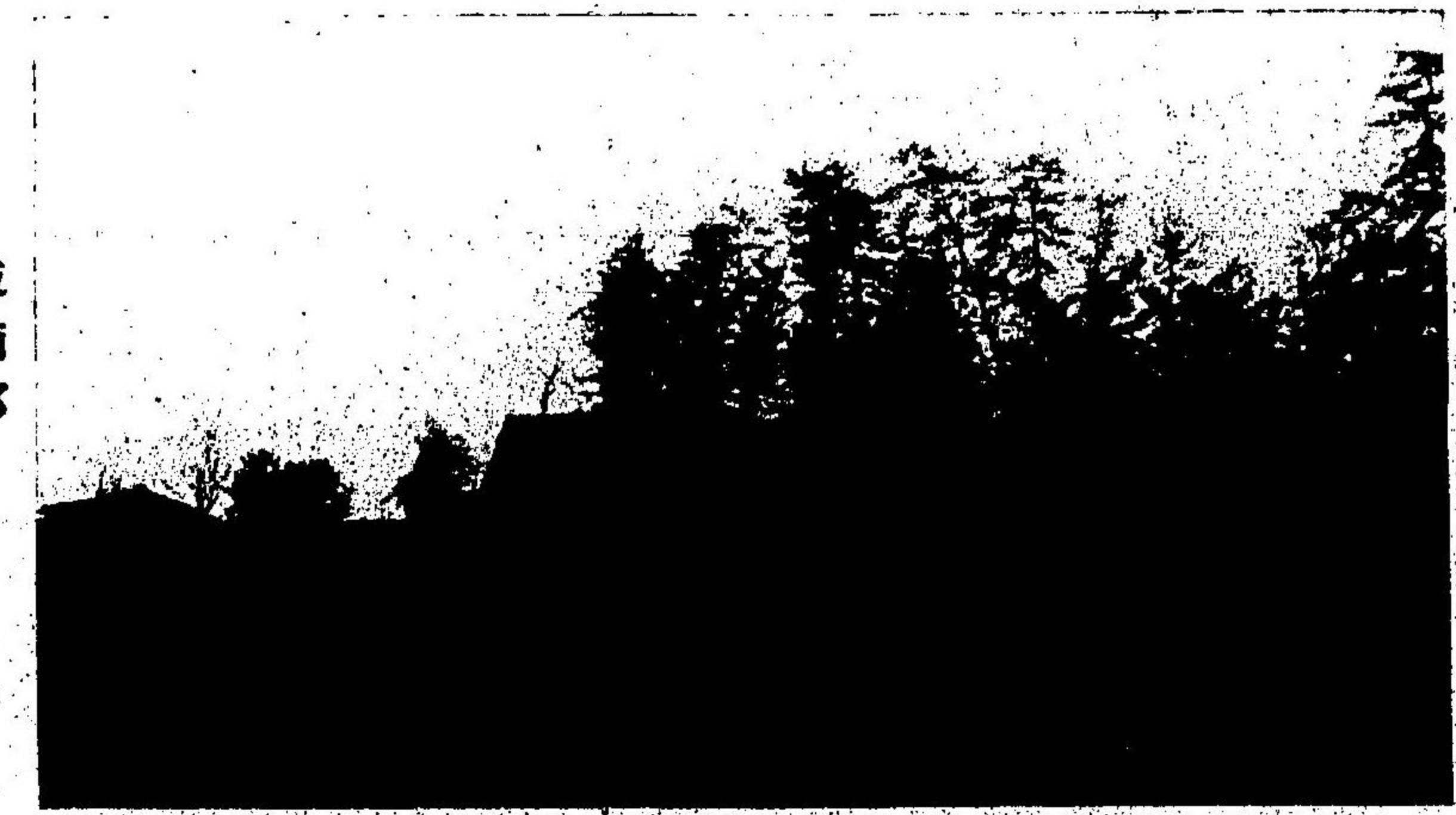
九二

●松阪町 舊紀州藩の別府にして伊勢街道津市と宇治山田市との中間に位し參宮鐵道松阪停車場あり東一里に大口港を控へ南勢の中樞として貨物集散の要地たり戸數三千二百六十四、人口一萬四千七百七十七を有し夙に世に識られたる松阪木綿の産地は即ち此地なり  
物産の重なるものは左の如し

木	綿	一箇年産額	四九三、五〇〇 <sub>反</sub>	三九四、八〇〇 <sub>円</sub>
羽二重織	同		五九五 <sub>疋</sub>	一三、〇八七
米	同		二〇四六	二九、九七六
茶	同		一九九〇〇	三〇、〇九〇
菓子	同		不詳	五〇、五〇〇
羽毛布	同		三、一二五 <sub>疋</sub>	五〇、三五

かへりこんほとを契らん忘るなよ我まつ阪の松ならばまつ 長明

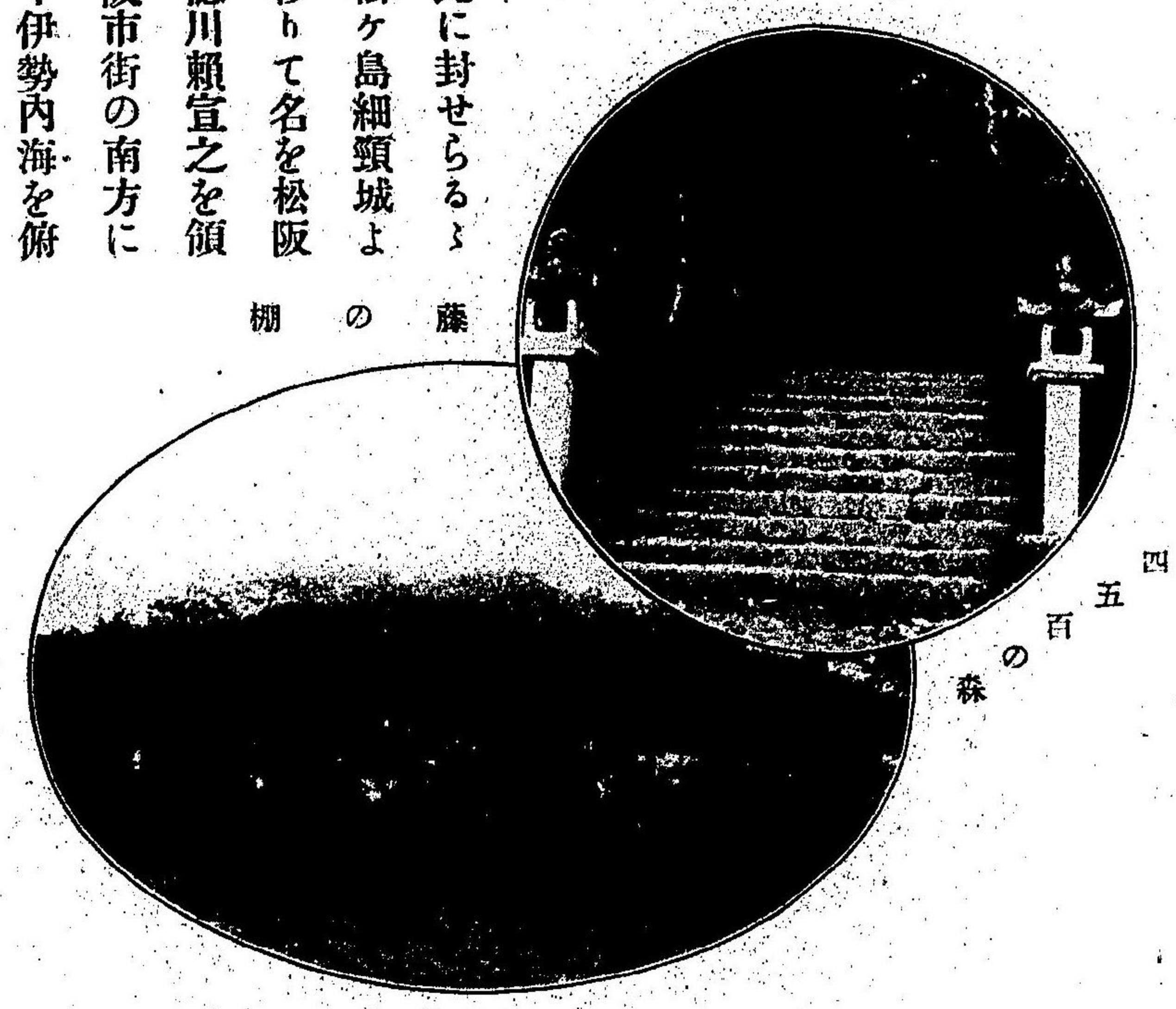
松 阪 公 園



飯 南 郡

●松阪公園 松阪城址なり元龜元年北畠國司の家臣潮田長助始めて之を築き四五百の森と稱す天正十六年蒲生氏郷の此に封せらるるや一志郡松ヶ島細頸城より此地に移りて名を松阪と改む後徳川頼宣之を領す城は松阪市街の南方に位し墨高く伊勢内海を俯

の 家 臣 潮 田 長 助 始 めて 之 を 築 き 四 五 百 の 森 と 稱 す 天 正 十 六 年 蒲 生 氏 郷 の 此 に 封 せ ら る る や 一 志 郡 松 ヶ 島 細 頸 城 よ り 此 地 に 移 り て 名 を 松 阪 と 改 む 後 徳 川 頼 宣 之 を 領 す 城 は 松 阪 市 街 の 南 方 に 位 し 墨 高 く 伊 勢 内 海 を 俯



九三



瞰すへし頂上に南龍神社あり紀伊藩祖頼宣を祀る所なり

●藤の棚

公園の半腹亭榭の庭前に在り明治初年の移植に係る一幹にして千蔓萬絲架棚百二十有餘坪を占め稀有の大株なり

●四五百の森 松阪公園の一部に屬す北畠氏の家臣潮田長助の居城

たりき老樹森々として晝猶寒きを覺ふ因に飯南郡松江村大字塚本に在る潮田塚は實に城主長助(後右京大夫)の墳墓なりと古色蒼然棚すへし

季 吟

木の間もる月に添ふらしよいの森

都をおもふ心つくしは



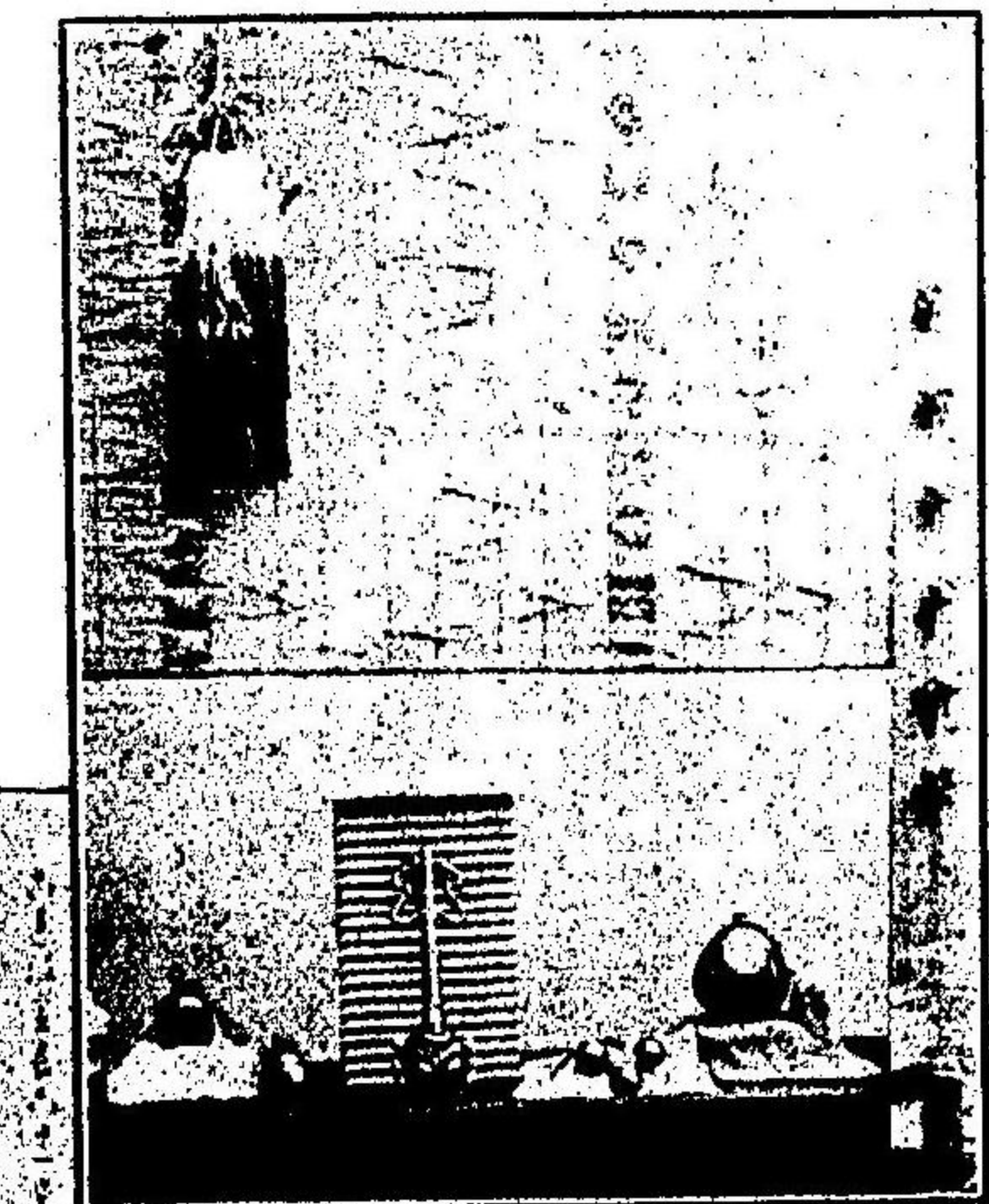
山室神社

●山室山神社(松阪公園下大字殿町) 贈從三位鈴の舎大人本居宣長

翁を祀る翁は享保十五年五月七日松阪に生れ享和元年九月二十九日壽七十二を以て歿せり翁幼にして父を亡ひ二十三歳の春京都に上りて漢籍を學ひ次て醫術を磨き小兒科醫を以て家業となしぬ翁幼より歌道に志し寶曆十三年賀茂縣主岡部眞淵翁の門に入り専ら皇朝の學に心を碎き明和元年五月古事記傳の稿を

起し寛政二年八月六十一歳の像を自ら畫きて「しき島のやまところを人とは朝日にはふ山さくら花」の歌を詠して書添へぬ同四年和歌山藩主徳川大納言に召出され古學を講じたるより以來數次公卿精神の間に往復して神世の古事を説き君臣の大義を闡明して維新大業の機運を啓きし偉績は世に比へつへくもあらかし著書五

十餘部百八十餘卷盡く後學の眞實ならぬはなく從遊の士五百餘人に及び後世人心に徳化を興へたること淺からず



鈴の舎  
本居宣長翁肖像



明治十三年 鳳駕御巡幸の砌其の功勞を思召され特に墓所及神社に勅使を參向せしめられ金幣を賜

ひ社殿改造の際には内帑より金百圓を下し賜ひ十六年二月特に正四位を贈り給ひき三十八年十一月平和克復 神宮に御參拜あらせらるゝや更に從三位に追贈の上策命使を遣はされ遺跡保存の資として金



五百圓を下し賜ひぬ是に於て有志相議り本居遺蹟保存會を起し汎く江湖の志士に訴へ基金若干を醜集して永く翁の遺跡を保存せんことを期せり

●鈴の舎 音に聞ゆる鈴の舎は松阪町魚町にあり今猶皇朝の偉人か心廣く體胖に古鈴を撫じつゝ歌を咏じ道を講じたるの跡を遺して素樸の様を味ひつへく壁間翁か六十一の圖像を挂く之に對せば髣髴教を聞くの感あり

●山室の奥墓 松阪町を距る南一里餘花岡村山室山妙樂寺にあり『本居宣長之奥墓』の七字は翁の自書にして傍に其の高足平田篤胤か追慕の詞

なきからはいつくの土になりぬとも

魂は翁の許に行かなん

の一首を刻せり

●岡寺山繼松寺

松阪町にあり聖武天皇の御代天平十五年僧行基に勅して建立せしめ玉ひしか光明皇后に至り御歸依の如意輪觀音の像を安置し如意院の勅願を賜ふと云ふ天平勝寶三年の秋洪水の爲に



墓奥の長宣居本

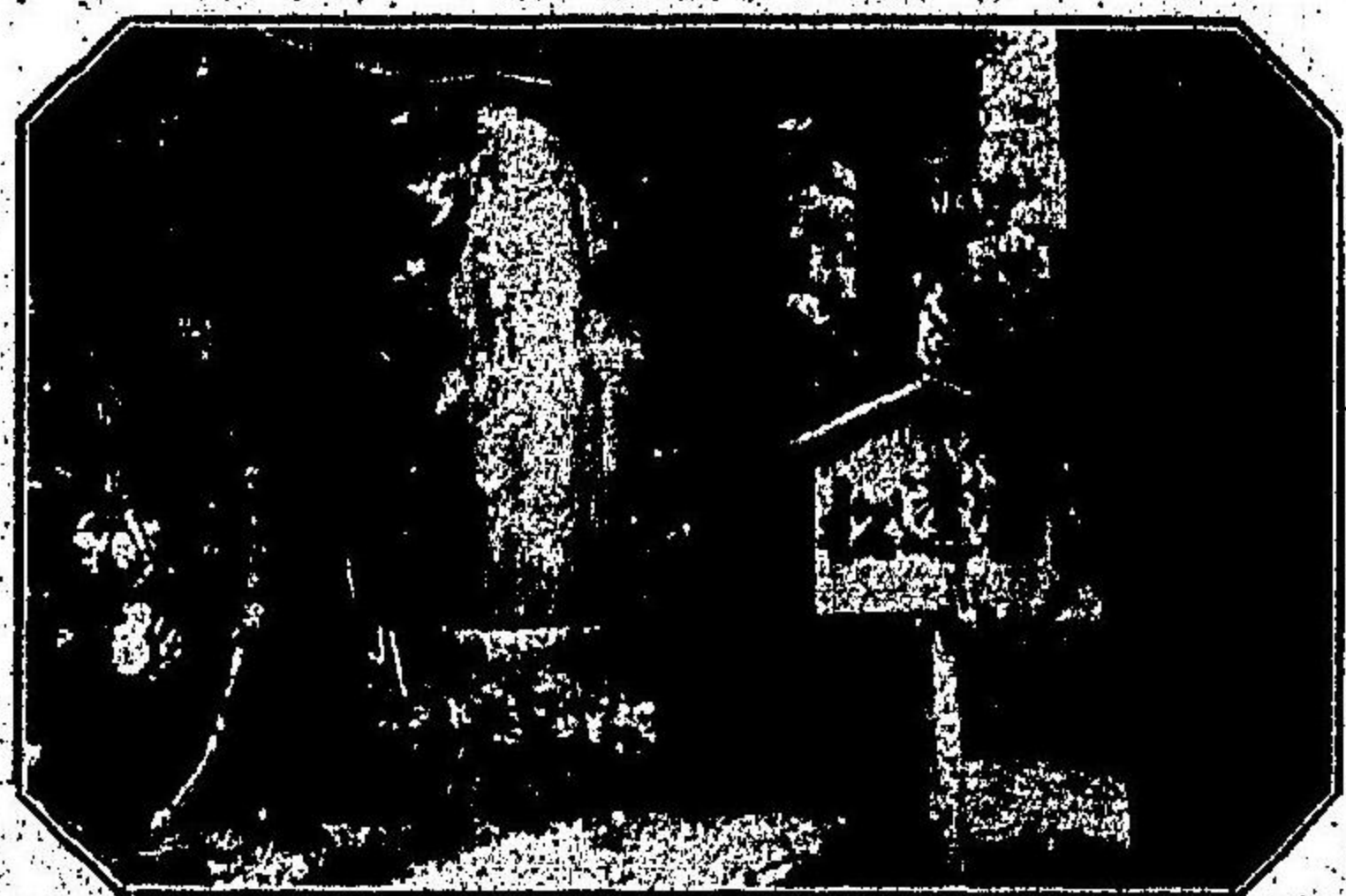
堂宇悉く流失せしか同年八月二十一日度會郡二見ヶ浦に三津某なる者あり漂流の尊像を海中に感得し

且靈告を蒙りて再び石津郷に堂宇を建造し雜髮染衣名を繼松法師と號す即ち寺號の濫觴なりとそ因に曰ふ厄落しの祈願佛として初午の日は遠近より

參詣するもの夥しく松阪第一の般賑を極む庭園の白櫻紅楓は春曙秋晩に宜しく池邊の夏景窓前の冬色共に幽邃溫雅にして騷客の杖を曳く者多し又寶物中普賢延命菩薩、不動明王の畫像、般若心經(弘法大師)金泥の經切(光明皇后)紺紙金泥の經切(聖武天皇)土佐光起の柚子、松平樂翁公の双幅及狩野常信、山陽、棕陰、池大雅、費漢源の山水十二幅等は最も優秀なるものにして其の他の藏幅亦甚た多しといふ

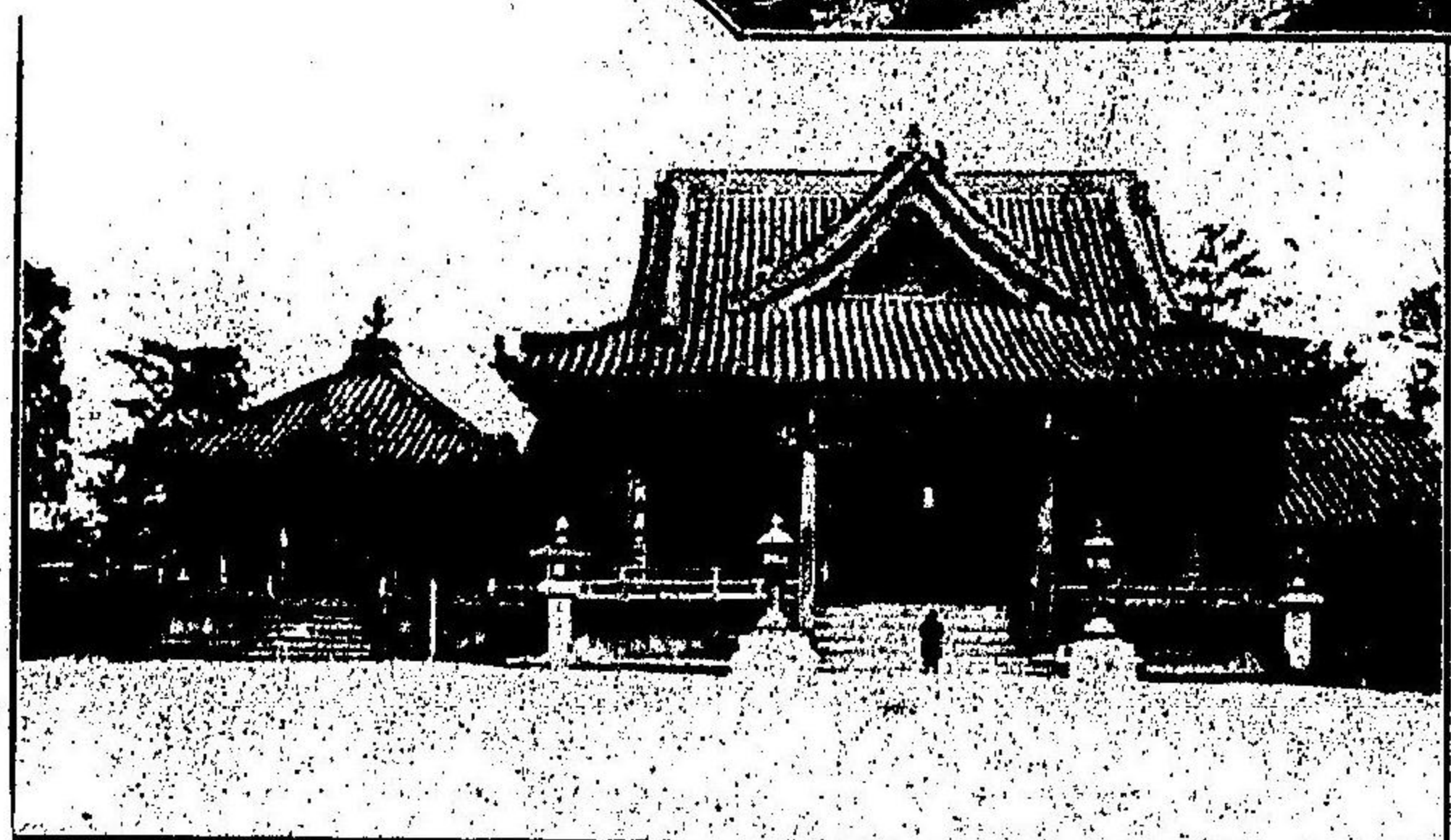
●岩内瑞嚴寺 松阪驛を距る西南一里三十町

伊勢寺村に在り往年國司北畠氏の族岩内光安の



右 安念碑

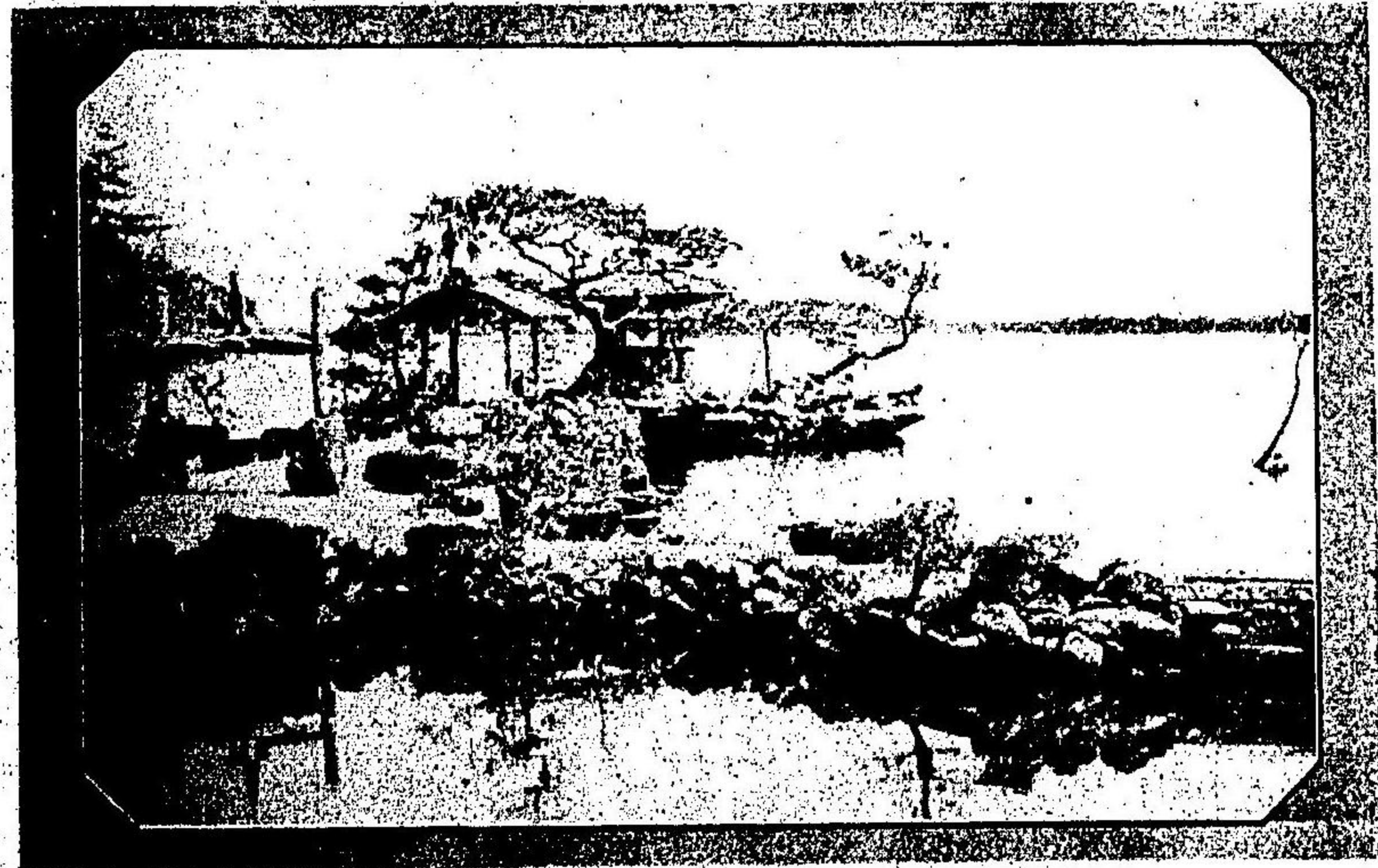
左 繼松寺



飯南郡



岩内瑞殿寺其一



三重縣案内

住せし地にして今尙  
舊墟を存す寺は弘法  
大師の創立にかゝり  
奇巖あり十一面觀世  
音の像を刻す大師の  
刀に成ると云ふ岩内  
石觀音とは之を云ふ  
なり山を妙法と呼ひ  
閣を望洋と稱ふ閣上  
伊勢灣の遠帆を望む  
へし觀音川は境内を  
貫流し巨巖白布を懸  
けたるは雄瀧にして  
霧を吐き絲を練るか



岩内瑞殿寺其二

九八



飯南郡

縣社八雲神社

— みよとをば —

紅梅咲	三月上旬	燕子花	五月中旬
深山躑躅	三月中旬	杜鵑花	五月中下旬
彼岸櫻	三月下旬	花菖蒲	六月上旬
桃李椿	四月上旬	紫陽花	六月下旬
櫻花滿開	四月中旬	金絲梅	七月上旬
紫白藤	五月上旬	楓葉染紅	十一月中旬

◎縣社八雲神社 松阪町日野町に鎮坐し素盞男命を祀る  
松阪總産神として崇敬敦く毎年舊六月六日より十四日まで  
大祭典として神輿渡御式を行ふ各町より山車を曳出し參拜  
者非常に多く殊に有名なる祇園祭と相會するを以て人肩相

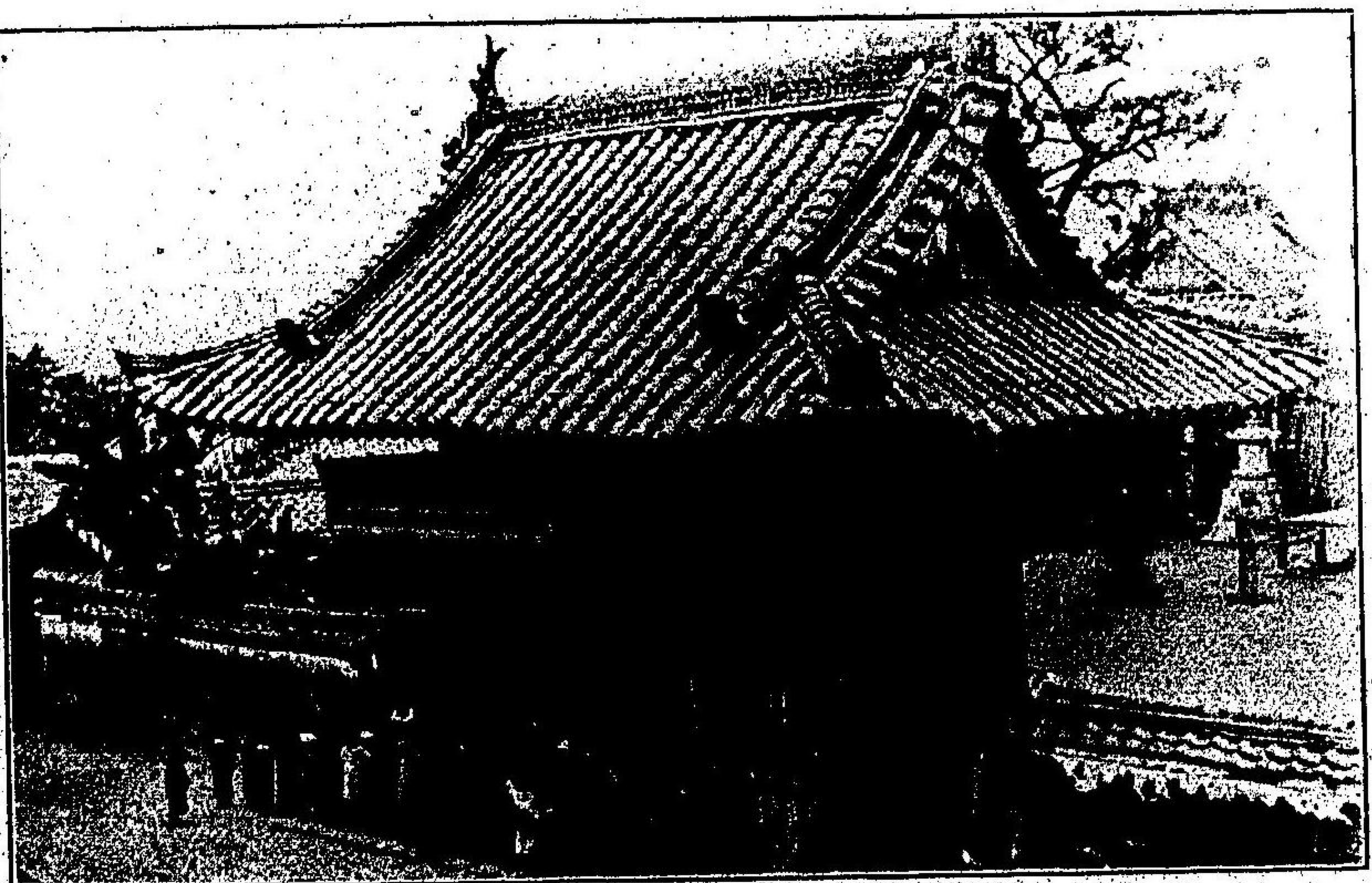
九九



摩訶車穀相擊つ

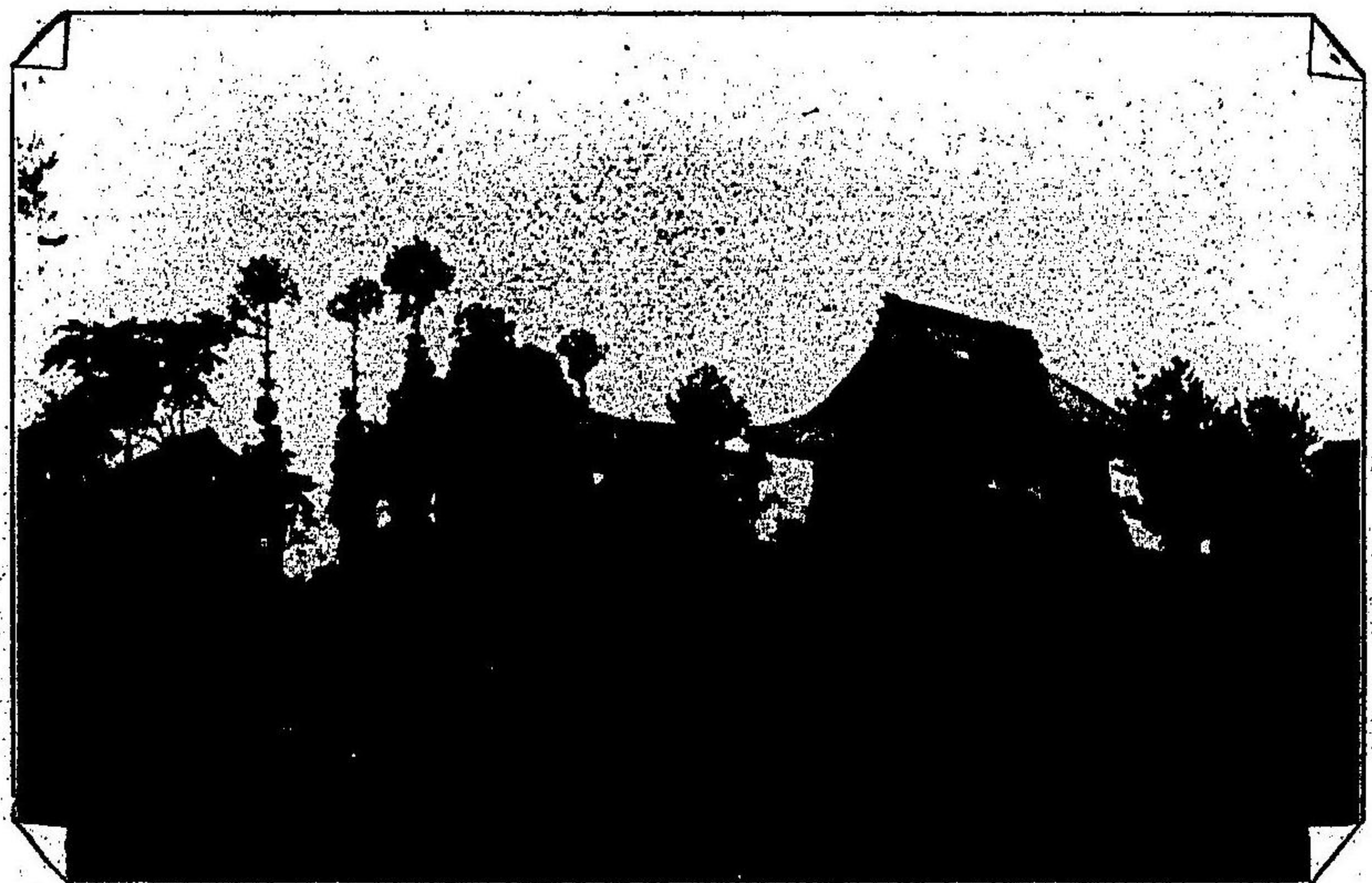
●**藥師寺** 松阪町に接する松江村大字船江にあり利生山瑠璃光院と稱し本尊は行基僧正の作藥師如來を安置す寺は聖武天皇天平二年光明皇后の御違例に丁りて神宣に依りて建立せられ給ひし古刹にして五百石の寺領を授けられ寺號及「瑠璃殿」の宸筆を賜はり歷朝の勅願所たり堂宇は織田氏の兵燹に罹りたる後紀伊國守徳川頼宣の再建したるものにして境内の地藏堂には弘法大師か産婦のために自ら彫まれし地藏尊を安置す世に孕の地藏と稱せらるゝは即ち是なり

●**愛宕山藏泉寺** 松阪町愛宕町にあり眞言宗大覺寺派に屬し弘仁八年弘法大師の開基とす本尊は愛宕大權現並愛染明王を安置す毎年舊曆十二月二十四日大祭典を執行す遠近の商估集まりて歳の市を開く其の雜踏名狀すへからす文祿四年茶道の名人古田織部正重勝封を松阪に移されしより



藥師寺

藏泉寺



飯南郡

此寺に信仰厚く重勝の古墳同寺境外に存せり近來百花園を創設し芬香衣袂を襲ふと云ふ

●**勤王僧安念碑** 松阪町花山寺の境内にあり老松蟠踞大空を覆ふ安念は當寺の住にして「天津風雲の通ひ路吹きとちよ乙女の姿はしとよめむ」の古詠に因みて此松を雲達松と名く碑は即ち樹下にあり安念夙に勤王の志篤く逆臣北條義時を誅せむと欲し同志と謀議し遂に獄中に死す明治三十八年十一月十七日 風駕神宮御參拜に際し特に行在所より侍從武官を差遣さる安念餘榮ありと謂ふへし紫野大徳寺大綱和尚の遺せる詠に云く

住む人はむかしにすこ古寺の

まつのおもはん事もはつかし

●**梅松山菅相寺** 菅相寺は松阪町大字愛宕町に在り寛永年間紀伊領郡宰長野清貞國主の命に依り天神御本地堂並に



菅相寺

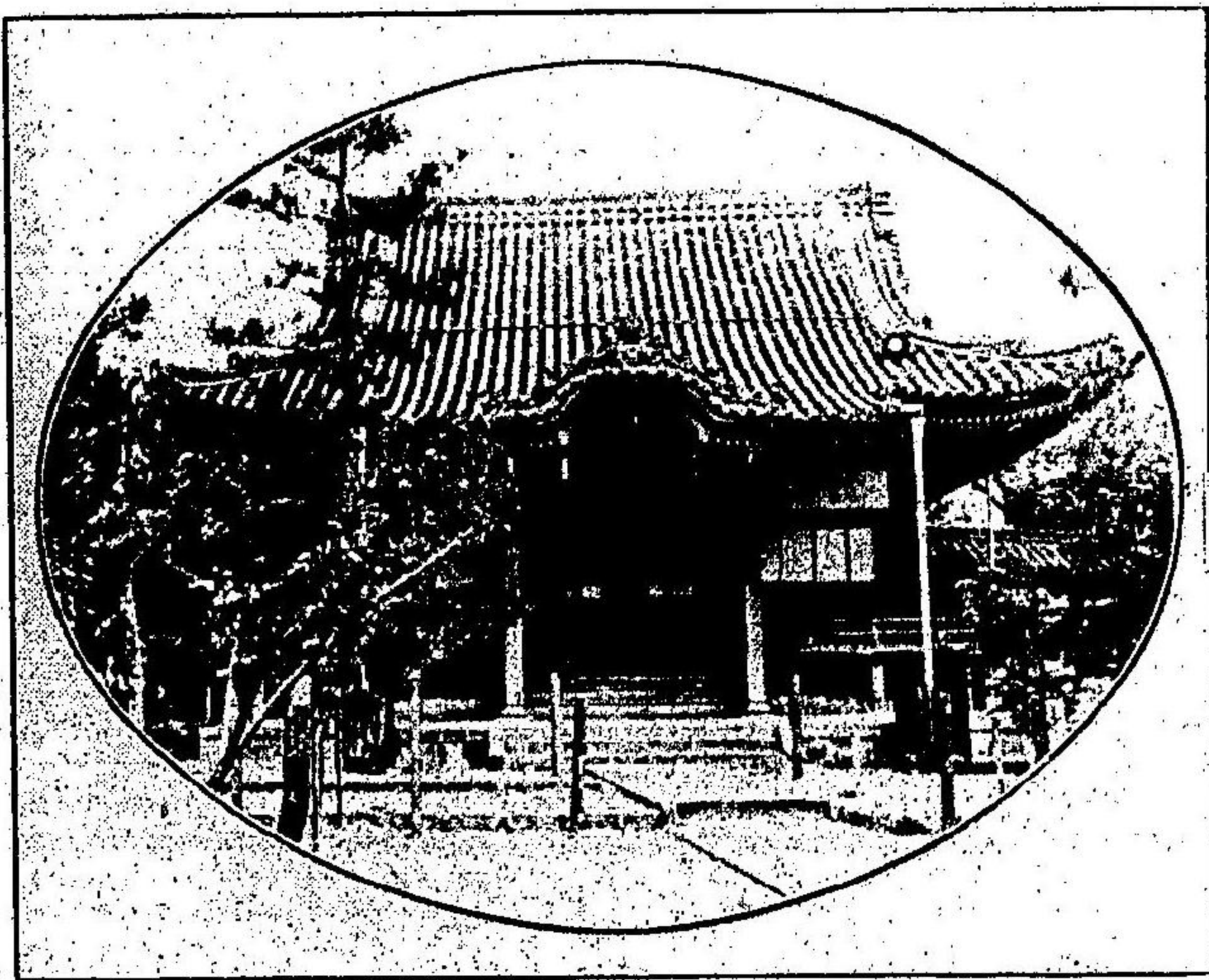


子の創造にかゝると云ふ樓門鐘樓は文化年中の建築にして

當寺を建立したるものなりと云ふ延寶五年二月靈元天皇勅願の繪旨を賜ひ天保五年仁孝天皇勅願の繪旨を賜ふ境内に本居宣長翁選文の石碑あり津藩の碩儒齋藤拙堂翁の記と共に傳は

●一乘寺 神山

村にあり相可驛の近傍榑田川の西岸なる丘陵にして伊勢灣を隔て尾參の峯巒を望み富嶽は遠く雲煙模糊の間に在り寺は天台律宗に屬し聖徳太



一乘寺本堂

古色愛すへし本堂伽藍亦宏壯を極め幽邃閑雅再遊の値あり後峯を城山と稱し仁木義長の牙城の趾にして今猶故墟を存せり

伊藤 東 崖

脩林夾回塔、香刹倚神山、未至天下小、已知超世間、雲深參白足、泉湧照蒼顏、行欲窮奇絕、此道更往還、

齋藤 拙 堂

登々未到梵王城、杳出烟蘿金磬聲、碧巖剔看崖壁字、白蓮擬結社壇盟、地兼輿曠多佳景、天乍寒暄弄爛晴、座倚亭欄双眦裂、碧波如染布帆明、

日下部 鳴 鶴

萬仞神山頂、登臨足暢懷、穿林雲濕袂、踏磴蘚粘鞋、散海青螺點、橫空雪嶽排、古人遺迹在、追慕撫蒼崖、

●光福山朝田寺(松阪驛より十數町) 朝見村大字朝田にあり天台宗に屬す寶龜年間豪族練公長者の創建にして或は云ふ現在の堂宇は承應年中榕見和尚の建營せし所なりと或は云ふ徳治三年堂宇回祿の災に罹りしを僧須散再興せりと孰れか眞なるを知らず本尊は延暦十五年弘法大師大神宮參籠の時神宣



に依り其の年六月一日三禮の下に躬ら彫めし地藏菩薩なり豊煩慈眼固より凡手の作にあらざるにより  
明治三十七年八月二十九日國寶に編入せられたり境内頗る

朝田寺

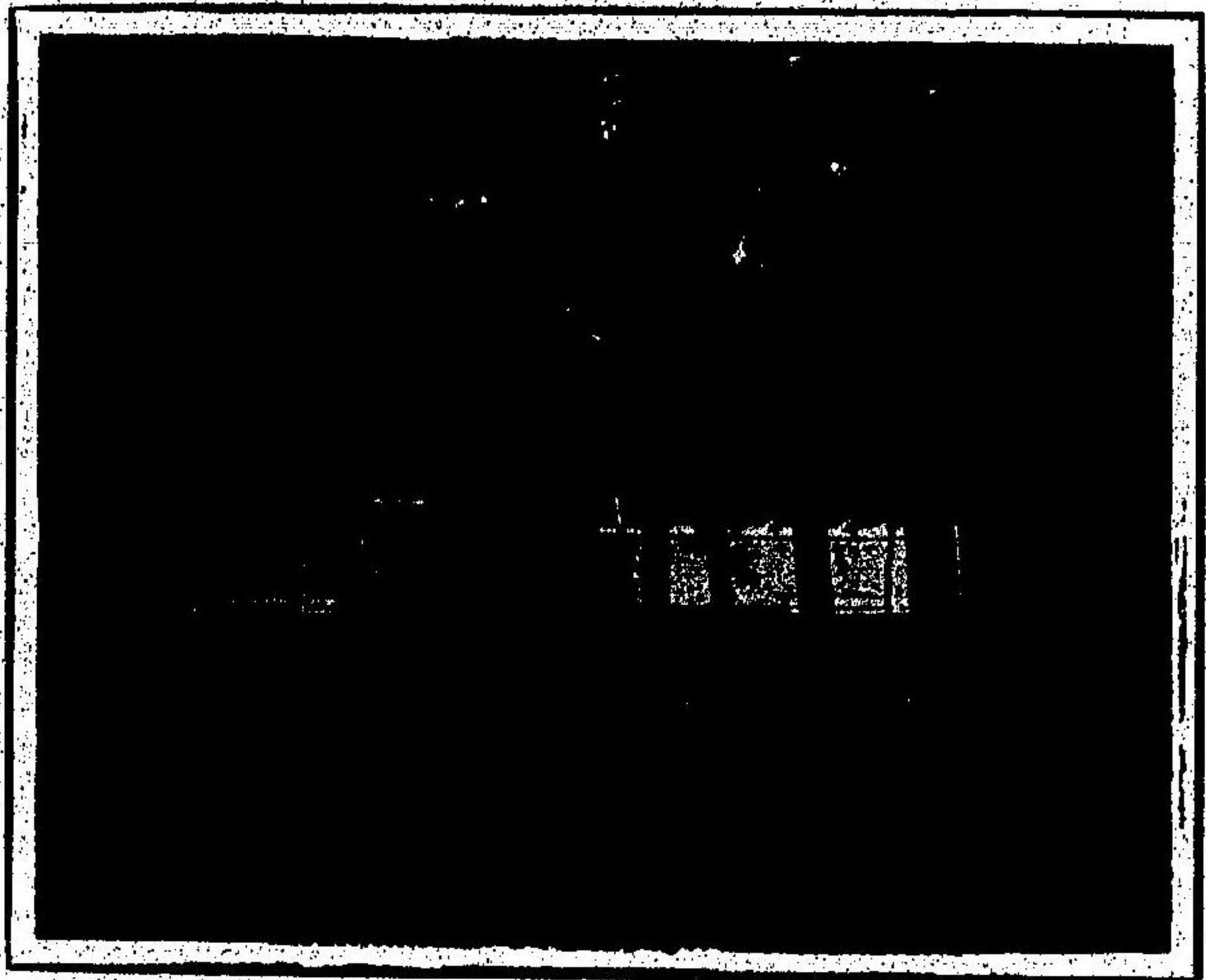


潤く脱塵超俗の靈境なり藏する所の什寶中雪舟筆觀世音慈攝大師の名號尊證親王筆觀世音慈覺大師筆不動尊惠心僧都筆引攝彌陀巨勢金岡筆十六善神等特に著はる空海大阿闍梨の作と傳ふる印文あり特に渴仰の士女に授くといふ

●神麻績機殿神社及櫛田川

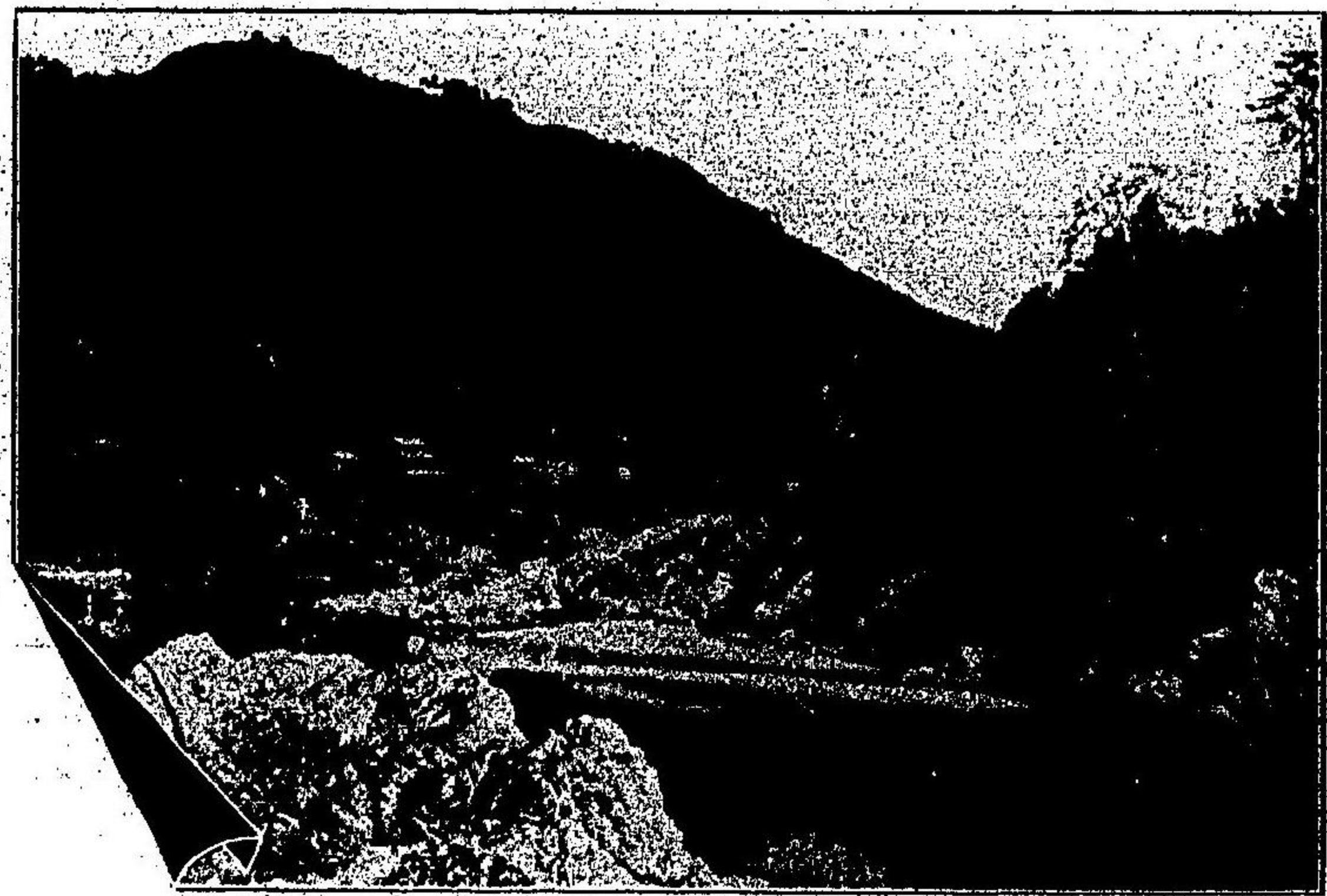
神麻績機殿神社は櫛田川の東岸機殿村井口中村にあり之

を下機殿と稱ふ傳に云く倭姫命飯野郡長田郷に神服、麻績の兩機殿を建て給ひ服部連麻績連等に御衣を織らしむ其の後いつの頃にか此の兩機殿を岸村に移されしか孝徳天皇の御代に此の儀一時中絶し天



神麻績機殿神社

大石不動瀧



飯南郡

武天皇の御代に舊儀に復せられ多氣郡流田郷服村(今の大垣内村なり)に兩機殿并に鎮守の社を建築せられ承暦三

年に宣旨ありて麻績機殿并同鎮守社を飯野郡井手郷なる現今の地に移されたり毎年神宮神御衣祭の御料の荒妙は此の麻績機殿にて織り奉る所なり櫛田川は倭姫命此川に御櫛を落し給ひし故事に依りて名けたる神社なり上流伊勢街道に櫛田橋あり初春の候兩宮參拜者踵を接す

俊 頼

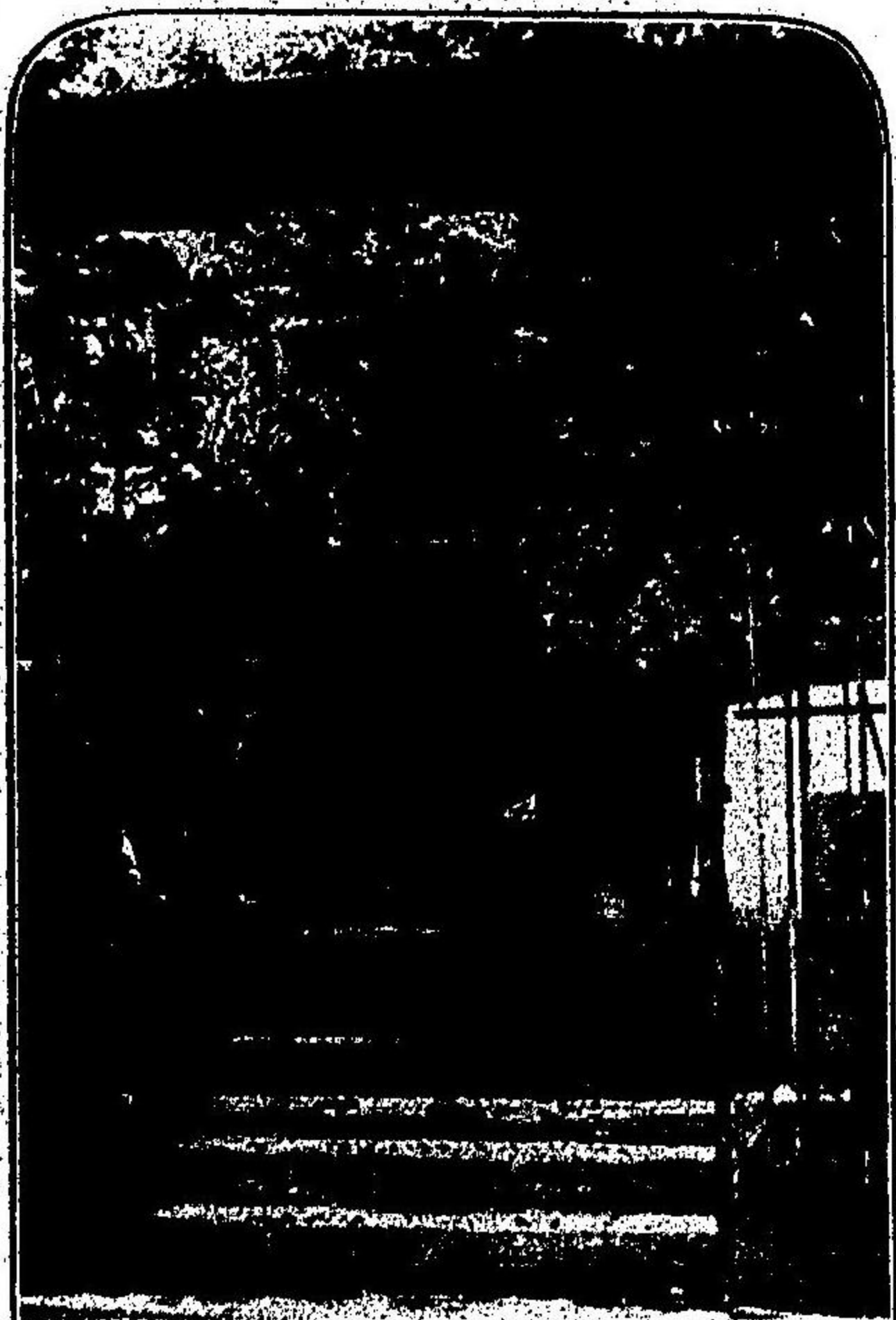
君かすむ櫛田川にや亂れたる

かみの心もうちどけぬらむ

●大石村不動瀧 松阪町を距る四里餘大石村石勝山不動院にあり紀州街道櫛田川に枕み老杉古松其背後を翳し直下數丈巖を撃ち石を嚙て櫛田川に奔注す寺は弘仁三年弘法大師の創立にして本尊不動明王は大師自ら彫刻開眼せられたるものなりと云ふ東に觀音岩(里俗炮烙岩)あり其の名著る



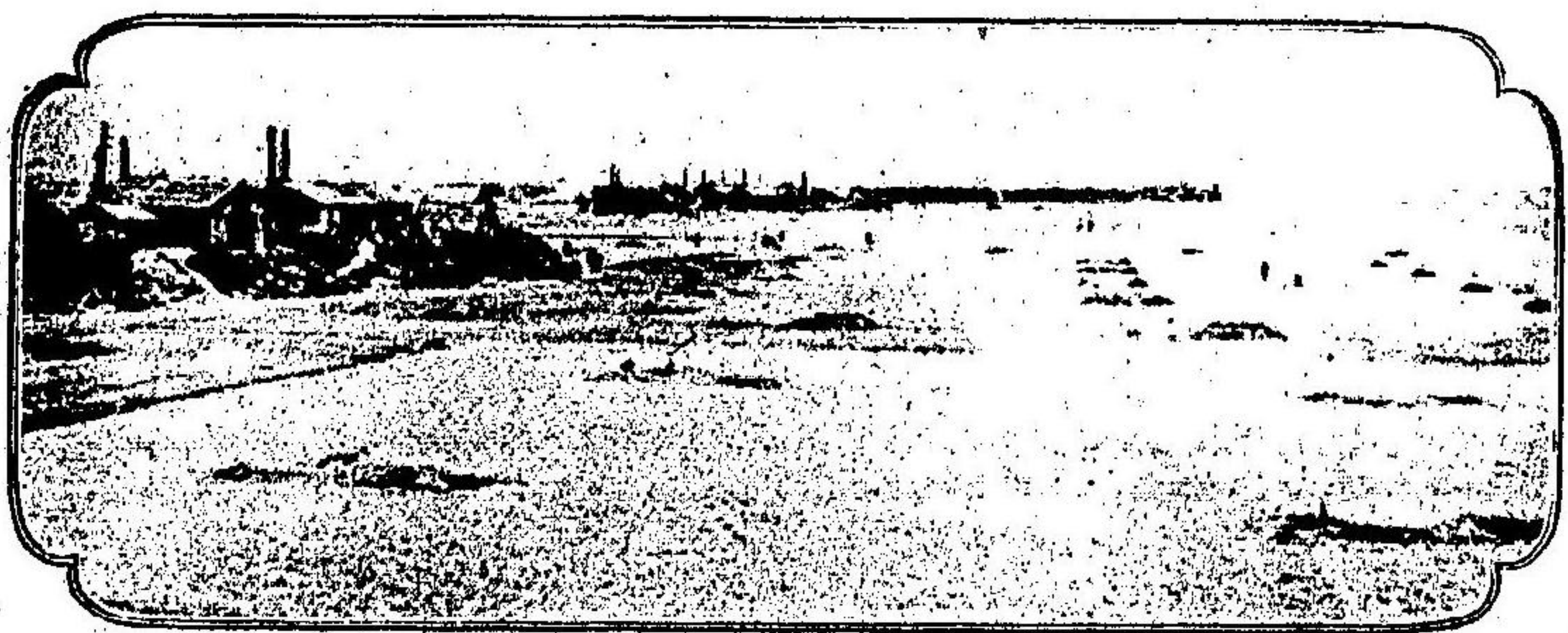
◎竹齋翁功績碑 竹川竹齋翁は松阪町を距る南二里餘射和村の人なり名は政胖幼名彦三郎後號を以て行はる夙に經濟の學を究め興業殖産に志す其の郷水に乏しく田圃荒廢連逃年に多きを加ふ翁之を憂へ灌漑の策を案す會天保丙申の凶歉に遭遇す是に於て私財を抛ち土功を起し拮据十有六月水利



始て全し又別に溜池を修築し稻田三十七町餘歩を得射和の地速に一倍半の價を増し戸口蕃殖富力舊に倍す此舉老幼をして工錢を贏得せしめ闔郷因て飢を免る事を得たり其の他苗木を配付して種藝の

業を獎勵し藏書五千五百卷を出して興學の舉を贊助する等公共に貢獻する事少からず明治十五年十一月病を以て家に歿す年七十有四郷人碑を樹て徳を勒して欽慕今猶措かず

竹齋翁碑



松名瀬鹽田

◎松名瀬鹽田(松阪驛より一里許)

西黒部村大字松名瀬(東濱、西濱)に在り遠く三四百年前の創業に係る反別二十餘町歩を有し一箇年生産高二百萬斤價額貳萬四千元に達す製造方法は普通製鹽法に依り製品は東京以西各縣へ搬出せらる

◎粥見村茶園と製茶工場(松阪驛より六里) 本縣の製茶輸出額

は約六千斤價額百九拾五萬餘圓に達し生絲に亞ける重要物産なるか最も精良の茶を産するは飯南郡粥見村なり本縣茶業組合聯合會議所は三十九年度より摸範圍を此村に設け益斯業の改良發達を促かしつゝあり工場は同村杉本伊八の製茶工場にして毎年約三百六十人の職工を使用し百二十貫の綠茶を製造せり

◎戰捷記念郡設桑苗圃 飯南郡にては振古の大戦役を記念せんか爲め三十九年度より三箇年の繼續事業として魯桑の栽培と既設桑田改良を遂行するの計畫を立て毎年一戸に付五本の苗木無代配

付を實行し左記三箇所に苗圃を設定し三十九年度に於て六百六拾圓の郡費を投し猶ほ進んで桑園品評

粥見村茶園





會を開くへき豫定なり

一花岡村苗圃反別二反二畝二十八歩

魯桑接木苗植込 一反九畝十八歩

内植 込 數 二萬三千本

魯桑實播種 三畝歩

一粥見村苗圃反別一反八畝六歩

魯桑接木苗植込 一反四畝六歩

内植 込 數 一萬六千本

魯桑實播種 四畝歩

一漕代村苗圃反別三反三畝二十六歩

魯桑接木苗植込 二反三十六歩

内植 込 數 二萬六千本

魯桑實播種 一反三畝歩



圖桑設郡念紀捷戰

●松阪水力電氣發電所(多氣郡津田村)

松阪水力電氣株式會社は松阪町白粉町にあり明治三十六年

十二月の設立にして櫛田川の上流多氣郡津田村大字津留にて堰堤を設け大字鉞形に發電所を設く(相

可驛より一里半)墜道二千六百十三尺及水路三百二十五尺落差三

十三尺實馬力四百四十三馬力を有し發電機は三相式三千五百實効

「ヴォルト」二百七十「キロワット」にして瑞西製最新式を用ふ線路

延長二里十二町松阪市街に於

ける點燈千五百に達するの外

餘力を以て煙草精米機業等に

應用しつつあり本社の資本金

は拾參萬五千圓なり

●松阪木綿合資會社(松阪驛

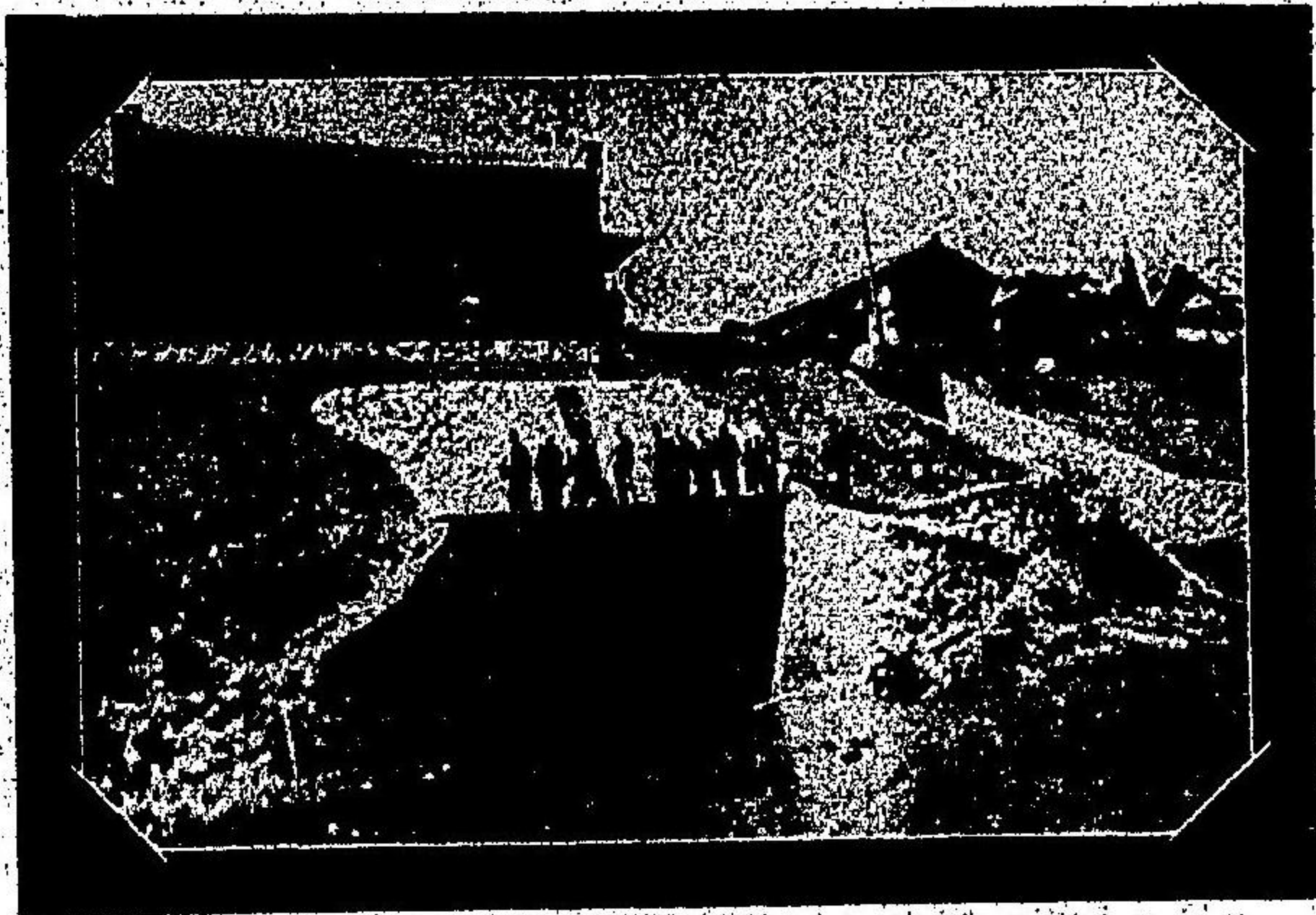
より南二町) 本社は明治

三十二年の創立にして豊田式

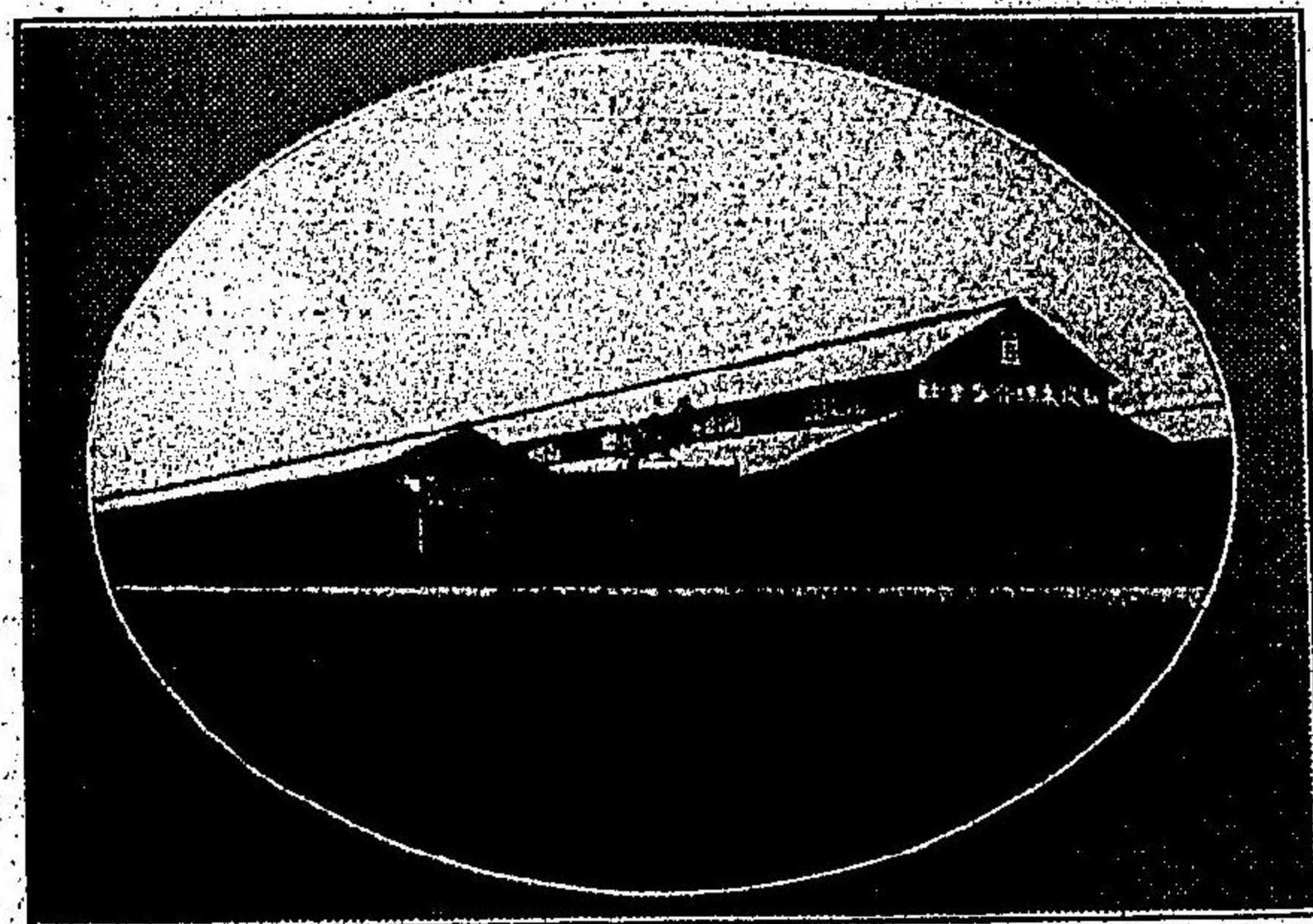
織機二百三十五臺及其の他の附屬機械を据付け内地向真岡白を專

織し一箇年製造高二十一萬反に達す販路は名古屋、東京及京阪地

松阪水力電氣發電所



松阪木綿合資會社





方にして常に其の原料を一定して「釣鐘」印を用ひ其の製品は必ず兩端に松阪木綿合資會社製品の證印

を捺するを以て信用益厚し

●藤村工場(松阪驛より八町)

松阪町大字西町に在り明治三十

藤村綿織工場



三年の創立にして豊田式力  
機械一百臺及附屬機械を据  
付け内地向眞岡白を専織し  
一箇年十萬反を製造す品質  
の精良を期せんかため原料  
織成に注意すること深く販  
路隨て廣し

●東出絹織場(松阪驛より

二十餘町) 神戸村にある輸出羽二重及紋織製造工場にして

明治二十九年五月東出忠吉の創設にかゝる内外博覽會の有功賞  
牌を受けたること一再に止まらず特に近來整經機其の他の器具



東出絹織場

を改良し益製品の精良を加ふるに至れり

●縣立工業學校(飯南郡松阪町殿町)

松阪驛を距る四町松阪公園の附近にして般賑の街衢を離れて

研鑽の適地たり本校は明治三十七年五月の創立にして中學程度の學科を授け主として應用化學を修得  
せしむ卒業生は孰れも本校の紹介に依り概ね實業界に起てり



多氣郡

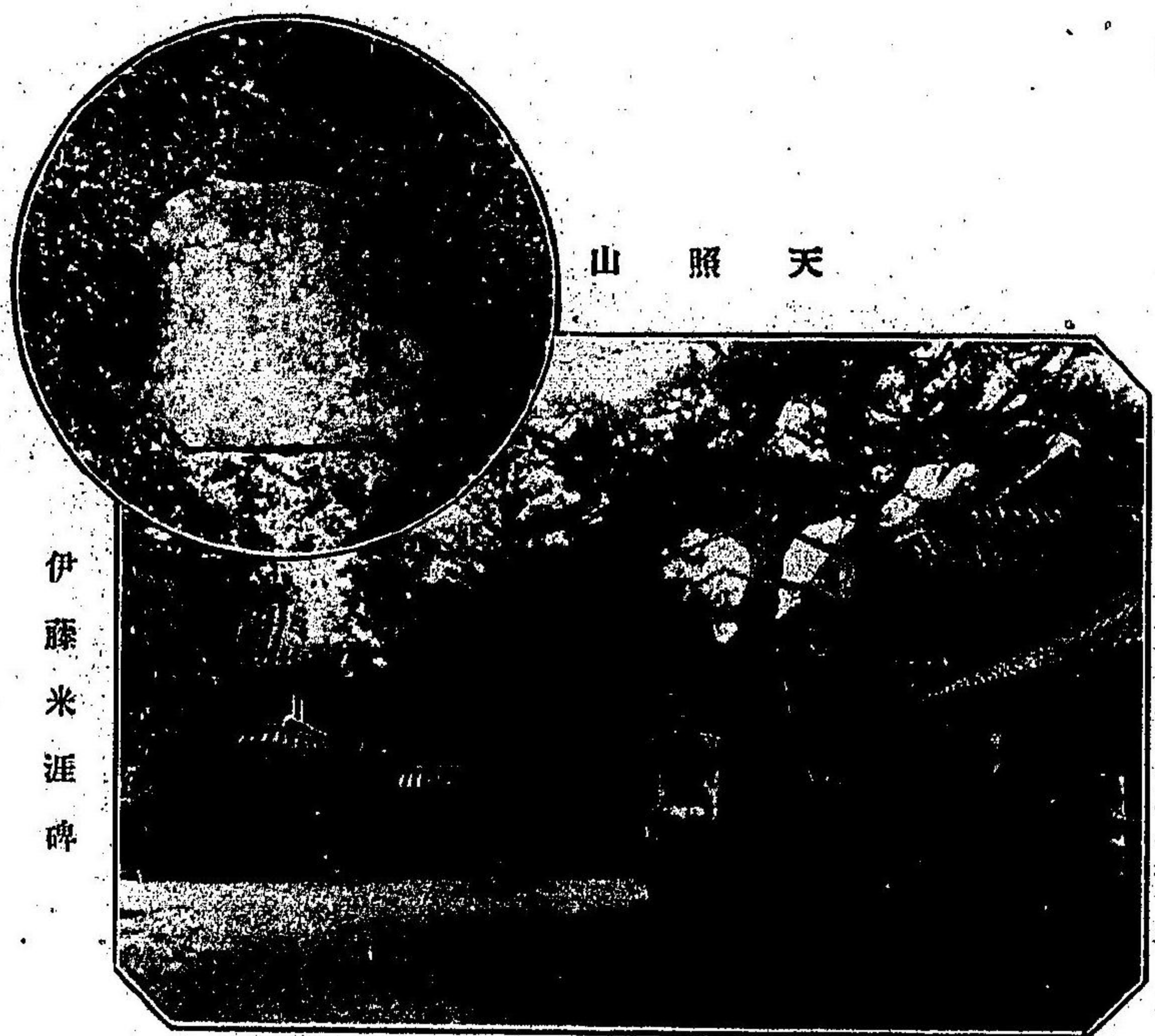
●相可の鮎魚 香魚は櫛田川の名産にして香味の美殆むと其の比なし就中相可地方禊ヶ瀬附近は釣すべく網すべく清流舟を泛ふべく金波盃を洗ふべく詩人之を喜び騷客之を愛す相可村河畔清楚なる旅館鹿水亭あり遊船打網友釣等客の望に任せ簡便の取扱をなす鮎の粕漬は同地の名産なり

●天照山 參宮鐵道相可停車場を距る約三十町相可にあり山上黃檗宗の古刹法泉寺あり藏する處の古書畫多く木庵隱元即兆和尚の遺墨等は最も珍とすへし山は觀楓の勝地を以て有名なり東は翠池に臨み南一帶金剛座山に連り風致温雅なり山中には櫻樹躑躅梅林等の研を競ひ香を放て紳士淑女を



相可の鮎魚

迎ふるあり



天照山

伊藤米涯碑

多氣郡

千鳥ヶ瀬 西行禪師斗藪のとき相可村に着きなむとして黄昏れける折千鳥の聲を聞かれし千鳥ヶ瀬は數町の間にある

西行

つかれぬる我を友呼ぶ術か瀬越えてあふかに旅寝こそすれ

●丹生神社 相可驛より相可本村を経て二里二十六丁を距る多氣郡丹生村にあり祭神は埴山姫命にして境内社十六を有し城内古樹森鬱夏猶寒きを覺ふ庭前の林樹は巨幹繁枝得易からざる老樹なり丹洞夜話に「此の處の地主神たる事決せり其の故は丹砂及水銀を産す我が朝に於て又こゝを捨てて何處そや此の處に住み給ふ神故に

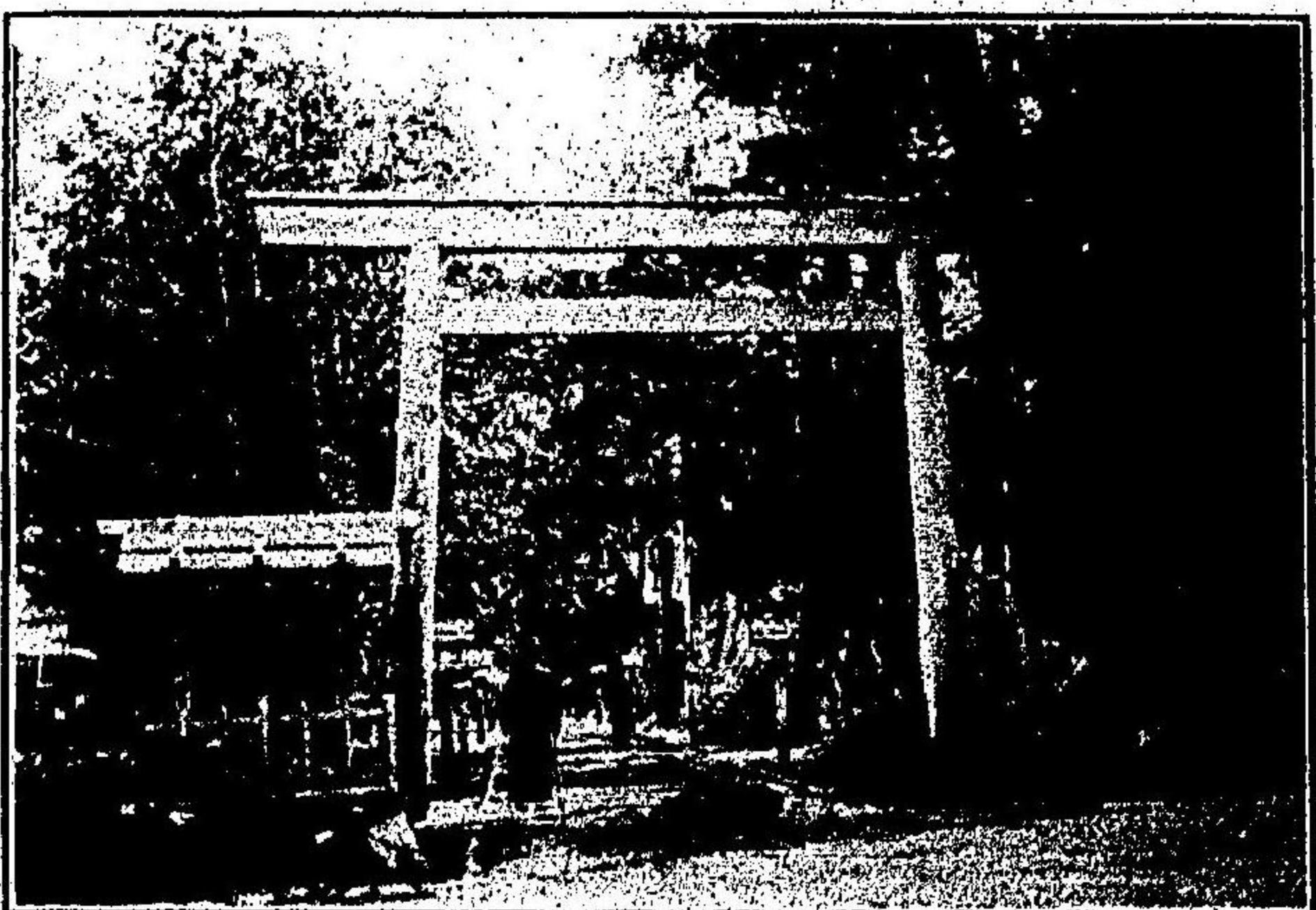


丹生津姫とも申し奉りぬ所の名も丹生と云ふなり」と見ゆ丹生八景あり曰く

社頭春色 神宮晚鐘 星淵螢火 潮澤流筏  
上田秋月 山口水銀 局嶽積雪 長谷夕照

◎丹生大師 丹生神社の

隣域神宮寺に在り寺は眞言  
宗古義派に屬し本尊十一面  
觀世音寶龜五年僧勤操の創  
建にして弘法大師留錫の際  
建てられたる七堂伽藍の後  
世兵燹に罹りたるは惜むへ  
きも大師堂藥師堂觀音堂等  
尙存し二王門は古雅にして



丹生神社

觀るに足る行基空海諸名僧揮毫の經卷其の他珍奇の什寶は寺に藏  
せり丹生大師とて陰曆二月及八月の二十一日に大會式を行ひ參詣



神宮大寺堂

の客絡釋たり參宮鐵道は例年全線各驛より相可驛まで三割引往復乗車券を發行す

丹生礦泉

神宮寺の西一町許の處にあり弘法湯と稱して浴客常に多し又附近鹽垣神社に鹽加伎場

あり土俗忌明の解除を此所に爲す習あり潮水の干満に  
從ひ鹽水忽ち沸き忽ち止む丹生礦水も亦同じ

◎齋宮寮舊跡

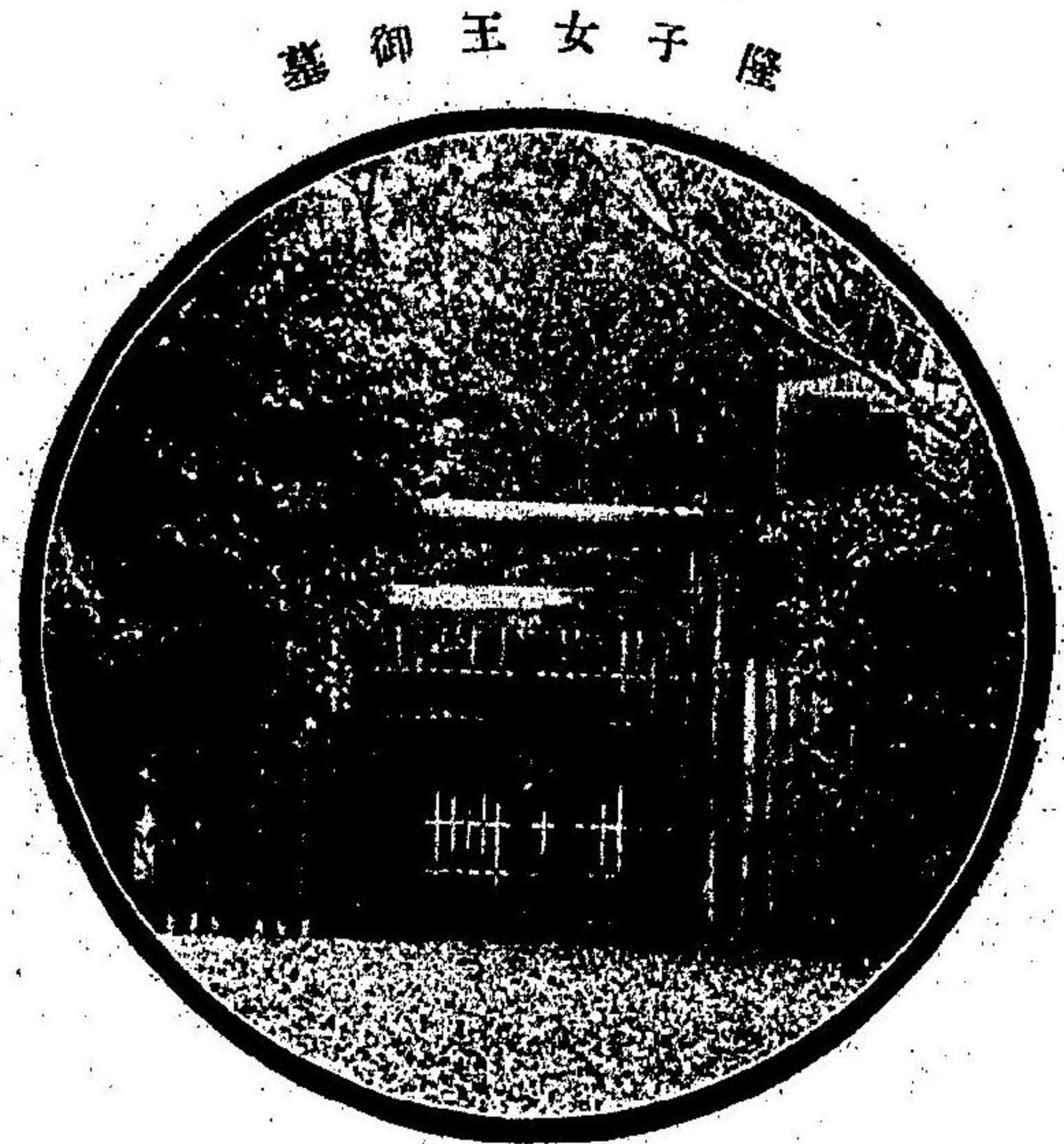
多氣郡齋宮村にあり大神宮に御杖代と

して齋き給ひし齋内親王世々の御座所にて竹の都と呼ひ  
し所なりしか後醍醐天皇已來斷絶したるも舊跡今に存在  
し其の境域伊勢街道の南北數十町に亘れり

思へたゞ竹の都は霞みつゝ

しめの内なる御代のけしきを

俊 成



隆子女王御墓

◎隆子女王御墓

多氣郡上御絲村大字馬之上にあり醍醐天皇の皇子三品章明親王の第一王女齋王隆

竹の宮まかきにうゑて千代までも祝ひ初めけむ此の君をこれ

多氣郡



子女王の御墓にして壯嚴なり此附近に一種の花苧蒲生ひ紫雲たなひけるか如くなりしか今は其の根を絶ちたりとぞ

思ひやる齋の宮はあこふりて

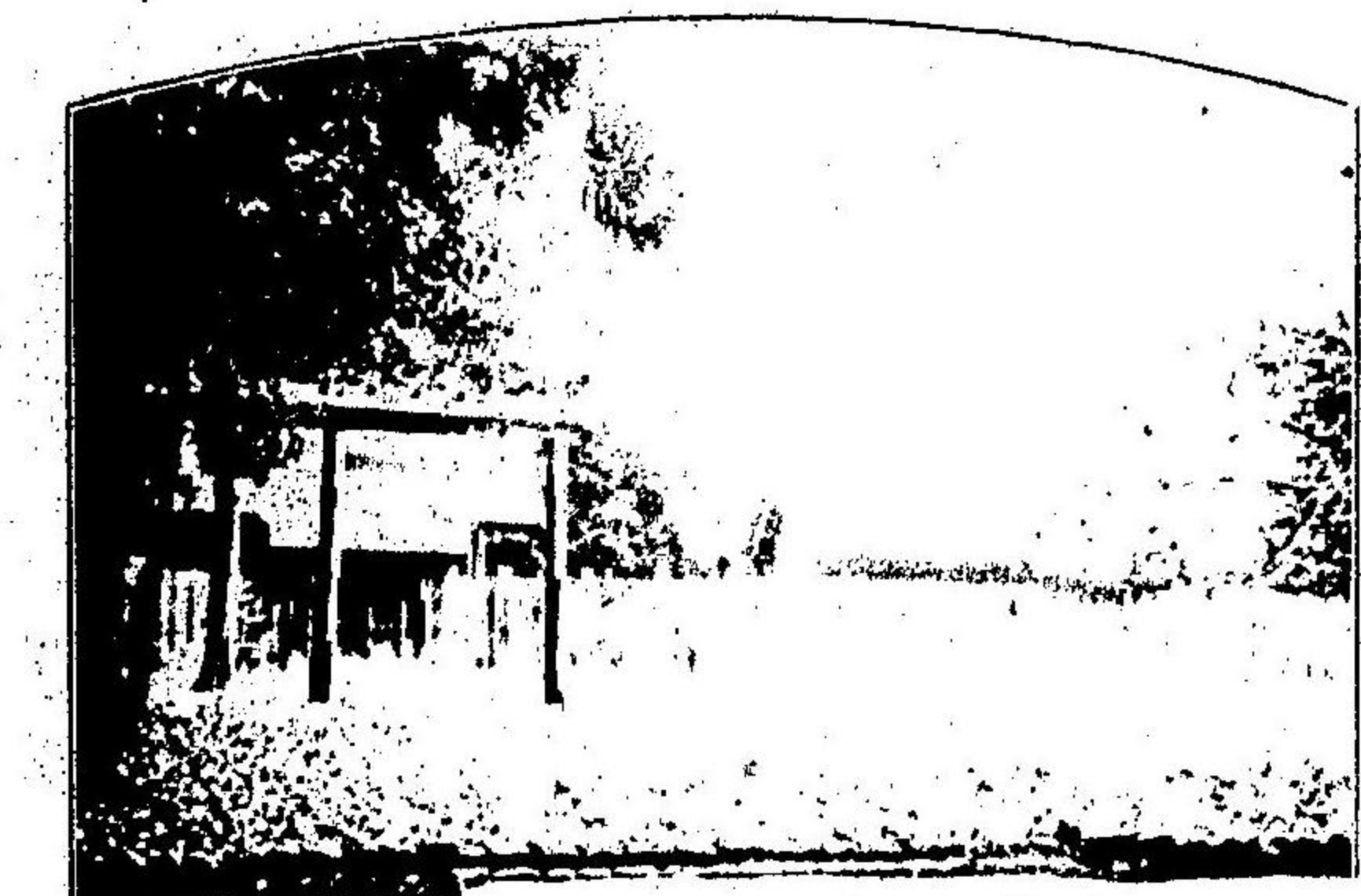
爲 家

花咲残るかきつはたかな

●神服織機殿神社

多氣郡東黒部村大字大垣内に在り上機殿と稱し

神麻績機殿を距る十九町にして舊記に皇大神宮の高天原に御座しまし昔天八千々姫神桑樹を天香俱山に植ゑて養へる所の蠶の御糸を以て御衣を織りて供進せり是れ神衣祭の濫觸なりと記せり白河天皇の承暦三年官旨を以て上下機殿を長田郷より今の地に移され毎年神宮神衣祭の御料の和妙を織り奉る所なりされは皇國蠶糸機業の祖として崇敬頗る厚し



社 神 殿 機 織 明 神 殿 城 下

●北畠神社

相可驛を距る六里多氣郡三瀬谷村上三瀬にあり北畠具教を祀る三瀬は宮川に臨み大杉

谷山に連り要害の地なるを以て具教此に棲めり具教織田氏の爲に其の領有を奪はれたるを憤り居常快

快竊に報復を謀る織田氏之を覺り具教の家臣を噉して之を弑せしむ今尙ほ御所の跡あり國司堂と稱し焉に據れり

●舟木橋

宮川に架し多氣郡三瀬谷村と度會郡瀧原村を通じ熊野街道

の要衝なり橋梁は「ハッ」式にして水面上九十七尺の高に於て長五十間五分幅十二尺を有す奔流脚底に號ひ四周山嶽屹立す明治三十七年八月十三日起工三十八年七月十五日竣工傳に云く倭姫命此川を渡らむとして急湍其の船を壞つ乃ち木を伐り之を修む故に此地船木の名ありと

●千福寺

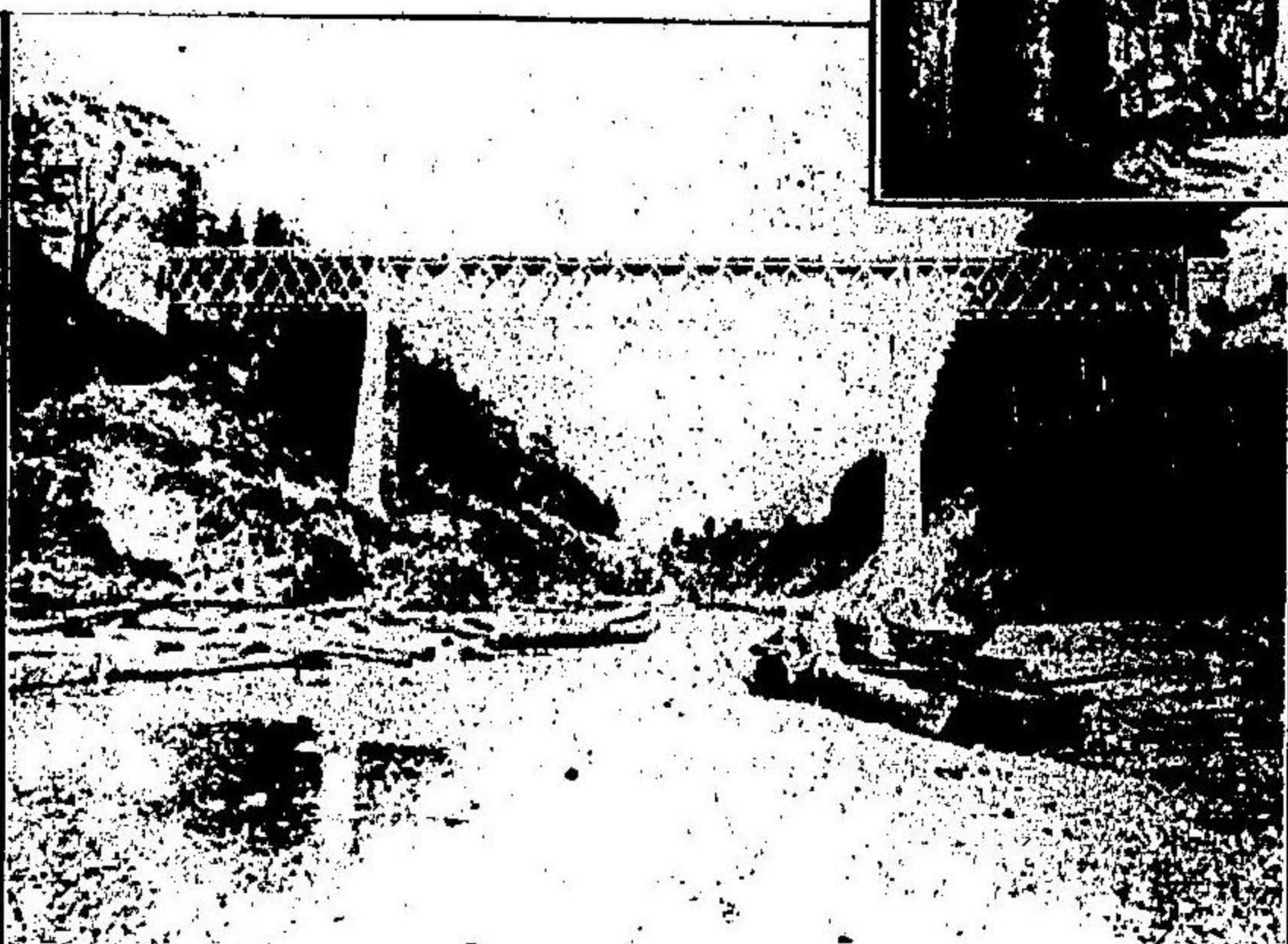
田丸驛を距る約四里多氣郡川添村大

字柳原にあり本尊十一面觀世音聖德太子の作なりと云ふ安産除災の靈驗著しく毎月(舊曆)十八日は參詣者頗る多く殊に正月十八日は最も雜踏を極む

北 畠 神 社



舟 木 橋



多 氣 郡



本寺の中庭は宮川に臨み半日の清遊亦妙なり

◎太陽寺

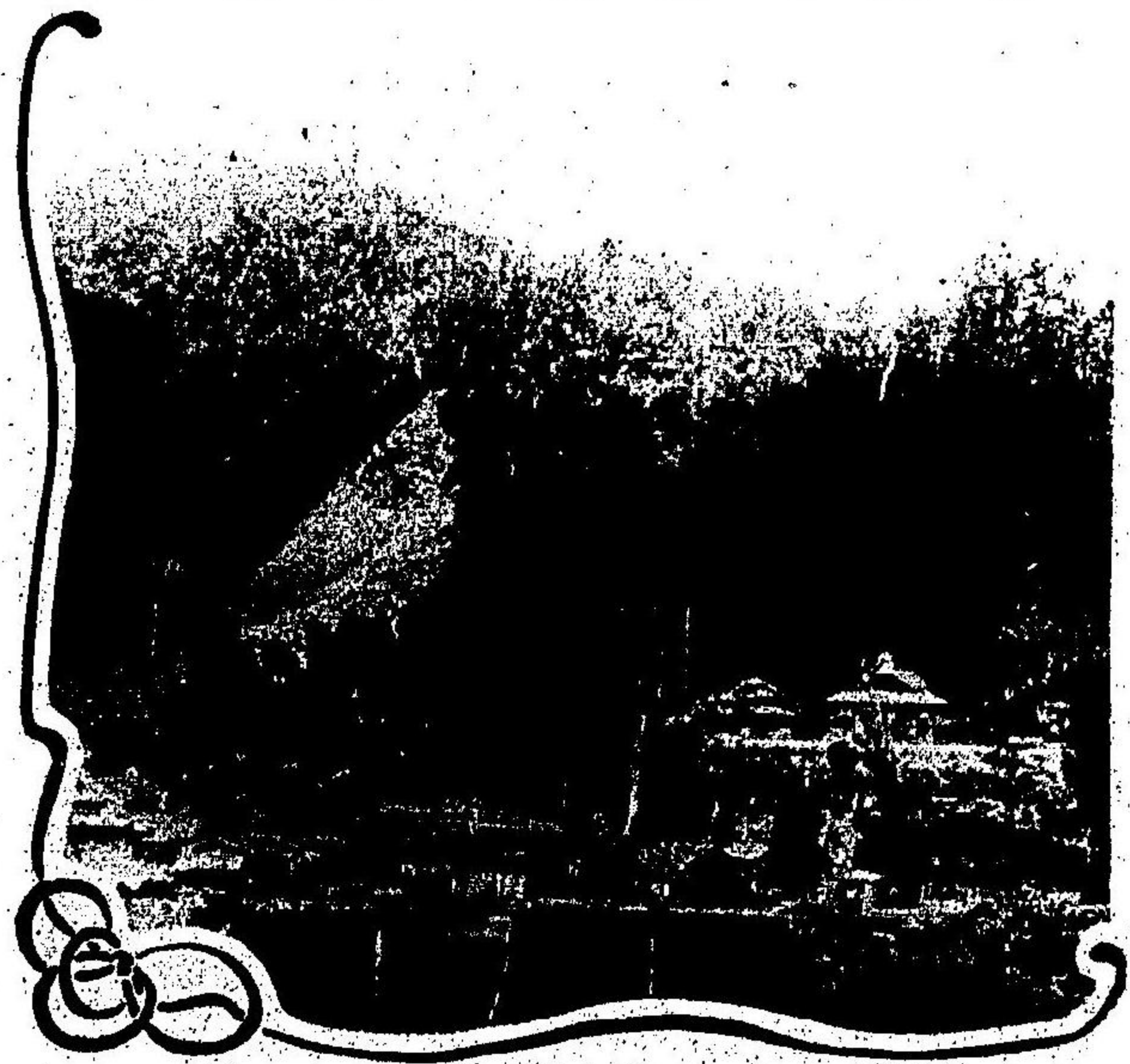
靈符山と稱し多氣郡萩原村栗谷に在り推



千福寺

趣の作に成る十一面觀世音を右殿には定朝作延命地藏を安置す歴代の武家より寄進に係る寶物少なか

古天 皇の 朝聖 德太 子の 建立 に係 ると いふ



太陽寺

大淀の松

鹽田の全景



多氣郡

らす山内幽邃清雅にして千古の巨刹なり

◎大淀の松 伊勢街道齋宮村より里許多氣

郡大淀村の海岸にある古松にして其の枝數十間に亘る昔在原業平朝臣尾張に赴く時此處にて送別をなしたりとて業平松と稱へらる此附近古來名所の聞ありて大淀八景の勝あり

後鳥羽院

大淀の浦風霞む曙に

雲井を雁のおとつれて行く

舊曆六月十四日八雲神社の祭禮を此處に行ひ煙火を揚ぐるの例あり此地は煙火の妙手を以て著はるゝ所にして當夜の盛觀南勢の稀有とする所なり

大淀の御被幾世に成ぬらん

兼 隆

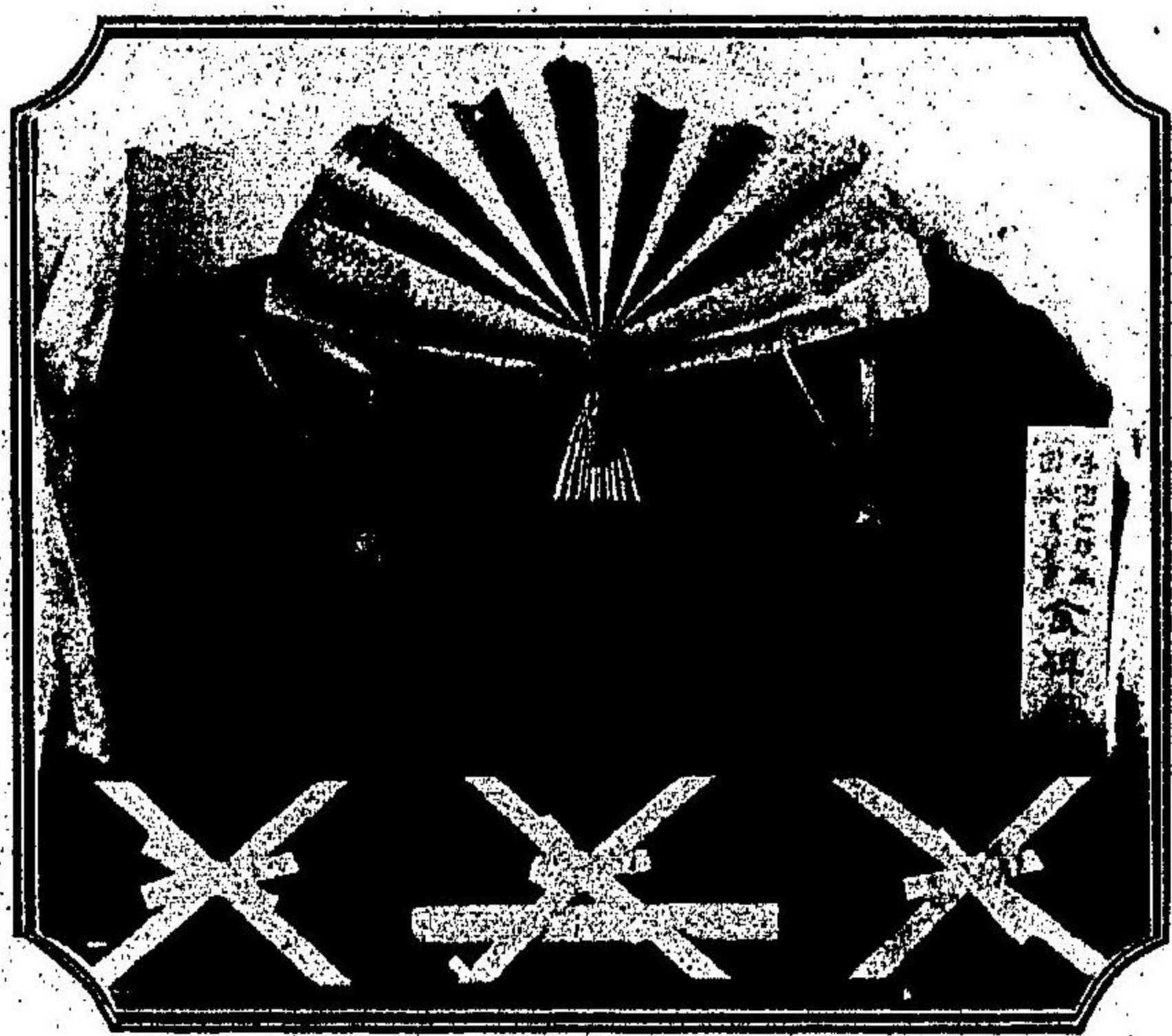
神さひ渡る浦の姫まつ



●擬草紙製品 多氣郡明星村新茶屋堀木忠太郎(商號三忠)の苦心經營に依り擬草紙の臭氣を去ることを得たるより販路頗る海外に擴張せられ各種の製品及壁紙等の輸出額尠からず又兩宮參拜者の伊勢街道を經三忠本店に於て購ふ者若くは宇治山田の支店に就く者多く内外博覽會共進會に於ても亦每會其の褒賞を受け居れり

●東黒部の鹽田 多氣郡東黒部村の海岸にあり應仁年間  
の創業にして現今總反別四十五町歩製鹽竈數百二戸鹽溜の  
壺數千六百三十二箇從業者男女七百餘人に上り一箇年製鹽  
産額三十四萬二千石此價額七萬貳千圓に達し其の品質亦精  
良なり近時鹽務局出張所を本村に設けらる

●大杉谷の大杉(多氣郡大杉谷村) 此地は多氣郡南西の  
極端に位せり西は大和の大臺ヶ原の山嶽に連亘し東南は紀  
州の諸峯嶺を横合す不動山、西谷山、栗谷山、蔦書文字山、地池山、池谷山、大熊山、春日峠、迷ヶ  
塚など最も秀拔なり此邊人跡殆絶へて且暮唯猿聲と谷川のさゝやきを聞くのみ彼の巴蜀の十二峯もか



擬草紙製品

くやあらむと思ふはかりなり大杉は數千年の星霜を經たる老樹にして周圍五丈高九十尋の靈木なり附  
近七滝瀑と稱せる七層の飛瀑あり高さ六十三丈四尺に及ぶ口定明神、中定明神、奥定明神は社殿の莊  
嚴なるを以て世に聞ゆ涼石岩窟、大小の飛瀑等觀るへきの仙境に富めり



### 宇治山田市

◎宇治山田市 大神宮鎮座ありて皇基を冥守し給ふの靈境にして戸數六千八百九人口三萬三千八百六十四市街は宮川より山田古市を経て宇治に至る長二里餘に亘り別に川崎町の一團あり勢田川の舟運神社港に通じ商業殊に殷賑なり本市は參宮鐵道山田驛及筋向橋驛を控へ山田驛は伊勢電氣鐵道に連絡す電氣鐵道は其の一線内宮より外宮に通じ分岐して二見浦に到り他の一線は外宮より倉田山附近を經由して二見浦に通ず順路は參宮鐵道山田停車場を降り外宮に參拜し高倉山を攀ちて石窟を窺ひ電車にて内宮に參拜し宮域より直に朝熊嶽に登り四鄉村朝熊に下りて二見浦に遊ひ人車を僦ふて鳥羽に到り舟遊を試み轉じて青峯山正福寺に少憩し矢港を過ぎり大王岬端に臨み舸に乗じて御木本幸吉真珠養殖場多徳島に渡り磯部村伊雜宮に詣し和合山鸚鵡石の風景を娛み逢坂山水穴風穴の奇勝を探り山を越へて大瀑小瀑に浴し神路山の翠色を翫ひつゝ宇治に歸着し倉田山神苑に出て御物を拜觀し農業館徴古館を歴訪し戦利品を縦覽し去て宮川の櫻花を賞するも可なり又蓮臺寺に遊ひ瀑布を觀る亦興あり明後四十二年には内宮外宮間に於ける新道竣功す御成街道と稱し行幸啓の御順路なり二十分時間を割愛して車を驅るは最も快なり當市祭禮は毎年十月十七日各町の大祭を執行す烟火の奉納最も多く雜踏を極

む八月十五日十六日は古市鎮守の祭禮にして生人形俄狂言等の屋臺を出し非常の賑を爲す昔より盂蘭盆會と稱し著名なり

有名なる伊勢音頭は古市固有の舞踏なり數十の舞妓廊を繞りて踊る今は牛車、菊壽の二樓にのみ存す物産及商品の重なるは米、茶、紙類、魚類、萬金丹、紙製品、漆器、陶器、齒染細工、貝細工、伊勢蒲鋒、鮑粕漬等にして蓮臺寺柿甘味賞すへし宇治の赤福餅も亦試食に値す其の一二を掲ぐれば  
魚類 河崎町に市場を有し伊勢、志摩の漁獲物は多く此地に集中す鮮魚を駢列して行人の品評を待つ一年の賣上高五拾萬圓を下らす

漆器 春慶塗の食器類日用品にして其の産額一箇年拾壹萬圓餘に上れり

紙製品 重に壺屋烟草入にして其の産額一箇年參萬圓に達せり

山田傘 堅牢を主とし製作す其の産額一箇年參萬圓に及ぶ

萬金丹 有名なる賣藥にして朝熊山嶺野間氏の製に係り參宮土産の一に數へらる

近來伊勢土産物協會を作り神路燒陶器其他參宮歸郷の贈物に適する物品を供給す

◎林崎文庫 宇治今在家の西裏に在り神宮司廳の所轄とす藏書二萬冊餘あり孝經碑(東江源鱗書)文庫創立碑(二あり其の一本居宣長撰文、其の二柴野邦彦撰文)及び講堂額(林信篤書)尙存す



はやし崎舞はてはいかて通るへき

鼓か岳を打ち眺めつゝ

●豊宮崎文庫 外宮神苑に連り岡本町の南に在り慶安元年の創設にして明治十一年火災に罹りしも書籍及大観社の一構幸に其の災を免る文庫の藏書二萬冊室鳩巢、貝原益軒、伊藤東涯、大鹽後素、藤森弘庵等の碩儒巨人遠く來りて講演せし所なり有名なる御屋根櫻は文庫の前庭にあり

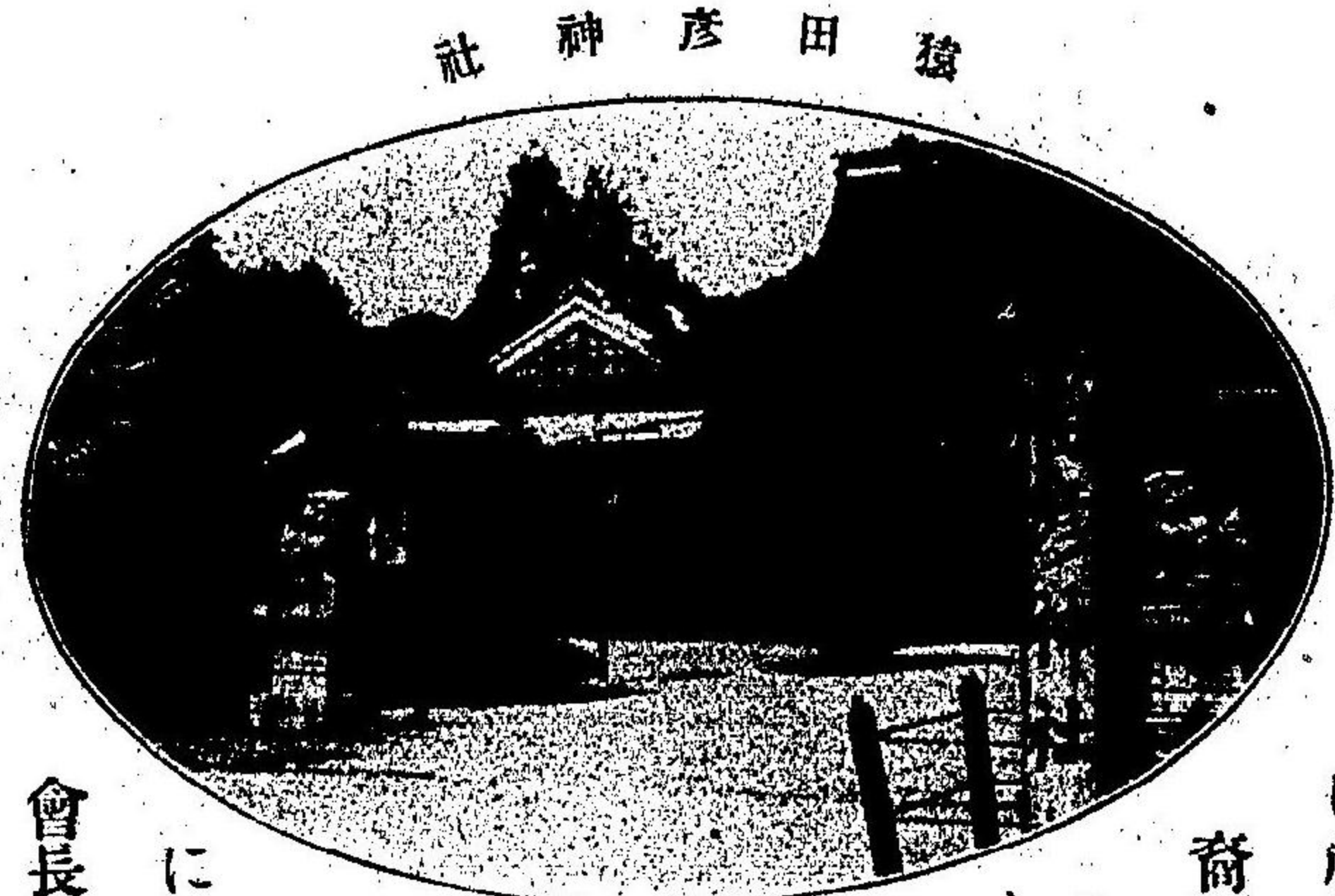
林道春書講堂額、善齋道慶書表門額、菱湖書孝經碑等長く珍とするに足る

●猿田彦神社 宇治浦田町二見氏の構内にあり地鎮の神にして家屋を建築する者は此神



庫 文 崎 宮

に祈禱して祓を受く世に宇治の土公と稱するは二見氏にして猿田彦大神の裔孫太田命より連綿今に至るといふ



社 神 彦 田 猿

●神苑會事務所(倉田山に在り) 本會は明治十九年八日市場町福島太夫邸に事務所を假設したるに起原し二十年東京本部及三重支部を設け爾來着々會務の伸張に努め財團法人として定款、經理規則等を制定せしか三十七年東京本部を三重支部に合併し現在の倉田山に改築移轉せり總裁には有栖川宮殿下を戴き花房宮内次官を會長とす其の事務所は數十の人家を撤去して内宮及外宮に神苑を作り宮城の莊嚴を加へ二見浦に賓日館を建て貴賓の休泊に充て後之を廢す外宮前に農業館を作りて各種農産物を陳列し倉田山に撤下御物拜觀所を設けて既に之を神宮司廳に奉納し尋て農

宇治山田市



所 務 事 會 苑 神



農業館



業館を倉田山に移し新に之を建築し園圃を造り道路を開き橋梁を架し陸軍に請ふて戦利品を陳列する等其の既に經營施設する所少からす今や徵古館の建築に着手し四十二年正遷宮までに其の功を竣り又倉田山に一大遊園を作りて公衆の娛樂に供し同會事業の完成を待て其の全部を舉げて神宮司廳に奉納せむことを期せり蓋し數十萬圓の資金は今後に於て有志の寄附に待たざるを得ず

●農業館及假徵古館 共に倉田山にあり神苑會の附屬にして豊受大神宮の神徳

に因みて明治二十四年外宮神苑前に建設せしものなりしか後今の處に移せるなり農業館は農作種樹、漁獵、牧畜、養蠶、林産、工藝の各部に別ち各種の産物、製造器具機械標本、模型、圖表、統計に至る迄遍く網羅して公衆の觀覽に供す本館は神苑會幹事田中芳男氏の經營に依り學理と實際とを參酌して選擇分類その宜を得せしむ徵古館は參拜



假徵古館

者に考古の資料を得せしむるを以て主旨とし本館の落成を告ぐるは明治四十一年若くは四十二年に在り今は假館を設け假徵古館と稱す今回の共進會に際し神苑會は

三重縣協賛會の徽章又は入場券を有する者に限り兩館ともに無料觀覽の便を得せしむ

●慶光院 宇治山田市中之切町にある尼寺にして初世守悅は飛鳥井家の出たり足利の末葉朝廷式微を極め皇大神宮正遷宮の大典の絶えたるを慨し後土御門天皇の勅裁を蒙り自ら諸國に勸化し御裳瀧川橋を造營せり三世清順亦其の志を繼ぎて天文十六年宮殿造營の功を奏し正遷宮の大典を復古せり四世周養亦諸國の勸進を以て元龜三年式年御造營を奉仕し以後歴世皆兩宮正遷宮を勤め奉り先蹤を廢せざるに依り明治三十八年十一月 行幸御參拜あるや特に策命使を差遣はされ守悅上人へ正四位清順上人へ從三位周養上人へ正四位を贈らせられ且金五千圓を下賜せられたり同院の建物は豊臣秀頼が片桐且元を奉行として造營せしめたるものにして曆朝の繪旨、勅額、



慶光院墓



古文書等を藏すること頗る多し今は祭主官舎に充てらる

◎西行谷 宇治橋より約六町菩提山續きの麓に在り瀑布あり幽邃俗塵を脱して茅庵尙存す

西行法師世を遁れし室の戸を神照寺こなむいひけるは  
天照す御かけは谷かくれも残らすぬ有りけむ圓位と名のり出てにしも大圓鏡智の内證をさなから成しけるし  
るへする人にひかれてたゞに歸りなむも心うきに筆の  
すさひにまかせ侍り

西三條 實隆

言の葉に隠れて住みし谷の庵も

梢の秋や色に戀ふらむ

長 明

こゝもまた都のたつみ鹿そすむ

山こそかはれ名はう治の里



西行谷

西行谷の麓に流あり女ごもの芋洗ふを見て

芋あらふ女西行ならば歌よまむ

はせを

◎足代弘訓翁碑 故度會禰禰宜正四位足代弘訓は學識富瞻にして尊王愛國の至誠を發揮し子弟の教養に典籍の著述に經世の遺勳尠からす且意を邊防上に注く所ありしたため蝦夷樺太の探檢者として有名なる水戸の藩士杉原武四郎の如き實に翁の門下に出てたり晩年邊防益々急を告ぐるに當り老衰用に堪へざるを深慨し

事しあらは火にも水にも入らむとは

思ふものから身は老いにけり

の歌に寄せて其の志を述へ死に至るまで國を思ふて止まざりし著す所は古事記神名部類其の他三十四種の多きに及へり明治三十八年十一月五日翁の歿後五十年の忌日に方り翁の門弟及有志金を醸じて宇治山田市岡本町に碑を樹て功を勸せり其の文は實に津藩の督學齋藤拙堂の會て撰せしものにかゝる同年十一月十六日平和克復 御奉告のため兩宮御參拜に際し特旨を以て建碑費の内へ金百圓祭料金貳拾圓を下賜せられたり

掛卷 くも

ゆゝしきかも

天 照 す

大御神はし

宇治山田市



かしこきや	おのれみことは	久かたの	高天の原に
神つまり	つまりいまして	天の下	四方の國を
いやてりに	み照じまし	あれませる	本つ御國
蘆原の	瑞穂の國は	すめら我か	みまのみことゆ
うけつかす	御子のつきく	安國と	しらさむ國と
ことよさし	みことよさして	大御魂と	うつし御魂と
眞蘇日の	大御鏡を	皇孫に	さつけまつらし
此の鏡	見まさむ事は	たむかし	おのれみことを
見まさくに	もはらおなご	のりませる	御言もじるく
千いほ代に	年はへなれご	今の世に	其の御鏡を
此の神の	大御魂と	さく釧	五十鈴の宮の
しつ宮に	いはひしつめて	八隅知し	我大王の
年のほに	御使たて	慶まねく	幣まつり
かしこみと	いつきまつらす	其大みたま	



寂照寺

中の町寂照寺八代の住僧に

して文化六年壽六十九を以て逝く同寺に其の碑あり今其の銘を抄録す

懿哉吾師	妙悟天真	眞光發現	丹青通神
毫端如幻	萬象斯陳	六法具備	爲世攸珍
營構梵宇	奕々重新	檀度所暨	救厄賑貧

宇治山田市

天照す神の御影はおほみたま

弘訓

いはふ鏡のいやてりにして

◎寂照寺と月僊の碑 往昔間の山を開鑿して公益を謀り巨資を投じて窮民を賑恤し寂照寺を脩造して壯麗を極め畢生營々小技に耽り潤筆の唯多からむことを望みたるも終に能く之を散したるに依り殊に有名なる能書僧月僊



月僊碑



此界線盡

他方作津

追想音容

何勝哀呻

絃綴蕪詞

以貽無垠

欲知師行

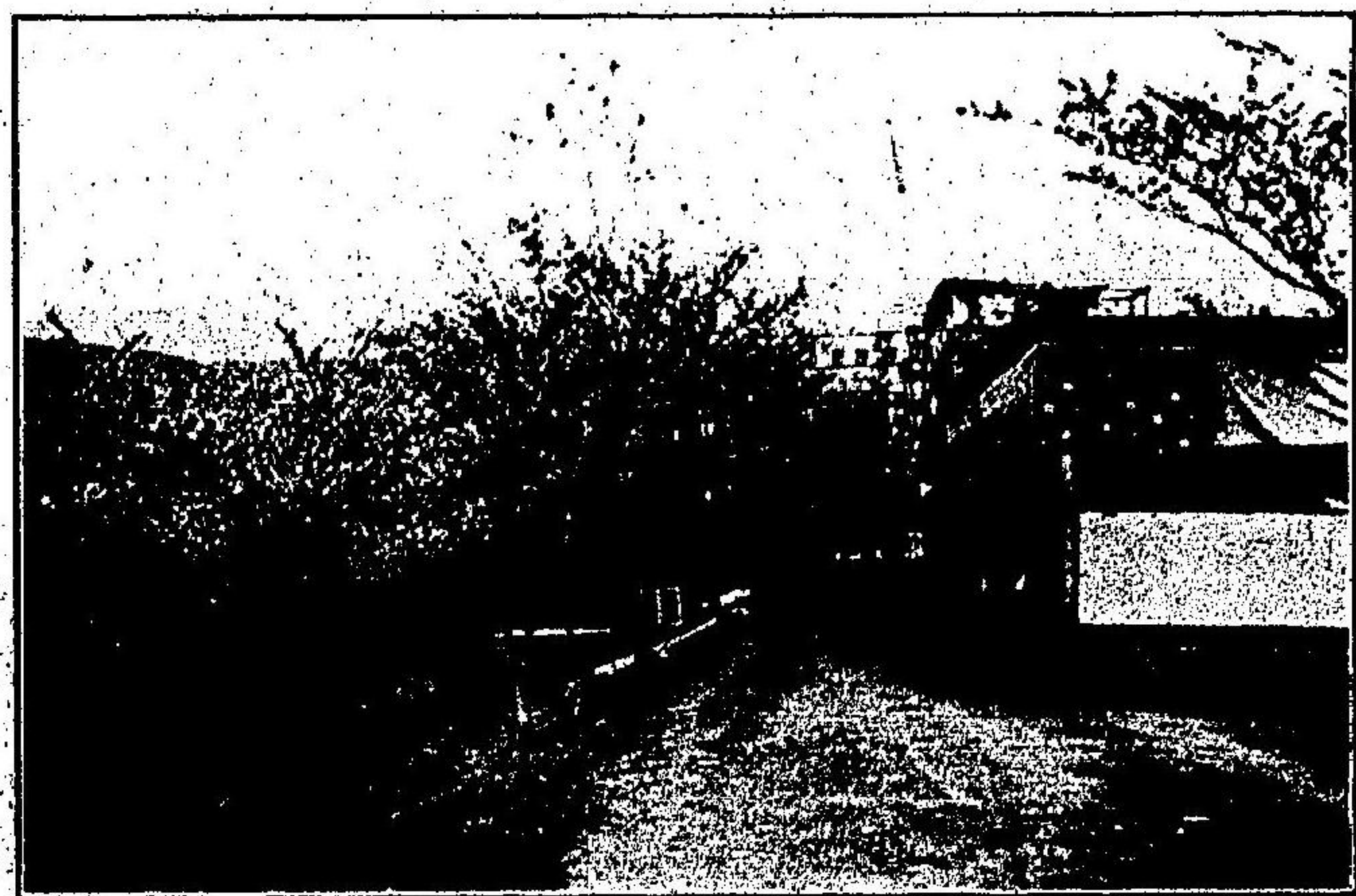
請于斯珉

●大瀑 五十鈴川の上流にあり宇治を距る五十餘町行々壑に沿ふて上る壑や廣からされとも群木の覆ふ所となり之を仰くも曠景を見ず清流琴瑟の聲を爲し怪石相交りて其の觀頗る奇なり溪に傍ふて大瀑あり高六丈九尺奔騰翼を張りて勢崩れ

十五鈴川の川上大瀑



むとす  
飛泉老  
楓の根  
を洗ひ  
紅葉水  
と相映  
發する  
處最も



宮川堤上櫻

妙を極む相距る遠からずして別に小瀧あり高四丈二尺亦清觀なり

●宮川 源を大臺ヶ原山に發し宇治山田市の西端を北流し大湊港を過ぎて海に入る國道の橋は參宮鐵道鐵橋の上に架せり勅使并に祭主宮參向の時は昨年迄此地にて河原禊とて修祓の儀式を行はせらる堤塘に櫻樹數萬株あり花季は爛熳として一望雲の如し

後鳥羽院

宮川の春立つ空の初風に

打ち出つる浪の花やちるらむ

人 磨

度會の大河への若くぬき

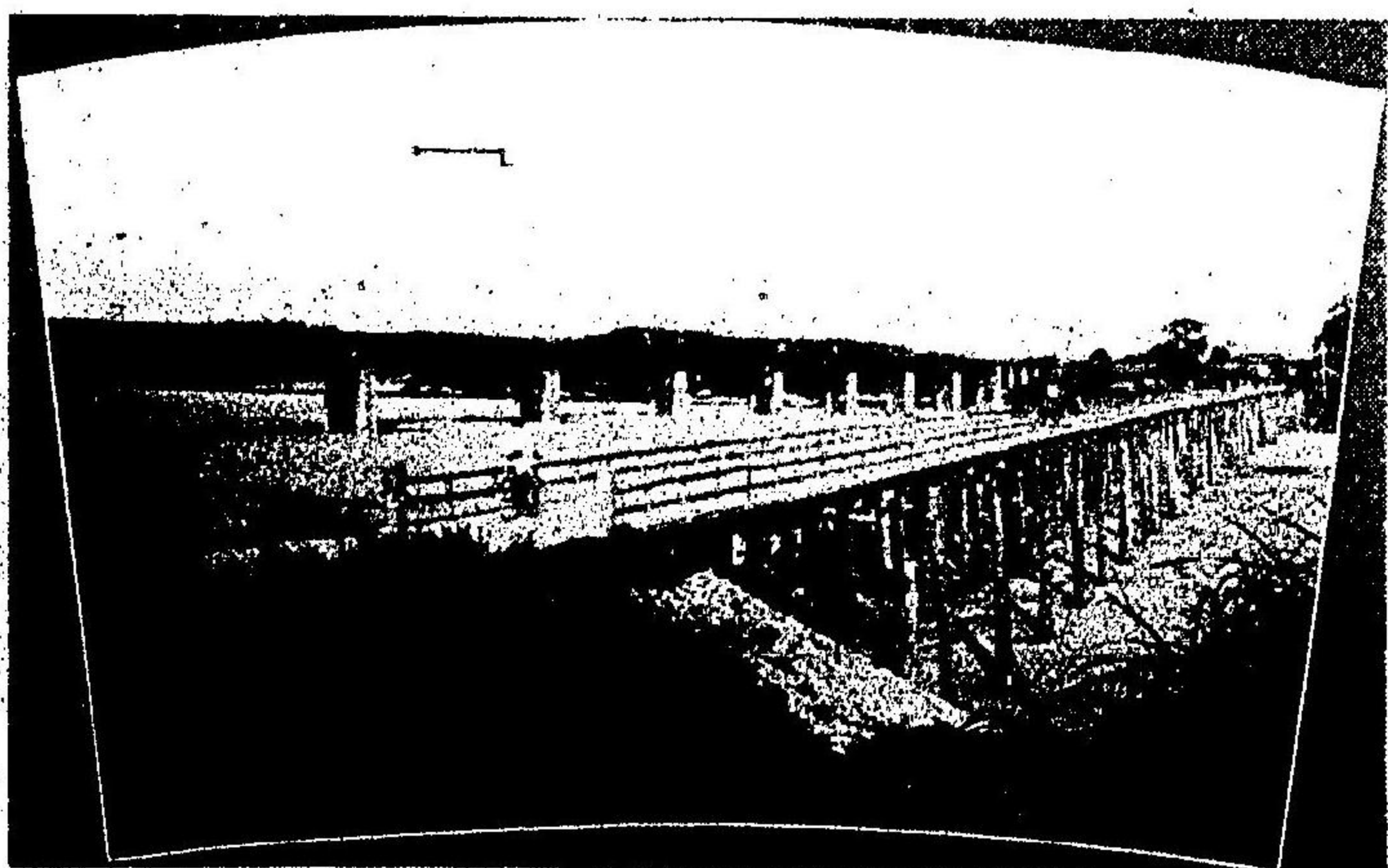
われひさにあらは妹戀むかも

●五二會館及附屬陳列場

旅館五二會館は虎尾山に在り樓上富士山を望むへし元五二會支部の爲め

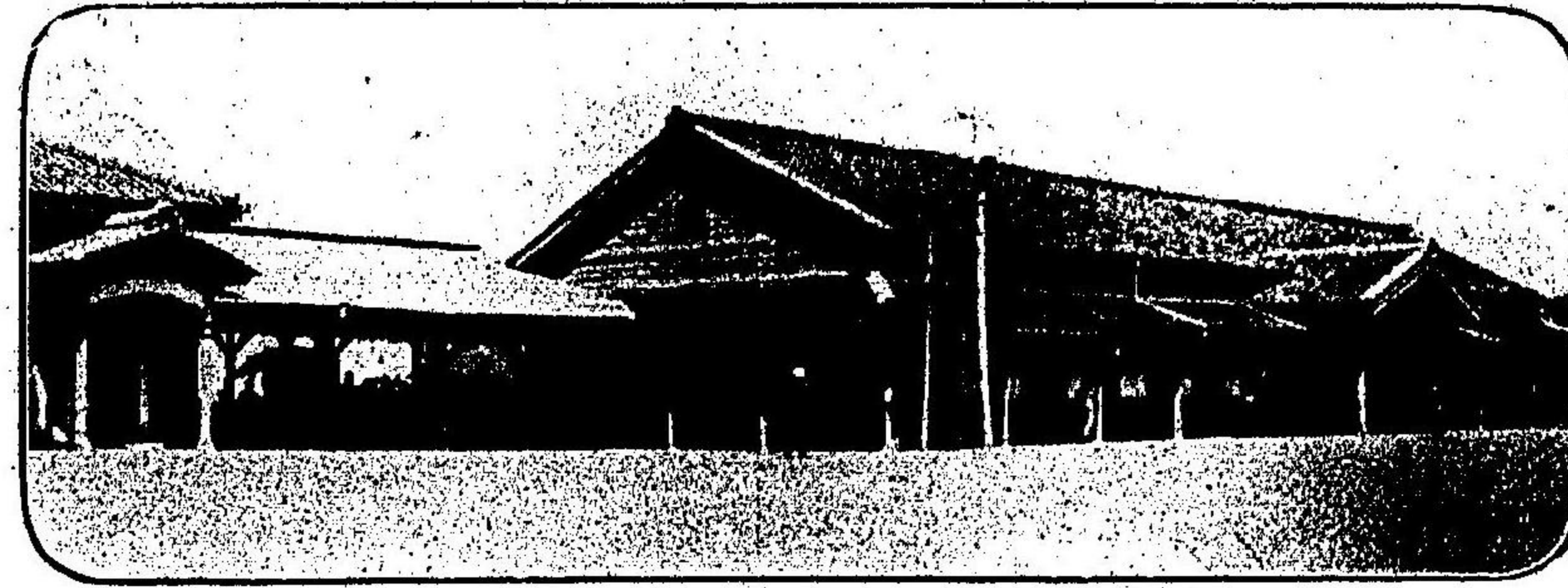
宇治山田市

宮川橋





參宮鐵道山田



三重縣案内

に設けたるものにして後株式會社組織に改め市内尾上町に附屬商品陳列場を設け縣内の諸物産並他地方の製産品を陳列販賣す

●山田停車場及參宮鐵道株式會社  
山田停車場は參宮鐵道最終驛とす同會社は明治二十三年八月の創立にして津山田間を營業區域とし線路二十六哩七鎖六十節資本金百九拾萬圓積立金拾萬五千四百圓にして片岡直溫社長たり三十八年十月一日より三十九年九月末日に至る



五二會館と五二會陳列場

一三四

乗客人員は百三十九萬六千九百五人貨物噸數五萬四千八百九噸の多きに達せり

●伊勢電氣鐵道株式會社(宇治山田市岩淵町) 本社は明治三十年三月の創立にして資本金七拾萬圓を以て市内の電燈及電氣鐵道事業を營み居れり馬力三百十を以てし軌道は山田停車場前より汐合橋を経て二見ヶ浦に達するもの二見ヶ浦より中山に於て分岐し宇治に至るもの及山田驛停車場前より直接宇治に到るものを併せ線路延長八哩十七鎖に達し市内に於て凡二千三百個を點燈せり

●日本赤十字社三重支部山田病院(宇治山田市大字古市より二町) 本院は初め當支部看護婦養成の必要に因り元宇治山田町有志者の寄附金并補助金を以て町立山田病院を創めたるに起原し平時にありては救護員の養成及施療患者の收容を目的として三十三年十二月工事を竣り故小松宮總裁殿下の台臨を仰き落成式を擧げ三十四年三月開院三十六年十月同町より本院建物八百三十五坪五合の寄附を受け爾來日本



松尾陸橋電車會社

宇治山田市

一三五

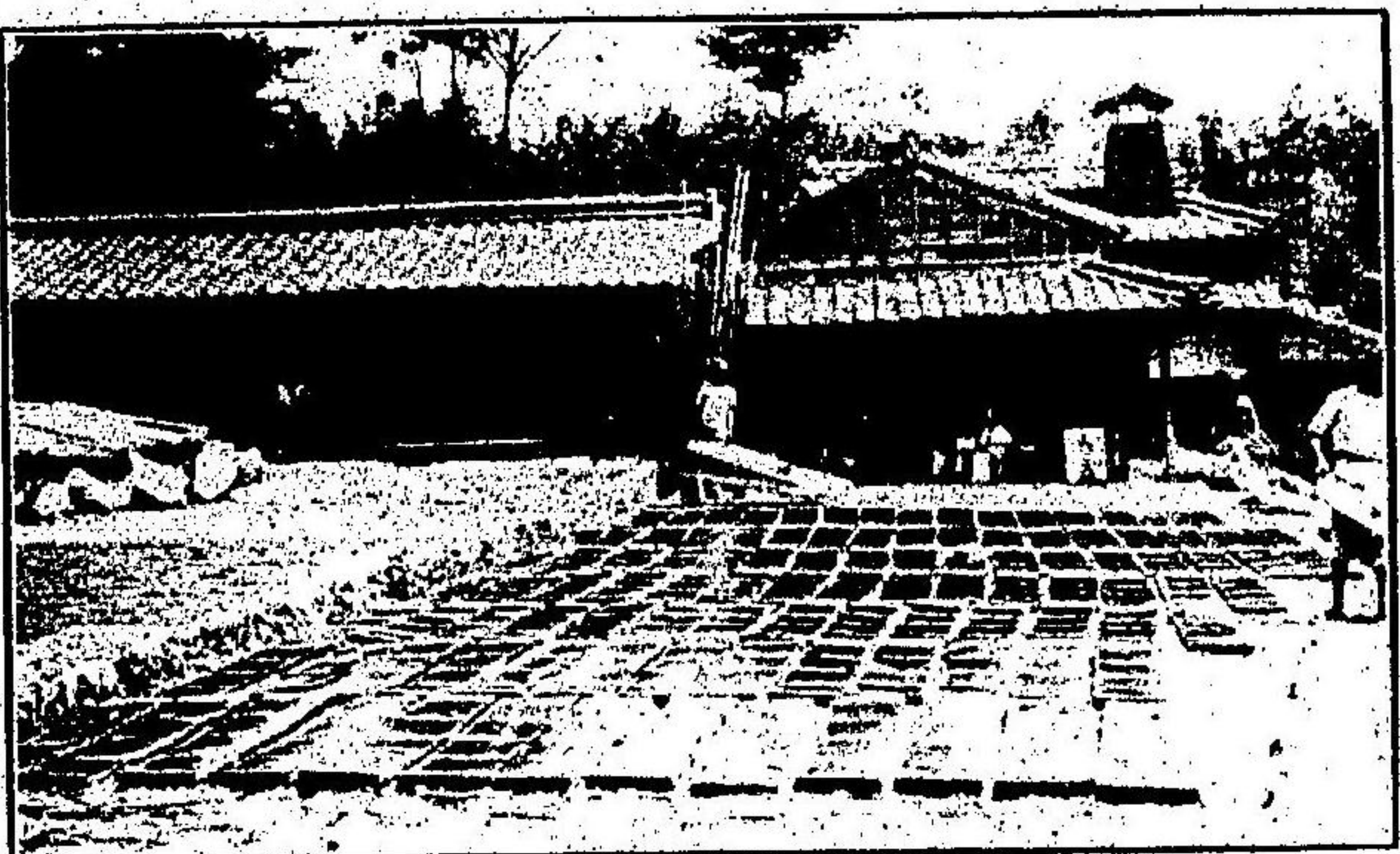


赤十字社三重支部山田病院と稱せり三十七八年戦役に當り外に在ては救護班二箇を出し内に在ては神宮警衛隊の患者を治療し且つ名古屋豫備病院の傷病患者を收療して好績を奏し得たり常に診を乞ふ者踵を接し入院患者數十名を算し現今養成中の看護婦生徒は四十餘名あり本院は土地高燥にして空氣清く遠く伊勢灣を瞰下し眺望絶佳保健の適地にあり

◎神路山燒 工場は宇治山田市岩淵町より倉田山に至る間にあり

専ら伊勢土産物改良の目的を以て日用飲食器及花瓶置物茶器等を製造す其の製品は一種の雅致に富みて販路漸く熾ならむとす

◎擬革紙製品 伊勢の特産物たる擬革紙は現今巻煙草入、紙入、靴、信玄袋、爪掛、坐蒲團、敷物、壁紙等に用ゐる形に摸樣に種々の意匠を擬らし販路大に廣まり殊に有力なる輸出品に數へられ内外博覽會等にて有功進歩の賞牌を受くるに至れるか其の起原は主として煙草人を製造するに在りたるか如し今を去ること三百二十年前伊勢街道飯野郡稻木村壺屋池部某なる者の創意に係り其の頃同街道を経て兩宮へ參拜する者先つ禊川にて身を淨うし宮域に入るを以て瀆らば



擬革紙製所

しき革製の物を携ふるを忌み稻木壺屋又は多氣郡明星村三忠にて擬革紙製の紙蓑入などを購ひたるものなりと云ふ現時沿道到る處に其の製品を嚮く

夕立やいせの稻木の煙草入 蜀山人

ふるなる光るつよいかみなり

◎羯鼓踊(一名かむこ踊) 明治三十三年 東宮殿下同妃殿下御慶事を濟ませられ御同列にて神宮へ御參拜あらせられし時にも御旅館五二會館の閑庭に於て御上覽の光榮を荷ひたる羯鼓踊は度會郡各鄉村特有の舞樂にして陰曆七月中月明き夜な夜な静けき廣庭に行はるゝなり其の姿は白黒段々染の筒袖を着け白木綿を腹に巻き脚絆手甲を穿ち管にて作れる腰裝をつけ頭には白馬の尾もて製したる鬘を被り胸に羯鼓を懸けたり當夜號鐘を合圖に百人餘も一樣の行裝にて圓形をなし音頭に伴ひて舞ひ初む姿勢井然其の羯鼓を打ちつゝ踊る様いと古雅にして珍らかなる踊にそある

羯鼓踊



宇治山田市



●伊勢音頭(宇治山田市古市に於ける) 寛延の頃古市備前屋の主人古の鶴の舞に倣ひ都の春の色香を移しうゑて伊勢詣の人々に觀せしめたるにこよなく賞讃を得て扱は舞臺の様をも改め伊勢音頭の名こそ都鄙に傳はりける備前屋に於ける『さくら襖』はいとやさし又杉本屋にて『菊の壽』なるものありといふ

さくら襖

櫻花たかゝくにも盛さは言合さねと人心移り易きよ世の中のこひは蕾の開くまではつと浮名を流しては『曲水むすぶ谷かけに散りも初めぬ一木には誰もめをやる幕の内てうしの高い三味線に座頭は散るを待顔に鶯鳴けはは々笑みて振袖口にあてやかな』飾車や御所車お室あたりの夕暮に花の顔見る樂みもかつき一重に關の戸に人目なければ一枝は手折る心をいたかれて縁を結ぶの短冊に風一吹の散際をこよむは山の笑とも實にや名に負ふ嵐山』あからめなせそ朝はらけ明はなしたる次の間はさかのを通ふ人霞む梢にかゝる一筋の霞は筆をかすらせて『空色うつ



伊勢音頭

る大堰川青きは清き水の色白きは瀧の清水や北野詣の杏の音太刀もつ兒戯れに『鞍馬の山のふこ嵐はるかこちらは紫の暮うちばへてかくの音聲もき々入る風情にて』一日かさのもりをして獨靜かに寺の椽へりとりかりて後手につくく思ひめぐらせはるそらことにも花咲て實もある御代のへ』

●曲水の會 神都宇治山田市に居を占むる諸の禰宜たち彌生の空麗かなる花の頃さては秋の夜の月澄み渡れる時もおのかし懐紙短冊を手にして奉齋會本部の閑庭に神集ひに集ひあふて古の曲水の宴に倣ひて敷島のまごゐを開ける様實にも優にやさしき娯樂にそありける

●光明寺 宇治山田市字前田にあり臨濟宗東福寺に屬し天平十四年聖武天皇の創建にかゝり後深草天皇後醍醐天皇の勅願所たり後結城宗廣堂宇を再建し其の子月波禪師を中興開山とせり當寺には群書類從雜部にある光明寺殘篇あり又常盤井入道實氏の寄附にかゝる梵鐘あり豐太閣の下されし撞鐘特許の公文を以て神都に鳴り渡れり舊境内なる山田停車場の傍に月波禪師の墓及結城宗廣の墳墓あり

●神宮皇學館(宇治山田市大字館町) 内宮を距る三町五十鈴川の沿岸にあり明治十五年故祭主朝彦親王殿下の令旨に依りて創立せられ明治三十六年勅令第百三十號を以て官制を定めらる同館本科卒業生は無試験にて官國幣社宮司及中學校高等女學校等の教諭に任用せらる事を得へき資格を有す現在生徒百三十名



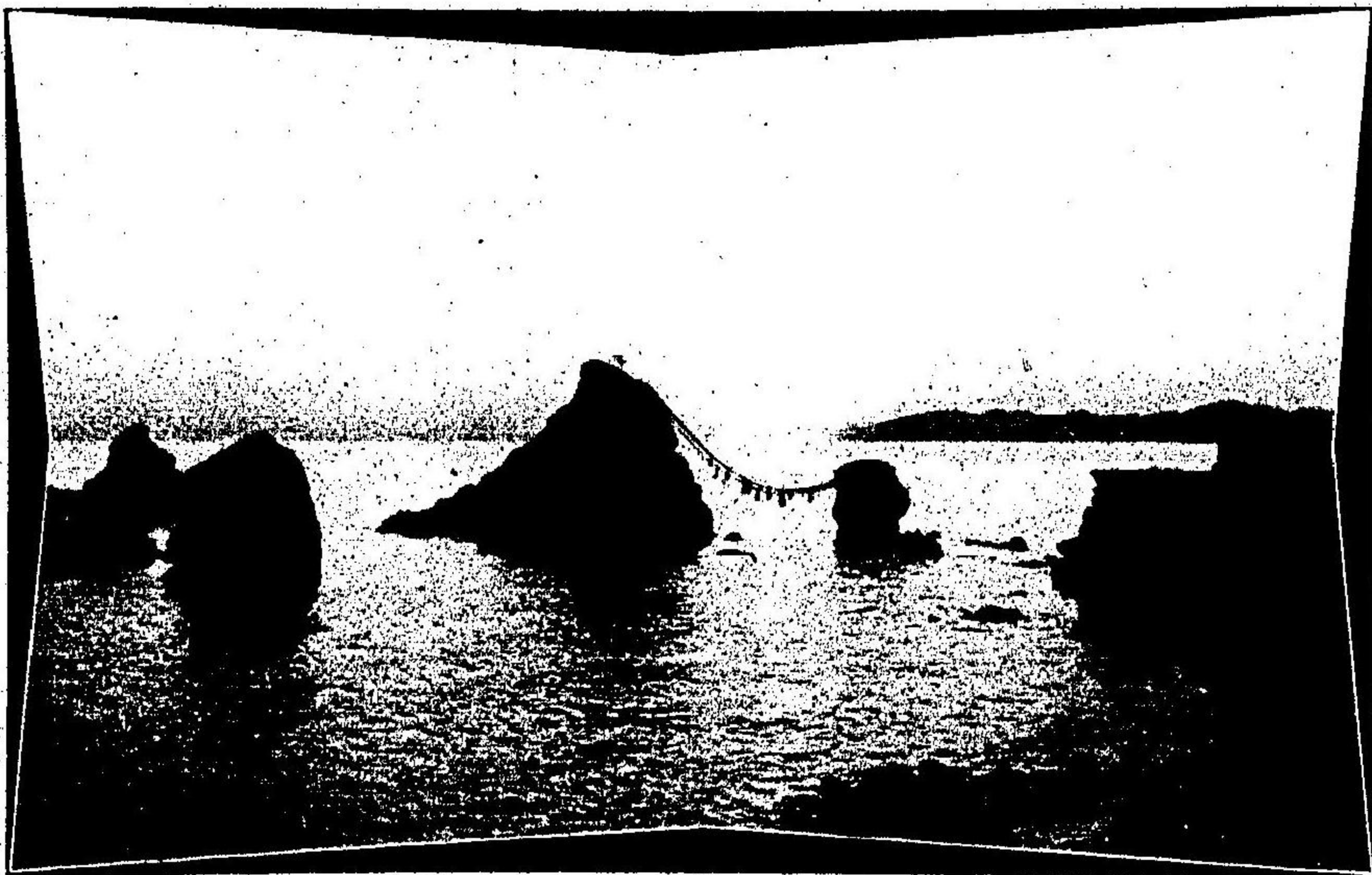
●縣立第四中學校(山田驛より九町) 宇治山田市にあり明治三十二年三月の創立に係る生徒本科生四百十七名補習科六名

●市立淑徳女學校(宇治山田市) 明治三十四年の創立にして當初は私立なりしか明治三十六年町立に變更同三十九年市經濟に移せり同校は裁縫を主とし女子に須要なる手藝科を授け兼て普通學科の教授を爲す學級數三、生徒百三十五名

度 會 郡

●二見ヶ浦 東二見村大字江村の海濱一帯白砂青松海氣最も清うして駿信の山岳尾參の對岸一眸の中に淒る處を云ふ殊に世に聞えたるは幾代經ぬらん立石(めをと巖)にして朝暾波間に躍るの光景は最も偉觀なり山田驛外宮前及宇治より伊勢電氣鐵道の便あり汐合川を渡たる處風光殊に明媚なり東位志州鳥羽港へ通するの順路も亦坦々たり曾て 英照皇太后の泊御を辱ふこ又皇太子殿下の御駐駕ありし處にして旅館は孰れも海水温浴を設け玻窓海を望む甚た雅なり砂濱遠淺にして夏時泗泳の客多し土産物貝細工店軒を列ね兒童嬉戲の料も亦備はれり又内外兩宮の供物蔬菜園及御鹽殿は一里餘の西二見村に在り江村は伊勢三郎義盛の桑梓に

二 見 浦



度會郡



て其の屋敷跡は數丁を距る所に在り

雙鑑浦觀出日歌

賴 襄

金鳥新浴大東洋、帶濕朱輪未吐芒、參山遠山猶宿靄、海濤漸作赤  
金光、三萬六千中一日、來此始見全日出、瞬息飛升難正視、  
乃信催吾白鬢髮、今日春盡欲呼觥、傳語義和且徐行、

袖の上は浪かあらぬかふたみ瀨

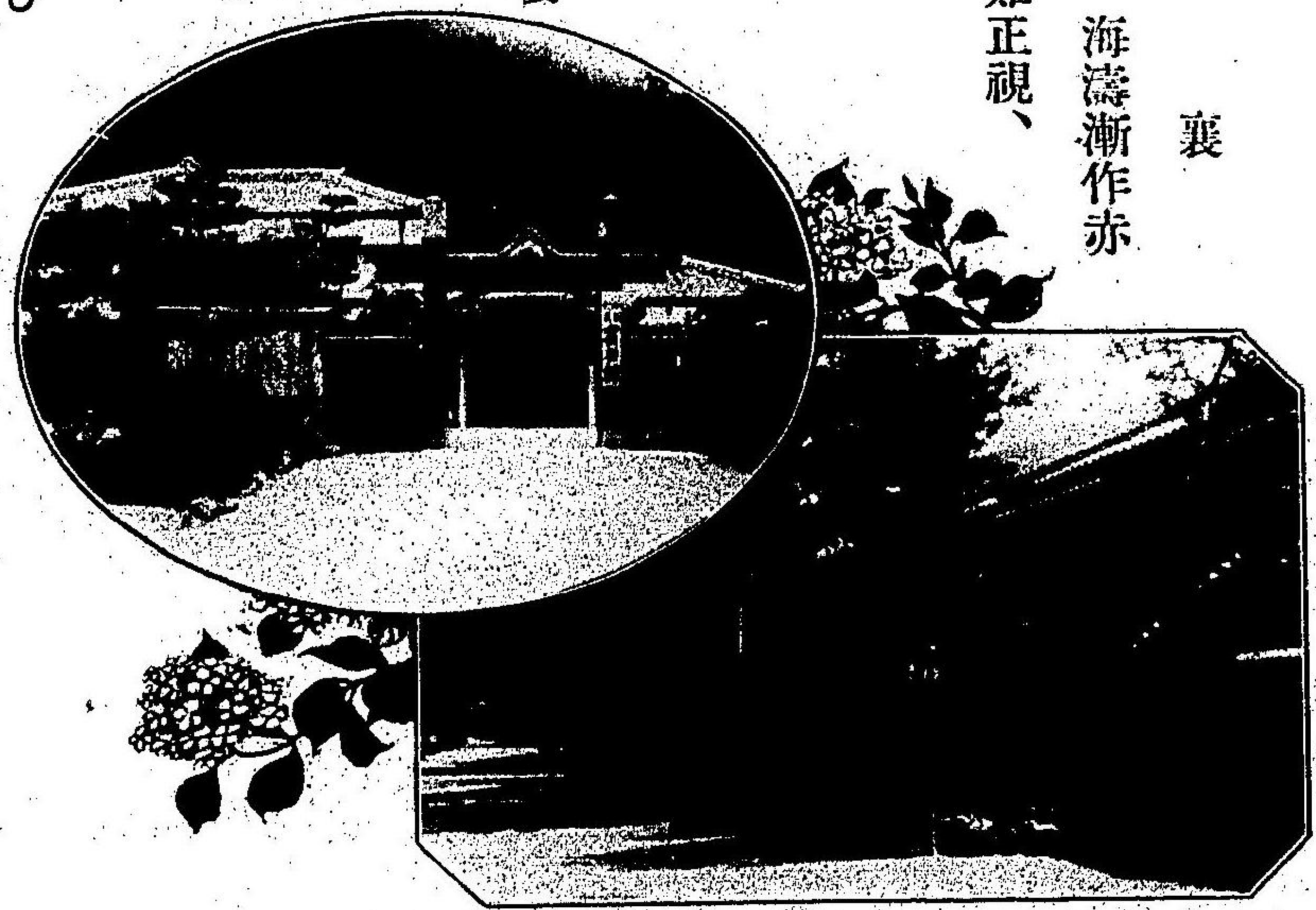
長 明

くもらぬ月に村雨の聲

硯かごひろふやくほき石の露 はせを

●元寶日館(二見浦) 今は二見館の別墅なる寶

日館は元神苑會の別區にして明治二十年の建築に  
かゝる樓は山を負ひ海に面し全浦の勝實を一望に  
聚む故有栖川宮殿下親しく寶日館の三大字を書して 館  
之を賜へり蓋し實みて出づる日を寶すの語及宋人楊萬  
里の寶日扶桑遭聖旦の句なと思ひ渡らして名けさせ給ひ



二 見 館

しならむ明治二十年三月七日偶、故 英照皇太后陛下兩宮御參拜の砌御駐輿あり二十四年七月 皇太

子殿下御避暑として三旬の御駐輿あらせられしに際し徵古の品を  
陳ねて上覽に供し奉りしことあり三十二年 皇太子殿下は妃殿下  
御同列にて再び微行あらせられ山光水色と相待て忘る可らざるの  
好紀念を茲に留めらる

●瀧原宮 其の域内に鎮座せる同並宮と共に孰れも皇大神宮  
の別宮にして本宮の西南十里度會郡瀧原村大字野後にあり宮城四  
十三町餘老樹蔭翳として晴天猶陰々たり此附近野後川に落つる瀧  
津瀨四十八箇所あり因て瀧原の名ありと云ふ

瀧の原ならひの宮の神たから

爲 家

猶末つゝく沖つしらなみ

浪と見る花のしつ枝のいはまくら

西 行

瀧の宮にや音よとむらむ

瀧 原 宮



●朝熊山

伊勢志摩に跨る山にして直立一千五百尺山腹に皇太神宮の攝社朝熊神社あり境内櫻樹多

度會郡



し頂上に古刹金剛證寺あり虚空藏菩薩は弘法大師の作なりと云ふ屢回祿の災に罹りたるも本堂は尙存し結構輪奐金糸燦然たり天狗巖、夷大黒岩、岩舟皆路傍に在り香海庵(奥の院)は本堂を距る三町曇見峯の東麓深邃の境にあり庵前の望岳臺は伊勢海を隔て富士山を望むへく有名なる野間氏萬金丹本舖は寺門の前にあり又絶頂より降て七町朝熊道と稱する岐路に當り旅館(とうふや)あり此處は所謂十八箇國一望の勝地にして極暑尙六十度を超へす鮮魚膳に上ほり調理味ふへし避暑追涼の好勝地なり登山の道は數條あるも内宮神苑よりするものは行程七十二町と稱す最も遠しと雖坂路平易少く工を施せば緩に人車を通すへし楠部よりする亦七十二町と稱するも稍近し一字田よりするもの四十四町と稱す四郷村朝熊よりするは峻嶮僅に二十餘町なるも三十二町と稱す朝熊に下り清水森を覽て二見浦に赴くを便とす別に南坂(杉坂越)七十四町と稱するあり北坂五十四町と稱するあり北坂の半路富士見松は松蔭に踞し芙蓉峯を望見し得るに因りて此名あり鳥羽に下るは崎嶇稍投歩に便ならざるも勝景の詩す

朝熊山 其一



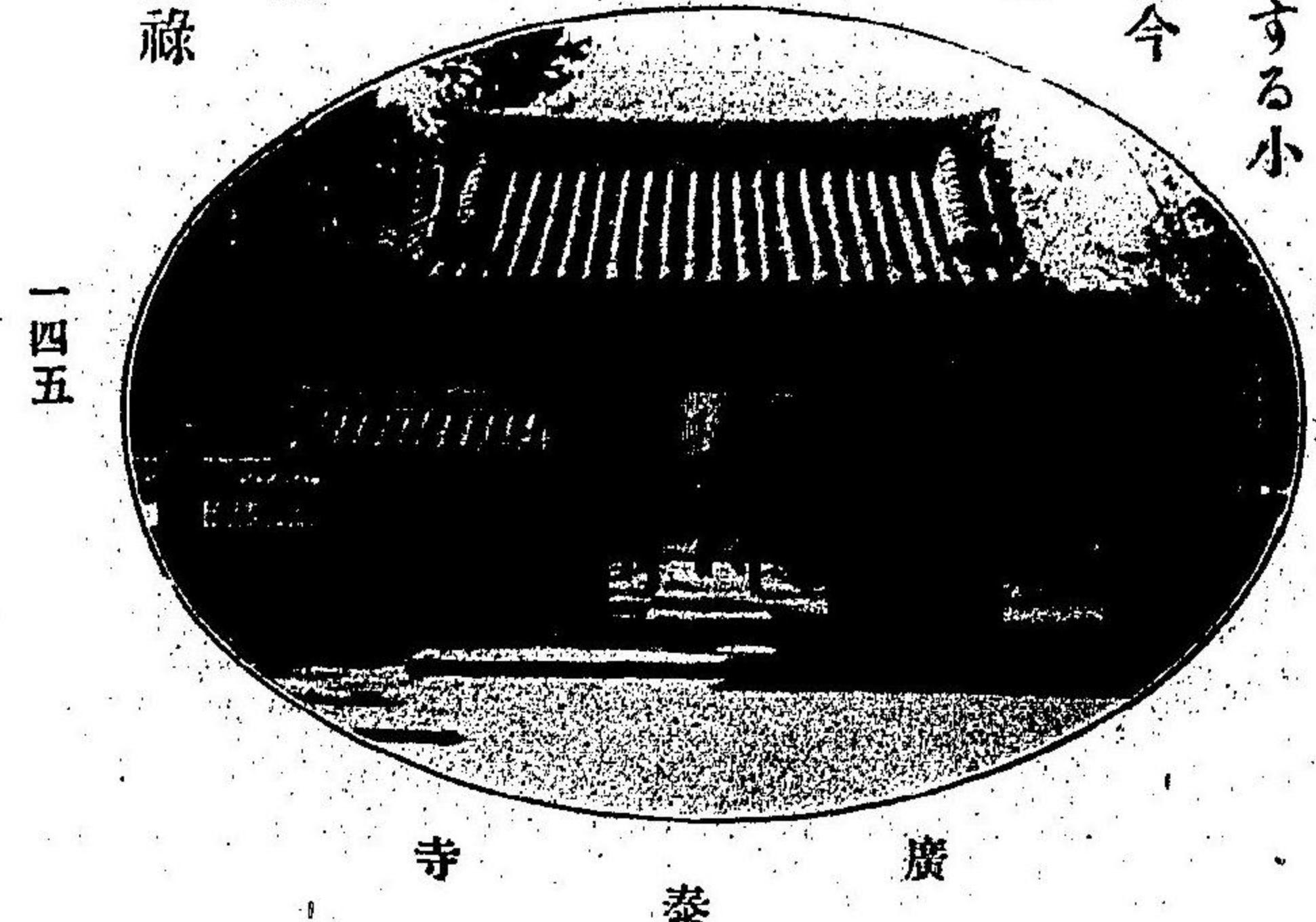
朝熊山 其二



へく歌すへきあるを以て之に由るの韻客亦少からず早天宇治を發しとうふ屋十八景亭に一酌し鳥羽に午餐するは健脚と稱するを得一回の試験を爲すも一興なり

◎蓮臺寺の瀧 鼓ヶ岳の麓に蓮臺寺と稱する地あり古刹蓮臺寺の廢趾ある處なり其の境内鏡池と稱する小池あり昔時此にて掘出せし靈鏡は今尙村内に珍藏せり鼓ヶ岳の南麓懸崖飛泉を挂く高一丈七尺濶四尺鼓瀑と稱し又蓮臺寺瀧と云ふ蓮臺寺柿は形大に味美なり九月頃より宇治山田市の市場に出つ

◎廣泰寺(田丸停車場より十八町) 度會郡下外城田村にあり曹洞宗に屬し神照山と號す創立は文明十八年廣泰長者にして遠州石雲院玄虎和尚を開山とす後土御門院紫衣勅許の繪旨を賜ふ正保四年回祿





の災に罹り徳川頼宣の允許を得て明暦三年現在の堂宇を再建せり田丸中務少輔、稻葉藏人正及藤堂高  
虎より寺領祈願料の寄進を受け元祿十四年伊勢紀伊十八萬石の觸  
頭總録寺を命せられ世々紀州藩の直支配特禮の優待を蒙り境内森  
巖なり

●國東寺 田丸驛を距る約二里和歌山別街道筋東原にあり山を  
國東と稱し満山奇岩を亂配し山腹に百瀬の瀧を懸く恰も白布を曝  
らすか如し逕は峰に從つて廻り峰は溪を抱きて轉し行くこと十八  
町にして別に天地を開き老樹森々たる處古刹福智山國東寺あり

天台宗延暦寺末の中本山なり中庭に出れば正面本堂あり十一面觀  
世音を安置す立像にして長一丈三尺聖德太子の作なりと云ふ毎年  
舊曆正月十八日七月九日は遠近の參詣者雜踏を極む中庭より東伊  
勢海を隔て尾參の地及富岳を望むへく新緑櫻樹を厠へ文士騷客  
の杖を曳く者多し



國東寺本堂

得水

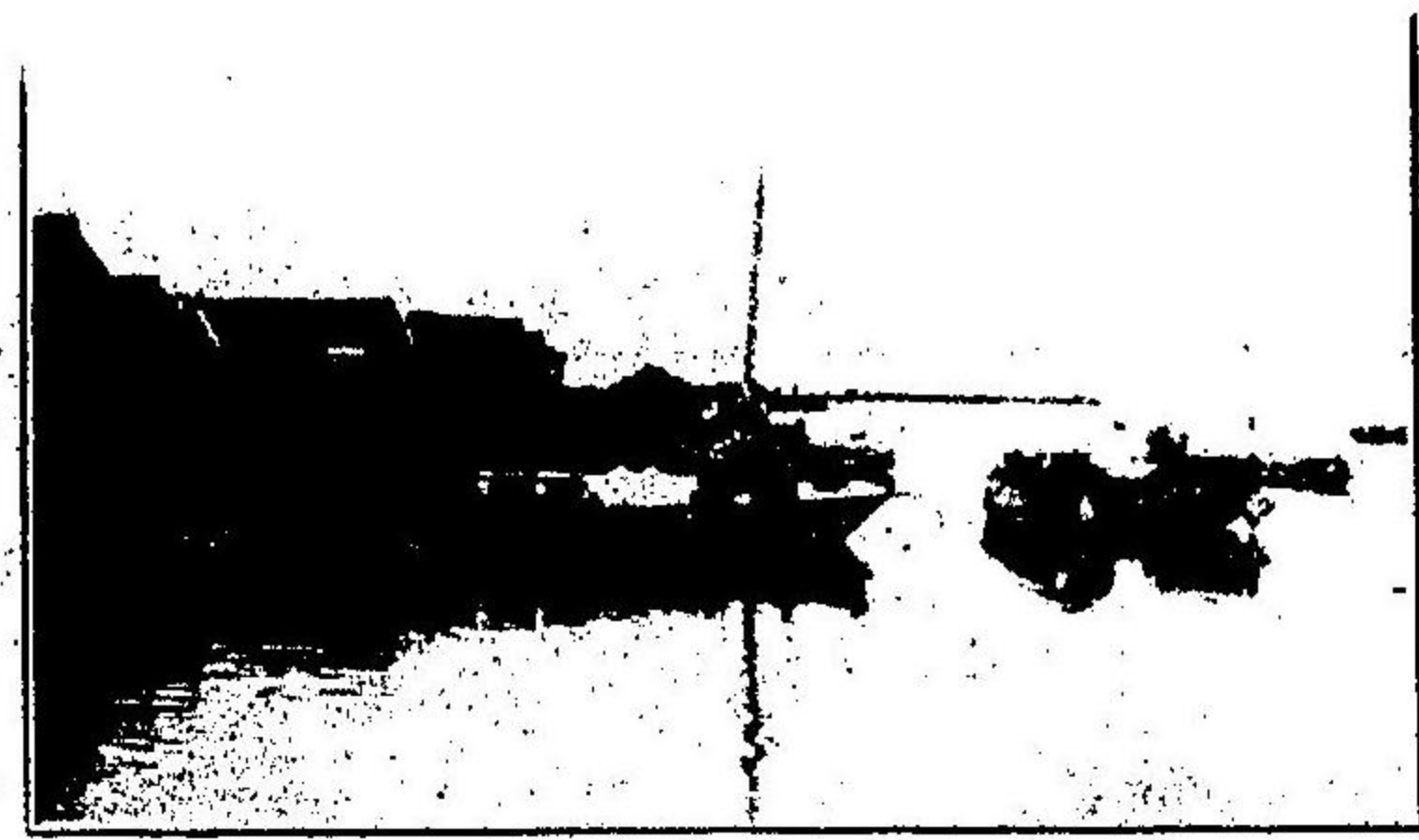
遠近の人も國東の山櫻みのりの花の奥をたつねて

寺の名も國をつかぬる山なれば

世々にし高くあふかさらめや

國水

神社港



●神社港 宇治山田市を距る一里三町伊  
勢内灣に枕む瀟洒たる一小市街にして勢田  
川に由りて舟運を川崎に通ず灣内水淺けれ  
ども地神都に近きを以て汽船寄港し内海及  
紀州大阪等の各港に至るの便あり又參州豐  
橋港この直航をなす頃日浚渫の成案あり海  
運の利一層を加ふるに到るへしするか屋、  
大崎屋、柏屋、井筒屋など旅店の重なるも  
のなり



大湊港學校

●大湊港

神社港と相對す延元四年義良親王の爲め五十餘艘を調進し北條早雲、織田信長の盛時と  
云ひ豊太閤征韓役と云ひ屢造船の命を受け今尙ほ數箇所の造船所あり汽船帆船を製造し諸府縣の需に

度會郡

一四七



應じて造りたる漁船小蒸汽船の數も亦少からず町は宇治山田市より約一里餘宮川の注く所にあり若し貳拾錢を投じて腕車を驅らんか數多の職工か造船に従事しつゝあるを見るへこ工場は大湊造船所、市川造船所、松崎造船所、吉川造船所、内田造船所、菊川鐵工場等なり

●大湊町立造船徒弟學校(度會郡大湊町) 明治二十九年七月大

湊工業補習學校に創り三十二年四月大湊造船徒弟學校となり三十

港、五年町立となる生徒本科百二十名、補習科二十二名成績見るべき

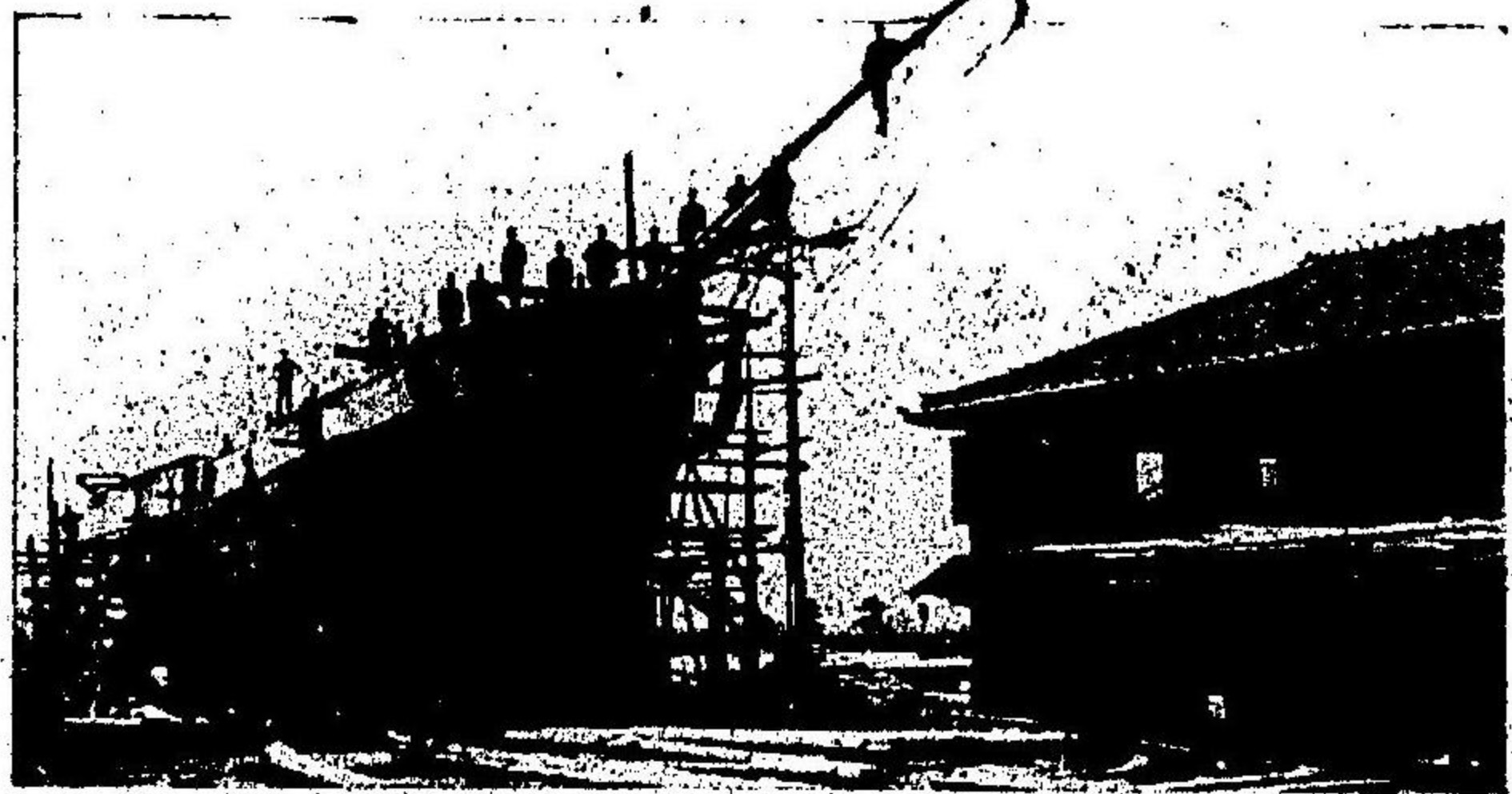
造ものあり

●神宮貯木場 大湊町の東北字外濱裏にあり海面に接し堤塘を

以て圍まれたる本場の面積は四町九反三畝十五歩にして往古より

網場と稱へ神宮御造營毎に御用材を繋留さるゝ例にして木會御料

林より伐採せらるゝ御用材は木會川流末の桑名より大湊に廻漕し



一旦此貯木場に繋留し切判と山元帳簿とを對照して兩宮の御用材を別ち内宮御用材は五十鈴川、外宮御用材は宮川を溯り舊神領内の人民御木曳の勞務に服するなり大湊町民は相戒めて不潔物を捨てす汚

濁の水を流さずして常に貯木場の清淨を保ち居れり御用材繋留中の外は一般の使用を許し大湊町に貸與せられ宮川流域より産する木材は渾て本場に收容せらるゝため二萬尺メを下らざる貯木常に堆積せらる

●四郷村の耕地整理 灌溉水路及排水路は井然として

基盤の如き田畝の間を貫通し車道人道亦縱横に配置せら

れ一見整理事業の効果を會得せしむ同地區は二十八年十

一月二十一日を以て發起認可を受け其十二月十一日施行

認可を經同月二十三日工事に着手し三十九年六月二十二

日を以て竣工式を舉行せり其の總反別百町七反八畝二十

歩にして約八町歩の増歩地を獲ると共に全部二毛作を爲

し得るに至り稼穡の便勞力の節約等其の事蹟稱道するに

足る縣下耕地整理の事業は縣農會の督勵に依り現下競争

の姿となり數年を出てすして多數の町歩を得るの見込な



神宮貯木場

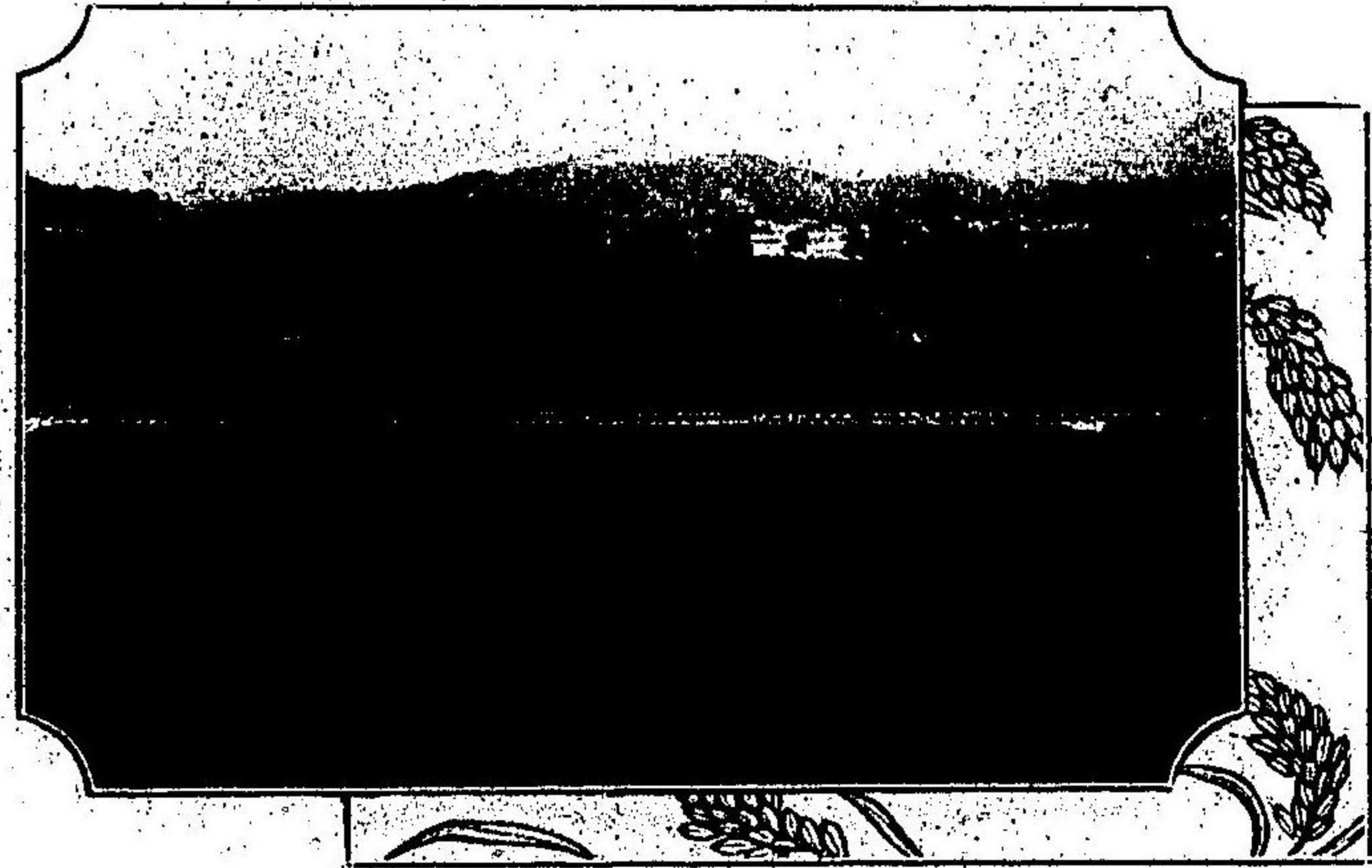


るも本村率先の事業は一般の模範として貢献したるもの尠少にあらず足を神都に入る者或は倉田

山より之を瞰下し或は電氣鐵道に依りて親しく此地區内を視察  
することを得へし

●五箇所港 度會郡の南部外洋に面せる一帯の地を南島と汎稱し鯉鯽其の他水産物に富み港灣多く風景瀟洒氣候温暖なり五箇所港は景勝地の一にして五箇所城趾は天正年間愛洲治部太夫重明の據りし所なりと云ふ此他樋柄浦、古和浦、方坐浦等皆景色よろし宇治山田市より南島道とて道路開け車馬の通行自在なり

地理整地耕村郷四



海所箇五

●南海魚類養殖場(度會郡南海村大字相賀浦) 本場は南海村間宮菊太郎外九名の共同事業にして港

灣を距る僅に一葦の間であり周圍五十町に達する大池を設け橋下數十尺の咽喉は絶へず潮水を吞吐し飛沫の散る處群魚跳躍其の壯觀名狀の外にあり本場は鯛、鰯、鯖、鱈の稚魚を小區劃内にて飼養し漸く成長するに従ひ廣く場内に放養するものとす海底には眞珠貝の自然生も亦蕃殖すといふ事業の目的は固より成長魚を捕獲して市場に販出するにあれども本縣協賛會員に限り僅少の料を支拂へは綸を垂れ網を投することを許すへし順路は山田停車場より五箇所港(此間六里車賃八拾錢餘)に出て灣内舟を僦ふて約三里(約一時半船賃四拾錢)を渡るへし此間大小の島嶼あり老松蟠まり漁舟去來して送迎に暇あらず

●一ノ瀬村鸚鵡石 度會郡一ノ瀬村より山を越へて南島に

出つるの途次路左三四町の山腹に塊然たる巖石を望むへし高十餘丈濶二十餘丈西北に面して峭然たり



場殖養類魚海南



其の右百餘歩一岩あり踞して聲を發せは巖石乃ち響應す或は笑ひ或は歌ひ我驚て叫けへは彼驚て叫ひ我怒て罵れば彼怒て罵る伊藤東涯其の奇を探りて焉れを詩にし焉れを文にす靈元上皇之を聞き畫師山本宗仙をして六曲の屏風に描かしめらる是に於て鸚鵡石の名四方に噴々たり

●三重縣農事講習所 參宮鐵道宮川驛を距る約十八町小俣村大字明野に在り明治二十九年の創立に係り初め明野高等養蠶傳習所と稱せしか三十二年農事講習所と改む講習生を豫科本科の二に別ち蠶種検査法、蠶病消毒等蠶業に關する學理及實地の講習を爲す創設以來多數の人を養成し各郡市に配置せり本所は講習の餘業として蠶種を配布して其の統一を計り桑苗を頒ちて桑田の改良を促かし昨年より農商務省の委託を受けて桑の試験を行ふこととなる

河 藝 郡

高田本山專修寺



河藝郡

●高田本山專修寺(一身田驛より二町) 眞宗高田派の大本山にして末寺六百二十五境内一萬八百六十四坪を有せり宗祖見眞大師の開基本尊は慈覺大師の作一刀三禮阿彌陀佛にして影堂には見眞大師自刻の像を安置す寛正六年迄下野國大内庄高田にありしか第十世眞惠上人今の處に移し文明年中後土御門天皇より住職の綸旨を賜はり次て御祈願所と定めらる第十二世堯慧上人正親町天皇より門跡號の勅許を拜す第十四世堯秀上人現在の影堂を再建せり爾後歴世の法主咸高貴の出にして第十七世圓猷上人は眞致親王の王子たり次世圓遵上人以後數世は有栖川宮より出て現世堯熙貌下も亦有栖川宮職仁親王の御子なり宗祖見眞大師以下歴代の墳墓は境内にあり影堂の前面左右なる菩提樹及枝垂柳



専修寺本堂



三重縣案内



鼓か浦

一五四

は大師手植のものを下野より根分せしなり法會は毎年一月九日より十六日までの報恩講四月及九月の

千部會春秋彼岸の讚佛會とし市街人を以て填む

●眞宗勸學院(一身田驛を距る三町) 高田本山の管理する所に

して明治四年三月の創立に係り明治三十五年高等科中學科を併置  
せり生徒三百二十六名

●鼓ヶ浦 白子町の東方一帯の海岸を云ふ就中子安観音より數  
町を距つる處は青松と白砂と相映して遠く尾參の峯巒を望み濤聲  
鼓響に似たるに因りて此名ありと云ふ

稻妻に一網うつやいせの海

蕪村

伊勢島や夕鹽かけてよせかへる

行意

波も白子の浦風そふく

●子安観音及不斷櫻(河原田驛より二里強) 白子町大字寺家に

あり本尊白衣観音なり藤原不比等聖武天皇の勅を奉じて建立せし

勅願所にして子安観音と稱せられ安産を祈る者頗る多し所藏寶物多く聖徳、正親町、櫻町、後花園諸

子安観音



河藝郡

一五五



帝の震筆其の他書畫數百點を有す堂右に一老櫻あり不斷櫻と云ふ嚴冬の候尙花を絶たす四時香雲に包

まるゝの趣あり

花いつは葉さへ冬なき櫻かな 宗 長

冬咲きは神代もきかぬ櫻かな 宗 祇

又白子町に接する玉垣村に鎌倉權五郎景政の古跡あり宜阿の

荒果てゝ内外もわかぬ夏草の

つゆは名におふ玉垣の里

を以て知らる

●染形紙 河藝郡白子町の特産にして友染形、更紗形、小紋形、

中形、繪甲斐絹形、手拭形、縫下形等織物の染出に用ゆるを主と

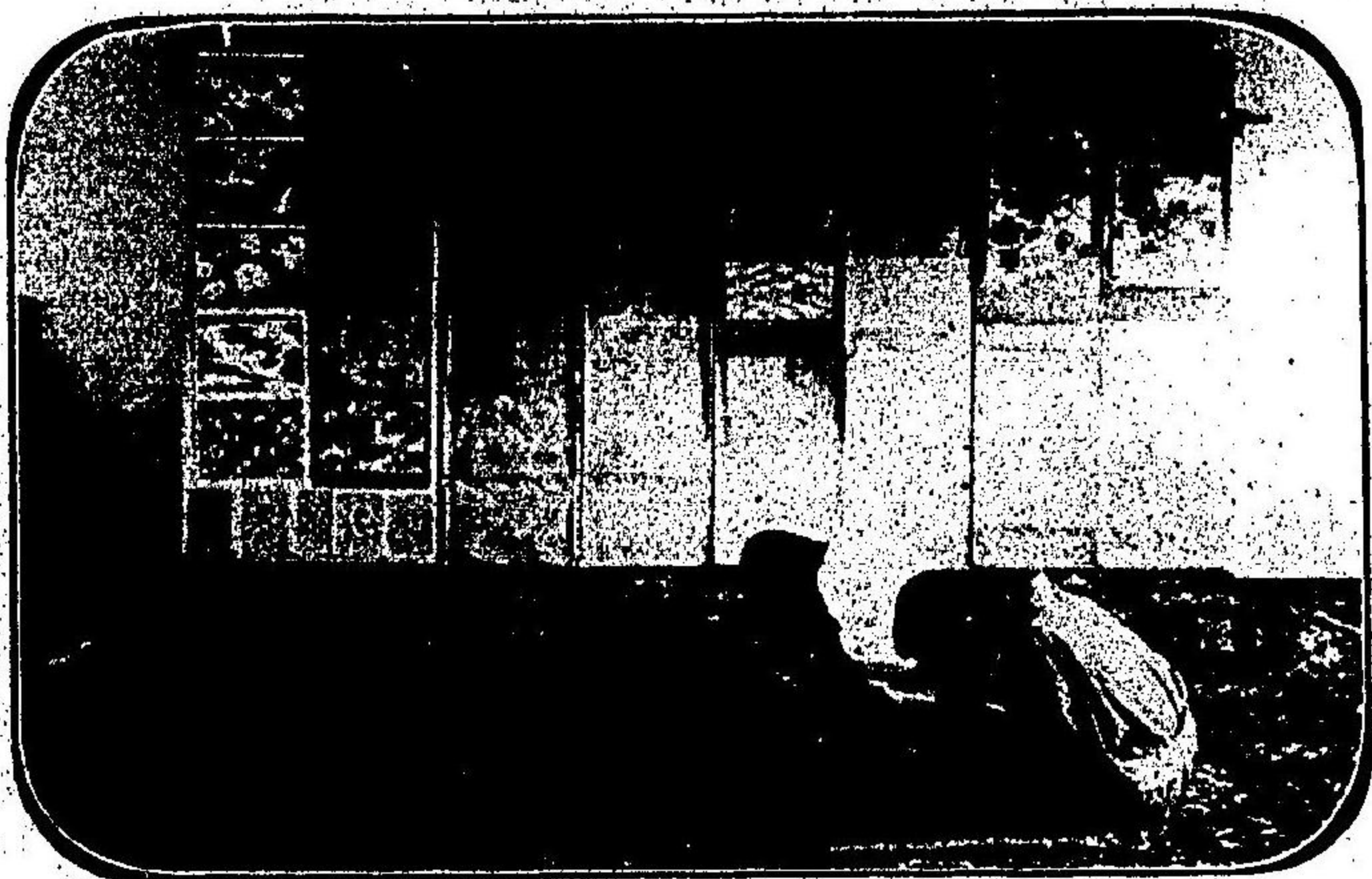
し陶漆器擬草紙硝子類及菓子繪模様を摺付くるにも用ひ又精巧

なる彫刻紙を以て種々の裝飾品を製す千餘年前子安觀音寺の僧侶

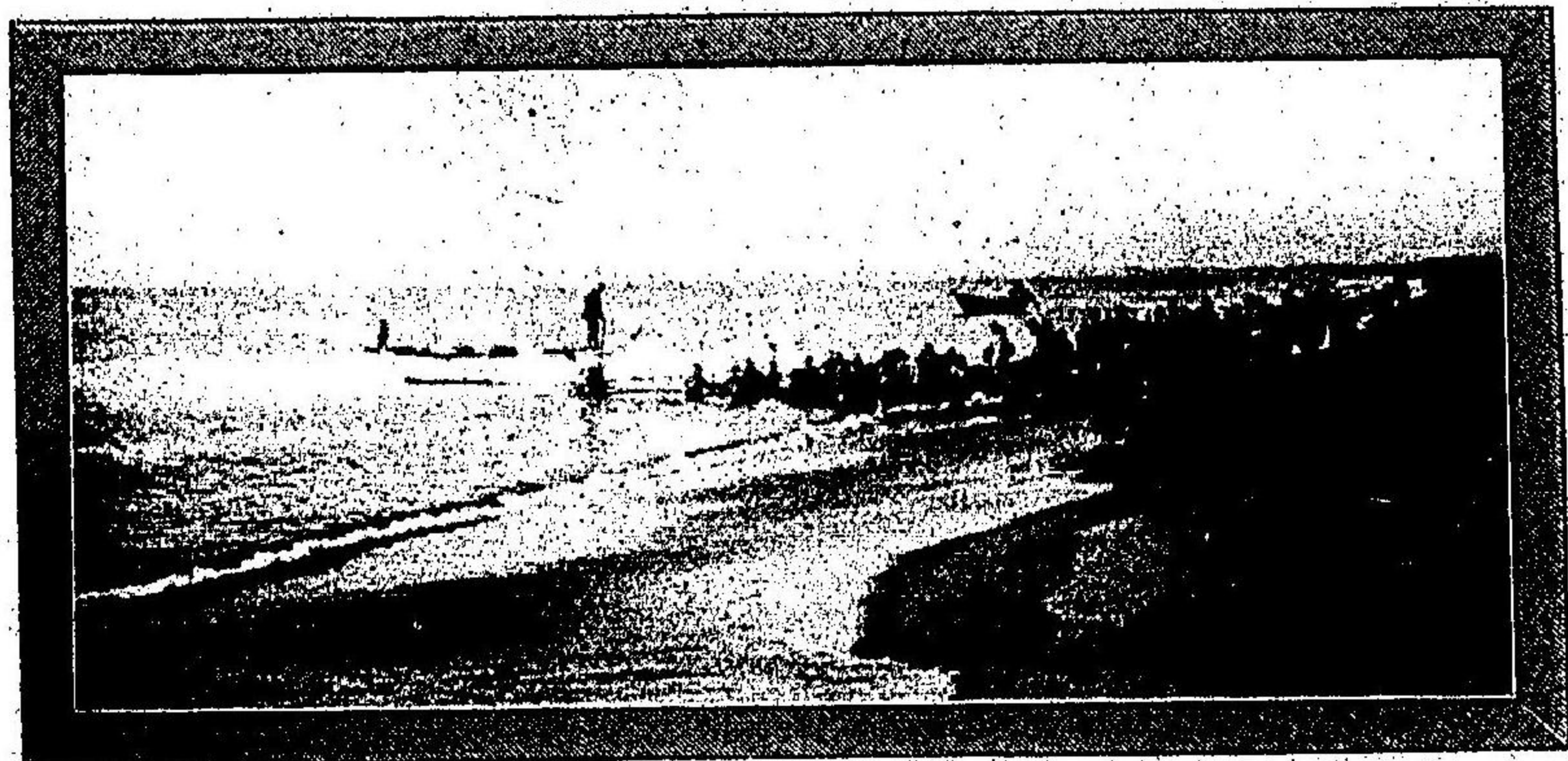
か彫刻紙を靈札と共に諸方に配付したるを濫觴として今は全國無

二の特産として到る處に供給す製造戸數二百餘一箇年産額約數十萬圓町立工業徒弟學校の設立以來型

染形紙彫刻所



伊勢内灣地網



河藝郡

紙彫刻の意匠技術も大に進歩し毎年圖案意匠の競技會を開きて益改

良の實を擧げつゝあり

●伊勢灣地網 伊勢内灣に於ける地曳網漁業は文化年間白子町

白子屋藤右衛門か始めて地曳網を製して漁業を興したるを起原とし

以來沿海競ふて之に倣ひ漸く今日の盛況を見るに至れり網の最大な

るは長千四百間巾十五間を有し兩端には各千五百間の繩を附じ漁夫

百五十名乃至二百名にて聲勇ましく曳き上ぐるなり袋は長六十尺巾

二十餘尺にして一回の漁獲壹千貳百圓以上に達することあり

●神館明神社及式内郷社(飯野神社 高市神社) 同域に座す神戸町字石橋町に

あり垂仁天皇の皇女倭姫命大和笠縫邑より皇太神を奉じ近江、美濃、

伊賀を経て飯野高宮(又云飯高高宮)に駐り玉ひしか飯野高宮より分

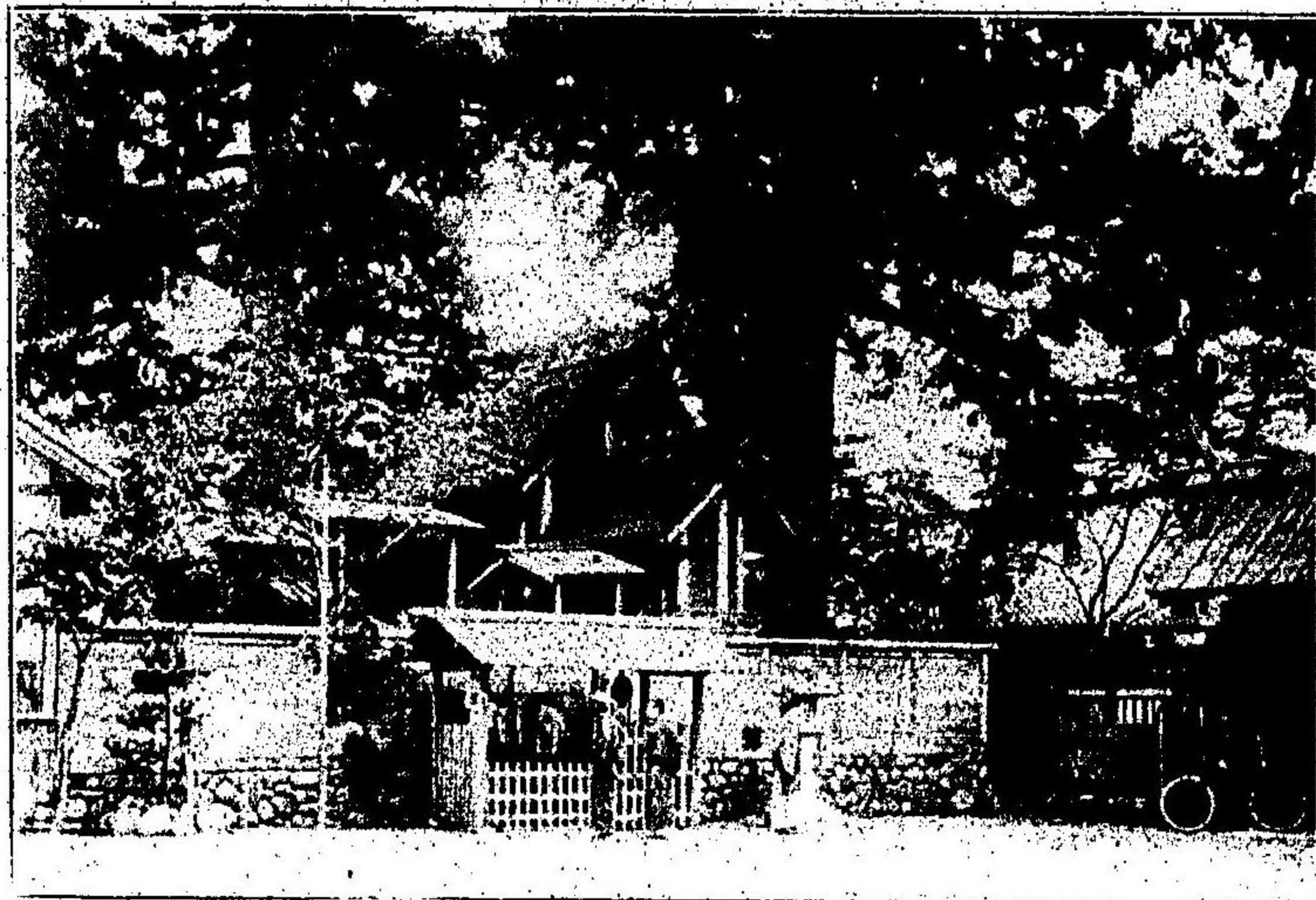
て飯高郡を置き神序を建て立野神社と云ひしか後此地に奉遷したり

と云ひ又此地は後に神序を置かれ立野神社の盛なるに倣て其の祭る

處を勘請したるものなりと云ひ其の他考證區々據るへき所を知らず

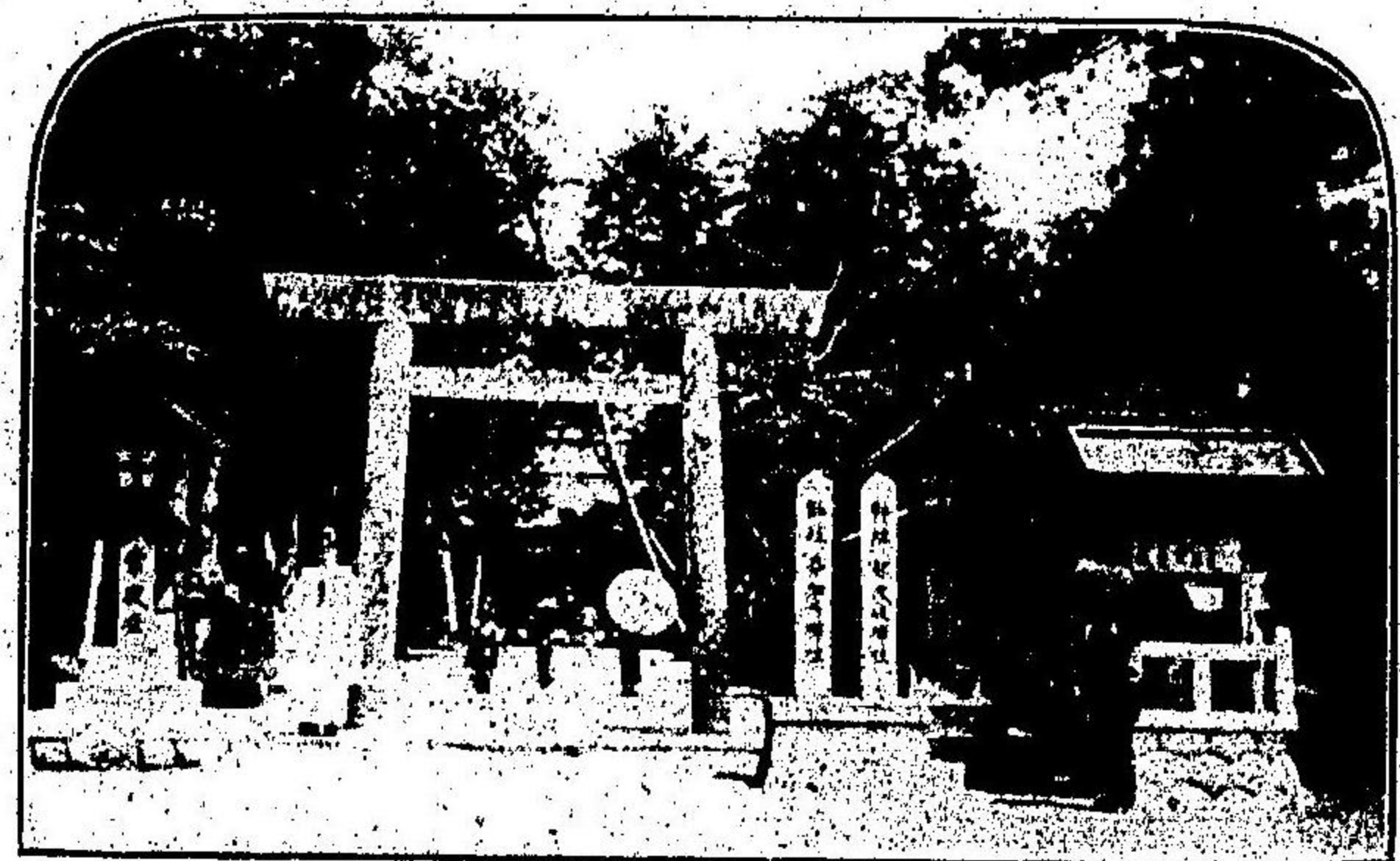


神明社



式内郷社は神戸城主藏人利盛兵亂に際し明神社へ遷座せしものなり云ふ

●都波岐奈加等神社(河原田驛より十五町) 一の宮村大字中戸に在り伊勢街道を距る五町延喜式内の古社にして猿田彦命中筒男之命を合祀す明治維新に至るまで大宮司を置かれ攝政鷹司家の執奏社たりしか明治三十六年縣社に列せられ毎年九月二十八日大祭を行ひ勢國の一の宮と稱せられ域内亦風趣に



都波岐神社 奈加等神社

富めり

●國分寺(河原田驛より十五町)

本尊は行基の作樂師如來にして日本回國者の納經所なり

河曲村大字國分にあり聖武天皇勅願所にして一國一寺の靈場たり

いさきよくこも佛の國分て

寺井にすめる秋の夜の月

の詠歌は人の能く知る所なりとす

●菅原社 河曲村大字國分にあ

り菅丞相を祀る公筑紫太宰府の配

所に於て自ら刀を執られしと傳ふ

る木像を安置し五十年毎に開扉す

遠近の參詣多く域内高燥松杉繁茂

して幽雅の趣あり

●大木神社及大樟樹(河原田驛よ

り十五町) 一宮村大字南長太にあり延喜式内の舊祠にして

祭神は大官都比賣命にして毎年十月八日の祭典は頗る盛なり祠畔に一老樟あり鬱々蒼々日月を遮蔽し

國分寺



河藝郡



菅原神社



抱圍五丈高天空を衝く之を仰けは巍然侵すへからざるの威嚴あり傳へて靈樹と稱するも宜なる哉此樹  
幽山深谷を擇はすして能く生を稠人接觸の巷に保ち斧斤を免れ風雪を凌

き千歳自若たるもの誠に珍とすへきなり

●神宮寺 稻生村大字稻生にあり真

言宗高田派に屬し行基菩薩の開基本尊

樂師如來は鳥佛師の作なり當寺は元稻

生社別當寺にして後柏原院勅願の道場

なりしに因り諸帝の震筆及弘法大師作

の佛像經文等を藏せり

●林光寺及龍光禪寺 林光寺は神戸

町大字鍛冶町にあり新義真言宗知山派

にして金井山と稱す境内に古井あり歳旱魃に際せは近郷の農家當山

に詣て雨を乞ひ豊穰を祈るを例とす山號是より出てしなり天平十

三年聖武天皇の勅願所にして舊藩主の祈願寺なり龍光禪寺は同町石



神宮寺全景

橋町にあり臨濟宗東福寺派に屬す應永年間稱光天皇の勅願  
寺にして爾來賜紫の繪旨を奉じ法燈連綿たる名利たり日本  
三幅の一と稱する兆殿司の大涅槃像を藏し遠近の參觀頗る  
多し同町觀音寺には一枝横に延て十數間に亘れる古松あり  
亦觀るに足る

●大徳山淨光寺 黒田村大字黒田にあり往古真言宗たり

しか享徳三年中興誓祐上人一向專修の道場とし真宗高田派

に轉し今は俗謠に所謂「黒田の々々々淨光寺尊き念佛十聲唱へて

極樂淨土へ參る」云々は當寺なり境内に真言宗の高僧入定の地あり

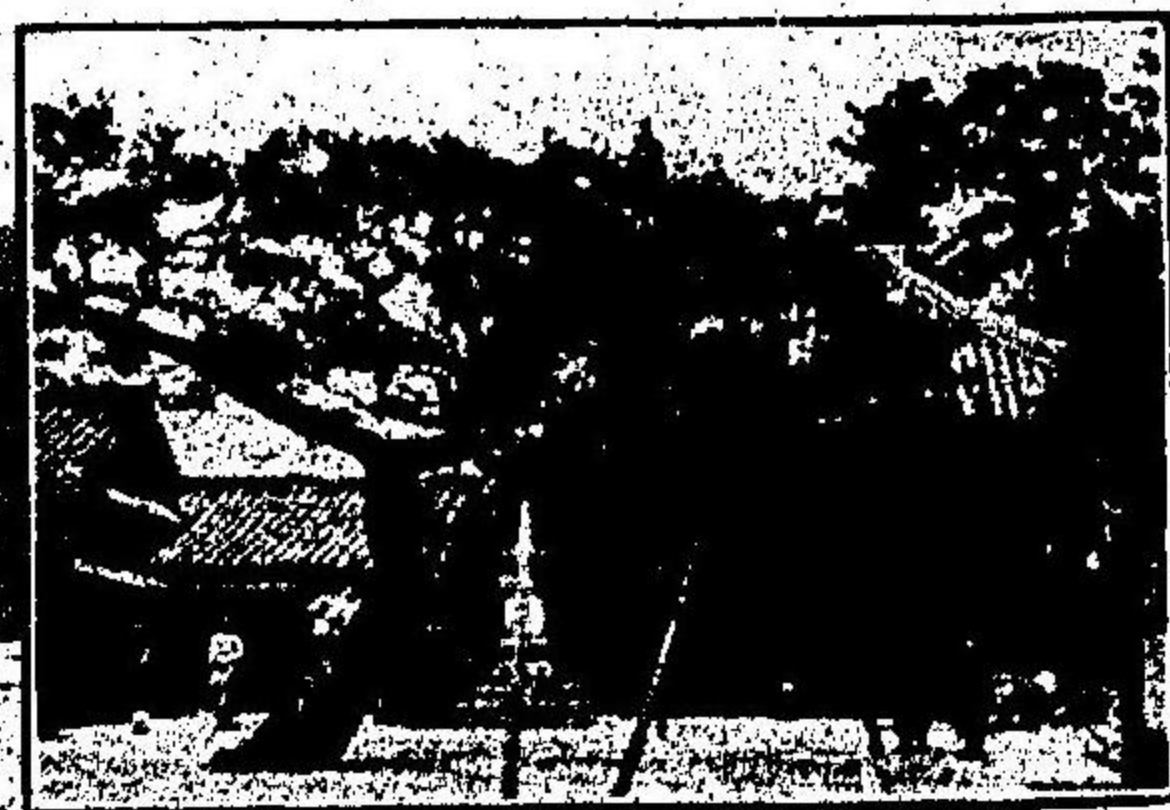
永仁元年十月云々と刻さる

●如來寺及太子寺(河原田驛より二十町) 飯野村大字三日市にあり兩寺

とも聖徳太子の建立にかゝり如來寺は百濟傳來と稱する一光三尊阿彌陀佛

を模造せし金像を本尊とし太子寺には太子自ら彫まれたる壽像を安置せり

嘉禎二年顯智上人當國巡化に際して真宗專修寺派に歸す後本山十一世應貞上人兩堂を再建し兼帶所を



林光寺



龍光禪寺



定めらる

◎縣社伊奈富神社（一身田河原田驛より二里餘）

河藝郡稻生村神路岡

にあり祭神は保食神大國

道命にして其の紀元は崇

神天皇の御造營にかゝり

域内頗る廣く土地高燥に

古檜老松鬱蒼たるの外滿山紫の躑躅を栽ゑて

地を餘さず禽鳥友を呼て囀る處詩思歌情動か

ざるを得ず本社は又神樂獅子の棟梁を以て聞

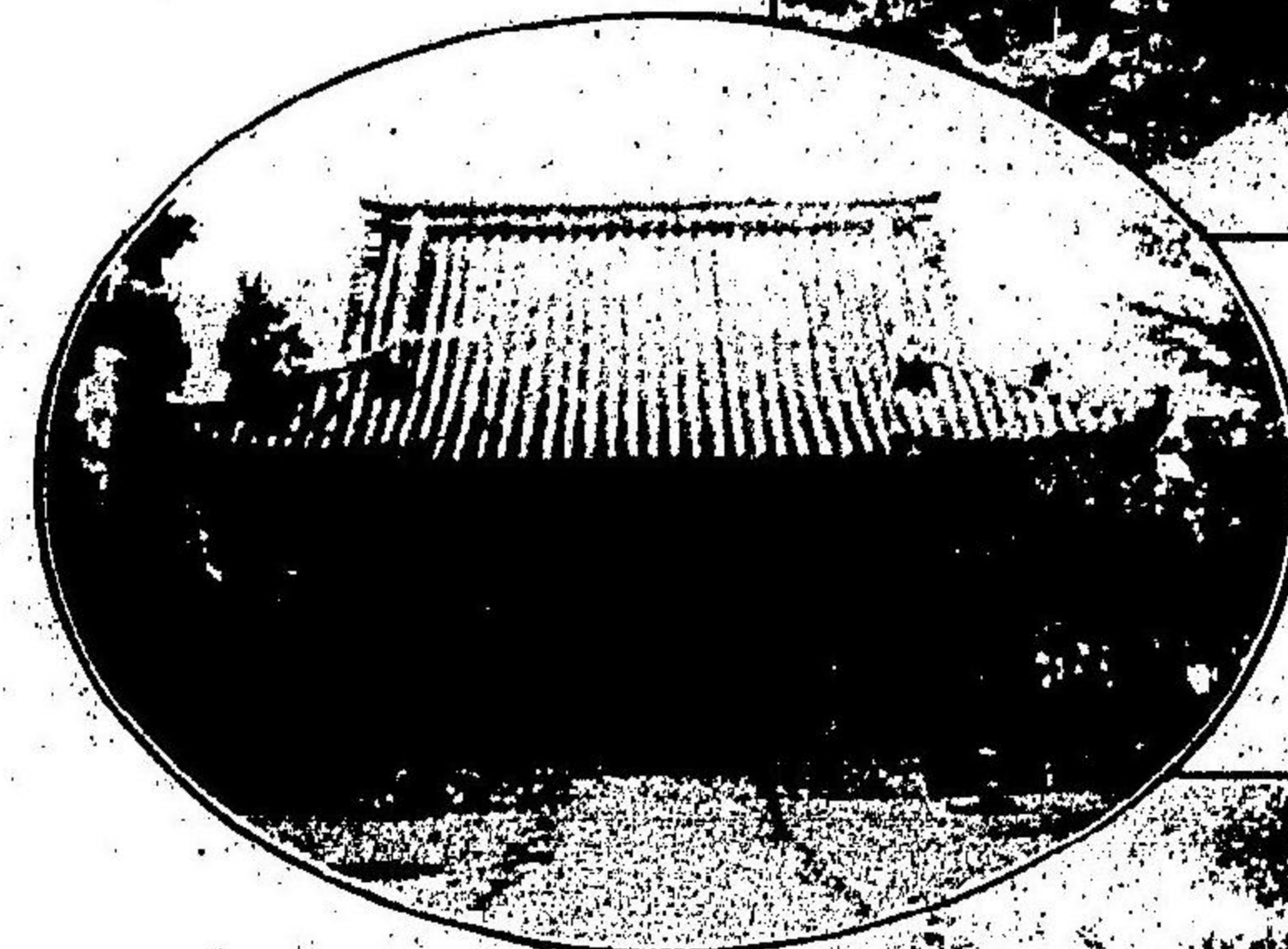
へたる所にして毎閏年の上巳には近郷の獅子

此所に集まり舞納式を擧く老若群來衣香釵影

人を襲ひ魂を消さしむ



淨光寺



太子寺



如來寺

神路國くすしき米のなりしより稻生の里の名にもおひけり

◎酒井神社 榮村大字郡山にあり式内郷社にして豊宇賀能

伊奈富神社



賣命、保食命を合祀す天智天皇十年の造營にして舊記に依れは南方の神池より清泉湧出し酒氣を帯ひ其の味甘露の如く日に其の量を増し遠く流れていさゝ小川となるのち其の地を拂



郷社酒井神社

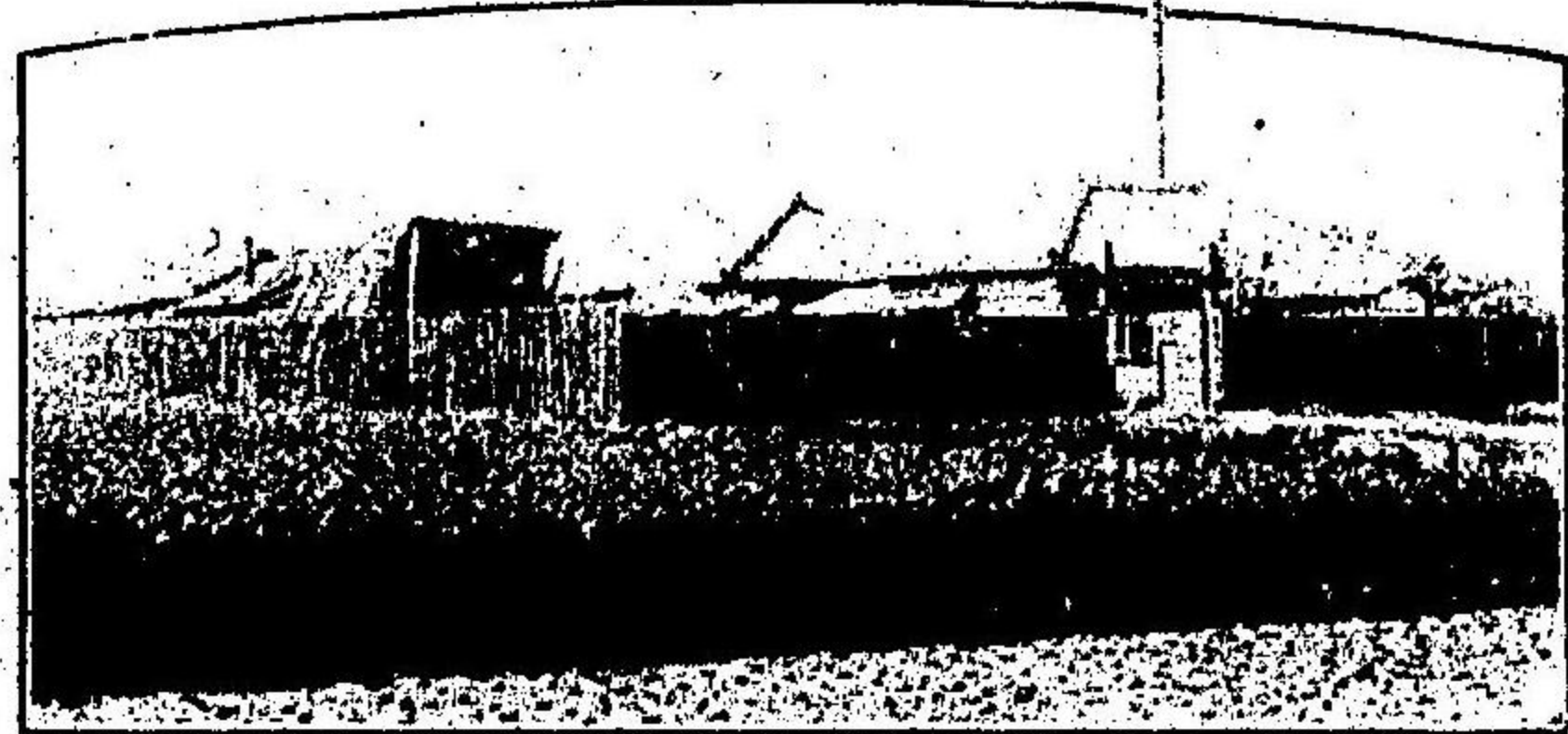


ひ清め靈泉を神前に供せり依て此清流を酒井川と名け社號亦是に出つといふ陰曆五月五日例祭を行ひ三箇年毎に三月一日を以て大祭を執行せり



松掛錢

●**錢掛松** 高野尾村字東豊久野にあり或は云ふ雄略天皇の御宇豊受大神を丹波真那井原より伊勢度會に遷し玉ふ時神輿を此地に置かれしに因り里人其の地に松樹を植ゑ神宮遙拜の地と定め枝頭に賽錢をかけしに基くと或は云く小野篁の室替を隨ひて此地に至り大神宮の道程遠きを聞き歸路に就かむとして樹枝に錢を掛けしに因ると或は云ふ昔參宮人此に到り松原の長きに倦み土人に問ふに道程を以てす土人欺て曰く十日過る豊久野七日過る長野三日過る三渡りあり神宮に到るは前途尙遠しと參宮人惘然一貫錢を松に掛け遙拜して去る土人乃ち錢を收めむとす錢忽ち蛇に變す土人驚愕狂人と



富田工場

爲る參宮人後其の欺かれたるを覺り再ひ來る錢依然たりと其の他附會の俗説紛々たり

題 錢 掛 松

山 崎 闇 齋

豊久野中鷹尾東、蒼然蟠屈勢崇々、不仁欺替人烏有、遺臭萬年錢掛松。

弘 綱

年經てもその名はかりはくちすして世に残りけり豊久野の松

●**富田織布工場**(津驛より十七町) 河藝郡一身田村大字中野にあり津市上濱町富田金七の經營にかかり敷地一千二百坪、建物四百坪を有し横装置不凝縮汽機一臺「**コルニツシユ**」形汽機一箇(實馬力四十馬力)豊田三十八年式織器八十臺を据付け専ら清國輸出向白木綿(巾尺二寸長五丈物)を製造しつゝあり一箇年産額五萬八千四百反に及へり目下擴張の必要に促かされ豊田三十九年式織器七十臺増設中に屬せり

●**白子町立工業徒弟學校**(白子町にあり) 創立は明治三十六年一月にして専ら白子特産型紙の意匠圖案を研究し彫刻を練磨し兼て徒弟の徳性を涵養し品性を陶冶す生徒二百名



鈴鹿郡

●龜山公園 舊城本丸の故趾にして丘陵に據り  
鈴鹿川を帶ひ田園遠く開けて眼界殊に豁けり舊藩  
主石川氏の祖靈を祭れる真澄神社及樓櫓の舊容を  
存せる武庫は園内にあり龜山停車場より一二町眞  
に一投足の勞のみ

●龜山停車場及龜山町 龜山町は戸數千四百八  
十三人口八千二百六十二舊伊勢街道の要衝に當り  
生糸、羽二重、製茶、繭、煙草、陶器等の名産あり土  
地高燥にして空氣清く水質純良なり脚氣患者の轉  
養に適せり本縣女子師範學校此地にあり鐸鳴女學  
校は其の豫備校とす停車場は市街の一端坂路を下  
りたる處に在り關西鐵道の分岐點にして東より西



一六六

龜山公園

より來りて此に轉乘し南勢志摩紀南に向ふ乗客常に「プラットホーム」に充滿す

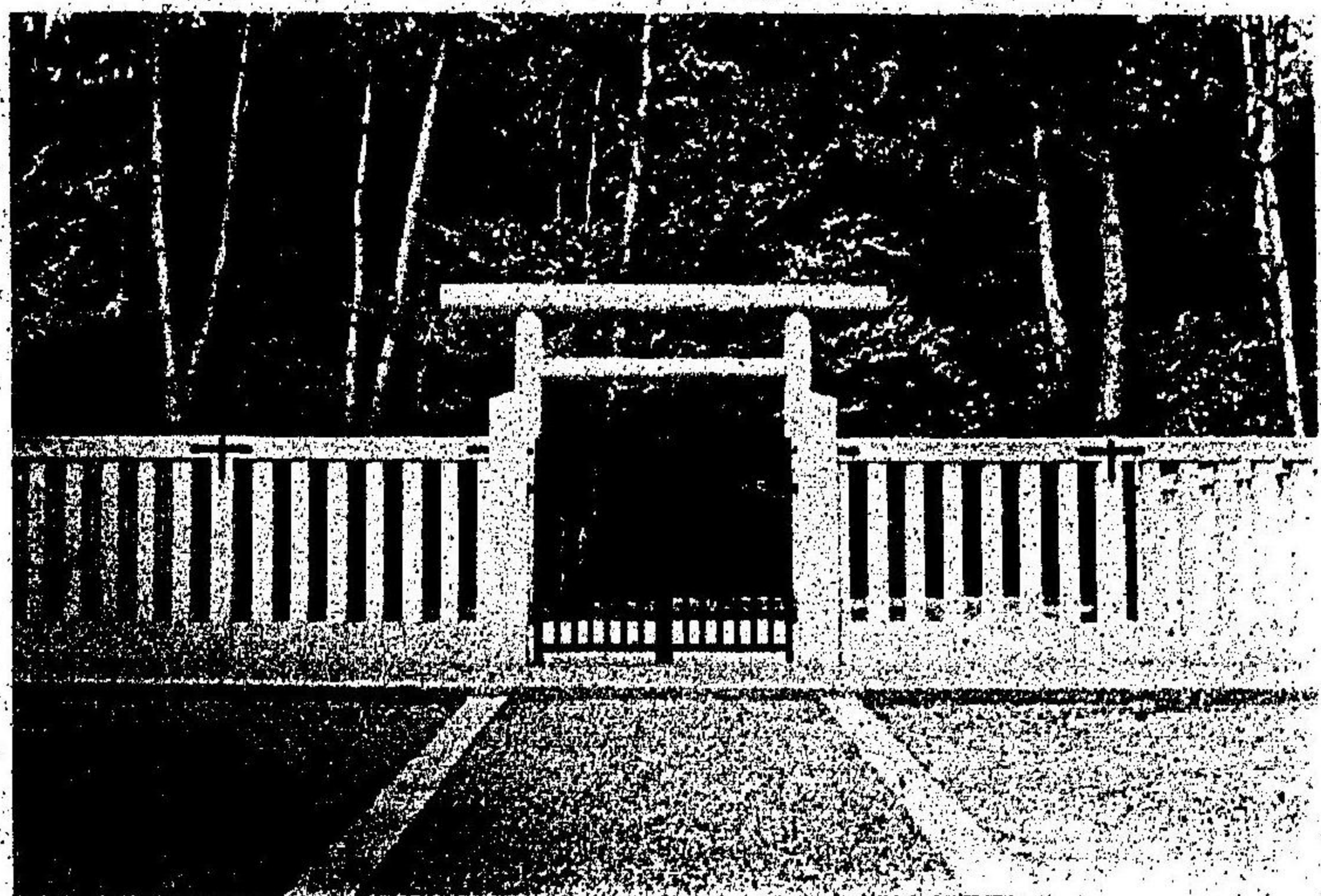
戒秀法師

龜山にいくとすりのみありけれど

とよむるかたもなきわかれかな

●日本武尊御墓 鈴鹿郡川崎村大字田村字名越に在り關  
西鐵道龜山加佐登兩驛の何れよりするも一里白鳥の陵と稱  
へ前方後圓所謂御車塚なり王東國を戡定し凱旋の途次能褒  
野に薨じ給ひし事蹟は載せて正史に在り明治十三年風釐御  
巡幸の際特に勅使を差遣され幣帛を奉せられき常に守部二  
員を置き修理灑掃を怠らす最も鄭重に奉仕せらるゝと畏し

東征涉冥勃、吾妻先我沒、西伐入曉帆、吾兒先妻沒、何  
知娘子攝壽巢窟、兩死社稷昌其後、患難持家有健婦、胎  
中天皇腕肉凸、肖乃父祖非肖母、龍顏垂淚侍臣哀、先皇



一六七

日本武尊御墓